

甲府市内遺跡VII

— 平成15～16年度市内遺跡試掘調査報告書 —

2010

甲府市教育委員会

序

甲府市は、甲府盆地の底部、山梨県のほぼ中心に位置しております。平成18年の合併によって、旧中道町全域と旧上九一色村の北部が加わり、長野県境の金峰山頂から御坂山系の三方分山までさらに南北に細長い行政区画となりました。

甲府市域には、古墳時代に甲斐銚子塚古墳、丸山塚古墳、天神山古墳などの前期の大型古墳が集中する東山古墳群が存在し、ヤマト王権と結びついた古代甲斐國の首長が住む拠点であったことが推定されております。この歴史的背景には、甲斐と駿河を結ぶ古道の一つ、中道往還が早くから開けていたことに起因するといわれております。また、甲府市は、戦国武将武田氏が三代にわたって躑躅が崎の地に居を構えたことにより甲府の町が創設されて以降、近世の甲府城下町、明治の県庁所在地の選定と、現在に至るまで甲斐國、山梨県の経済・文化の中心地として機能してきました。

このように、甲府市域の遺跡には、古代甲斐國の首長墓を残した古墳時代と、戦国時代から近世にかけての城下町の存在に、その特徴があります。

これらの遺跡も、住宅の建設や各種開発に先立って、試掘確認調査が実施されてきました。

本報告書では、平成15・16年度の調査したそれぞれの成果を、まとめあげたものです。一つひとつの遺跡の調査は小規模で断片的なものが多いのですが、遺跡を守るために詳細なデータが得られ、開発との調整が図られた貴重な資料を提供しております。

これらの資料の蓄積と調査分析によって、新知見が得られることを期待するとともに、調査にご協力をいただきました土地所有者並びに関係者各位に対し、深甚なる敬意を表するものであります。

平成22年3月

甲府市教育委員会

教育長 奥 田 理

例　　言

1. 本書は、平成15・16年度に実施した埋蔵文化財の試掘調査報告書である。
2. 調査は文化庁・県教育委員会の指導のもと、甲府市教育委員会が主体となって実施した。
3. 調査経費は国・県の補助金の交付を受けた。
4. 調査は甲府市教育委員会が主体となり、文化財保護担当（望月祐仁・伊藤正幸・平塚洋一・志村憲一・佐々木満・伊藤正彦）が実施した。
5. 本書の執筆は各調査担当者が行い、小林純一（文化振興課長）を編集責任者として、志村憲一が編集した。
6. 本書の挿図・表・写真は、佐野香織、藤原由香、分部綾子が作成した。
7. 本書に掲載した出土遺物及び記録図面、写真等は甲府市教育委員会で保管している。
8. 陶磁器（一部）の写真実測図化は有限会社松風実測部門ツールアートに委託した。
9. 発掘調査及び整理作業参加者（敬称略）。

雨宮英郎	荒木昭彦	新谷典宏	池谷富士子	石部祖代	上島光子
大塚敦子	大間久江	岡 悅子	小沢昭一	小澤四郎	金井いく代
川口格一	岸本美苗	工藤忠誠	久保田明義	倉田勝子	栗田かず子
小池孝男	小池幹子	小宮通子	坂本しのぶ	坂本道穂	佐田金子
佐藤美喜男	塩見芳文	清水英二郎	清水秀樹	末木義光	菅沼芳治
鈴木知幸	鈴木伸夫	鈴木 久	鈴木正文	高橋主税	竹井定子
武井美知子	塙原澄子	内藤ゆみ	内藤真千子	長澤晴雄	中澤明雄
中込幹一	中村孝一	中川美千子	西久保民子	波木井祥和	花曲敬子
林 久美子	樋口 進	平賀早苗	平沢則子	平野静子	深沢春美
古屋袈裟男	保坂 洋	保延秀典	水上善郷	村田喜美江	望月貴美子
望月宏美	山崎雅恵	吉田佳小里	吉田永雄	渡辺百合子	渡辺 茂

10. 発掘調査及び報告書の作成に際し、次の機関及び諸氏からご指導・ご協力を賜った。厚く感謝申し上げる。
帝京大学山梨文化財研究所、山梨県教育委員会学術文化財課、山梨県立博物館、
岩間井戸工業株式会社、大村昭三、沓名貴彦

凡　　例

1. 遺構・遺物番号は、各遺跡の調査地点単位で通し番号とした。
2. 遺構名は、各遺構の性格や形状に応じて調査当時、各担当者が名称を付した。今後、新たな調査等により全体の把握がなされた場合、変更が生じる可能性がある。
3. 全体図・遺構・遺物実測図の縮尺は、図面上に表示したスケールの通りである。
4. 図面のスクリーントーンは以下の通りであるが、図面上に指示したものもある。



炭化物・黒色



赤色塗彩・灰釉



須 慕 器

本文目次

序
例　　言
凡　　例
本文目次

1 平成15年度試掘調査

平成15年度　試掘調査位置図(1)	2	15-31 武田城下町遺跡　天神町236他	53
平成15年度　試掘調査位置図(2)	3	15-32 武田城下町遺跡　下積翠寺町845	56
15-1 油田遺跡　蓬沢一丁目7-122	4	15-33 武田城下町遺跡　宮前町21他	57
15-2 家之前遺跡　里吉三丁目793-1他	5	15-34 武田城下町遺跡　屋形二丁目2447-1他	58
15-3 銀谷之木遺跡　東光寺二丁目280-15	7	15-35 武田城下町遺跡　崖形二丁目1730-3他	59
15-4 大北耕地遺跡　大里町1393-11他	8	15-36 武田城下町遺跡　天神町372	60
15-5 大坪遺跡　横根町454他	9	15-37 武田城下町遺跡　宮前町205-3	61
15-6 大坪遺跡　桜井町586-1	10	15-38 武田城下町遺跡　大手二丁目4073-1	62
15-7 大坪遺跡　桜井町591-1	11	15-39 武田城下町遺跡　武田三丁目466	63
15-8 大手下遺跡・武田城下町遺跡 大手三丁目3789	13	15-40 武田城下町遺跡　屋形三丁目2497-7他	64
15-9 音羽遺跡　音羽町389-2	14	15-41 武田城下町遺跡　大手三丁目3655-3	65
15-10 上町天神遺跡　上町1432-1他	24	15-42 武田城下町遺跡　古府中町1059-1他	66
15-11 川田瓦窯跡　川田町245-2	25	15-43 武田城下町遺跡　下積翠寺町775-1他	67
15-12 中通小学校　川田町65-2他	27	15-44 武田城下町遺跡　屋形三丁目1738-1	68
15-13 中府城下町遺跡 武田二丁目82-3他	28	15-45 武田城下町遺跡　大手一丁目4441-2の一部	69
15-14 甲府城下町遺跡　武田一丁目3-34	31	15-46 武田城下町遺跡　大手一丁目4379-3	70
15-15 甲府城下町遺跡 北口一丁目160-2他	32	15-47 武田城下町遺跡　天神町118	71
15-16 甲府城下町遺跡 丸之内二丁目31-1他	33	15-48 武田城下町遺跡　屋形三丁目2467-5	72
15-17 甲府城下町遺跡　北口二丁目32他	34	15-49 武田城下町遺跡　武田三丁目400	73
15-18 甲府城下町遺跡　北口二丁目94	35	15-50 天神北遺跡　千塚五丁目3424-2	74
15-19 甲府城下町遺跡　北口三丁目30	38	15-51 天神西遺跡　千塚四丁目3380-8	75
15-20 甲府城下町遺跡　北口一丁目162	39	15-52 西耕地遺跡　大里町2483-4	76
15-21 甲府城下町遺跡　北山三丁目23	40	15-53 八幡東遺跡　湯村三丁目1681-4	77
15-22 幸町A遺跡　幸町2800	41	15-54 平石遺跡　荒川一丁目283他	78
15-23 桜井畠遺跡　川田町496-6	42	15-55 前田遺跡　池田二丁目283-2	80
15-24 桜井畠遺跡　和戸町1301	43	15-56 緑が丘一丁目遺跡 緑が丘一丁目20-2他	81
15-25 里吉天神遺跡　里吉三丁目771-1他	44	15-57 緑が丘一丁目遺跡 緑が丘二丁目87-3	82
15-26 塙部遺跡　塙部一丁目140-10	45	15-58 緑が丘一丁目遺跡 緑が丘一丁目147-4の一部	83
15-27 地蔵北遺跡　東光寺三丁目1690他	47	15-59 緑が丘二丁目遺跡　和田町707-3	84
15-28 堀添遺跡　宮原町1178他	48	15-60 緑が丘二丁目遺跡 緑が丘二丁目821-2他	85
15-29 武田城下町遺跡　屋形三丁目1731-3	50	15-61 村前遺跡　堀之内町957-1他	86
15-30 武田城下町遺跡　天神町337他	51		

II 平成16年度試掘調査			
平成16年度 試掘調査位置図(1)	90	16-38 武田城下町遺跡 屋形二丁目2393-2他	150
平成16年度 試掘調査位置図(2)	91	16-39 武田城下町遺跡 天神町34-2他	152
16-1 朝氣遺跡 朝氣一丁目214-17	92	16-40 武田城下町遺跡 屋形二丁目2395-5他	153
16-2 朝氣遺跡 朝氣一丁目27-15	93	16-41 武田城下町遺跡 屋形三丁目2494-2他	154
16-3 朝氣遺跡 朝氣一丁目165-3	94	16-42 武田城下町遺跡 屋形一丁目1747-25他	158
16-4 朝氣遺跡 朝氣三丁目192	95	16-43 武田城下町遺跡 元鉾屋町57-22他	159
16-5 朝氣遺跡 朝氣一丁目165-5	96	16-44 武田城下町遺跡 元鉾屋町69-2他	160
16-6 油田遺跡 蓬澤一丁目102-2	97	16-45 武田城下町遺跡 屋形一丁目1797-2他	161
16-7 銀杏之木遺跡 東光寺二丁目292-1他	98	16-46 武田城下町遺跡 天神町81他	162
16-8 大北耕地遺跡 大里町1392-3	100	16-47 武田城下町遺跡 大手二丁目4081-6他	163
16-9 大坪遺跡 横根町474-3	101	16-48 武田城下町遺跡 天神町233-1他	164
16-10 植ノ久弥遺跡 高室町278-2他	102	16-49 塚本遺跡 千塚三丁目2069他	166
16-11 金塚西遺跡 千塚三丁目2271-3	103	16-50 堤下B遺跡 東光寺町1417他	167
16-12 上町天神遺跡 上町1407-1他	104	16-51 天神西遺跡 千塚四丁目3154他	168
16-13 上土器遺跡 川田町2-4	105	16-52 天神西遺跡 千塚四丁目3221-3他	169
16-14 神田遺跡 千塚三丁目2154-2	106	16-53 長沢遺跡 和戸町1066他	170
16-15 甲府城跡 丸の内一丁目558-3	107	16-54 西耕地B遺跡 大里町4388-2他	171
16-16 甲府城下町遺跡 朝日一丁目118	110	16-55 八幡東遺跡 榴村三丁目2329-1他	172
16-17 甲府城下町遺跡 北口二丁目49-1他	111	16-56 富士見遺跡 富士見一丁目8-6	173
16-18 甲府城下町遺跡 北口二丁目5-14	112	16-57 緑が丘一丁目遺跡 緑が丘一丁目128-2	174
16-19 甲府城下町遺跡 丸の内一丁目505-1他	113	16-58 緑が丘一丁目遺跡 緑が丘一丁目127-2	175
16-20 甲府城下町遺跡 武田一丁目3-34	122	16-59 緑が丘一丁目遺跡 緑が丘二丁目91-2	176
16-21 甲府城下町遺跡 北口三丁目21-2他	126	16-60 緑が丘一丁目遺跡 緑が丘一丁目106-10	181
16-22 甲府城下町遺跡 北口一丁目50-1他	128	16-61 村内遺跡 横根町1065-4他	183
16-23 桜井畠遺跡 和戸町1240-1	133	16-62 村内遺跡 横根町1065-6他	185
16-24 桜井畠遺跡 川田町367-1	135	山土遺物観察表	187
16-25 桜井畠遺跡 和戸町1317他	136	写真図版	194
16-26 塙部遺跡 朝日三丁目47-7	137		
16-27 塙部遺跡 塙部三丁目648-5	138		
16-28 塙部遺跡 塙部三丁目605-22	139		
16-29 食糧工場遺跡 幸町2604-3	140		
16-30 武田城下町遺跡 宮前町256-3	142		
16-31 武田城下町遺跡 屋形三丁目2467-4	143		
16-32 武田城下町遺跡 屋形二丁目2413他	144		
16-33 武田城下町遺跡 大手一丁目4461-1他	145		
16-34 武田城下町遺跡 大手一丁目4581-8	146		
16-35 武田城下町遺跡 武田三丁目431他	147		
16-36 武田城下町遺跡 吉府中町4882-13	148		
16-37 武田城下町遺跡 屋形三丁目1735-11	149		

I. 平成15年度 試掘調査

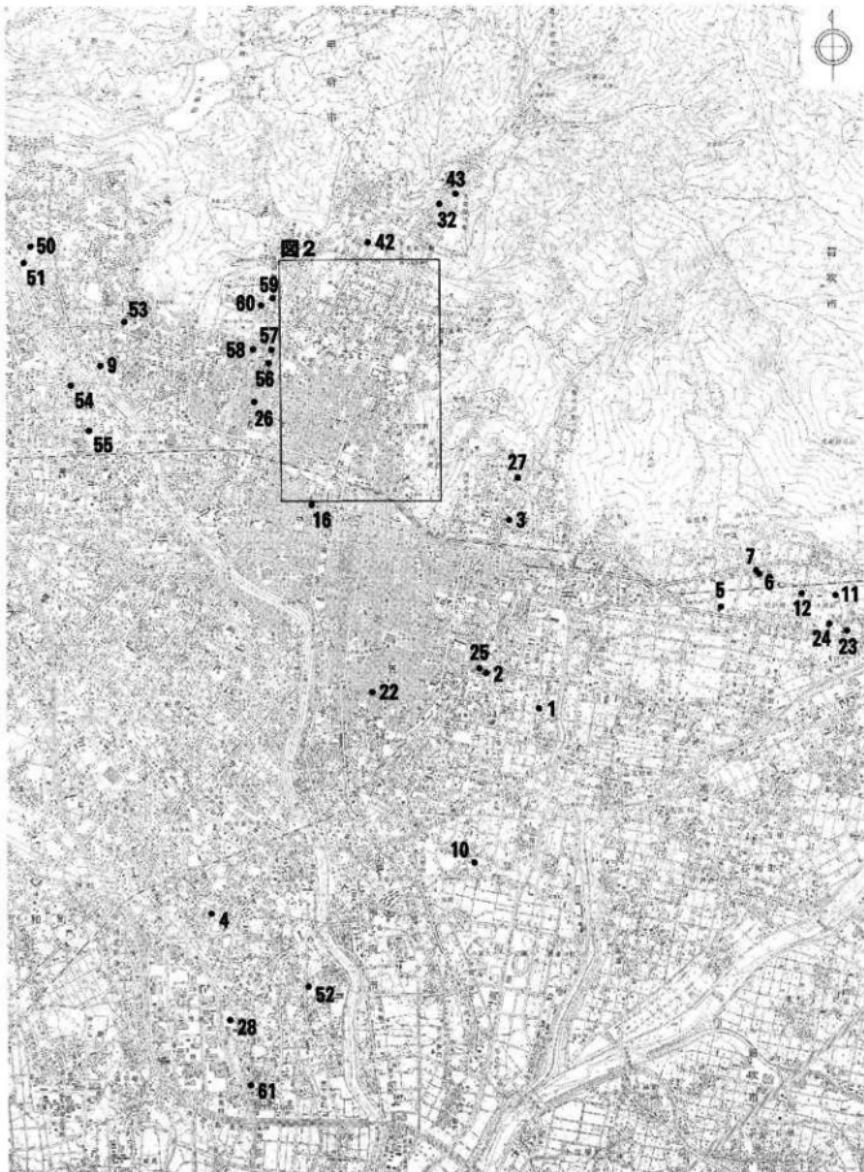


図1 平成15年度試掘調査位置図（1）

3000m

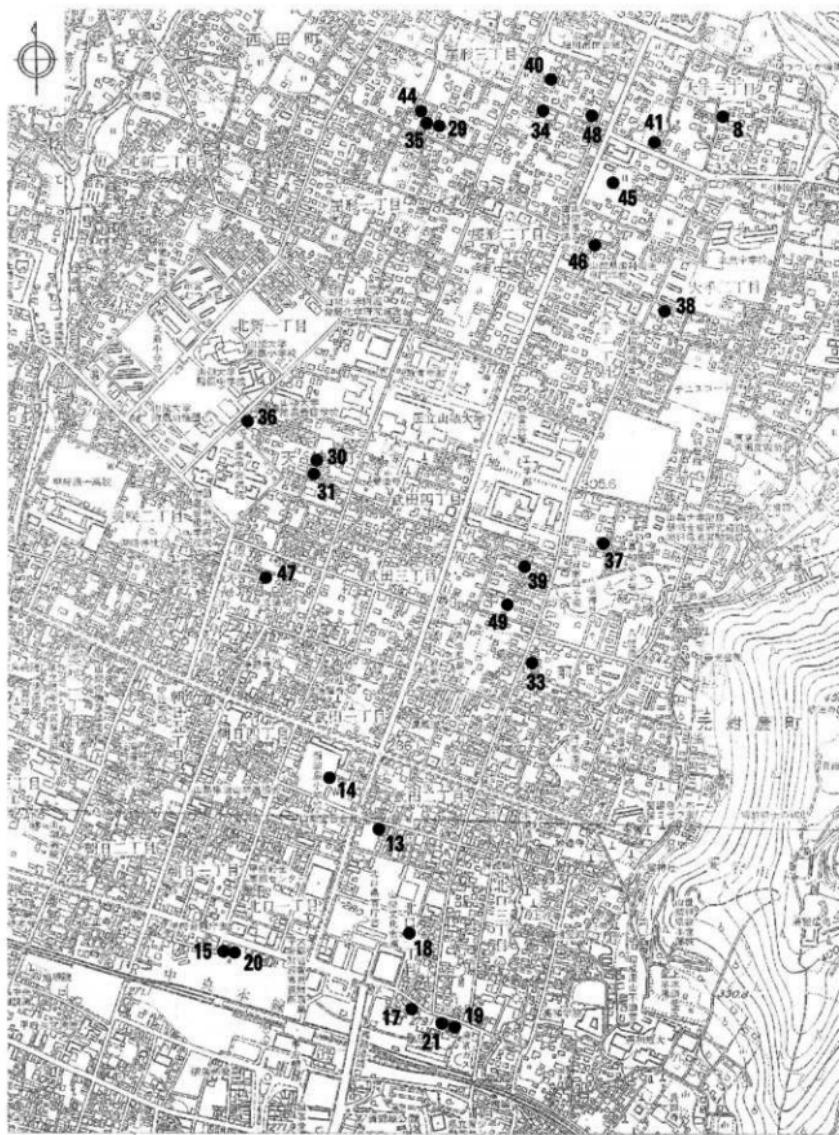


図2 平成15年度試掘調査位置図（2）

0 500m

15-1 油田遺跡

調査位置 甲府市蓬沢一丁目7-122

調査原因 個人住宅建設

対象面積 125.03 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成15年7月31日

調査担当 伊藤正幸



調査位置

調査地は、濁川右岸の沖積地上に位置し、標高は255mを測る。調査地のおよそ200m東側を濁川が流れおり、古くから氾濫の常習地帯であった。本遺跡周辺には古墳時代から平安時代に至る遺跡の分布が濃厚であるが、これまでに試掘確認調査を含めて発掘調査された遺跡は少なく、古代における地域の特徴は把握されていない。

調査の概要

調査地全体はブドウ畠であったが、住宅建設に伴いブドウの木は撤去されていて耕作はすでに終了した。全体が更地のため、計画建物部分に2×2mの試掘坑2ヶ所を設定し、人力にて-90cmまで掘り下げた。

有機質の耕作土は-5cm程度で、すぐに茶褐色土層に至る。この土層は-50cmまで続き、その下層が若干遺物を含む暗褐色土層である。北部の試掘坑(TP2)ではこの3層が確認できたにとどまるが、南側の試掘坑(TP1)はさらに粘性が弱くしまりの強い黄褐色土層(5cm)、暗褐色土層と続く。

遺構面は確認できず、遺物としては古墳時代後期の环及び高环の小破片が十数点と古銭が2枚検出されるにとどまった。調査終了後埋め戻しを行い現状に復した。



調査区状況

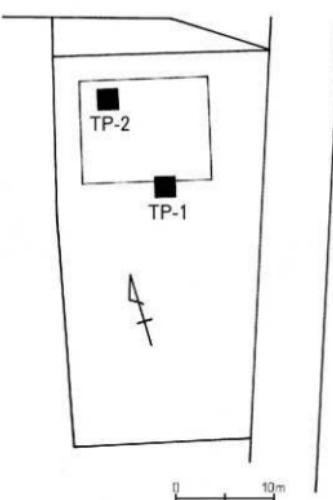


図1 試掘坑配置図

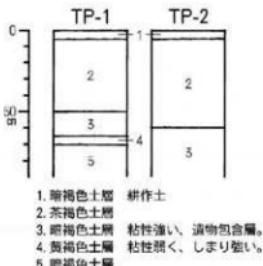


図2 土層柱状図

15-2 家之前遺跡

調査位置 甲府市里吉三丁目 793-1他

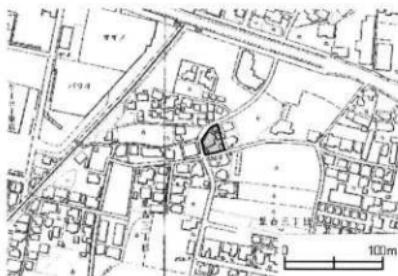
調査原因 集合住宅建設

対象面積 504.89 m²

調査面積 16 m²

調査期間 平成15年11月14日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、家之前遺跡包蔵地の西端に位置することから、遺跡の密度は薄い可能性が高いと考えられた。集合住宅の建物部分に長さ8m、幅2mのトレーナチを掘削した。現地表から約0.5mまでは解体時の搅乱層で覆われており、それより下層から水田層が検出された。水田層は約0.2m程度形成されていたが、時期的には近世以降と考えられたため、さらに掘削を行った。

全体的に水田層を除去し、約0.7mの灰黒褐色土の層位で遺構確認を行ったところ、東西方向に延びる溝跡を1条確認した。掘削したところ、溝跡の北壁際には短冊形の矢板が検出された。トレーナチ壁面の土層観察で上層の水田面から開削されていることが確認され、溝跡床面には砂層が堆積していたことから、水田用水路と考えられた。

しかし、他に遺構はなく、部分的に約1.4mまで掘り下げて土層堆積状況を確認したが、大きな変化はみられず、下層からは遺物等も出土しなかった。

まとめ

家之前遺跡は平安期の遺跡として周知されていたが、西端に位置する本地点で当該期の遺跡を確認することはできなかった。しかし、1・2のような15世紀後半の遺物が出土したことは新たな知見であり、今後包蔵地範囲の見直しも含め、再検討の余地がある。

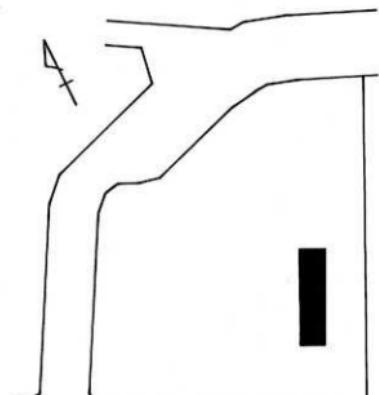


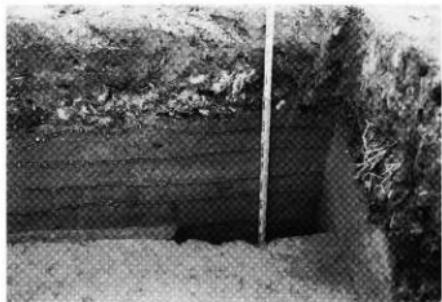
図1 試掘坑配置図



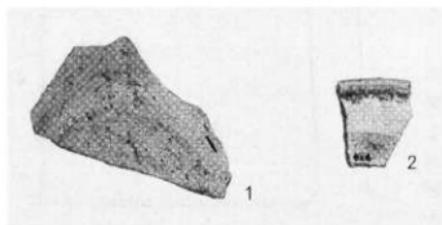
図2 土層柱状図



図3 出土遺物



トレンチ 東壁断面



出土遺物

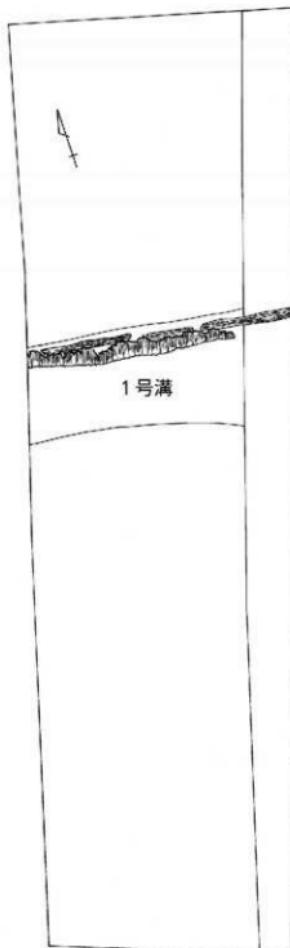


図4 トレンチ平面図

15-3 銀杏之木遺跡

調査位置 甲府市東光寺二丁目 280-15

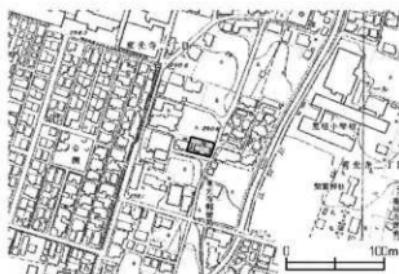
調査原因 個人住宅建設

対象面積 99.41 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成15年5月13日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

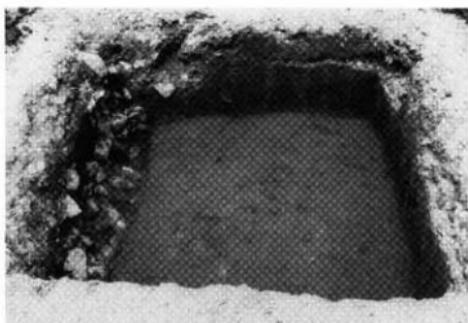
銀杏之木遺跡は、高倉川の西岸、標高260m付近に位置する。平成11年の試掘調査においても古墳時代の土器が数点出土している。

調査の概要

今回の試掘調査は、建築面積約100 m²の建物に対し、2×2mの調査グリッドを設定し調査を実施した。試掘グリッドの西端付近で現代の暗渠が確認でき、その中からも古墳時代の土器が数点出土している。

地表から約70cmで自然堆積層となるが、人為的な遺構は確認できなかった。

のことから、今回の調査地点では明確な住居跡等はなかったものの、周辺には古墳時代の集落が展開していたことが想定できる。



調査状況

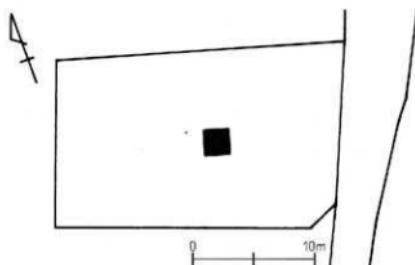


図1 試掘坑配置図

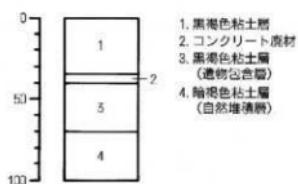


図2 土層柱状図

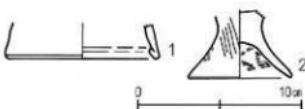


図3 出土遺物

15-4 大北耕地遺跡

調査位置 甲府市大里町1393-11他

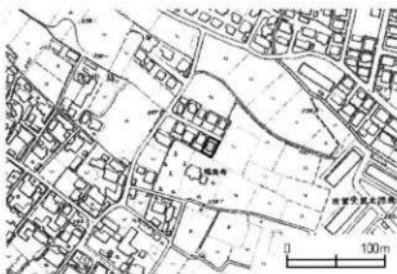
調査原因 個人住宅建設

対象面積 80.1 m²

調査面積 4.25 m²

調査期間 平成15年5月30日

調査担当 志村憲一



調査の概要

大北耕地遺跡は、甲府盆地中央部標高約257mに位置する中世の遺跡である。調査区南側には中世に開基された曹源山福泉寺が隣接する。

また北側一帯の区画造成地は、平成11年度から平成13年度までの3年間にわたり試掘調査が行われ、中世から近世までの遺構・遺物が検出された。

調査概要

調査区2ヶ所にAグリッド（東西2m、南北1m）、Bグリッド（1.5m四方）を設定し人力で掘削を行った。

両グリッドとも、地表下0.45～0.7mまでは宅地造成時の盛土層である。その下層厚さ30～35cmの灰褐色砂質土を基調とする堆積層は、近世から近代にかけての水田面であり、Bグリッドのこの堆積層からは中世の内耳土器が検出された。さらにBグリッドの地表下約0.7m下層に位置する、暗灰褐色砂質土層内からは、炭化物が少量確認されたが、狭隘な範囲のため遺構は未確認である。両グリッドの黄灰色砂質土層は地山層となる。

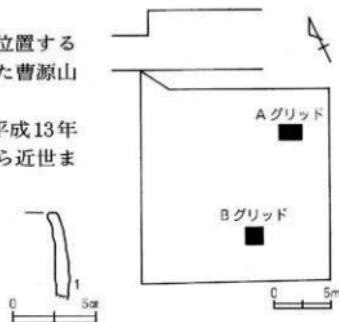


図1 試掘坑配置図



図2 土層柱状図

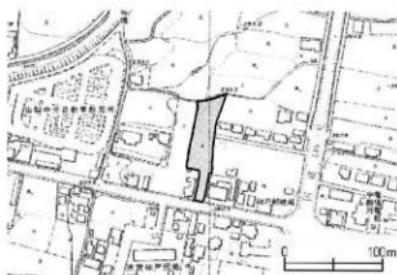
調査結果

調査区南側に隣接する福泉寺は中世以来の寺院であり、ほぼ方形のプランであるため堀及び土塁が囲繞していたことも考えられる。また出土した内耳土器は15～16世紀にかけての遺物であり、周辺に同時期の遺構が存在する可能性がある。



15-5 大坪遺跡

調査位置 甲府市横根町454他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 2,363.83 m²
調査面積 35 m²
調査期間 平成15年9月9日
調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

大坪遺跡は、市街地東部に広がる古墳時代から平安時代に至る遺跡で、これまでに幾度となく発掘調査が行われている。その結果該期の拠点的集落であり、土器生産遺跡であることが判明している。今回の調査地は十郎川の左岸に位置し、標高261mを測る。大坪遺跡の東端部に位置する。

調査の概要

集合住宅建設工事に先立ち確認調査を実施した。建設予定区域に試掘坑3本を設定し、重機により掘り下げを行った。

耕作土ないし駐車場の造成に伴う客土を除去すると、黒色粘土が堆積していた。2号試掘坑においては、黒色粘土層中に茶褐色土が若干混入していたが、3本の各試掘坑内から検出した遺構・遺物は皆無であった。黒色粘土層の厚さは1号試掘坑北端で70cm、2号試掘坑中央部で150cm、3号試掘坑南端部で100cmを測る。各試掘坑とも、黒色粘土層の下部は植物遺体が混入する粘土層になるが、この層でも埋蔵文化財は確認できなかった。

北及び西に隣接する畑中にも遺物の散布は認められず、今回の地域においては遺跡の存在する可能性が低いといえよう。

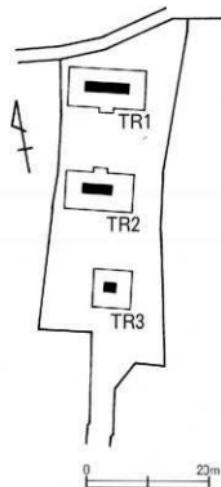


図1 試掘坑配置図



調査状況

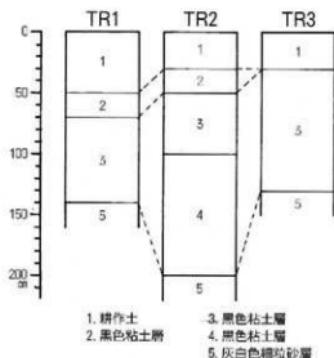


図2 土層柱状図

15-6 大坪遺跡

調査位置 甲府市桜井町 586-1

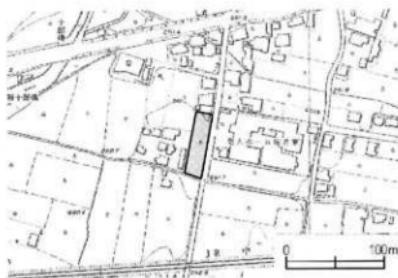
調査原因 宅地造成

対象面積 1,281 m²

調査面積 80 m²

調査期間 平成15年9月30日

調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

十郎川の左岸に位置し、標高 261m を測る。本調査地点は大坪遺跡の東端にあたり、200mほど東には川田窯跡が存在する。また100m西側では、老人ホーム建設に先立ち平成12年度に発掘調査が行われている。

調査の概要

宅地造成工事に先立ち確認調査を実施した。建設予定区域に試掘坑（2×40m）を設置し、重機により掘り下げを行った。耕作土を除去すると暗黄褐色粘土層が15～20cm認められ、その下層は黒色粘土層になる。試掘坑内で1.2mまで掘り下げたが、黒色粘土層が続いている。遺物は試掘坑南部の深さ0.3mほどの位置から古墳時代の土器の小破片1点が検出されたが、器形を窺い知るには及ばなかった。全体的にも黒色粘土の堆積が厚く、遺物包含層は認められなかった。



調査状況

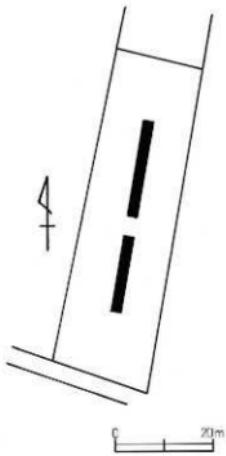


図1 試掘坑配置図

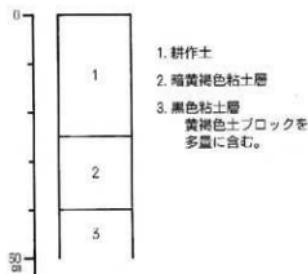
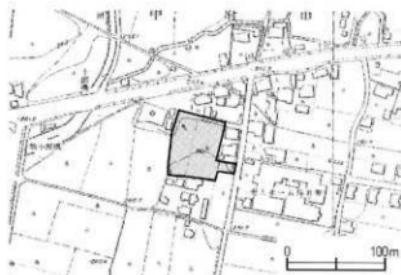


図2 土層柱状図

15-7 大坪遺跡

調査位置 甲府市桜井町591-1他
調査原因 宅地造成
対象面積 3,410 m²
調査面積 88 m²
調査期間 平成16年2月16日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

大坪遺跡は、古代には甲斐国山梨郡表門郷に属し、特に壺・高環などの食膳具を作成した遺跡として知られている。

今回の調査地点は、大坪遺跡の北東隅に位置する。調査地点の西及び東側はそれぞれ1995年、2003年に市教委で試掘調査を実施している。西側の区画の中でも、西側に偏って遺構が集中する傾向がある。東側の区画では遺構が確認できなかったと報告がある。

調査の結果

2×16 mおよび2×28 mの試掘トレーニチを設定し、人力により掘り下げ調査した。現地表から0.3m下層までが表土で、地表下0.4mには、黒色粘土と黄褐色粘土の混合層が確認された。この粘土層は、平安時代の土器が含まれ、遺物包含層となる。それより下層には粘性が非常に強い黒色粘土層（泥炭層）がおよそ地表下1.1mまで堆積していた。

地表より1.1m下層付近及び1.5m下層付近で火山灰層と思われる地層が確認できた。特に地表下1.5m付近の灰色火山灰は分析の結果、約25,000年前に鹿児島湾北部の噴火により堆積した姶良Tnテフラ（AT層）であることが確認された。

まとめ

今回の調査においても西側に偏って遺物包含層の堆積が厚くなる傾向が確認でき、大坪遺跡の集落域は調査地点の西側に展開することが裏付けられた。

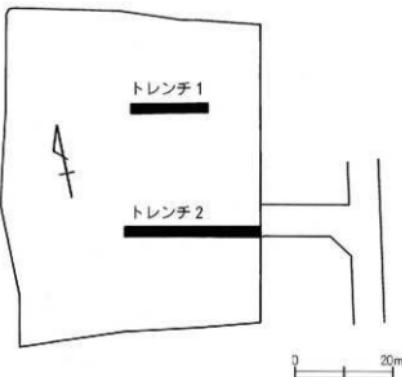
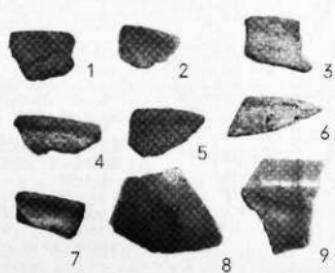


図1 試掘坑配置図



図2 出土遺物



出土遺物

春風荘北西のトレンチにおける火山灰について

岩間井戸工業株式会社

技術士（応用理学部門）大村昭三

- 深さ1.5mの灰色火山灰（04021604）は、ガラス質火山灰の集合体である。他の地層（04021601、04021602、04021603）細粒で粘土質であり火山灰か否かは不明である。
- 灰色火山灰はバブル型ガラスを主体とし、一部にファイバー型ガラスを含む。このバブル型ガラスを主体とする特徴はAT火山灰に見られる特徴である。
- サンプリングした灰色火山灰（04021604）の火山ガラスの屈折率は1.5011～1.5025で平均1.5016であった。この値はAT火山灰の火山ガラスの屈折率1.498～1.501の上限値に近い値である。^{*}なお測定は概略測定です。（計測数7個）

結論 深度1.5mの灰色火山灰は（ガラス質火山灰）はAT火山灰に同定される。

なお、屈折率の測定は、山梨県環境科学研究所のRIMSを用いて測定したこと、その際に研究所の奥水達司さん、内山高さんにお世話になったことを記しておきます。

(原文掲載)

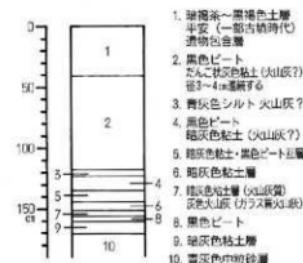


図3 土層堆積図2



Bトレンチ全景



Bトレンチ

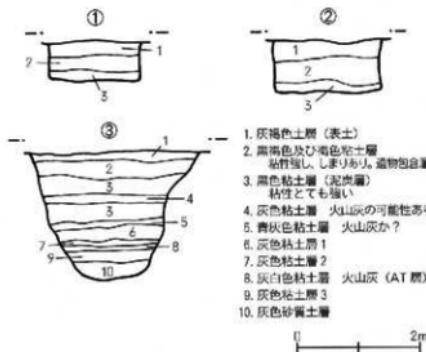


図4 土層堆積図

15-8 大手下遺跡・武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目 3789

調査原因 貨貸住宅建設

対象面積 111.86 m²

調査面積 10 m²

調査期間 平成16年3月2日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、標高340m付近、史跡武田氏館跡の指定範囲の道路を挟んだ東側に位置する。『西山梨郡志』所収の「古府之図」によると、真田氏が居宅を構えた場所とされる。また、縄文時代の散布地である大手下遺跡のほぼ中心に位置する。

試掘調査は、建築を予定している建物が2棟あるため、2ヶ所（便宜的に東側をグリッド1、西側をグリッド2とした）設定し調査を行った。

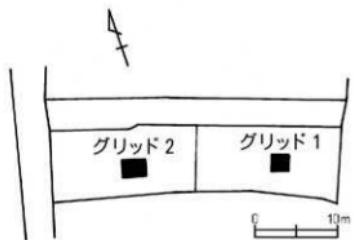


図1 試掘坑配置図

調査の結果

グリッド1については、現地表面から0.25mの深さで自然堆積層が確認できた。これは既に地盤が削平されたことを意味する。遺構・遺物とともに確認できなかった。

グリッド2については、調査前の地表から0.35mまでが客土、それより下層は黒色砂層（客土）を敷いた状況が確認できた。それより下層には暗褐色の旧表土、褐色の礫混粘土層（自然堆積層）が確認できた。

地表下0.55mの自然堆積層で精査した結果、東端から溝状の落ち込みが確認できたため、東側に1m拡張して落ち込み部分を掘り下げた。その結果、落ち込み部分は搅乱であることが確認でき、それより下層にも遺構が存在しないことを確認して調査を終了した。

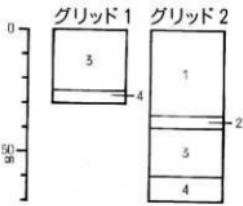


図2 土層柱状図



グリッド2

15-9 音羽遺跡

調査位置 甲府市音羽町389-2

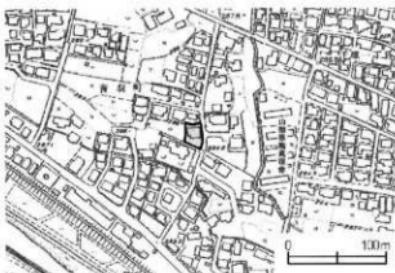
調査原因 個人住宅建設

対象面積 259.59 m²

調査面積 240 m²

調査期間 平成15年7月3日～8月1日

調査担当 志村憲一



調査区概要

音羽遺跡は、荒川左岸標高約286mの自然堤防上に位置し、周辺には古墳から平安時代にかけての遺物が集中してみられる。過去北側隣接地の試掘調査の際に溝が検出された。また平成4年度から3次にわたり、調査区東方90m地点の山梨県職員宿舎建替えに伴い山梨県埋蔵文化財センターにより実施された本調査の際には、弥生時代後期から平安時代にかけての住居跡28軒と古墳時代前期の方形周溝墓が発見されている。

調査概要

東西15m、南北13mの範囲を、重機で表土を0.5m掘削後人力で精査を行った。地表下約0.4m～1.2m地点の暗褐色土層内から、竪穴式住居が13棟確認された。出土遺物から判断して古墳時代中期から後期の住居（2・4号住居）、9世紀後半（6・7号住居）、10世紀代（1・3・9・11・12号住居）である。5・8・10・13号住居は時期不明である。出土遺物は、土師器・須恵器・灰釉陶器・土製品が多数検出された。中には、外面に墨書がみられる壺も数点出土している。

検出遺構・遺物

1号住居 遺構は西壁にかかって検出され、南北方向3.9m、短辺1.2mを測る。深さは確認により約0.5m、カマドは東壁の南側に位置する。覆土は暗黒褐色砂質土であり、置きカマド（3）など10世紀代の遺物が検出された。

2号住居 調査区東側で検出され住居東側は調査区外である。隣接する4号住居及び13号住居との新旧関係は不明であり、現状南北方向約7m、東西方向3.6m、深さ約0.7mを測る。住居中央部には東西1.5m、南北2.1mの範囲に焼土層が拡がり、南西側にはピットが3基らみられる。北側は長軸1m、短軸0.6m、深さ0.16mである。中央部は長軸1.8m、幅0.5m、深さ0.8mである。南側は長軸1.2m、幅0.8m、深さ0.37mである。覆土は暗褐色砂質土を基調とし炭化物の混入が確認される。遺物は古墳時代中期から後期にかけての壺（5）、高壺（6・8）、甕（7）である。

3号住居 調査区中央部北側で検出された。プランは隅丸方形を呈し一辺3.7m四方であり、深さ0.5mを測る。南西隅には円形を呈する径0.45m、深さ0.25mのピットが1基確認された。住居東壁南側からはカマドの痕跡が検出され、東西2.1m、幅1.2mの範囲に焼土層が拡がる。住居の覆土は暗褐色砂質土を基調とし炭化物の混入が確認される。出土遺物は壺（9）、甕（10）、羽釜（11）が確認された。いずれも10世紀前半の遺物である。

4号住居 北側に2・7・13号住居と接するが、切り合い関係は不明瞭である。南側は調査区外となる。現状東西方向約5m、南北方向0.5～2m、深さ約0.2mを測る。覆土は暗褐色砂質土であり、炭化物が少量確認された。住居北側からは炭化物の集中部が確認さ

れ、その周辺には径10～25cmの礫が集められてみられた。出土遺物は古墳時代後期の壺(12)、壺(13)が検出された。

5号住居 西側に隣接する10号住居より占い堅穴式住居であり、東側及び南側は調査区外となる。現状南北方向約2.2m、東西方向1.5m、深さ約0.5mを測る。覆土は炭化物及び遺物を含む暗褐色砂質土である。

6号住居 1・7・9・12号住居と接するが、切り合い関係は不明瞭である。現状東西方向約3.8m、南北3.8m、深さ約0.4mを測り、覆土は暗褐色砂質土である。住居東壁よりカマド跡が検出され、東西1.25m、幅0.6mの範囲に焼土が拡がる。出土遺物は底部に「東」と側面に「日」と墨書きされた壺(14・15)、8世紀後半の壺(16)、須恵器壺(17)が確認された。壺(16)以外は9世紀後半の遺物である。

7号住居 調査区中央部に位置し、4・6・10・12・13号住居と接するが、切り合い関係は不明瞭である。現状東西方向約7m、南北約5.8m、深さ約0.2～0.3mを測り、径0.4～0.7mのピットが8基確認された。住居の覆土は暗褐色砂質土である。出土遺物は9世紀後半の甕(18)、壺(19)、古墳時代後期の壺(21・22)が出土した。

8号住居 調査区北西隅部で検出された。プランは円形を呈し現状東西4m、南北3.3m、深さ約0.3mを測る。覆土は炭化物を微量含む暗褐色砂質土であり、土師器片の混入がみられる。

9号住居 調査区中央部西側で検出された。プランは隅丸方形を呈し、辺3.5m四方であり、深さ0.5mを測る。住居の四隅には円及び梢円形を呈する径0.25～0.28m、深さ0.39～0.6mのピットが4基確認された。また住居東壁南側からはカマドの跡が検出され、長軸1.5m、幅0.7mの範囲に焼土が拡がる。住居の覆土は暗褐色砂質土を基調とし、「日」と墨書きがなされた壺(23・24)、須恵器壺(25)など10世紀前半の遺物が出土した。

10号住居 南側は調査区外となる。現状南北方向3m、東西方向1.7m、深さ約0.5mを測る。覆土は炭化物・遺物の混入がみられる灰茶褐色砂質土である。東側に隣接する5号住居より新しい。7号住居との新旧関係は不明である。

11号住居 調査区北西側で検出された。現状南北方向約3m、東西方向1.5mのみではあるが、当初は隅丸方形のプランを呈し、東西3.2m、深さ0.5mの住居であった。覆土は暗茶褐色砂質土であり、炭化物・焼土の混入がみられる。出土遺物は10世紀前半の壺(26)、灰釉陶器小壺蓋(27)が検出された。3・12号住居より新しく、8・9号住居との切り合い関係は不明である。

12号住居 西側に隣接する9号住居より占い堅穴式住居であり、現状南北方向約2m、東西方向2.1m、深さ約0.1～0.2mを測り、10世紀代の土師器皿が1点検出された。

13号住居 調査区東側で検出された。プランは不明であり、現状東西2.4m、南北3.3m、深さ0.11mを測る。住居の覆土は暗褐色砂質土を基調とし、土師器の小片が検出されたが、2・4・7号住居との切合い関係は不明である。

ま と め

今回の調査区は、東側の山梨県埋蔵文化財センターが行った県営団地地点から西側へ90mと隔たり、現在もその間には河川が存在する。古代においても周辺には荒川の幾筋かの支流があり、その微高地上に集落が営まれていたものと考えられ、その査証か出土遺物の中には土鍤も含まれていた。今回の調査地点では古墳時代中期から平安時代後期までの堅穴住居跡と遺物が多数検出されたことから、音羽遺跡としての範囲は東側の県営団地を含む極めて広範囲であり、500年間以上長期間にわたり連続と集落が営まれていたものと推測される。

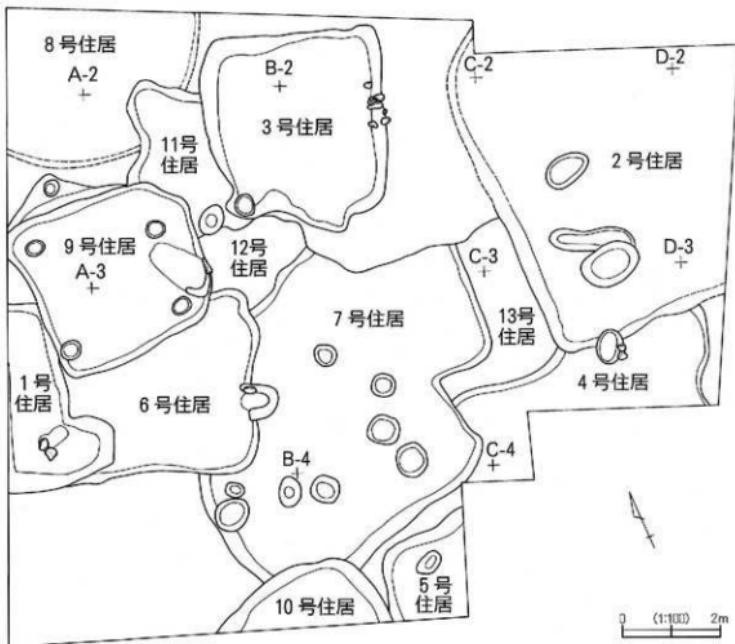


図1 調査区平面図



9号住居 北東コーナー



9号住居

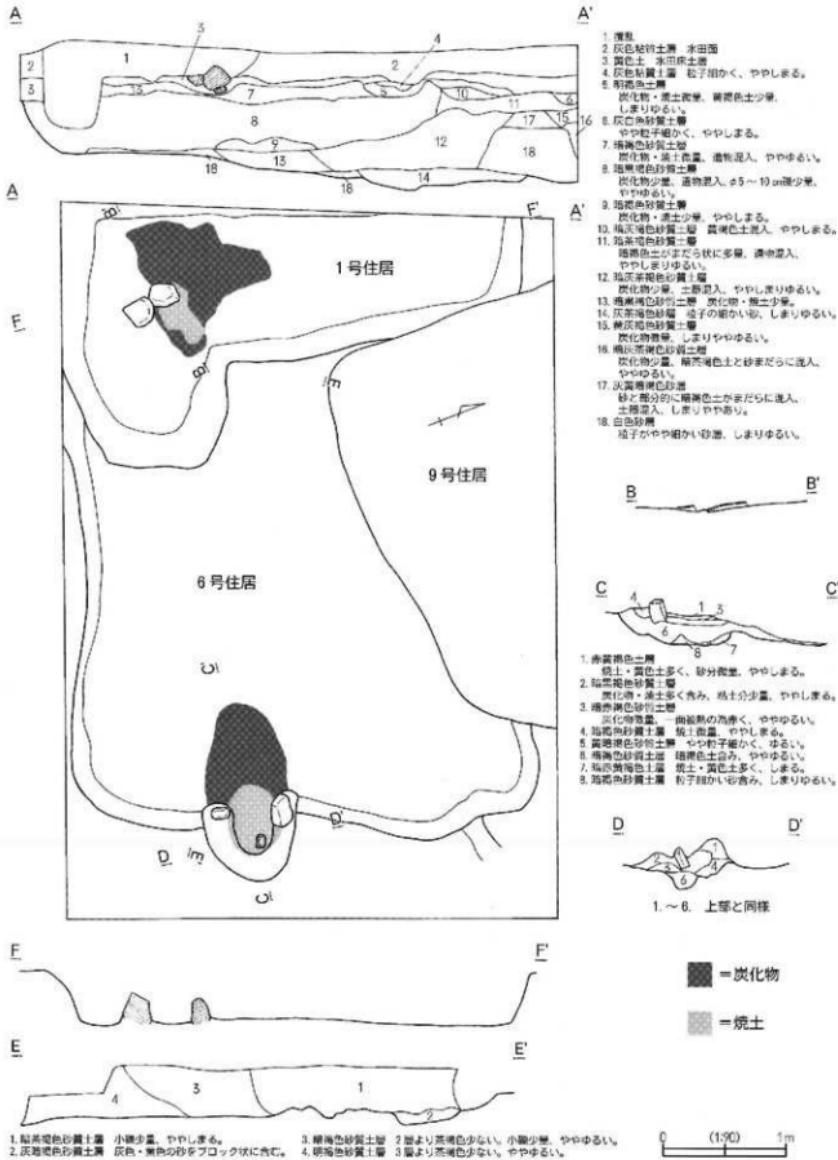


図2 1~6号住居跡平面・土層堆積図

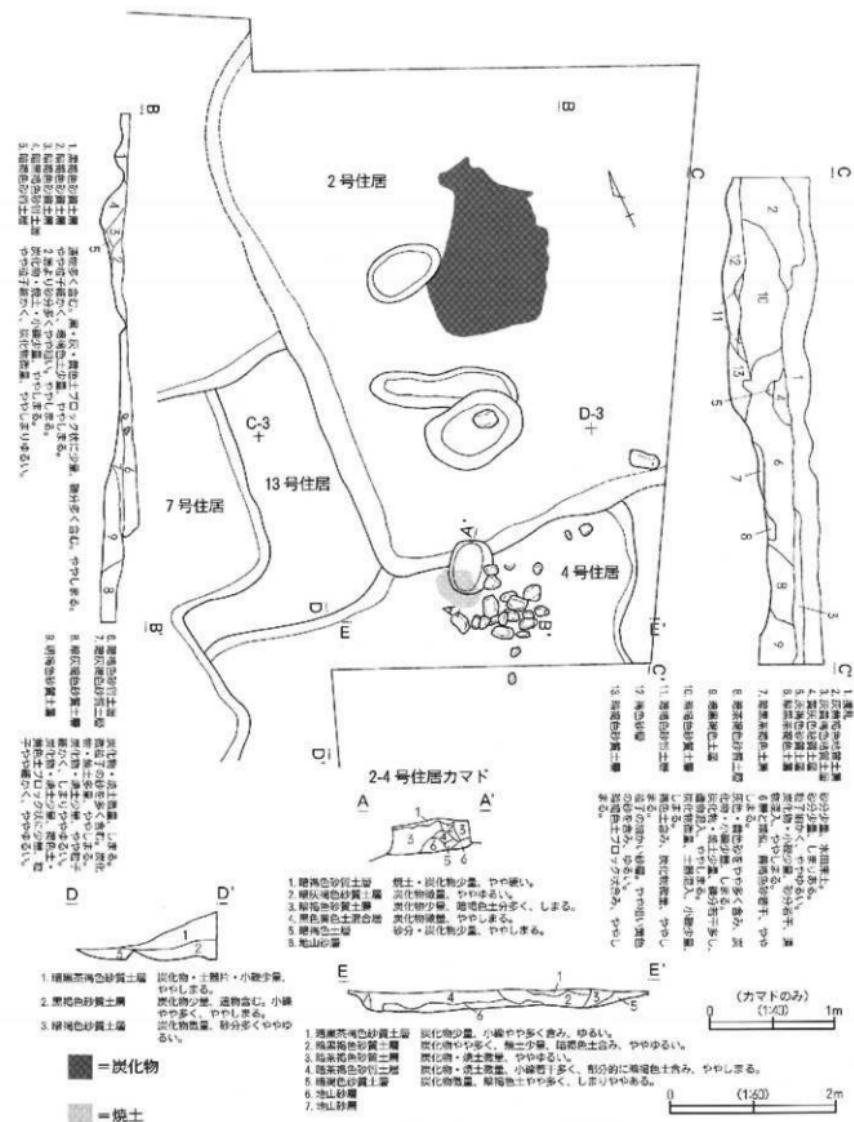


図3 2・4・13号住居跡平面・土層堆積図

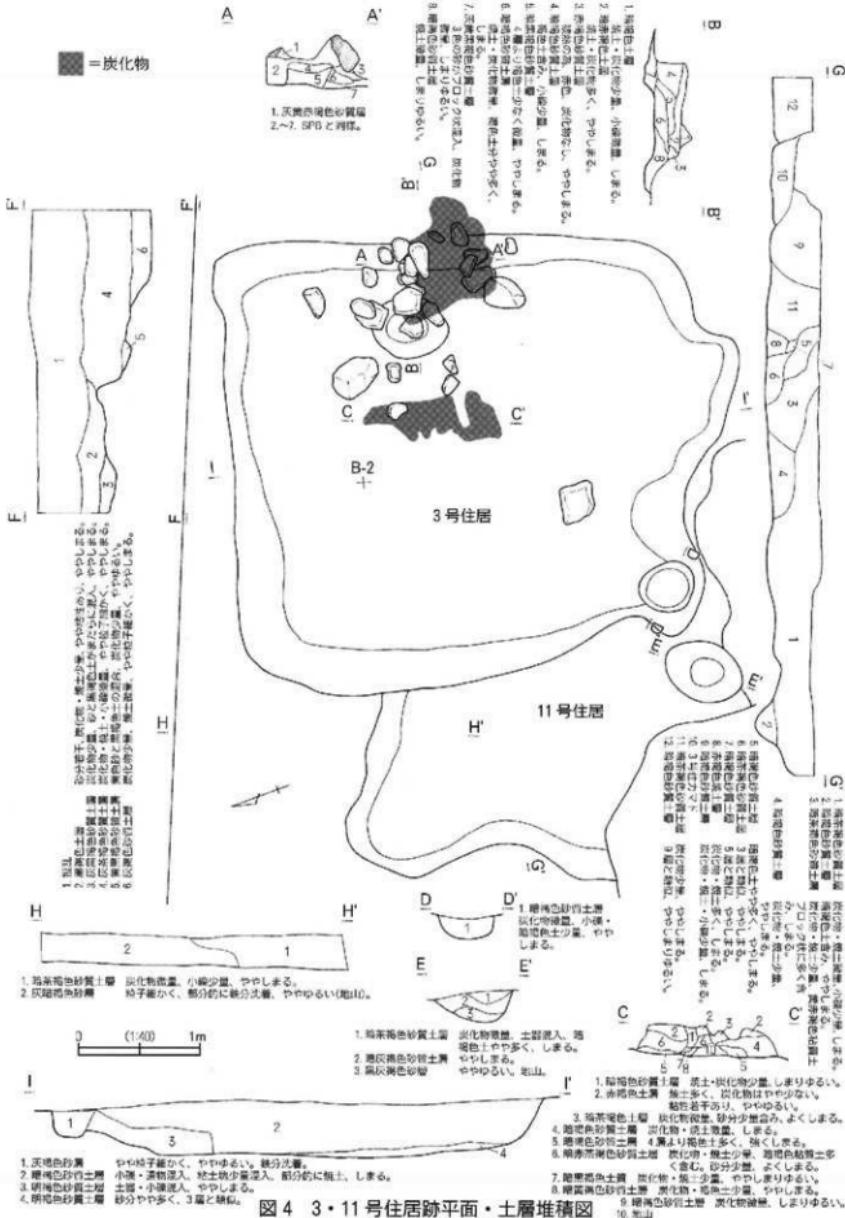


図4 3・11号住居跡平面・土層堆積図

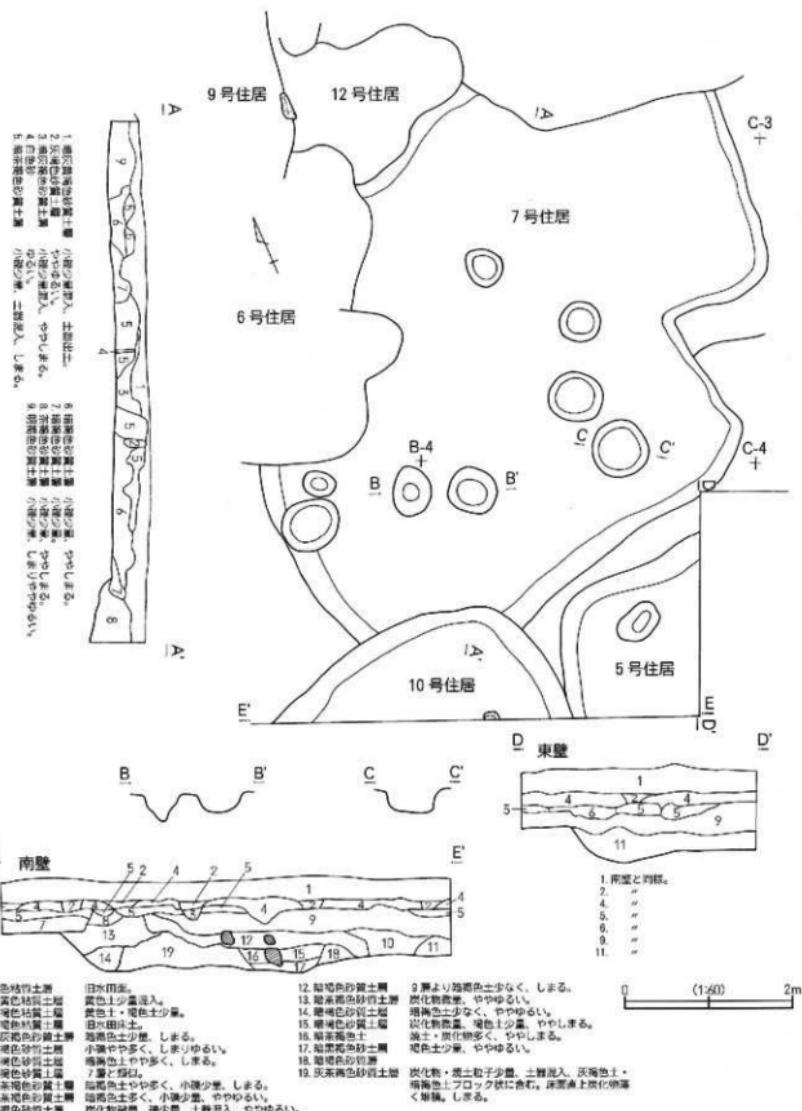


図 5 5・7・10・12号住居跡平面・土層堆積図

G



1. 赤色褐色砂質土層
黄褐色沙の表面層
土質良好。やわらかい。
2. 黄褐色砂質土層
やわらかい。
3. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

4. 灰褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。
5. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。
6. 赤褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

7. 灰褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

8. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

9. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

10. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

11. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

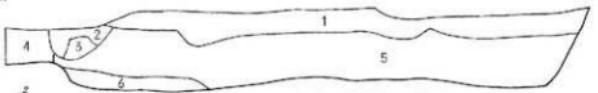
12. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

13. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

14. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

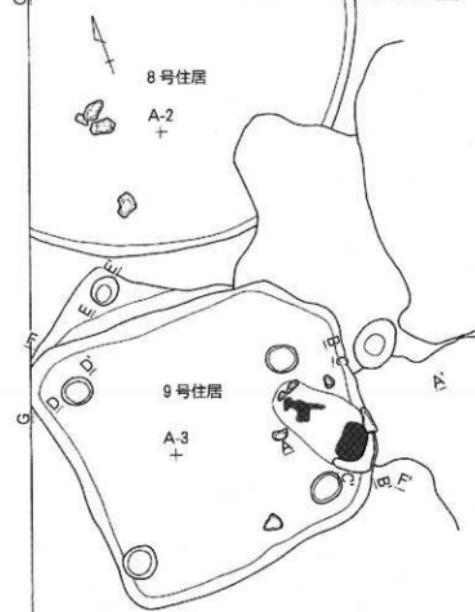
15. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

F

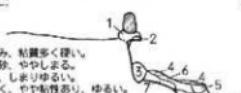


1. 灰褐色砂質土層
灰褐色沙含み。しまる。
2. 灰褐色砂質土層
小粒少量。しまる。
3. 灰褐色砂質土層
小粒少量。やわらかる。
4. 黑褐色砂質土層
黑褐色沙含み。やわらかる。
5. 灰褐色砂質土層
灰褐色沙少。やわらかる。
6. 海色砂質土層
海色沙含み。やわらかる。
5層との間に深い炭化物層含み。やわらかる。

G



A



A'

B



B'

D



1. 黑褐色砂質土層
黄褐色沙の表面層
土質良好。やわらかい。
2. 黄褐色砂質土層
やわらかい。
3. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかい。

1. 灰褐色砂質土層
灰褐色沙含み。やわらかる。

2. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかる。

D'



1. 灰褐色砂質土層
灰褐色沙含み。やわらかる。

2. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかる。

E



1. 灰褐色砂質土層
灰褐色沙含み。やわらかる。

2. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかる。

E'



1. 黑褐色砂質土層
黄褐色沙含み。やわらかる。

2. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかる。

C



1. 黑褐色砂質土層
黄褐色沙含み。やわらかる。
2. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかる。
3. 灰褐色砂質土層
灰褐色沙含み。やわらかる。
4. 黑褐色砂質土層
粒子細かく。やわらかる。
5. 地山砂層

(セクション図)
(1:10)

(平面図)
(1:60)

1m
2m

■ = 炭化物

図 6 8・9号住居跡平面・土層堆積図

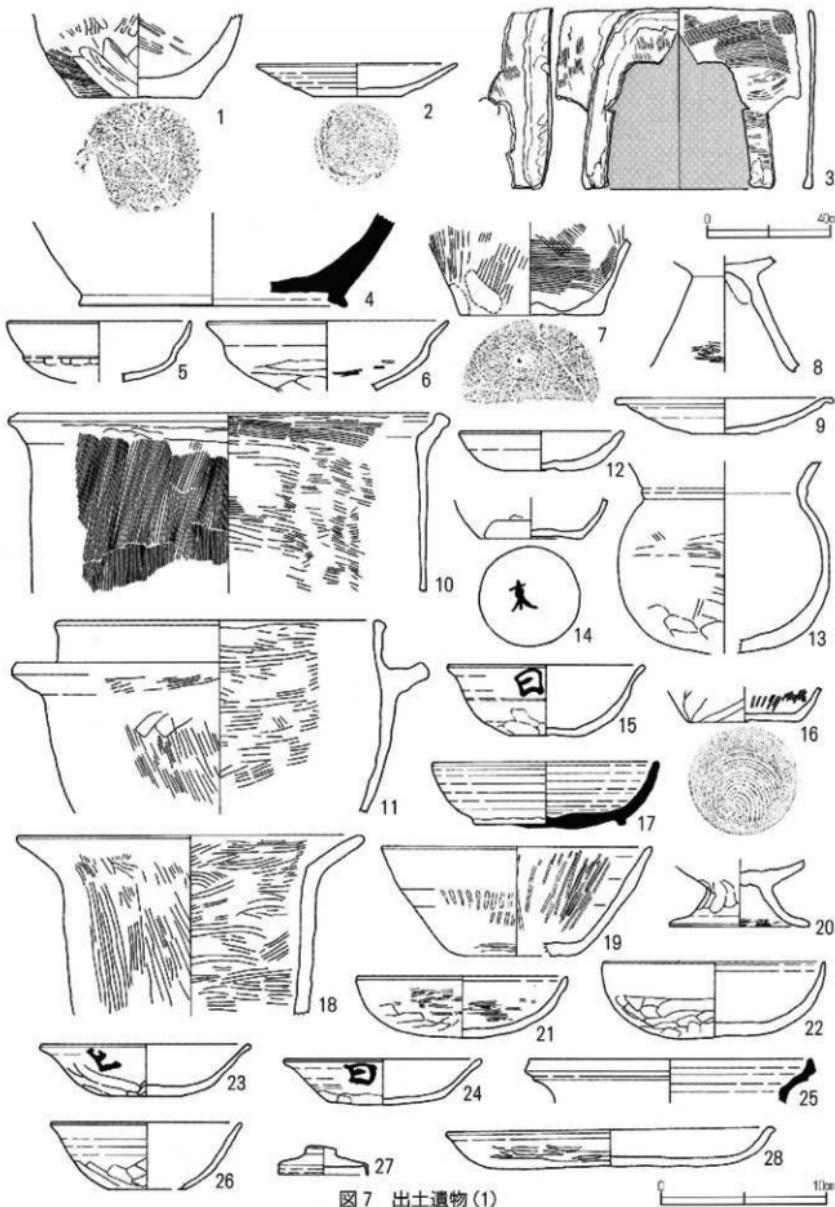


図7 出土遺物(1)

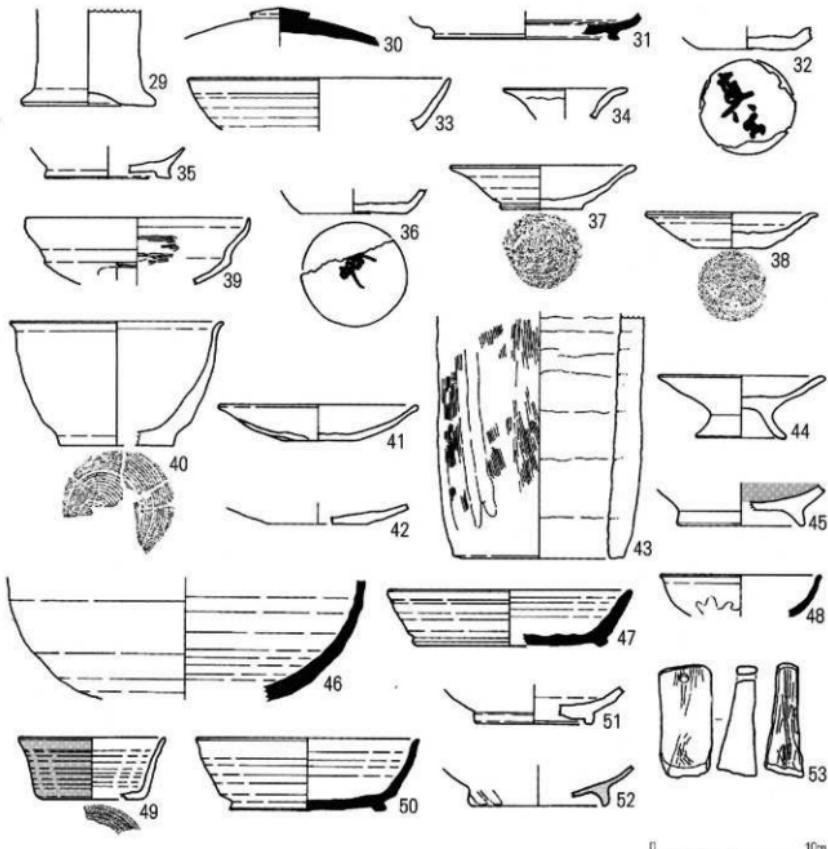


図8 出土遺物(2)

15-10 上町天神遺跡

調査位置 甲府市上町1432-1他

調査原因 集合住宅建設

対象面積 273.74 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成15年11月7日

調査担当 伊藤正幸

遺跡の位置

甲府市中央部の山城地域は甲府盆地の底部に位置し、今でも旧家の軒下には水害避難用の木船を見ることができるほど、幾多の水害に見舞われてきた地域である。

今回の調査は、この山城地区内の北に位置しており、標高253mを測る。本調査地の1.5kmほど南に小瀬氏館跡が存在するが、遺跡の分布は散漫で調査例も少ない。調査地は客土が持ち込まれていて造成されているが、周辺は水田及び畑地である。

調査の概要

今回の調査は共同住宅建設に先立ち行った。対象地に2×2 mの試掘坑を2ヶ所設定し、人力により掘り下げた。

両試掘坑とも色調に若干の違いが確認できるものの粗粒砂を多く含む固く締まった土層が-100cmまで続いた。旧地盤及び地山を確認するには至らなかった。



堆積層状況

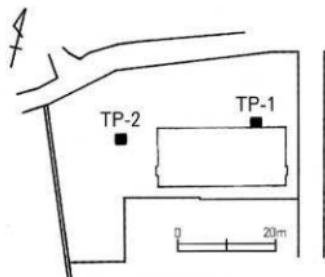
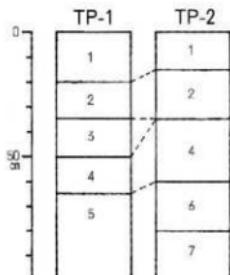


図1 試掘坑配置図

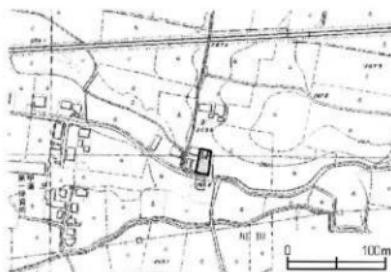


1. 茶褐色土層
2. 茶褐色土層（粗粒砂を多く含む）
3. 茶褐色土層
4. 黒色土層
5. 灰白色及び黄色褐色の混合粗粒砂層
6. 黄褐色粗粒砂層
7. 黒色土及び黄褐色粗粒砂の混合層

図2 土層柱状図

15-11 川田瓦窯跡

調査位置 甲府市川田町245-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 180 m²
調査面積 8 m²
調査期間 平成15年8月2日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

川田瓦窯跡は、標高266m付近の微高地の南縁に位置する。山梨県最古の寺院である寺本廃寺の瓦を生産した窯跡として有名であり、南側を流れる水路から現在も瓦の破片資料が表面採集できる。

過去に表面採集された瓦には単弁八葉蓮華文を持った軒丸瓦を始め、軒平瓦、丸瓦、平瓦等がある。

今回の住宅建設が予定された場所は敷地内において最も北側に設定され、北側微高地と約2mの比高差があることから、造成により窯は存在しないことが想定された。実際に掘削すると、周辺で確認できる遺物包含層も掘削を受け、自然堆積の白色系の粘土が表土直下で出土した。また、土器・瓦を含め出土遺物は確認できなかった。

後日、浄化槽部分の掘削があり、土砂とともに大量の瓦を確認した。

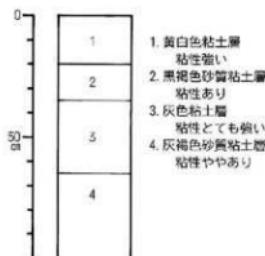


図1 土層柱状図



土層堆積状況

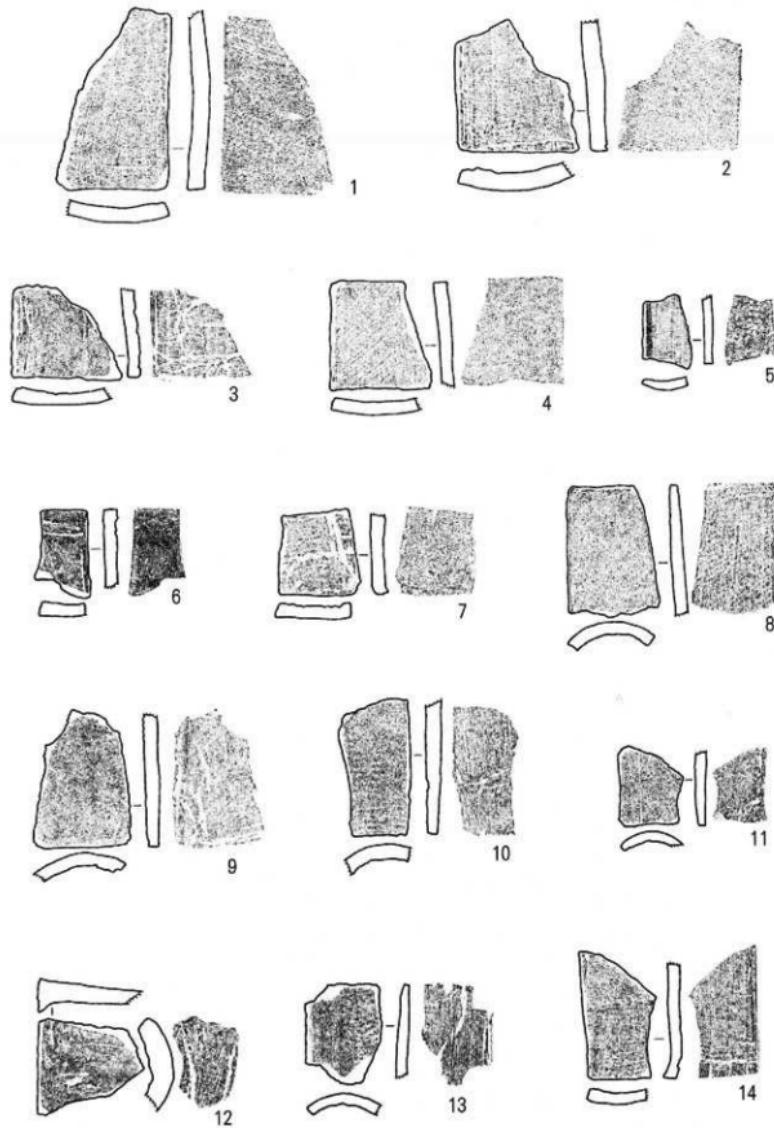
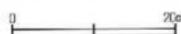
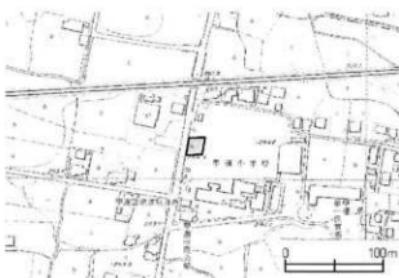


図2 出土遺物



15-12 甲運小学校

調査位置 甲府市川田町65-2他
調査原因 災害用貯水槽埋設
対象面積 50 m²
調査面積 50 m²
調査期間 平成15年8月19～21日
調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

甲府市の東部に位置する甲運小学校は、その周辺に桜井畠遺跡・亀田遺跡・久保田遺跡・北田遺跡・川田瓦窯跡等の古墳時代から平安時代に至る埋蔵文化財包蔵地に隣接する。これまで甲運小学校内から埋蔵文化財は確認されていないが、周囲の状況を勘査する中で、また工事が-1.5mに及ぶことから、埋蔵文化財の確認調査を実施したものである。

調査の概要

災害用飲料水貯水タンクの埋設に伴う確認調査として実施した。

重機により地山面（-70cm）まで掘り下げた後、精査して遺構等の検出を行った。試掘坑の西側3分の2は暗渠水路が埋め込まれている。調査により不整形の掘り込みが6ヶ所、暗渠水路に接するよう確認されたが、その覆土は黒色土ないし黄褐色及び褐色の混合土であり、遺物も確認されなかったため、校庭の造成及び暗渠水路埋設に伴う擾乱であろうと思われる。黄褐色土層は、若干明暗の差がありながらも-100cmまで続き、その下に10cm程の黒色粘土層があり、再度黄褐色土層になるが、この層は-130cmまで続き、以下茶褐色の砂層になる。遺構・遺物とも確認できなかった。

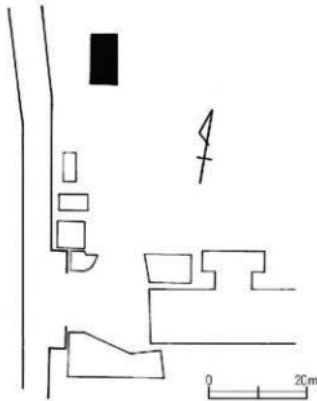


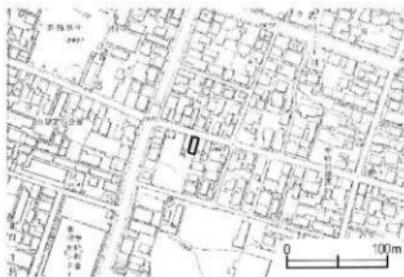
図1 試掘坑配置図



図2 土層柱状図

15-13 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市武田二丁目82-3他
調査原因 商業施設建設
対象面積 185.96 m²
調査面積 34 m²
調査期間 平成15年5月13日～20日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、甲府城跡二の堀と三の堀の間に位置する。西側の隣接地は、平成12年度にマンション建設に先立ち本調査を実施した地点があり、中世から近世の城下町に関連する遺構・遺物が検出されている（甲府市教育委員会2002）。特に中世段階の堀と考えられる溝跡が検出されているが、本地点でもその一部が確認される可能性があった。

計画建物の基礎構造は、8箇所に1.5m四方の基礎を構築する計画であったことから、掘削幅も考慮し、1箇所の基礎につき2m四方のグリッドとして試掘調査することとした。ただし、南東隅には既設の倉庫が存在したため、グリッド1は2m四方の調査面積が確保できず、やや変則的な形で調査区を設定した。

以前に存在した建物が鉄筋コンクリートであったために解体時の掘削等も深くまで及んでおり、全体的にどのグリッドでも搅乱が著しかった。中でもグリッド3は、搅乱層が不安定であったために調査区の壁面が維持できず、本来その北側に位置するはずであったグリッド4と接続する形で調査することとなるほどであり、下層で遺跡を確認することはできなかった。

遺構が確認されたのは、グリッド1・6のみであり、グリッド1では焼けた壁土が詰め込まれた埋桶が検出された。壁土は火災によって焼失したものが廃棄されたと考えられるが、時期的には出土遺物から17世紀後半以降であるとみられる。

グリッド6のピットに関しては、出土遺物もなく時期は不明であるが、堆積土の様子からは近世段階の遺構ではないかと思われた。いずれにしても、削平を受けており、残存状況は不良であった。

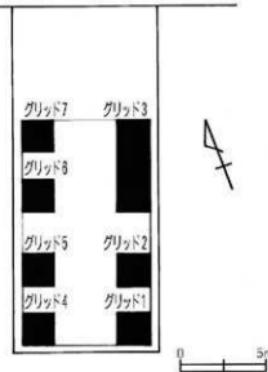


図1 試掘坑配置図

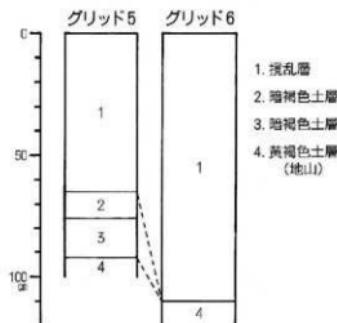


図2 土層柱状図

ま と め

隣接地において中世の城下町内の屋敷を囲んでいたと考えられる堀跡が検出されていたことから、本地点の調査はその延長を捉える意味でも大きな期待が持たれた。ところが、地山の検出が困難なほど全体的に搅乱が著しく、堀跡の確認は難しかった。しかしながら、堀跡の規模を考慮すればすべて搅乱されたとは考え難く、想定した延長上に位置する本地点で確認されなかったことは、堀の進路が予想とは異なる場所を通過している可能性もあり、今後も近接地での調査には十分な注意が必要となる。

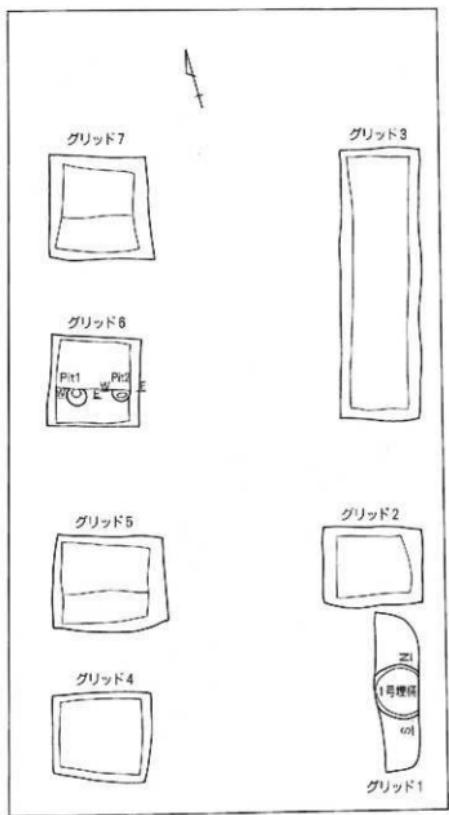
埋桶に廃棄された火災の痕跡は、江戸期に発生した多数の火災の一つであり、時期を特定することは困難であるが、遺物の年代から最も近い元禄6年（1693）に元紺屋町から発生した火災によるものではないかと想定される。



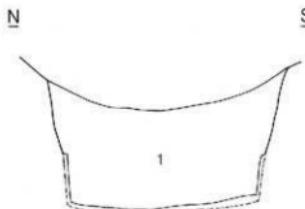
グリッド1 焼土塊



グリッド6



1号埋桶



1. 黒褐色土 燐土塊・炭化物を多量に含む。

Pit1



1. 黒褐色土 燐土粒多量・炭化物少量含む。
2. 暗褐色土 小礫・炭化物微量含む。
3. 黄褐色土

Pit2



1. 暗褐色土 燐土粒・炭化物少量含む。

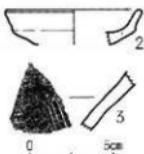
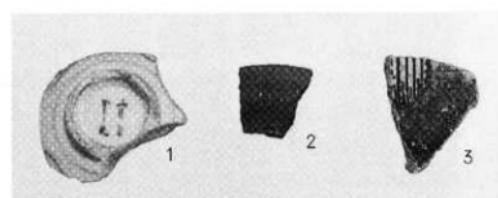


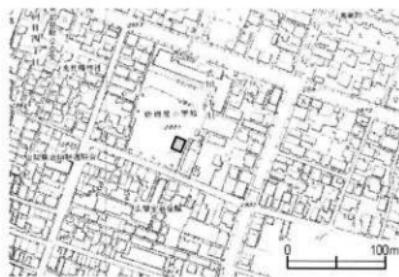
図4 出土遺物



出土遺物

15-14 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市武田一丁目3-34
調査原因 災害用貯水槽埋設
対象面積 72.5 m²
調査面積 22 m²
調査期間 平成15年8月27日
調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

甲府城二の堀の北側100mに位置し、標高283mを測る。甲府市立新紺屋小学校の校庭内にあり、平成14年度には屋内運動場建設の際に発掘調査を行った。

調査の概要

貯水槽設置箇所の中心に、幅2m×長さ11mの試掘坑を重機で掘り下げ調査を実施した。深さは北端で-80cm、南端では-110cmをはかる。

校庭造成のための客土は、45~50cmを測り、全体的に-70cmで地山に達する。褐色土、暗赤褐色土及び部分的には暗赤褐色土を含む黒色粘土層が地山までの間に確認でき、地山は黄白色の粘土層で、この面を掘り込み2本の溝跡(遺構)が認められた。遺構の覆土は暗赤褐色粗粒砂及び暗赤褐色と赤褐色の混合土層である。

試掘坑北側に検出された1号溝は、40cm程の掘り込みを有する「U」字溝である。一方試掘坑中央部の2号溝は、2条が並行するような形で検出されたが、掘り込みは10cmほどで浅い。北端部分には南北方向に、太さ30cmの下水管が、-40cmの位置から検出された。埋蔵文化財が確認されたことで甲府市総務部と協議を行い、学校敷地内の別の場所に災害用貯水槽を埋設することを検討することとなった。

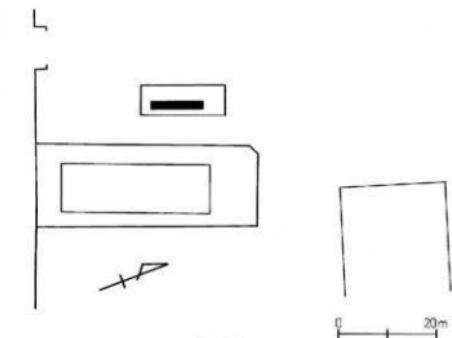


図1 試掘坑配置図

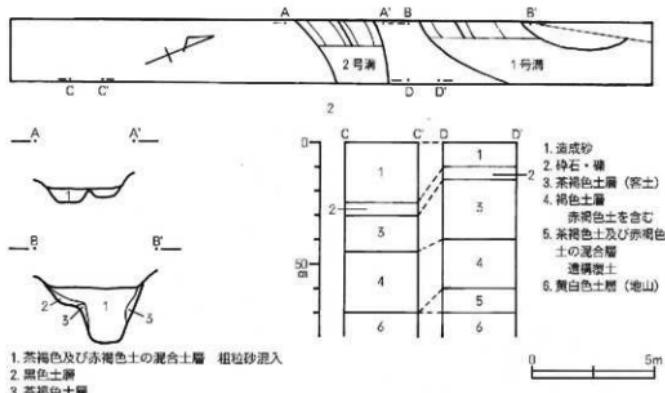


図2 平面・土層堆積・柱状図

15-15 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口一丁目 160-2 他

調査原因 個人住宅建設

対象面積 153.20 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成 15 年 8 月 22 日

調査担当 伊藤正幸

遺跡の位置

甲府城山手の乾門から西に 250m ほど
の距離にある。調査地の西は甲府城下
の御先手小路にあたり、また南側は旧甲
府駅構内になる。旧駅構内とは 1m ほど
の比高差が認められ、標高 274.5m を測
る。

調査の概要

個人住宅改築に伴い、事前に試掘調査
を実施した。

従来から鉄筋 2 階建ての住宅があり、
それを取り壊してからの建設であり、70
cm まで掘り下げた結果、すべて搅乱によ
る客土で、旧地盤はまったく確認できな
かった。図面及び写真に記録し調査を終
えた。



調査状況

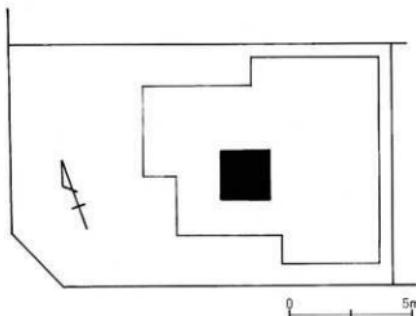
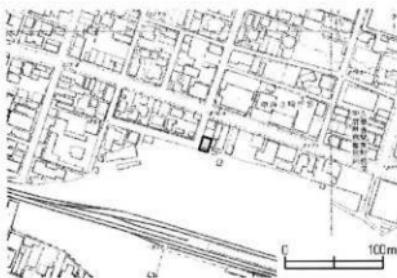


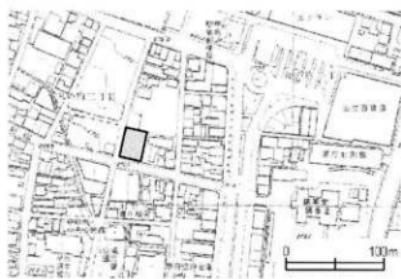
図 1 試掘坑配置図



図 2 土層柱状図

15-16 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内二丁目31-1他
調査原因 店舗建設
対象面積 1,241.9 m²
調査面積 54 m²
調査期間 平成15年9月9日
調査担当 伊藤正幸



遺跡の概要

甲府城柳御門の門前にあたり標高270mを測る。調査地の西側50mほどの位置に甲府城の二の堀が流れる。『懷宝甲府絵図』によれば『馬場』『米蔵』と記された場所で、その後明治8年からは甲府監獄が置かれた場所である。

調査の概要

店舗建設工事に先立ち試掘調査を実施した。2m幅の試掘坑2本（東側：Aトレンチ 約10m、西側：Bトレンチ 約17m）を設定し、重機により地山まで掘り下げた。

Aトレンチ 現状地盤から40～45cm掘り下げると地山に至る。アスファルトの厚さが5～10cmありその下層は碎石及び粗粒砂による搅乱が地山（暗黄褐色土層）まで続く。部分的に100cmまで掘り下げたが地山は変わらず、新しい瓦片が若干、搅乱に混入して確認された以外には埋蔵文化財は確認されなかった。

Bトレンチ 搅乱が著しい。地山までの深さはAトレンチと同様だが、コンクリート・暗渠排水路等の搅乱が地山を掘り込んでいた。南端部分を-145cmまで掘り下げ、-120cmの位置から下で黒色粘土層に変わることが確認できた。埋蔵文化財は確認されなかった。

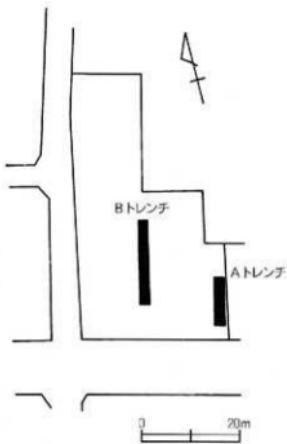


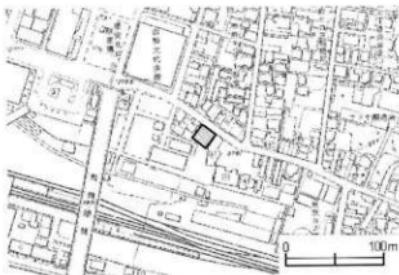
図1 試掘坑配置図



調査状況

15-17 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目32他
調査原因 店舗建設
対象面積 319 m²
調査面積 8 m²
調査期間 平成15年10月20日～21日
調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

甲府城山手門の北側に隣接し、標高279mを測る。調査地の東50mの位置には甲府城二の堀および土塁が存在していたことが想定されている。甲府市により進められている甲府駅周辺整備事業や山梨県による学習拠点複合施設設計計画などに伴う発掘調査が行われ、甲府城山手地域の様相が明らかにされつつある地域である。

調査の概要

仮設店舗の建設に先立って試掘確認調査を実施した。
対象地内に2×2mの試掘坑2ヶ所を設定し、人力にて掘り下げた。

両試掘坑とも、駐車場の整地に伴い、厚さ25～30cmに碎石を敷き詰め填圧されていた。碎石を除去すると粗粒砂層、黄褐色土ブロックを含む暗茶褐色土層が70cm以上続き、埋め立てと搅乱が数回行われていた様相を呈する。北側試掘坑(TP-B)は-80cmまで、南側試掘坑(TP-A)は-70cmまで掘り下げたが、遺構・遺物は確認されず、簡易図面及び柱状土層図・写真に記録し、埋め戻して調査を終了した。



調査状況

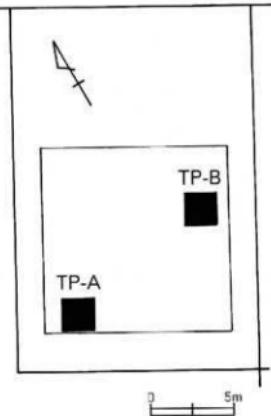
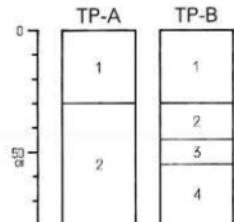


図1 試掘坑配置図

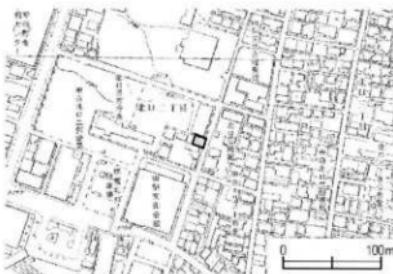


- | | |
|------------------------------------|------------------------------|
| TP-A | TP-B |
| 1. 碎石 | 1. 碎石 |
| 2. 粗粒砂、黄褐色土
及び黒色土の混合
土層 | 2. 暗茶褐色土層 |
| 3. 粗粒砂層 | 3. 黄褐色土層
(ブロックを多
量に含む) |
| 4. 暗茶褐色土、黄褐色
土層(ブロックを多
量に含む) | |

図2 土層柱状図

15-18 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目94
調査原因 個人住宅建設
対象面積 144.23 m²
調査面積 34 m²
調査期間 平成15年10月27日～31日
調査担当 志村憲一



調査区概要

甲府城山手御門北側郭内の武家屋敷である。古絵図などから18世紀前半は柳沢家重臣藤田五郎右エ門の屋敷であった。甲府勤番支配になり19世紀中葉の絵図には記名がないことから空屋敷であったものと推察される。

調査概要

L字状に東西11m、南北8m、幅2mのトレチを設定し、重機で表土を0.7～0.8m掘削後、人力で精査を行った。地表下約0.7m地点の厚さ10cmの暗褐色土層内からは、近世の遺物が出土した。さらに地表下0.8m地点では、確認された黄褐色土層の地山層に掘り込まれた、井戸1基・溝1条・ピット2基が検出された。

検出遺構

(1) 井戸

遺構北側は調査区外ではあるが、円形を呈し径約1m、深さ推定2m以上の素掘りの井戸である。井戸上面は拳大の砾で覆われ、下部からは径約10cmの丸太材が検出されている。出土遺物は18世紀後半から19世紀代の瓦・擂鉢・土製品である。

(2) 溝

現在の区画とほぼ平行する東西方向の溝である。確認された部分で長さ11m、幅0.5～0.6m、深さ0.25～0.45mを測る。溝上層からは近代の陶磁器・瓦が検出されたが、下層は近世の陶器・瓦が出土している。

(3) ピット

ピット2基は径0.2～0.3m、深さ0.2mを測る。ピットの性格・時期については不明である。

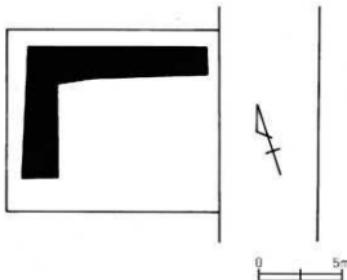


図1 試掘坑配置図

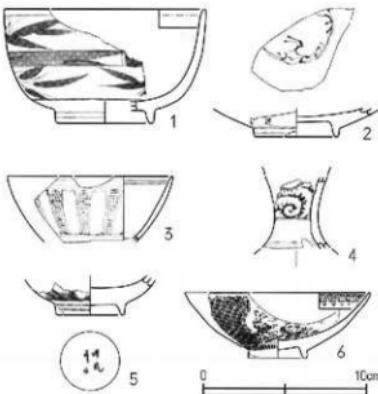
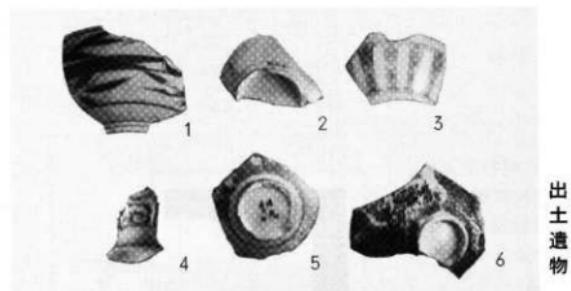


図2 出土遺物

調査結果

調査区北側では近代の搅乱が、地山層付近まで及んでいる部分もみられた。検出された溝・井戸は、18世紀代から近代初頭まで存続していたものと考えられる。この溝に関しては、現在の区画とほぼ平行することと、さらに古絵図等の対比から、武家屋敷を区切る境界の溝と考えられる。



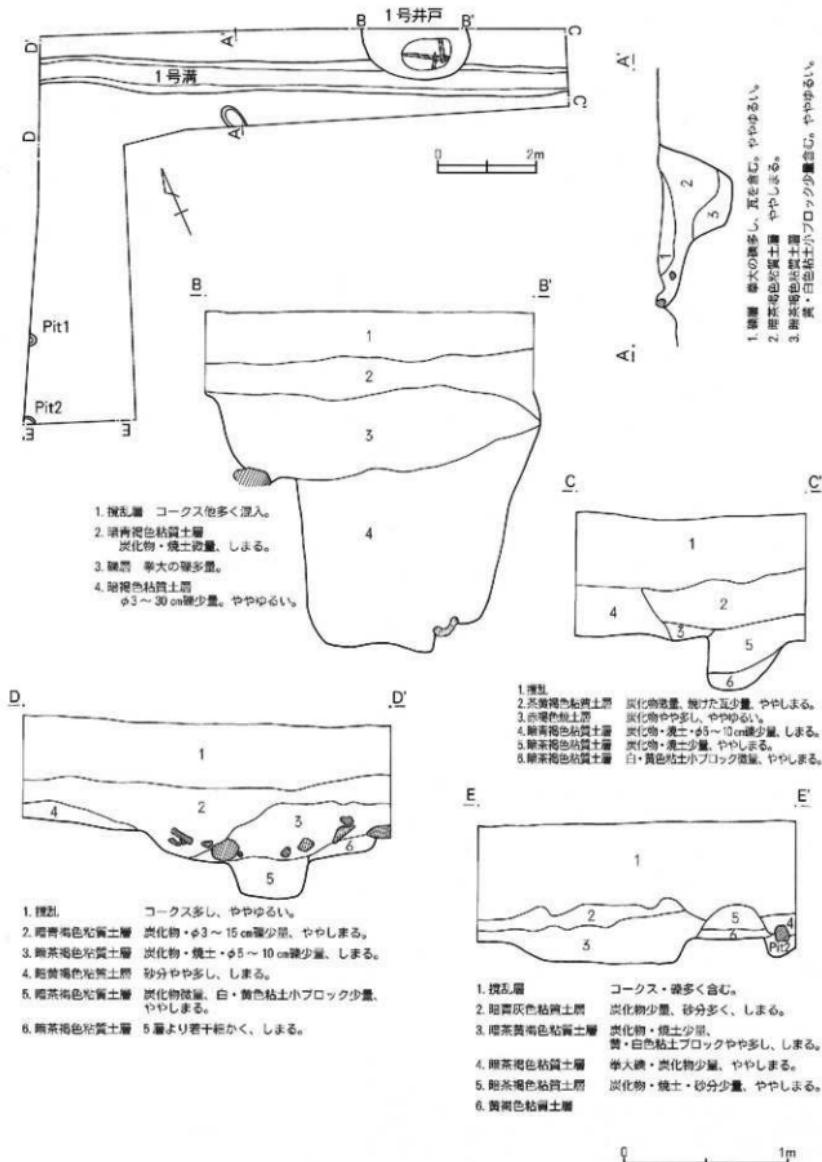


図3 平面・土層堆積図

15-19 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口三丁目30

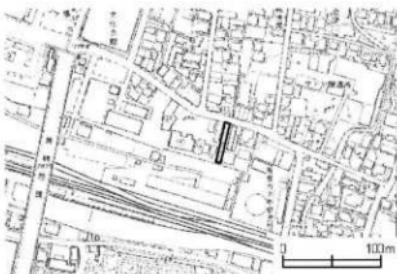
調査原因 店舗併用住宅建設

対象面積 117.22 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成15年12月3日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は甲府城の北西、御花畠曲輪の北側入り口が存在したと想定される付近に位置する。事前に下見をしたときに盛土が施されていることが想定できた。

調査の結果

当初から想定していたとおり、地表から約1.3m下層までの地層には近代から現代にかけての盛土が施されていた。

地表下1.3mで調査区のはば西半分だけが鈍い黒褐色の粘土が堆積していることが確認できた。

黒褐色の粘土は、溝状に掘り込まれ、その東側の肩部分が検出できたことがわかった。その溝跡は北・西・南の三方に展開することが予想された。

計画建物の基礎が溝まで達しないことを確認して調査を終了した。

まとめ

今回の調査で確認できた溝跡は、御花畠曲輪を囲繞する堀跡のものとなる可能性があり、今後の調査によってさらにあきらかになると思われる。



調査状況

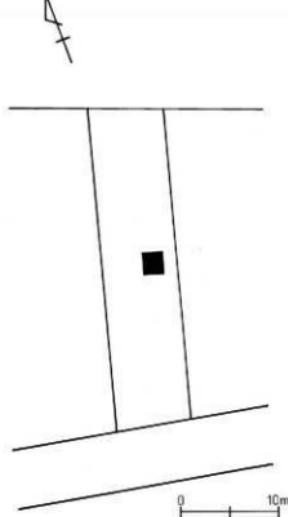


図1 試掘坑配置図

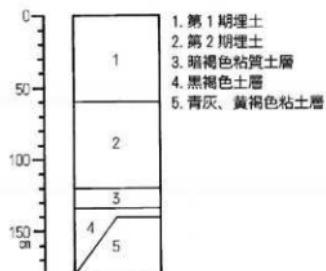
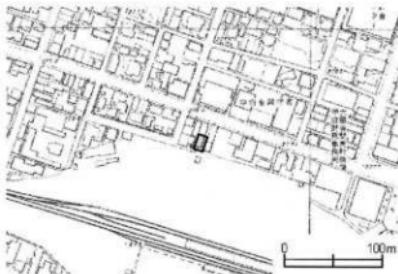


図2 土層柱状図

15-20 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口一丁目 162
調査原因 個人住宅建設
対象面積 50 m²
調査面積 4.5 m²
調査期間 平成 15 年 12 月 19 日
調査担当 伊藤正幸



遺跡の概要

個人住宅建設工事に先立ち試掘調査を実施した。

対象地内に 1.5 × 1.5 m の試掘坑 2ヶ所を設定し、人力により掘り下げたが、南側の試掘坑は上部にコンクリートが流されていて掘り下げが困難であったため東西の長さを 1 m にして掘り下げた。両試掘坑とも -55 cm まで掘り下げたが、搅乱層を掘り下げるにとどまり、埋蔵文化財は確認できなかった。

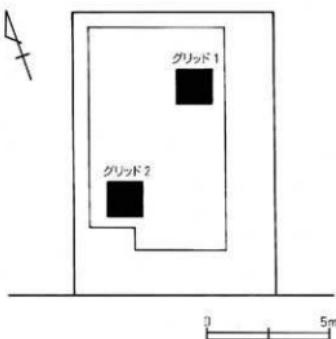


図 1 試掘坑配置図



調査状況

15-21 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口三丁目23

調査原因 店舗建設

対象面積 260 m²

調査面積 6 m²

調査期間 平成15年12月19日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は古絵図の比較から、御花畠曲輪の北側にある「山手曲輪」と呼ばれる空間の東側虎口付近に位置するものと考えられる。東側の隣接地を試掘調査した際、大規模な溝状遺構が確認できた。

調査の結果

隣接地と同様に地表から約1.5mまで客土による盛土が施されていた。詳細に観察した結果、地表下1.2~1.3mの地層に焼土と炭化物が少し混ざる地層が確認できた。周辺が撮影されている大正時代の古写真には現況とあまり変わらない平坦な状況がみえることから、それ以前の火災処理等で埋められた可能性が考えられた。

地表下1.5mまで精査したが、遺構・遺物ともに確認できなかった。

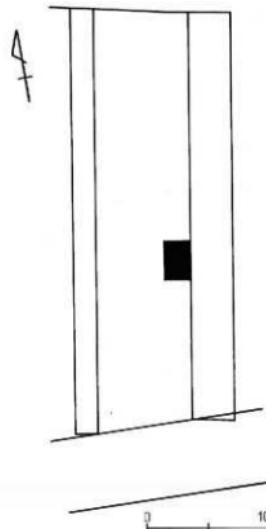
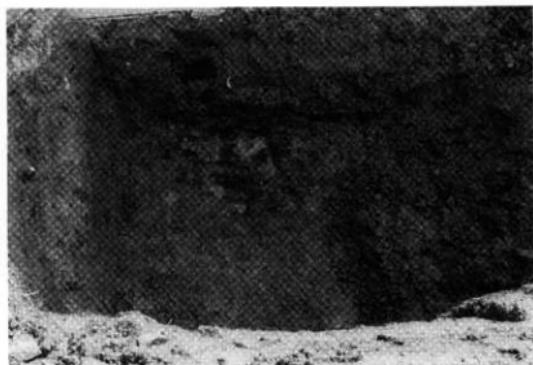


図1 試掘坑配置図



調査状況（東から）

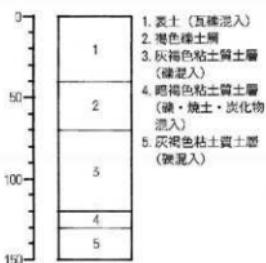


図2 土層柱状図

15-22 幸町A遺跡

調査位置 甲府市幸町 2800

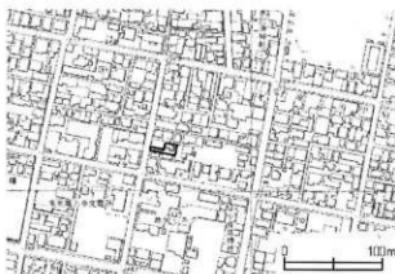
調査原因 個人住宅建設

対象面積 392.8 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成 15 年 10 月 24 日

調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

甲府市街地の南部の荒川氾濫原上に位置する。周辺は住宅地で、古墳時代の勾玉・鏡等が検出された幸町遺跡から東北東 200m ほど の距離にあり、標高は 259m を測る。

調査の概要

個人住宅建設に伴い試掘調査を実施した。2 m 四方の試掘坑を 2ヶ所に設定し人力により掘り下げた。

両試掘坑とも駐車場の整地に伴い、厚さ 25 ~ 30 cm に碎石が敷き詰められており碎石を除去すると旧建物（アパート）の解体に伴う瓦礫が堆積していた。この瓦礫は -80 cm まで確認することができた。この面では部分的に暗黄褐色土層が確認できたが、この暗黄褐色土層は地山層であり、この層を掘り込んで瓦礫を埋めたものと思われる。いずれの試掘坑からも埋蔵文化財は確認されなかった。

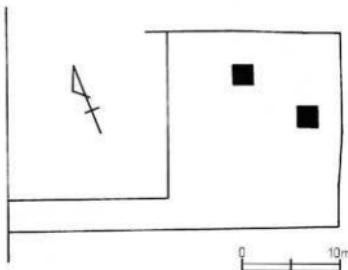
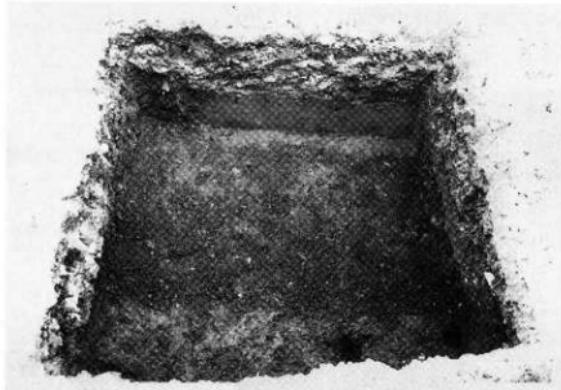


図 1 試掘坑配置図



調査状況

15-23 桜井畠遺跡

調査位置 甲府市川田町 496-6

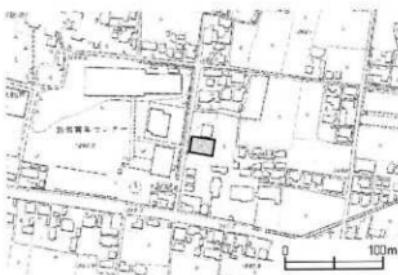
調査原因 個人住宅建設

対象面積 144.04 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成15年12月15日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、山梨県立青少年センターの道路を挟んだ東側に位置する。青少年センターの西側では山梨県埋蔵文化財センターが桜井畠遺跡 A・C 地点として発掘調査を実施し、1辺が 20m を超える県内でも最大規模の方形周溝墓群が検出されている。

調査の結果

地表から 45 ~ 60 cm の地層から土器が出土した。出土遺物は古墳時代の甕の底部、平安時代の壺等の小片である。

計画建物の基礎掘削は地表下 40 cm までの予定であるため、埋蔵文化財への影響は少ないと判断した。

まとめ

調査地点は桜井畠遺跡の東端付近に位置するもの、遺物の出土は調査区の東側に集中する傾向が見られた。そのことにより、遺跡の範囲については再考の必要がある。



調査状況

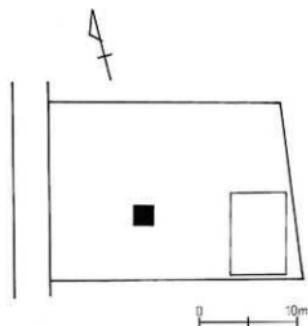


図1 試掘坑配置図

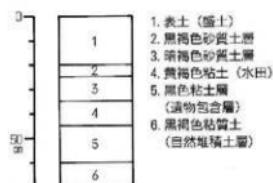
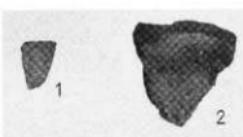


図2 土層柱状図



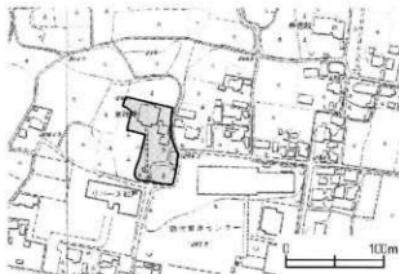
図3 出土遺物



出土遺物

15-24 桜井畠遺跡

調査位置 甲府市和戸町1301
調査原因 寺院庫裏建設
対象面積 179.29 m²
調査面積 6 m²
調査期間 平成16年3月30日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、慶長5年に創建と伝えられる東勝寺の庫裏の建て替えに伴う調査であり、平成2年に同遺跡内で実施された県立勤労青年センター（現青少年センター）発掘調査地点と平成13～16年度に実施された山梨学院川田運動場遺跡群発掘調査地点の間に位置することから、遺跡が連続して検出される可能性が高いと考えられた。

基本的にはベタ基礎工法で計画されていたため、地下への大きな影響はないと考えられ、試掘調査は主に土層確認に主眼を置き、長さ3m、幅2mのトレンチとした。上層は搅乱層が0.6mまで堆積しており、その下層には旧畠の耕作土が残されていた。耕作土を除去すると、暗褐色土、黒褐色土の順に良好な状態で上層が確認された。各層からは遺構は検出されなかったものの、古代の甲斐型土器などが出土したため、平安期以降の包含層であると判断した。部分的に約1mまで掘削したが、遺構や地山面は確認されなかった。

まとめ

今回の調査は小規模な調査であり、寺院に関わる中近世の遺物等を確認することはできなかった。しかしながら、平安期の土器類が一定量出土したことは、同地点周辺に当該期の遺構が展開している可能性が高いことを示唆している。



調査状況



図1 試掘坑配置図

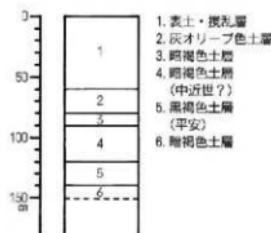


図2 土層柱状図

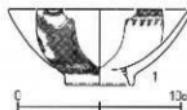


図3 出土遺物



出土遺物

15-25 里吉天神遺跡

調査位置 甲府市里吉三丁目 771-1 他

調査原因 個人住宅建設

対象面積 156 m²

調査面積 6 m²

調査期間 平成15年4月14日～15日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市域東部を南流する濁川流域に広がり、盆地低平地に位置する。周辺に朝氣・家之前・十丁遺跡など古墳時代から平安時代の遺跡が集中して確認されている。調査地点は、標高256mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を二箇所設定し、埋蔵文化財の有無確認を行った。いずれの試掘坑も地表下80cmまで人力にて掘削を行い、地表下35cmまでは表土・旧水田耕作土及び床土となる。灰褐色土(厚20cm)を挟み、それ以下から砂礫の混入が顯著となり、砂礫層へと変化する。調査により遺構・遺物とも確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。

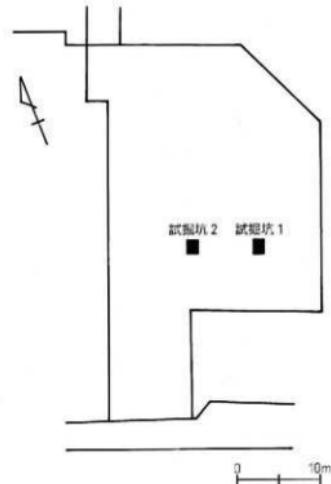


図1 試掘坑配置図



試掘坑 2

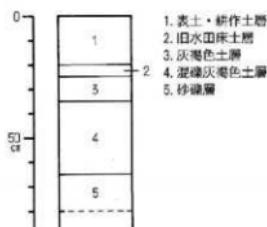
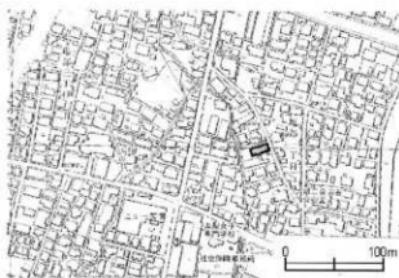


図2 土層柱状図

15-26 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部一丁目140-10
調査原因 個人住宅建設
対象面積 201.4 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成15年4月11日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、塩部遺跡包蔵地範囲の北端に位置するが、これまで付近での調査事例がなく、地下の状況は未知であった。調査は2m四方のグリッドを1箇所設定し、掘削を行った。既存建物解体直後であったが、解体に伴う搅乱層などは僅かであり、掘削して間もなく旧水田層が検出された。水田層を除去し、地表下約0.25mまで掘削したところで黒褐色土層の安定した面が検出された。この面で調査区東側において砂層が堆積する不整形の溝跡が1条検出された。溝跡からの出土遺物はなかったものの、溝跡が検出された同じ遺構面から中世段階のかわらけが出土した。

部分的にさらに0.7mまで掘り下げたところ、上層に大きな変化はなく、黒褐色の粘質土層が続いていた。下層では木の枝などが出土し、湧き水などがあったことから湿地帯のような様相であったと考えられる。

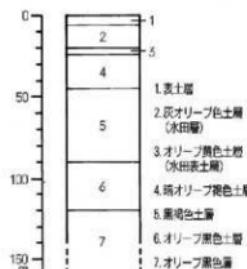


図2 土層柱状図

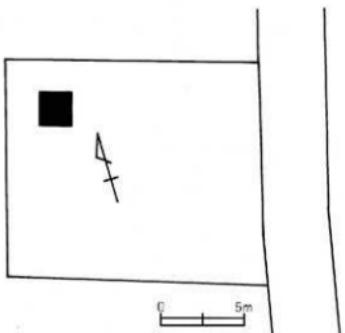


図1 試掘坑配置図

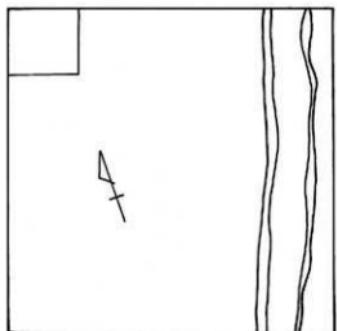


図3 平面図

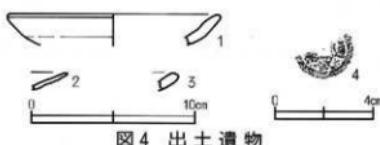


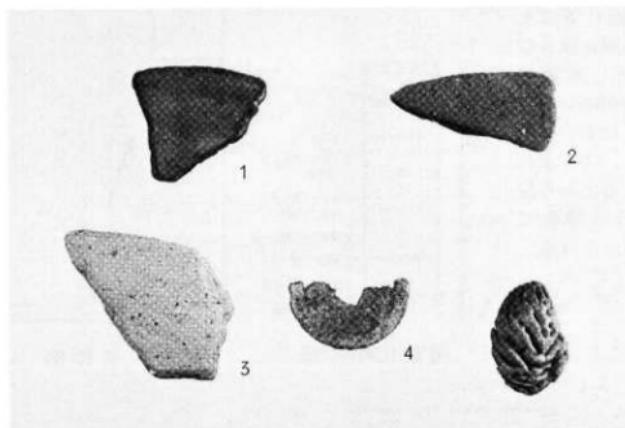
図4 出土遺物

ま と め

塩部遺跡は遺跡南部に古墳時代の集落が確認され、それ以北に平安時代から中世段階の遺跡が徐々に確認されつつある。本地点は最北端に位置するが、長らく湿地帯のような状況であり、土地利用の頻度は低かったと考えられる。溝跡の年代は不明であったものの、水田層直下からかわらけが出上したことは、中世塩部の範囲を考える上で貴重な資料となつた。



全 景



出 土 遺 物

15-27 地蔵北遺跡

調査位置 甲府市東光寺三丁目1690他
調査原因 宅地造成
対象面積 2,141 m²
調査面積 199.65 m²
調査期間 平成15年5月13日～16日
調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、北原扇状地の標高267m地点、遺跡範囲の中央部に位置する。この北原扇状地上には、縄文時代から平安時代にかけての遺跡が存在し、特に調査区周辺は古墳時代の遺跡と古墳が集中してみられる。

調査区に3本のトレンチと3ヶ所のグリッドを設定し、重機を使用して表土の除去後、人力で地山層まで掘削を行った。

調査結果

調査区中央部のトレンチ2の南端西壁において、深さ1.6m掘削を行い6層の堆積層が確認された。第1層暗褐色土は厚さ40cmの耕作土である。第2層暗黄褐色土層は厚さ20cmあり、各トレンチのこの堆積層からは古墳時代の土器が確認されている。第3層以下の地山層は、各トレンチの地表下0.4～0.6m地点から確認されたが、遺構等の掘り込みは確認されなかった。



図3 出土遺物



T-3

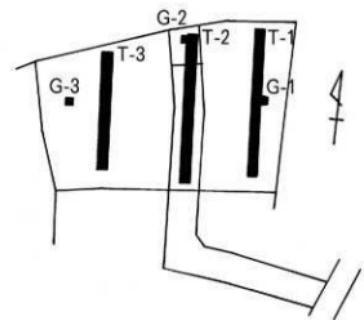
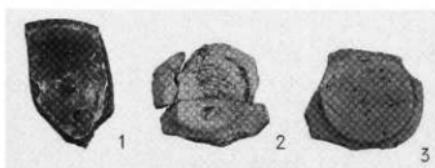


図1 試掘坑配置図



図2 土層柱状図



出土遺物

15-28 堀添遺跡

調査位置 甲府市宮原町1178他

調査原因 道路建設

対象面積 1,800 m²

調査面積 22.25 m²

調査期間 平成15年10月31日～11月10日

調査担当 伊藤正幸



調査位置

宮原町は甲府市の西部に位置し玉穂町(現中央市)と接する。旧大鎌田村と呼ばれていたこの地域は、荒川と鎌田川、笛吹川に三方を囲まれ、古くから水害の絶えない地域であったという。

本調査地は鎌田川左岸の氾濫原上に位置し、標高は253mを測る。全体が水田で、引水用の水路が調査地周辺を縦横に流れる。

調査の概要

道路計画部分に幅1m、長さ20mの試掘坑及び北端に1.5×1.5mの調査グリッドを設定、当初試掘坑及び調査グリッドを-80cmまで掘り下げ、最終的にはその試掘坑内の4カ所を-100～-150cmまで掘り下げて土層を観察した。

耕作土を除去すると全体的に暗黄褐色土砂混合層になるが、これが水田の床上にあたる。その下層は暗灰褐色土砂混合層になり、さらに明黒色土層へと続く。近世の遺物の包含層はこの2層で、小破片が出土し、調査地南(TP1及び2)では、近世の遺物包含層が-130cmまで及ぶ。TP3及びTP4では遺物の出土は散漫であった。また北端部の調査グリッドからは、埋蔵文化財は確認されなかった。

遺構はいずれの調査グリッドからも確認されず、各調査グリッドの柱状図を作成するとともに全体を図面及び写真に記録して埋め戻し調査を終了した。

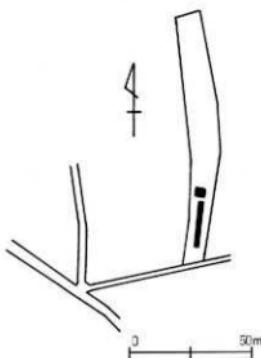


図1 試掘坑配置図



調査状況

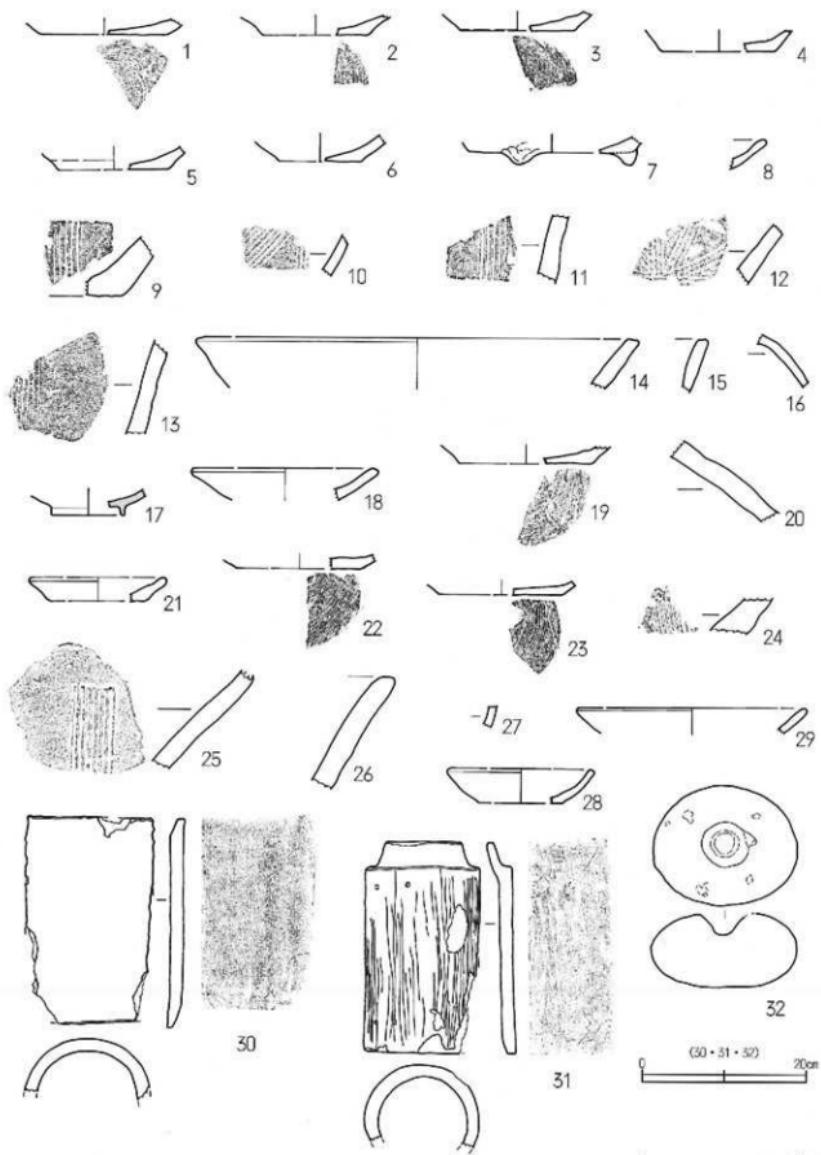


図2 出土遺物

15-29 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目 1731-3

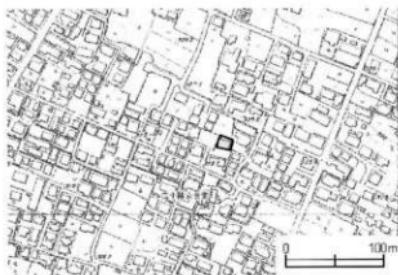
調査原因 個人住宅建設

対象面積 151.5 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成15年4月4日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開削の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は館の南端、梅翁曲輪より約200m南下した標高約323mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を設定し、重機及び人力にて埋蔵文化財の有無確認を行った。旧水田耕作土・床土及び水田造成にともなう盛土層が地表下35cmまで堆積していた。粘性の強い灰黄色土(厚30cm)を挟み、それ以下が地山(黄褐色土)となる。調査により遺構・遺物とも確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。

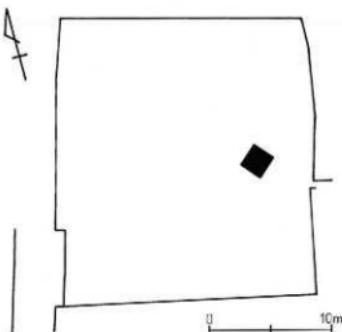
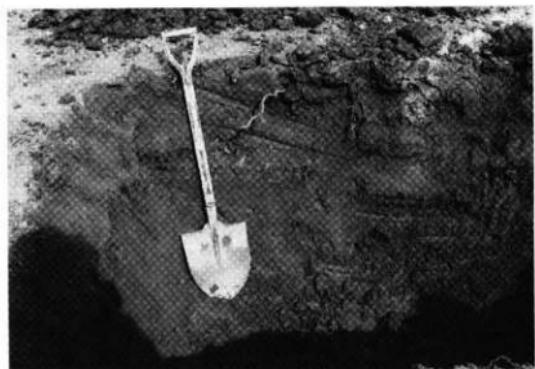


図1 試掘坑配置図



調査状況

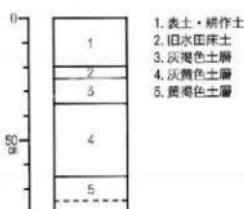
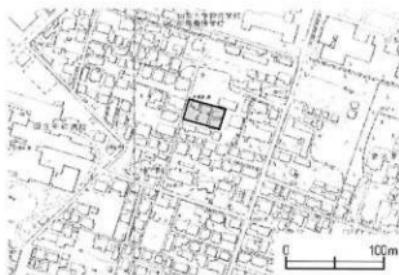


図2 土層柱状図

15-30 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町337他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 880.91 m²
調査面積 99 m²
調査期間 平成15年4月7日～10日
調査担当 志村憲一



調査区歴史

調査区は、相川扇状地扇央部標高297m、遺跡範囲の西端に位置する。調査区周辺は武田家家臣大熊備前守の屋敷跡の伝承地であり、北側には大熊氏の屋敷跡と云われている天神社が位置する。周辺の調査では16世紀段階の遺構・遺物が検出されている。

調査概要

調査区東西方向36m、幅2mのトレンチを設定し、一部分南側へ拡張し重機で地表下0.2～0.3mの表土と旧水田耕作土部分を掘削し、さらに人力で遺構・遺物の確認作業を行った。遺構は南北方向の溝4条、暗渠1条、ピット2基であり、いずれも黄褐色粘質土の地山層に掘り込まれた状態で確認された。

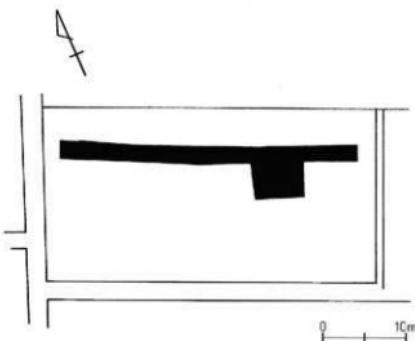


図1 試掘坑配置図

検出遺構

1号溝

幅約2m、深さ約0.3mを測る。上面は拳大の礫が多く確認された。出土遺物1・2は中世と考えられる遺物で、3は青磁碗の体部である。いずれも16世紀代の遺物である。

2号溝

幅0.5m、深さ0.1mを測る。覆土は植物遺体を多く含む黒色粘質土である。

3号溝

幅約1.8m、深さ約0.4～0.6mを測る。上面は拳大の礫が多く確認され、須恵器、土師器など平安期の遺物が出土したが、溝底部からは中世の土製鉢が検出されたことから、15～



図2 出土遺物

16世紀代の溝と考えられる。

出土遺物4は9世紀から10世紀にかけての甲斐型土器壺である。かわらけ6は、底部穿孔がみられる。5・7は中世の遺物である。8の片口鉢は、底部にススの付着がみられる。

4号溝

幅0.35m、深さ約0.1mを測り、覆土は砂礫質である。遺物は確認されてはいないが、中世の3号溝に切られることから、中世以前の造構と考えられる。

暗渠

幅約0.4m、深さ約0.3mを測る。拵大の疊と昭和時代の陶磁器・瓦が充填されていた。

ピット

検出されたピット2基の時期・性格については不明である。時期不明の土器点数点が出土した。

調査結果

調査区からは9世紀から近代にかけての遺物が検出された。2号溝と暗渠は近代の造構である。1・3号溝は16世紀段階の造構であるため、調査区周辺に居住空間が存在していたことが明らかとなった。4号溝は中世以前の造構と考えられる。



完掘状況（西から）

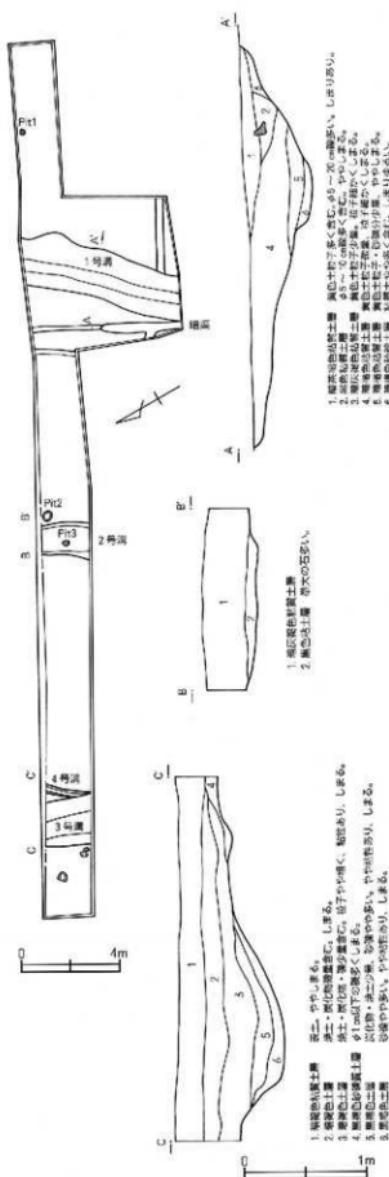
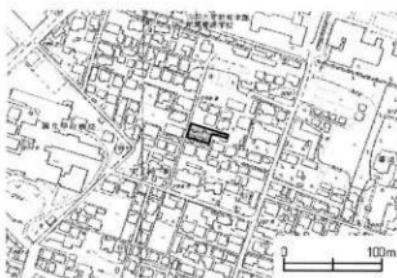


図3 平面・土層堆積図

15-31 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町236他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 499.4 m²
調査面積 56 m²
調査期間 平成15年4月18日～23日
調査担当 志村憲一



調査区歴史

調査区は、相川扇状地扇端部標高297m、遺跡範囲の西端に位置する。調査区周辺は武田家臣、大熊備前守の屋敷跡の伝承地であり、北側には大熊氏の屋敷神と云われている天神社が位置する。調査区北側の337・338番地の調査では、16世紀段階の溝等の遺構と平安時代・中世の遺物が検出されている。

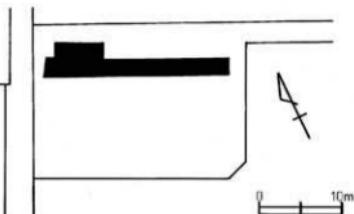


図1 試掘坑配置図

調査概要

調査区東西方向22m、幅2mのトレンチを設定し、一部分北側へ東西6m、幅2m拡張した。重機で表土部分20～30cmを掘削し人力で遺構・遺物の確認作業を行った。掘削は東側で地表下0.4m、西側で1.2mと西側へ傾斜がみられる。

基本土層は4層に分層され、地表下0.4m地点から下層に位置する第3層の暗褐色土層は中世の遺物包含層である。第4層の地山層には、掘り込まれた7条の溝と石列が1条確認されている。

検出遺構

1号溝

南北方向の溝であり、幅約1.8m、深さ約0.25mを測る。上面は拳大の礫が多く確認された。

2号溝

南北方向の溝であり、幅1～0.5m、深さ0.2mを測る。北壁の観察から、1・2号溝は同一の溝であり、遺構内から白磁が1点検出された。

3号溝

南北方向の溝であり、幅約1.9m、深さ約0.3mを測る。覆土は黒色粘質土であり古墳時代の土器師が1点出土した。

4号溝

南北方向の溝であり、幅0.6m、深さ約0.1mを測る。覆土は3・5号溝と同質の黒色粘質土である。

5号溝

南北方向の溝であり、幅0.8m、深さ約0.3～0.4mを測る。覆土は4・5号溝と同質の黒色粘質土である。

6号溝

南北方向の溝であり、幅1.4m、深さ約0.4mを測る。覆土は暗褐色の砂礫と粘土の混合層である。

7号溝

東西方向の溝であり、3～5号溝を切る。幅は不明であるが深さ約0.1mを測る。覆土からは中世の遺物が検出されている。

石列

南北方向の自然石の石列である。長さ0.7m、高さ0.12mを測り、東側に面をもつ。周辺からは青磁・かわらけなど中世の遺物が出土した。

調査結果

調査区から確認された溝7条、石列1条の内、3～5号溝の3条に関しては出土遺物から古墳時代まで遡る遺構であることが考えられる。2・7号溝、石列の3遺構に関しては16世紀代と考えられる。また1・6号溝の2条は、遺物は確認されてはいないが、中世段階の溝と平行もしくは直行し、覆土に類似性が観られることから16世紀段階の遺構の可能性が考えられる。



調査状況



1～5号溝

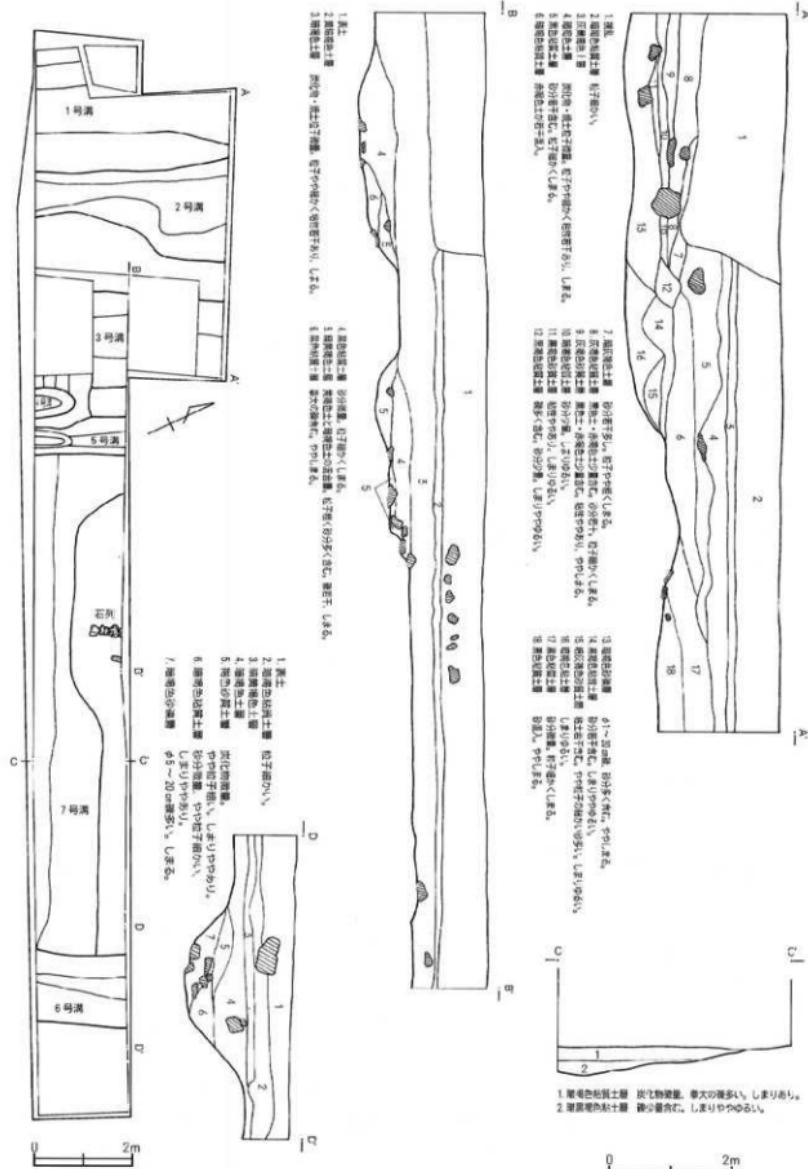
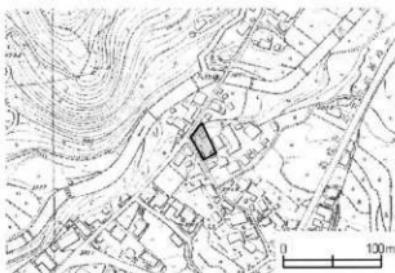


図2 平面図・土層堆積図

15-32 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市下積翠寺町845
調査原因 個人住宅建設
対象面積 325.55 m²
調査面積 6 m²
調査期間 平成15年4月22日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、相川扇状地の開析部に立地し、調査区の敷地西側から相川に向って急峻な段丘を形成している。また、東側にかけては南向きの緩斜面が連続するが、段造成によって宅地や耕地が営まれており、調査区はその一角に位置する。

調査は当初2m四方のグリッドを1箇所設定して掘削したが、北側は旧住宅の基礎などで搅乱されていたことから、南側に1m拡張して調査した。地表下約0.2mまでは解体などに伴う搅乱層で覆われており、その下層から近世から近代の遺物とともに硬化した生活面が検出された。明確な遺構は確認されなかったものの、南側で焼土と炭化物の集中する箇所が検出され、江戸期の焙烙鍋が1個体出土した。このような状況から判断し、焼土は閉炉裏か竈など煮炊きの場であった可能性が高いと考えられた。

近世・近代の硬化面を掘り下げたところ、約0.1mで黄褐色の地山が検出された。遺構は確認されず、中世の城下町に関わる遺構・遺物は検出されなかった。

ま と め

住宅基礎がベタ基礎であり、全体的に浅い掘削深度であったことと、検出された遺構・遺物は、近世・近代であったことから、試掘調査で終了とした。残念ながら、中世城下町に関連する物的証拠は得られなかつたが、少なくとも近世段階には居住空間としての敷地利用が開始されたことが明らかになったことは成果であった。

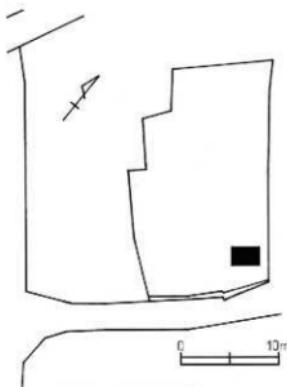


図1 試掘坑配置図



図2 出土遺物



出土遺物



グリッド全景

15-33 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町21他

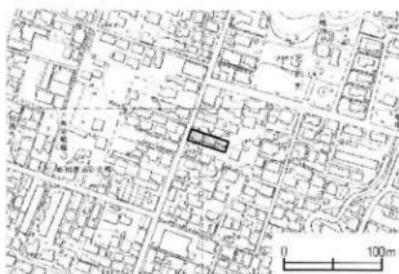
調査原因 個人住宅建設

対象面積 881.93 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成15年5月22日

調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇端部標高293m、遺跡範囲南東側に位置する。調査区西側には中世以来の通りである鍛冶小路が通り、周辺の調査地点からは中世段階の遺物・遺構が検出された地点もみられる。

調査結果

建物位置東側に、東西4m、南北2mのトレンチを設定し人力により掘削を行った。

地表下0.2mまでは、旧建物基礎により搅乱を受けていた。第2層暗褐色粘土層は、厚さ20cmあり、時期不明の土器が出土した。地表下0.4m地点に位置する第3層の黄褐色土層は、拳大の礫を多く含む地山層である。この地山層に掘り込まれた遺構等は確認されなかった。

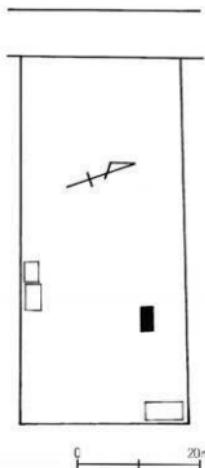


図1 試掘坑配置図



トレンチ完掘状況

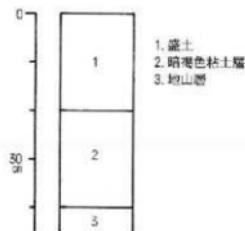


図2 土層柱状図

15-34 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目 2447-1他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 421.83 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成15年5月22日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点は、武田氏館跡梅翁曲輪南側に位置する。梅翁曲輪松木堀から調査区までは東西道路を挟んで地形が大きく下がっているため、遺跡は削平されている可能性もあると考えられた。調査区は、基礎に当たらない場所に2m四方のグリッドを設定し、掘削を行った。

地表下約0.4mまでは、搅乱や整地層による新しい盛土層が形成されており、除去後すぐに地山が検出された。グリッド西側では帯状に黒褐色上が確認され、掘り下げるところ溝跡となつた。最下層に薄い砂層の堆積があることから水の流れがあったと考えられるが、當時流れていたものではなく、雨水が流れる程度であったと考えられる。

溝跡からは、戦国期の土器擂鉢のほか瀬戸美濃天目茶碗が出土したことから城下町関連の遺構であることが判明した。部分的な確認であったが、溝跡は屋敷地の何らかの区画を示すと考えられる。計画された住宅基礎深度では、溝跡を破壊することはないことが確認されたため、調査はこの時点で終了とした。

まとめ

溝跡の位置からみると現在の土地境界に近い位置から検出されていることから、現在の土地の区画は戦国期の地割りを比較的踏襲している可能性もあるのではないかと考えられる。

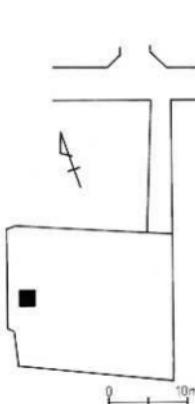
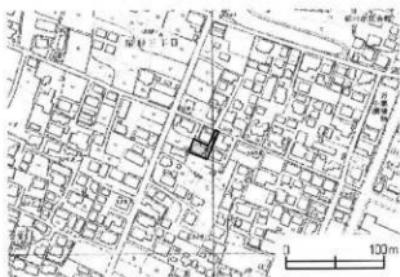


図1 試掘坑配置図

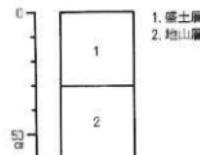


図2 土層柱状図

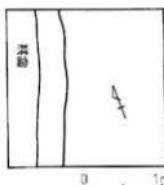


図3 平面図

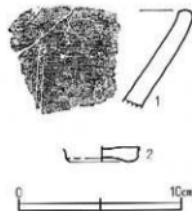
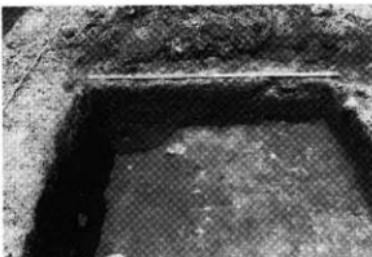


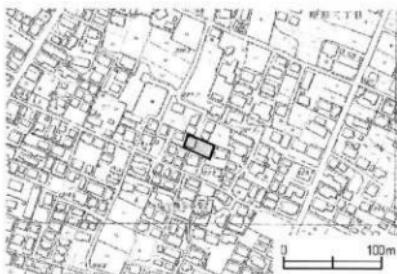
図4 出土遺物



調査状況

15-35 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1730-3他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 429.97 m²
調査面積 20 m²
調査期間 平成15年5月23日～26日
調査担当 志村憲一



調査区歴史

調査区は、相川扇状地標高323m地点に位置し、「甲府略志」の絵図によると武田家臣「原加賀守」の屋敷跡の伝承地である。

調査概要

調査区にA～Fの6ヶ所のトレンチを設定し、人力で地山層まで掘削を行った。調査区西側のトレンチBから溝1条と上坑1基が地表下0.7m地点に位置する地山層に掘り込まれた状態で確認された。

溝は南北方向に通り、幅約0.2m、深さ0.1～0.15mを測る。溝内からは上製の鉢が出土した。また遺構上面の暗褐色粘質土層は、かわらけ等を含む16世紀代の遺物包含層である。

他のトレンチからは遺構は確認されてはいないが、トレンチAの地表下0.5mの地山層上面から、時期不明の土器が1点と黒曜石の剥片が1点出土した。

調査結果

調査区から検出された遺物の点数は少なかったが、6以外はいずれも16世紀代の遺物である。トレンチBで確認された溝は、出土遺物などから16世紀代の遺構と考えられ、現在の区画割りとほぼ同軸線である。

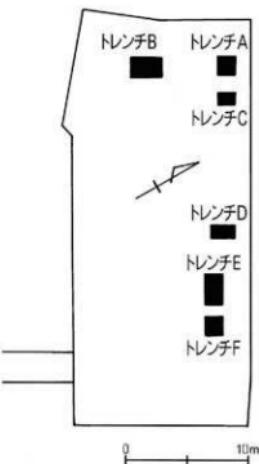


図1 試掘坑配置図

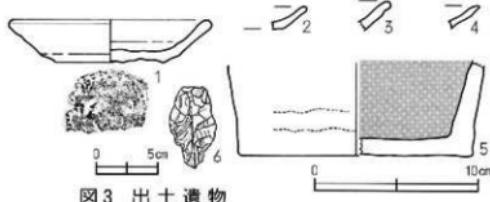


図3 出土遺物



図2 土層柱状図

15-36 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町372

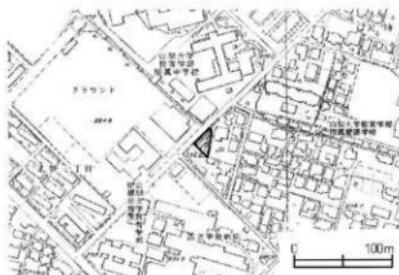
調査原因 個人住宅建設

対象面積 310.58 m²

調査面積 9.75 m²

調査期間 平成15年6月9日～10日

調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇尖部標高297m、遺跡範囲南西辺に位置する。調査区東側には武田家臣、大熊備前守の屋敷跡の伝承地であり、天神町の名前の由来である、大熊氏の屋敷跡である天神社が存在する。

調査区結果

建物位置2ヶ所にグリッドを設定し、重機及び人力で掘削を行った。両グリッドとも地表下0.25～0.3mまでは旧建物基礎により搅乱を受けている。その下層は厚さ10～15cmの暗褐色土層である。地表下0.4～0.5m地点で地山層となる。いずれの堆積層からも遺構・遺物は確認されなかった。

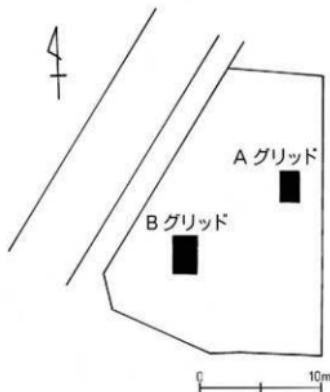


図1 試掘坑配置図

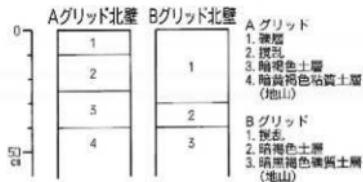


図2 土層柱状図

15-37 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町 205-3
調査原因 個人住宅建設
対象面積 339.14 m²
調査面積 5.1 m²
調査期間 平成15年6月10日
調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇央部標高302m、遺跡範囲東側に位置する。調査区東方には、中世以来の通りである鍛冶小路が通る。中世段階の様相は不明であるが、近世17世紀前期の柳沢吉保・吉里が甲府藩主であった17世紀前半は、調査区周辺に家臣屋敷が置かれていたことが、古絵図等から窺える。

調査区結果

建物位置2ヶ所にグリッドを設定し、重機及び人力で掘削を行った。両グリッドとも地表下0.6~0.8mまでは、宅地造成工事による盛土と搅乱層である。その下層は厚さ25~30cmの粘土層であり、近世から近代までの水田跡である。地山層は地表下約1m地点に位置する暗黄褐色粘質土層である。中世・近世の遺構・遺物は確認されなかった。

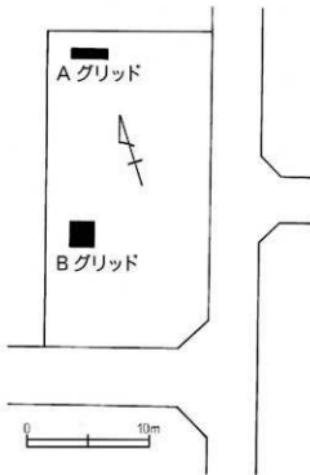


図1 試掘坑配置図



Bグリッド

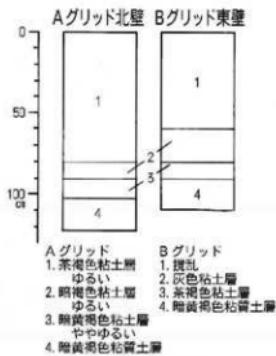


図2 土層柱状図

15-38 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手二丁目 4073-1

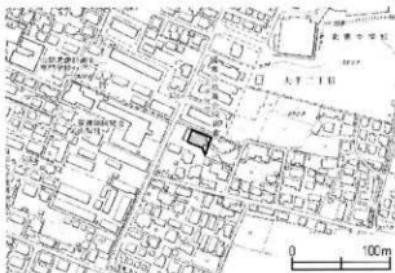
調査原因 施設建設

対象面積 336.25 m²

調査面積 44 m²

調査期間 平成15年6月23日

調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇央部標高320m、遺跡範囲中央部に位置する。西側には中世以来の通りである鍛冶小路があり、西側の隣接地は平成13年11月から12月にかけて試掘調査が行われ、鞴羽口など鍛冶に関連する遺跡が確認されている。

調査結果

調査区にT字状の南北14m、東西8m、幅2mのトレンチを設定し、重機及び人力で深さ約2m掘削を行った。しかし地山層まで搅乱を受け、遺構・遺物ともに確認されなかった。

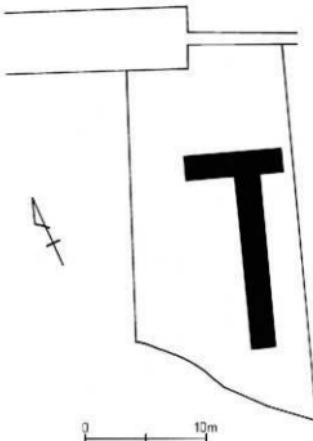


図1 試掘坑配置図



調査状況

15-39 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目466
調査原因 個人住宅建設
対象面積 327.59 m²
調査面積 10 m²
調査期間 平成15年6月27日
調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇央部標高299m、遺跡範囲南端に位置する。東側には中世以来の通りである銀治小路が通る。

調査結果

調査区に南北5m、幅2mのトレンチを1本設定し、重機及び人力で深さ約0.4m地点の地山層まで掘削を行った。第1層は厚さ25cmの焼土層である。焼けた瓦・焼土を多く伴い、昭和20年7月6日から翌日にかけての甲府空襲に伴う火災層である。第2層は厚さ7cmの暗褐色粘質土である。第3層の厚さ8cmの暗褐色粘質土は水田跡と考えられる。トレンチ中央部の地表下0.4m地点の地山層には、円形プランを呈するピットが1基確認された。ピットは二段に窪み、上段は直径36cm、深さ20cm、下段は直径15cm、深さ15cmを測る。覆土の暗褐色粘質土からは遺物等は確認されなかった。ピットの時期・性格については不明である。

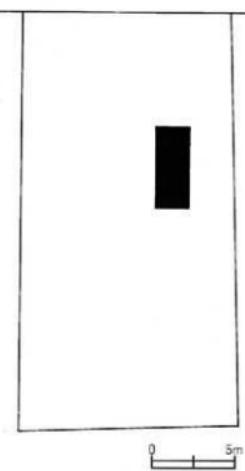


図1 試掘坑配置図



完掘状況

15-40 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目 2497-7他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 403.92 m²
調査面積 6 m²
調査期間 平成15年8月8日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。調査地点は、遺跡範囲の中央に位置するとともに館の南端、梅翁曲輪より約50m南下した標高約330mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を二箇所設定し、開発に先立ち埋蔵文化財の有無確認を行った。いずれの試掘坑も地表下40cmまで表土、整地層及び旧耕作土が堆積していた。それ以下は暗茶褐色土（厚20cm）を挟み、地山層となる。遺構・遺物とも確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。



図1 試掘坑配置図



試掘坑2

15-41 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手三丁目 3655-3

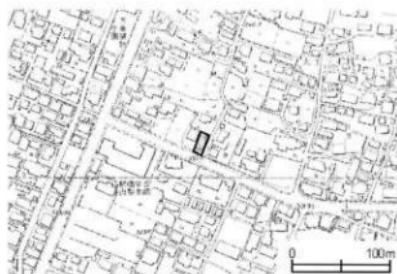
調査原因 個人住宅建設

対象面積 99 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成 15 年 11 月 13 日～14 日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に南北 2.3 km、東西 1.0 km、現在の JR 甲府駅付近まで及ぶものと推量される。調査地点は、遺跡範囲の中央に位置するとともに館の中心より約 350 m 南下した標高約 333 m を測る住宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を二箇所設定し、人力で埋蔵文化財の有無確認を行った。試掘坑 1 は地表下 20 cm に一面コンクリートが敷設しており、それ以上の調査をあきらめた。試掘坑 2 は、地表下 40 cm まで表土、解体に伴う整地層及び旧耕作土が堆積し、それ以下は暗茶褐色土（厚 20 cm）を挟み、地山層となる。遺構・遺物とも確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。

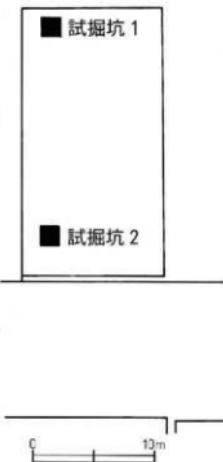


図 1 試掘坑配置図



試掘坑 2（南から）

15-42 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町 1059-1他

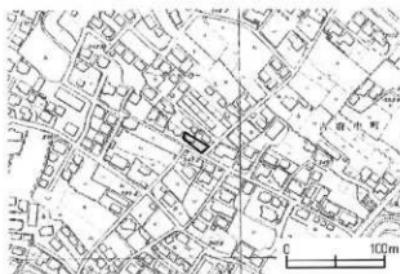
調査原因 個人住宅建設

対象面積 147.99 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成 15 年 11 月 17 日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、相川扇状地の標高 350m 付近、史跡武田氏館跡の西方 200m に位置する。周囲との比高差は、北側に +1m、南側に -0.7m を測る南向きの傾斜地である。

調査の結果

地表から約 0.3m 下層で自然堆積層が検出された。しかし 2m 四方の調査グリッドのうちほぼ西半分が搅乱を受けしており、遺跡の保存状態はあまり良いものではなかった。

自然堆積層を精査した結果、中世の所産とみられる土器片を 2 点確認できた。出土した土器は壺の口縁部と壺の底部であり、それぞれ別個体と思われる。

まとめ

人工的な整地層や遺構は確認できないことから、城下町がこの地点まで展開していたかどうかは不明である。また、遺物包含層と工事計画による掘削の深さとは緩衝となる地層が得られることから、これ以上の調査は必要ないものと判断した。

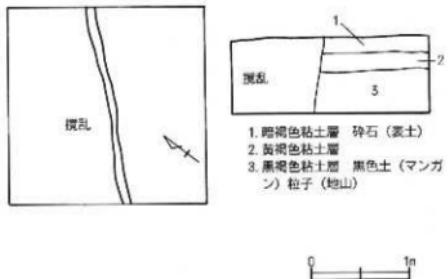


図 2 平面・土層堆積図

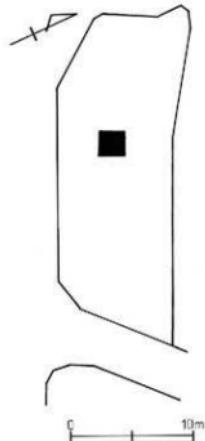


図 1 試掘坑配置図

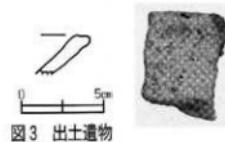


図 3 出土遺物



調査状況

15-43 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市下積翠寺町775-1他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 265.89 m²
調査面積 6.5 m²
調査期間 平成15月12月16日
調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇頂部標高約400m、遺跡範囲の北端部に位置する。調査区周辺には武田氏館への取水口である「御所堰」の字名が残る。

調査結果

調査区にグリッドを2ヶ所設定し、重機及び人力で地表下0.7～1m地点まで掘削を行なった。しかし暗褐色礫質土の地山層上面まで擾乱層であり、遺構・遺物は検出されなかった。

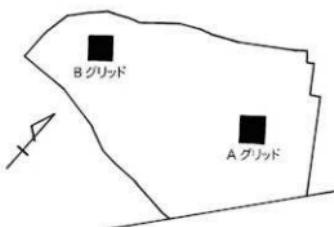


図1 試掘坑配置図



Aグリッド 東壁



図2 土層柱状図

15-44 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目 1738-1

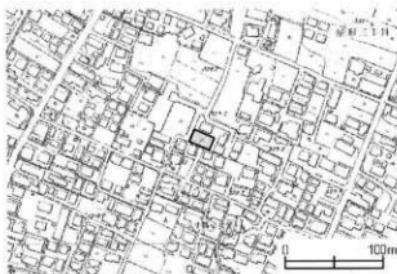
調査原因 集合住宅建設

対象面積 153.92 m²

調査面積 27.75 m²

調査期間 平成15年12月18日

調査担当 伊藤正彦

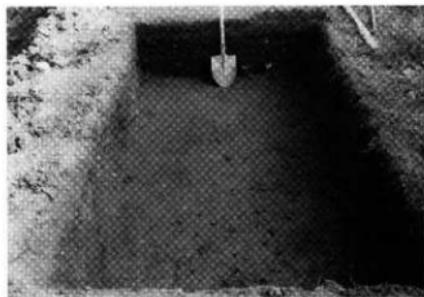


遺跡の概要

本遺跡は、市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は館の南端、梅翁曲輪より約200m南下した標高約325mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を設定し、重機及び人力にて埋蔵文化財の有無確認を行った。東側に設定した試掘坑1は、表土・耕作土の直下、地表下20cmで礫混じりの地山層となる。扇状地地形に沿うように南側ではこの地山層が、茶褐色土を挟み地表下70cmから確認できる。試掘坑2・3とともに層序に変化無く、試掘坑2の表上層より遺物が出土した以外、検出遺物は確認されなかった。調査により遺構も確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。



試掘坑2（西から）

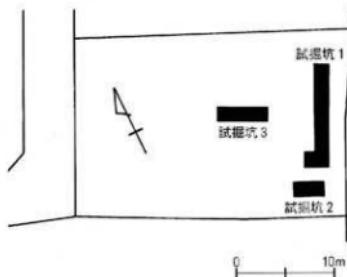


図1 試掘坑配置図

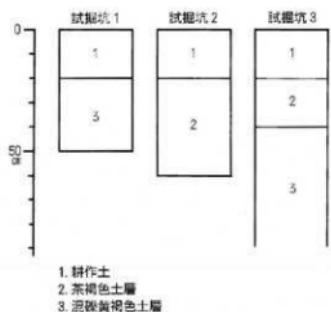


図2 土層柱状図

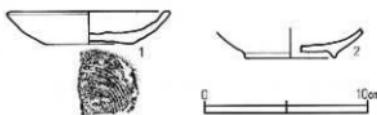
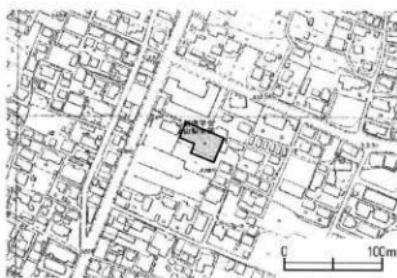


図3 出土遺物

15-45 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手1丁目4441-2の一部
調査原因 集合住宅建設
対象面積 927.65 m²
調査面積 26 m²
調査期間 平成15月12月16日
調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇中央部標高約330m、遺跡範囲の中央部に位置する。『甲府略史』所収の「古府之図」によると、当調査区一帯は曾根下野守の屋敷地の伝承地である。

調査結果

調査区にグリッドを4ヶ所設定し、人力で地山層まで0.5～1.3m掘削を行った。各グリッドからは4層の堆積層が確認された。4ヶ所のグリッドからは、遺構は確認されなかったが、東側Dグリッドの地表下約0.6mの第4層内からは16世紀段階のかわらけ小片が確認された。



Cグリッド（西から東）

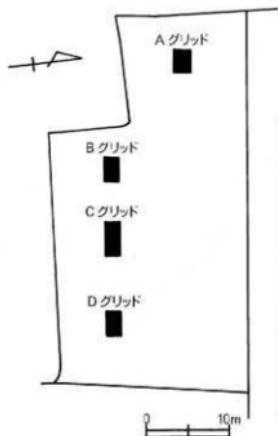
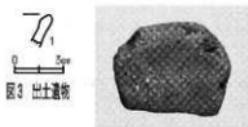


図1 試掘坑配置図



図2 土層柱状図



出土遺物

15-46 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手一丁目 4379-3

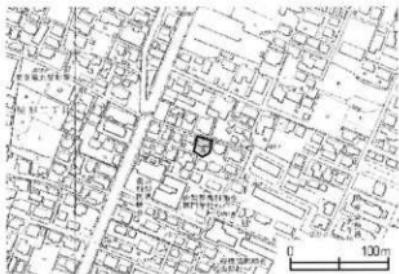
調査原因 個人住宅建設

対象面積 55.29 m²

調査面積 3 m²

調査期間 平成 16 年 1 月 27 日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、相川扇状地の標高 320m 付近で、武田通りから東方約 30m の地点である。基幹街路からはかなり奥まることから武家屋敷が展開したとは考えづらい地域である。

調査の結果

地表から約 20cm 下層まで解体物を含む表土であった。それより下層は、地表下 20 ~ 30cm 下層では褐色土層（水田耕作土壤）。地表下 30 ~ 50cm では暗褐色礫混土層（自然堆積層）であることが確認できた。土器等は全く出土せず、遺物包含層・遺構確認面なども確認できなかった。

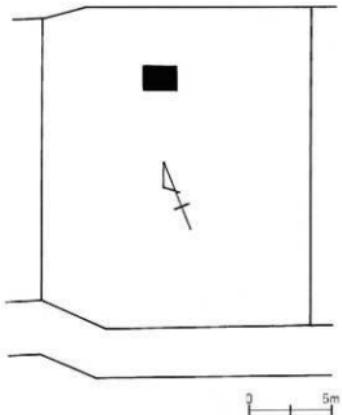


図 1 試掘坑配置図



調査状況

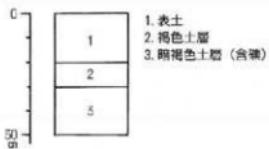


図 2 土層柱状図

15-47 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町118

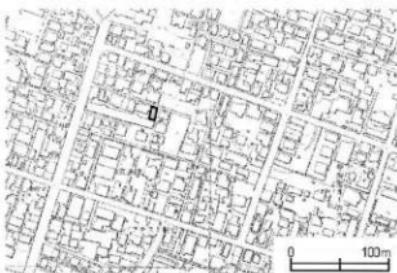
調査原因 集合住宅建設

対象面積 60.83 m²

調査面積 10 m²

調査期間 平成16年1月23日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。武田氏居館を中心に南北五条の基幹街路が配され、城下は南北2.3km、東西1.0kmの範囲に及ぶ。調査地点は遺跡範囲の西南端に位置し、標高約295mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を設定し、開発に先立ち埋蔵文化財の有無確認を行った。地表下20cmまで表土・整地層が堆積し、それ以下は暗茶褐色土（厚20cm）を挟み、地山層となる。遺構・遺物とも確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。

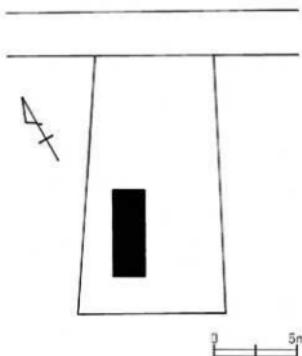


図1 試掘坑配置図



調査状況

15-48 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目 2467-5
調査原因 個人住宅建設
対象面積 145.74 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成16年2月24日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、史跡武田氏館跡の南方約80mに位置し、武田通りとして整備される以前から存在した広小路に面する。『西山梨郡志』所収の「古府之図」によると、板垣氏の屋敷があったとされる。

調査の結果

地表から約30cmまでが表土であった。第2層として地表下30~45cmの深さに暗褐色粘土層、第3層として褐色粘土層（自然堆積土層）が確認できた。その第3層を掘り込んだ柱穴跡が1基確認できた。

工事計画による掘削の深さと遺構確認面との間に緩衝層が確保できることからこれ以上の調査は不要と判断した。

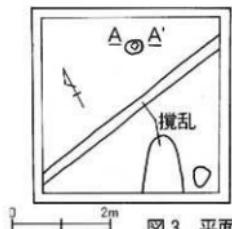
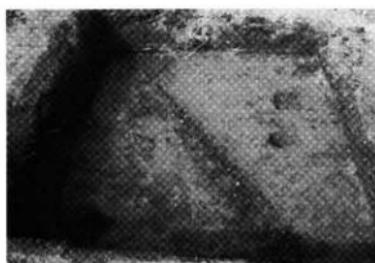
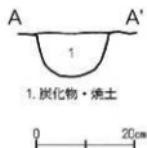


図3 平面・土層堆積図



完掘状況

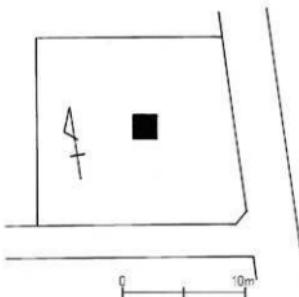


図1 試掘坑配置図



図2 土層柱状図

15-49 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目400

調査原因 個人住宅建設

対象面積 82.86 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成16年3月19日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、相川扇状地の標高296m付近、統治の拠点が武田氏館から甲府城へ遷るのに伴って遷座した府中八幡神社の西方約170m地点に位置する。

調査の結果

地表下約40cmで自然堆積層が確認できた。その自然堆積層を掘り込んだ溝状遺構が確認できた。溝内からは出土遺物が検出されなかったものの、上層から中世のかわらけ片が出士していることから、中世の溝跡と考えられる。

溝の方向は、磁北から約30度東に振れた方向で南西方向に延伸する。その規模は幅約120cm、深さは確認面より約10cmである。

予定建築物は現況の地盤から100cmの地盤改良工事を計画していたが、十分な調査期間が確保できないため、残念ながらすべての記録保存ができなかった。

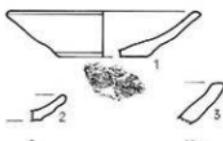


図3 出土遺物



溝状遺構

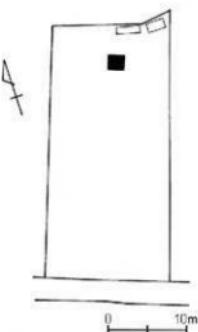


図1 試掘坑配置図

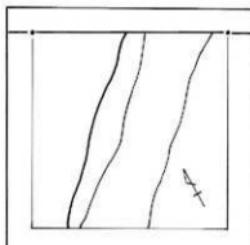


図2 平面・土層堆積図

15-50 天神北遺跡

調査位置 甲府市千塚五丁目3424-2

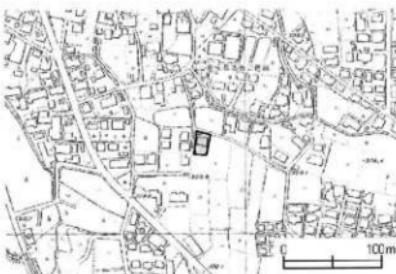
調査原因 個人住宅建設

対象面積 885.64 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成15年8月4日

調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

甲府市街地の北西部、荒川の氾濫原上に位置し、標高310mを測る。本調査地を含む千塚地区は、氾濫原上に尾根状に多くの遺跡が周知されていて、本調査地から南東約250mの位置に稜田遺跡が存在し、またかつて多くの古墳が存在したことから、古墳時代の集落跡の存在が想定されている。本調査地は天神北遺跡の範囲内でも北端に位置する。

調査の概要

既存建物の撤去の際に、事業者から重機の提供を受けて試掘調査を実施した。敷地内北東側(TP1)と南西侧(TP2)の2ヶ所に試掘坑(2×2m)を設定し-80cmまで掘り下げた。-30~35cmまでが客土及び旧水田耕作面にあたり、その下層の茶褐色砂層からが本来の堆積土層になる。両試掘坑とも-60cmで拳大の礫を含む茶褐色砂層となる。遺構・遺物は確認されなかつたため、写真及び柱状土層図を記録し、埋め戻して調査を終了した。

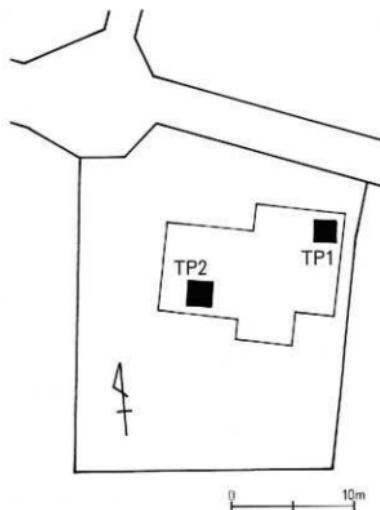


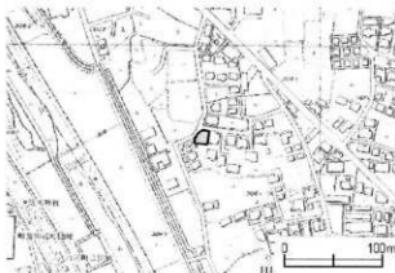
図1 試掘坑配置図



図2 土層柱状図

15-51 天神西遺跡

調査位置 甲府市千塚四丁目 3380-8
調査原因 個人住宅建設
対象面積 66.25 m²
調査面積 2 m²
調査期間 平成 15 年 7 月 7 日～8 日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、盆地北縁部、市街西部を南流する荒川左岸の自然堤防上に位置する。近年、開発が増加し、耕地が散在する景観を呈している。調査地点は、標高約 306 m を測る分譲地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を設定し、開発に先立ち埋蔵文化財の有無確認を行った。もと水田だったらしく、地表下 80 cm まで分譲に伴う盛土・整地層が堆積し、それ以下に旧水田耕作土と床土が確認できた。黒色土を挟み、明茶褐色土（地山）となる。黒色土を確認したが厚 5 cm 程と薄く、遺構・遺物とも確認できなかった。記録写真撮影後、調査を終了した。



図 1 試掘坑配置図



試掘坑 2 (南から)



図 2 土層柱状図

15-52 西耕地遺跡

調査位置 甲府市大里町 2483-4

調査原因 個人住宅建設

対象面積 355.14 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成15年7月20日

調査担当 信藤祐仁



遺跡の概要

本遺跡は、市域南西部を南流する鎌田川と荒川にはさまれた、標高255mを測る低平地である。遺跡の南には平安時代から室町時代の神像群を保管する宇波刀神社があり、隣接する興藏寺とともに甲斐源氏の祖新羅三郎義光の伝説を有している。また、周辺には、桜林A・B遺跡や西耕地A・B遺跡など平安時代から中世にかけての遺跡が集中して確認されている。

調査の概要

対象地に2×1mの試掘坑を二箇所設定し、埋蔵文化財の有無確認を行った。いずれの試掘坑も業者による重機の提供を受け地表下50cmまで掘削を行い、半分を地表下100cmまで人力で掘り下げた。表上はかつらの客土(厚10cm)、第2層灰褐色粘土層(厚20cm)もとの水田耕作土、第3層茶褐色砂質土(厚30cm)、第4層褐色砂質土(厚40cm以上)である。調査では遺構・遺物とも確認できなかったが、敷地内には土師質土器の小片や近世以降の陶磁器片等が散布しており、第3層が本来の遺物包含層と考えられる。地表下80cmの地点で湧水がみられたため、土層を観察し記録写真を撮影後、調査終了とした。



図1 表採遺物



表採遺物



試掘坑2

15-53 八幡東遺跡

調査位置 甲府市湯村三丁目 1681-4
調査原因 個人住宅建設
対象面積 53.83 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成15年11月26日
調査担当 平塚洋一

遺跡の概要

調査地点は、荒川扇状地の標高289m付近、千塚八幡神社の東南東約100mに位置する。周囲との比高差は西側が+50cm、北側が+20cmを測り、調査する以前から盛土が施されていることが予想された。

調査の結果

調査前には駐車場として利用されていたため、上はかなり締まっていた。

調査の結果、予想したとおり地表から25cmまでの地層は客土による造成が確認できた。地表から60～95cm下層に黒色の砂質土が堆積し、その上層中から土器が散漫であるが出土した。地表下100cmで自然堆積層が確認できた。自然堆積層を精査したが、造構は確認できなかった。

土器は現況の地表下25～100cmまで出土したが、散漫であった。そのなかで最も多く出土したのは黒色砂質土層からである。出土した土器は縄文時代・古墳時代・中世のものがある。



土層堆積図（北壁）

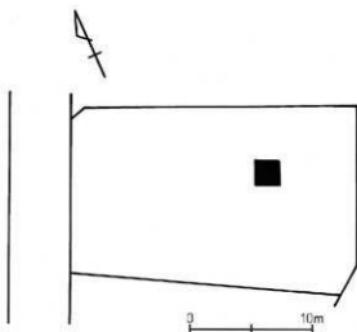


図1 試掘坑配置図

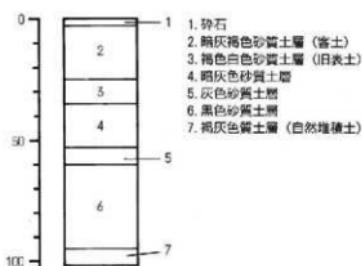


図2 土層柱状図

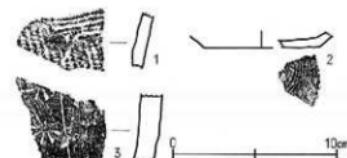


図3 出土遺物

15-54 平石遺跡

調査位置 甲府市荒川一丁目 283 他
調査原因 県道建設
対象面積 2,200 m²
調査面積 120 m²
調査期間 平成 15 年 11 月 18 日～ 28 日
調査担当 佐々木 満

調査の概要

本地点の調査は、都市計画道路「愛宕町下条線」道路改良工事に伴い実施した試掘調査であり、平成 14 年度に本調査が実施された平石遺跡の東側に位置する。そのため、直接包蔵地には該当しないものの、山梨県峡中地域振興局との協議の中で試掘調査を実施することとなった。

全体で 4 区画の用地があり、それぞれの区画にトレントを設定することとした。トレント 1 は、一番北西側に位置する区画に長さ 10m 、幅 2m で設定し、掘削を行ったが、旧水田層を除去するとすぐにトレント全体から洪水による堆積と考えられる砂礫層が検出された。そのため、部分的に 1.7m まで深掘りを実施し、下層の堆積土の観察を行ったが、砂礫層に変化は見られなかっただため、トレント 1 の調査は終了とした。

トレント 2 ～ 4 についても同様であり、水田層直下は砂礫層が厚く堆積する状況が確認されたが、トレント 2 においては、北東側の砂礫層中位から古墳時代の土器片が多数出土したことから、土器が集中的に出土した地点隣接地を 4m 四方の規模で新たに掘削し、トレント 5 とした。砂礫層から出土した土器片はいずれも磨耗した痕跡がなく、上流から運ばれてきたものではなく、あくまで付近に埋蔵されていたものと考えられる。

まとめ

すべてのトレントにおいて、洪水によってもたらされたと考えられる砂礫層が検出された。このような結果から本地点は荒川の氾濫によって流されたと結論付けられ、遺跡は存在しないと考えられた。しかしながら、トレント 2・5 で確認された土器の出土状況は、洪水以前に古墳時代の何らかの遺跡が本地点、あるいは隣接地に存在したことを示しており、今後も引き続き注意が必要な地域と考えられる。

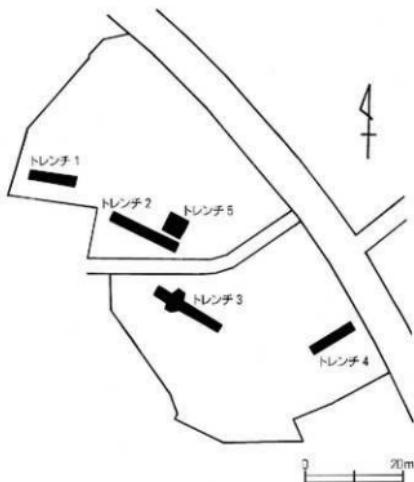


図 1 試掘坑配置図

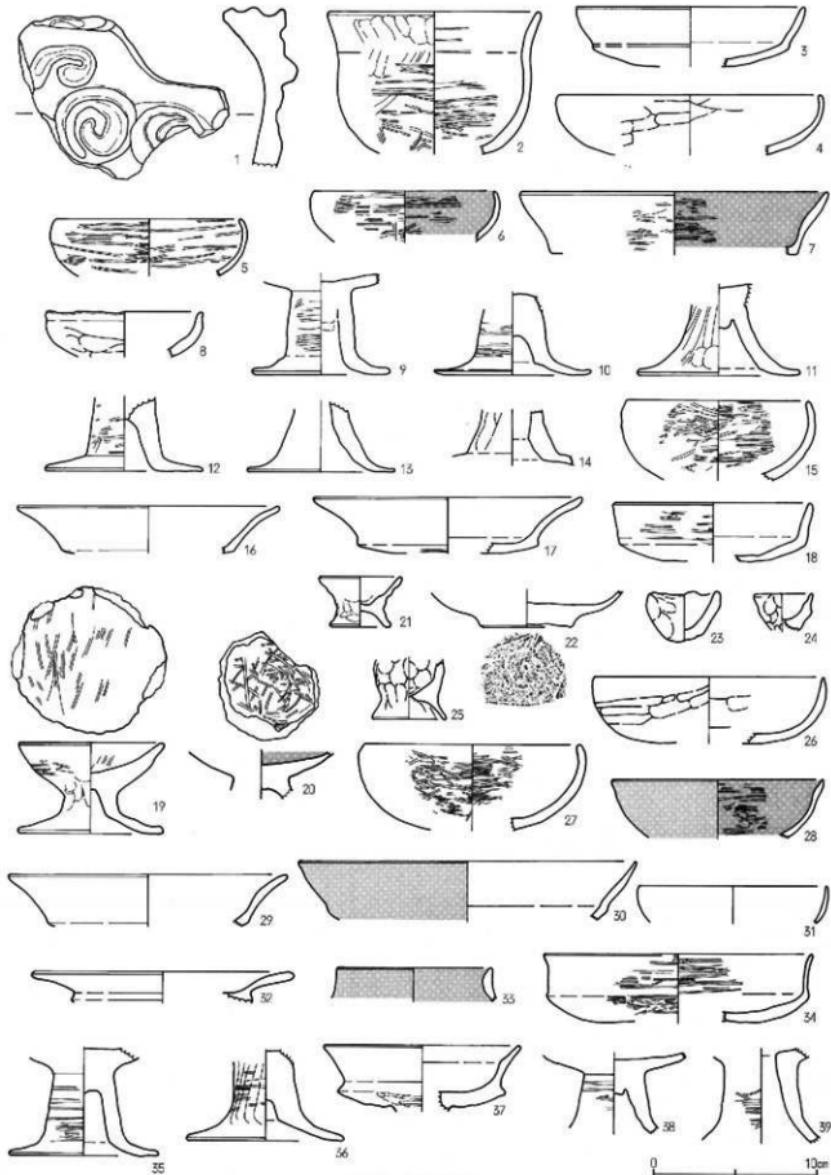


図2 出土遺物

15-55 前田遺跡

調査位置 甲府市池田二丁目 283-2
調査原因 集合住宅建設
対象面積 992.32 m²
調査面積 12.5 m²
調査期間 平成 15 年 11 月 26 日～27 日
調査担当 志村憲一

調査区概要

前田遺跡は、甲府盆地北部荒川右岸の標高約 280 m 地点に位置し、調査区は遺跡範囲の北東部にあたる。

調査結果

調査区にグリッドを 2ヶ所設定し、重機及び人力で地表下 2.5 m 地点まで掘削を行った。地表下 2.5 m 地点の砂層からは遺構は検出されなかったが、9世紀前半代の土師器と須恵器が検出された。土師器は内面を黒色処理した黒色土器であり 9世紀前半の遺物である。5 の須恵器の器種については不明である。いずれの出土遺物も磨耗が著しい。



図 3 出土遺物



A グリッド

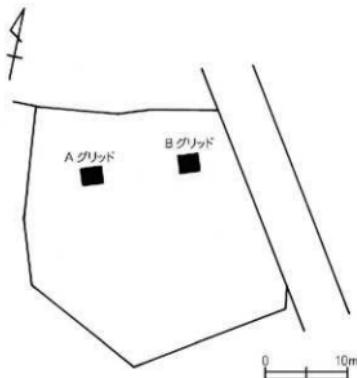
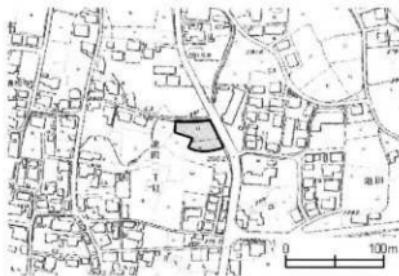


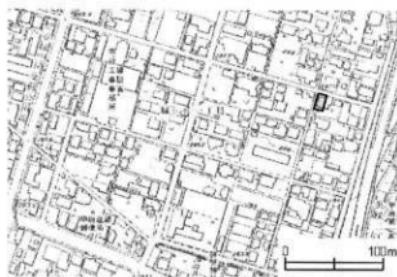
図 1 試掘坑配置図



図 2 土層柱状図

15-56 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘一丁目 20-2他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 99.15 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成 15 年 4 月 22 日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、相川の右岸標高 288m 付近に位置する。緑が丘一丁目遺跡としては過去の調査事例から、相川の西岸 5 ~ 20m 付近の標高 285 ~ 290m 付近を中心と展開することが把握されつつある。

近隣の発掘調査として、標高 290m 付近で集合住宅の建設に伴い本発掘調査が実施されている。そこでは古墳時代後期を中心とする竪穴住居跡をはじめとする集落跡が検出されている。

調査地点の現況の地形は、東側の相川に向かって緩く傾斜しており、隣接地との比高差が約 15cm あることから盛土が施されていることが予想できた。

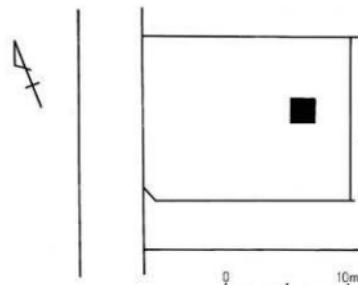


図 1 試掘坑配置図

調査の結果

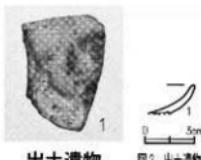
当初の想定どおり盛土が施されていたが、その厚さは約 60cm と想定以上に厚いものだった。盛土より下層は褐色から黒褐色の粘土層が堆積し、古墳時代の土器が数点出土している。しかし、遺構等の人工的な掘り込みは確認できなかった。



土層堆積図



図 2 土層柱状図



出土遺物



図 3 出土物

15-57 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目 87-3

調査原因 個人住宅建設

対象面積 244.77 m²

調査面積 4.7 m²

調査期間 平成15年7月2日

調査担当 伊藤正彦

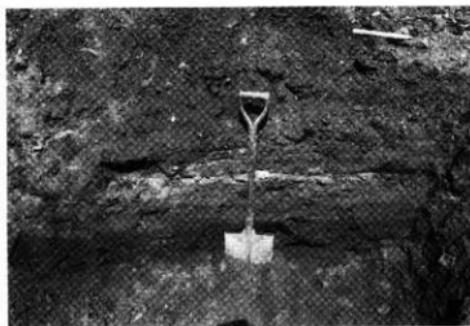


遺跡の概要

本遺跡は、甲府盆地の北縁部、相川が形成した扇状地の扇央部、相川右岸に位置する。遺跡北側背後には湯村山が迫り、東から南側前面に盆地が広がる。度重なる相川・荒川の流路変更により一帯は後背湿地・旧河道の他、自然堤防・扇状地等が埋没しており複雑な地形を形成していることが微地形分析から判明している。古墳時代の遺跡として周知され、調査地は標高約290mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を2ヶ所設定し、土層堆積状況、遺構・遺物の有無確認を行った。試掘坑1・2ともに土層堆積に変化なく、地表下25cmまでは表土・整地層、その下層に茶褐色土（厚20cm）、砂層（厚5cm）、灰色土（厚20cm）が確認され、それ以下に黒色土が堆積していた。遺構・遺物は確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。



試掘坑1

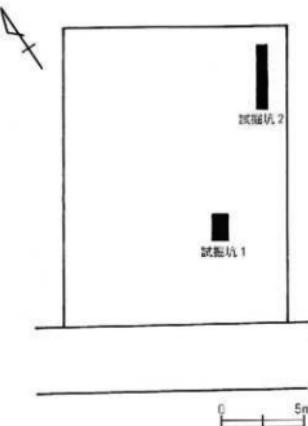


図1 試掘坑配置図

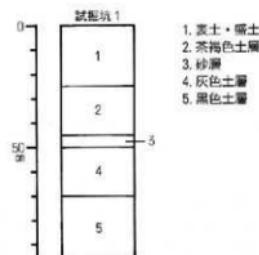
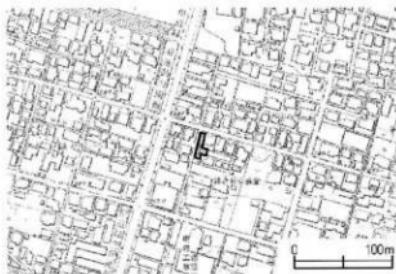


図2 土層柱状図

15-58 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘一丁目 147-4 の一部
調査原因 個人住宅建設
対象面積 65 m²
調査面積 3 m²
調査期間 平成 15 年 10 月 28 日～29 日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、甲府盆地の北縁部、相川が形成した扇状地の扇央部、相川右岸に位置する。遺跡北側背後に湯村山・堂ノ山が迫り、南側前面に盆地が広がる。一帯には後背湿地・旧河道の他、自然堤防・扇状地等が埋没しており複雑な地形を形成していることが判明している。

古墳時代の遺跡として周知され、調査地は標高約 287m を測る住宅地である。

調査の概要

対象地に試掘坑を設定し、土層堆積を確認しつつ人力にて掘削を行った。地表下約 50 cm まで碎石・整地層があり、それ以下に灰色土（厚 20 cm）・黒色土（厚 20 cm）・黄褐色土（地山）が堆積する。遺構・遺物は確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。



土層堆積図

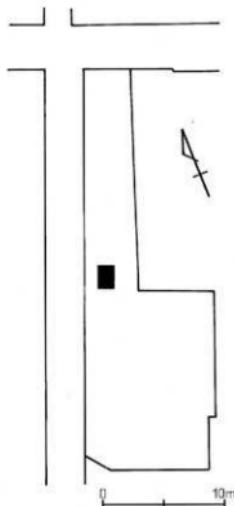


図 1 試掘坑配置図

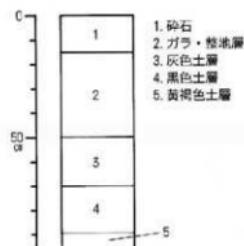


図 2 土層柱状図

15-59 緑が丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市和田町 707-3

調査原因 個人住宅建設

対象面積 199.21 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成 15 年 5 月 21 日～ 22 日

調査担当 志村憲一



調査区概要

当遺跡は、古墳から平安時代にかけての遺跡である。

調査区は標高約 298m、遺跡範囲の北東部に位置する。

周辺数地点の調査では、住居址・溝等の遺構が検出されている。

調査結果

調査区に 2m 四方のグリッドを 2ヶ所設定し、人力で地表下 1.1m 地点まで掘削を行った。両グリッドとも、地表下 1.1m 地点の黒褐色粘質土層から、古墳時代の土師器・須恵器等の遺物が多数出土した。また狭隘な範囲の調査ではあるが、集石が検出されたことから、古墳時代の遺構が存在する可能性がある。



図 1 試掘坑配置図

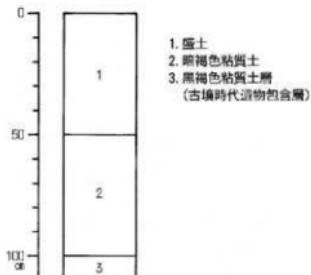


図 2 土層柱状図

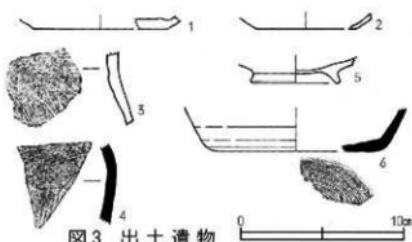
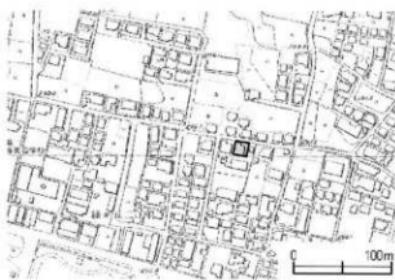


図 3 出土遺物

15-60 緑が丘二丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目 821-2 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 370.47 m²
調査面積 10.5 m²
調査期間 平成15年6月26日
調査担当 志村憲一



調査区概要

当遺跡は、古墳から平安時代にかけての遺跡である。調査区は標高約297m、遺跡範囲の北側に位置する。周辺数地点の調査では、住居址・溝等の遺構が検出されている。

調査結果

調査区にトレンチを2ヶ所設定し、人力で地表下1.35～1.55m地点まで掘削を行なった。両トレンチとも、地表下1.1m地点に位置する暗褐色土層から古墳時代の遺物が多数出土した。狭隘な範囲であるため遺構は未検出ではあるが、古墳時代の遺物が多数出土したことから、周辺に遺構が存在するものと考えられる。



Aトレンチ

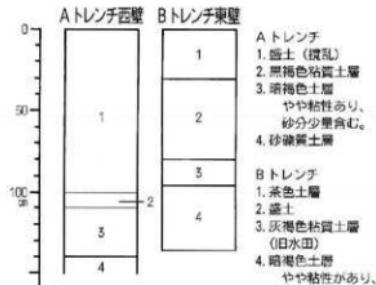


図1 試掘坑配置図



出土 遺物

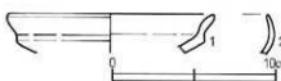
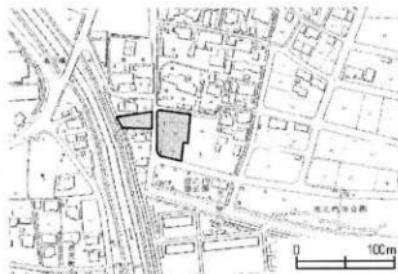


図3 出土 遺物

15-61 村前遺跡

調査位置 甲府市堀之内町 957-1 他
 調査原因 集合住宅建設
 対象面積 1759.81 m²
 調査面積 30 m²
 調査期間 平成 15 年 11 月 12 日～14 日
 調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

甲府市南部の堀之内町に位置する。本調査地の北側の大里町には『古市場』・『二日市場』の小字が残されており、富士川船運による物資の集積所として江戸時代以降発展した地域である。調査地は鎌田川の左岸に位置し標高 251m を測る畠地である。

調査の概要

調査は 2 × 2 m の試掘坑 6 カ所を設定し、人力により掘り下げる。全体的に細粒砂及び粗粒砂が多く混入する土層で、-90 cm 前後で湧水面に至る。安定した土の堆積が認められ、遺物も小破片が検出するにとどまっている。敷地北西に設定した TP5 は、本瓦が出土すると共に掘り込み状のプランが認められたため拡張して調査したが、遺構にはならず、自然堆積によるものと考えられる。各試掘坑の柱状土層図・写真及び調査地全体の近景写真を記録し、埋め戻して調査を終了した。

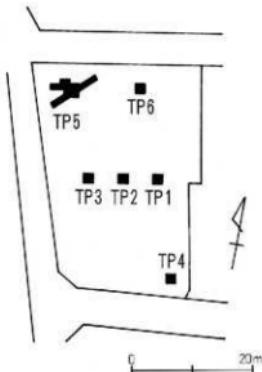


図 1 試掘坑配置図

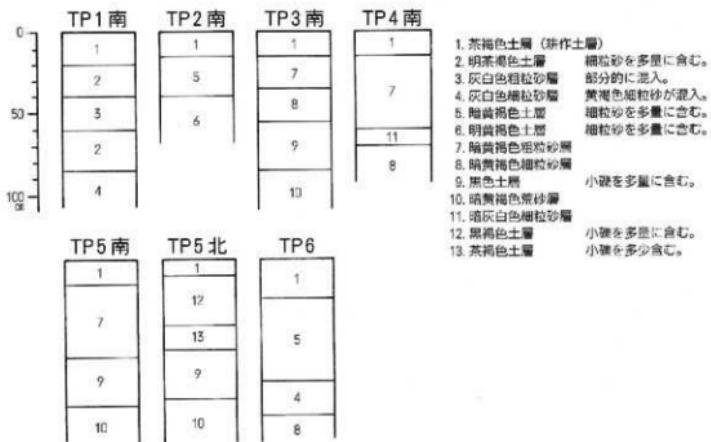
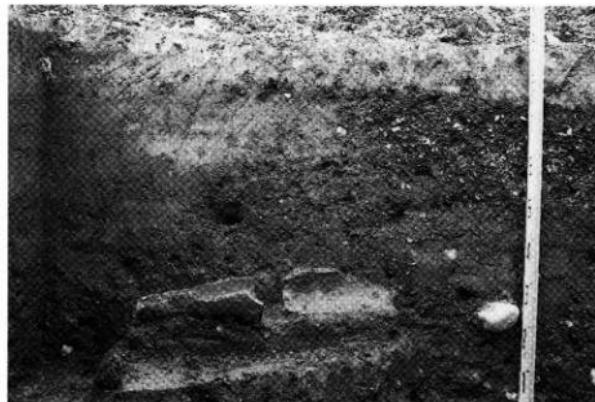
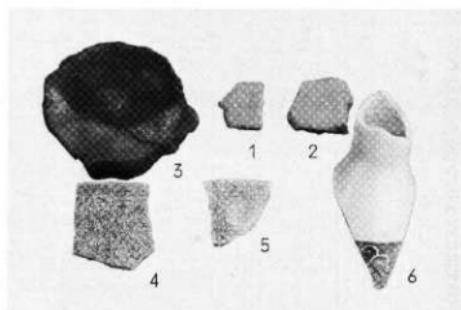
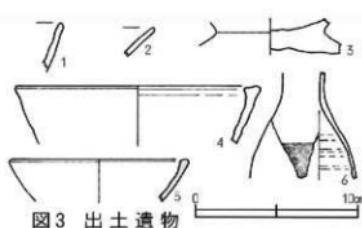


図 2 土層柱状図



調査状況

II. 平成16年度 試掘調査



図1 平成16年度試掘調査位置図(1)

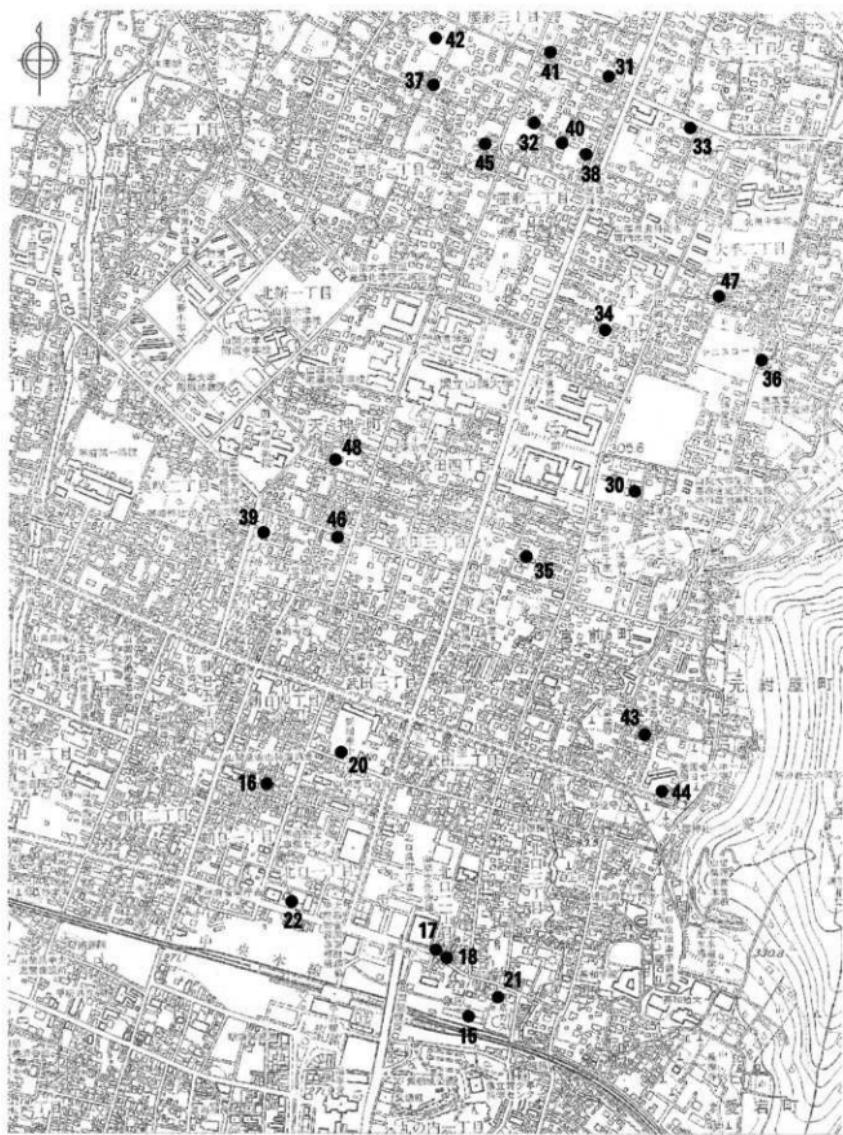


図2 平成16年度試掘調査位置図 (2)

0 500m

16-1 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目 214-17

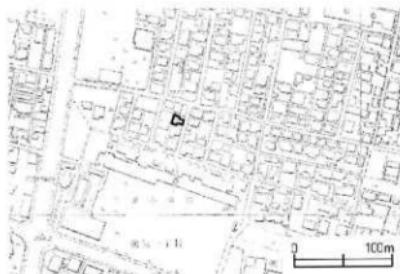
調査原因 個人住宅建設

対象面積 135.52 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成16年4月19日

調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

朝氣遺跡は、古くは東小学校遺跡とも呼ばれたよう。甲府市立東小学校の敷地を遺跡のほぼ中心として展開する古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡である。

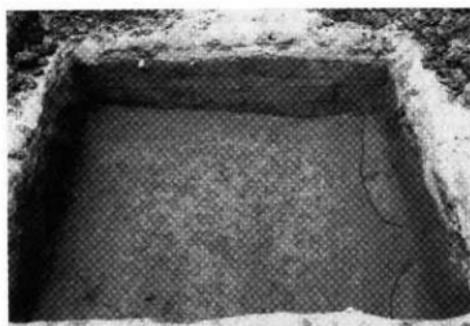
過去の調査事例から、東小学校の東西にかけて濃密に展開し、南側にもやや広がるもの、北側にはあまり分布しないことが分かりつつある。

今回の調査は東小学校の北側60m付近に位置する。

調査の結果

現況の地表から45cm掘削した地層から、古墳時代後期、平安時代、中世にそれぞれ属する土器片が少量出土した。

現地表面から55cm掘削したが人工的な掘り込みは確認できなかった。



土層堆積状況

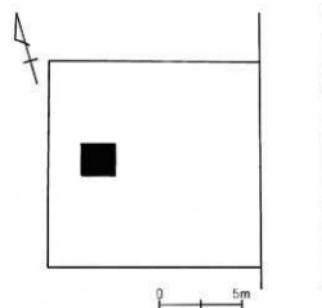


図1 試掘坑配置図

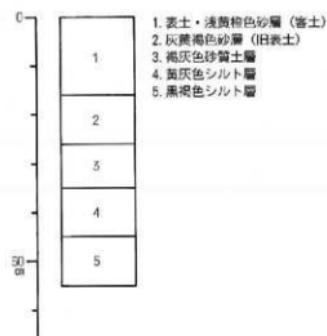


図2 土層柱状図

16-2 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目 27-15

調査原因 個人住宅建設

対象面積 70.7 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成16年6月30日

調査担当 志村恵一

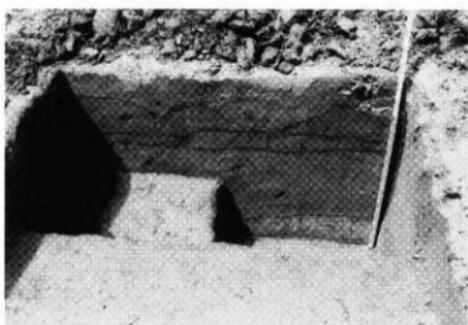


調査の概要

朝氣遺跡は、甲府盆地中央部に位置する古墳から平安時代の遺跡である。調査区は遺跡範囲の北西部に位置し、標高約258mである。

調査結果

調査区に2m四方のグリッドを1ヶ所設定し、地表下約1m地点まで人力で掘削を行った。4層の堆積層からは、遺構は確認されなかった。第2層の暗褐色粘質土層から土師器が出土したが、下層の第3層が近世から近代の水田跡であることから、検出された土師器は流れ込みによるものと考えられる。



土層堆積状況

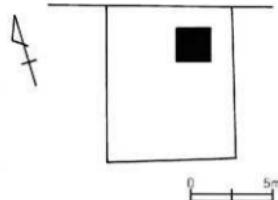


図1 試掘坑配置図

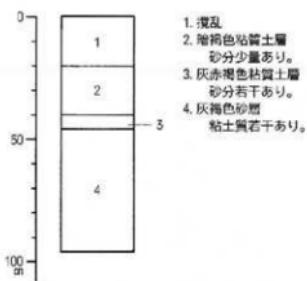


図2 土層柱状図

16-3 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目 165-3

調査原因 個人住宅建設

対象面積 201.74 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成 16 年 8 月 10 日～ 12 日

調査担当 志村憲一



調査の概要

朝氣遺跡は、甲府盆地中央部に位置する古墳から平安時代の遺跡である。調査区は遺跡範囲の北辺に位置し、標高約 258m である。

調査結果

調査区に 2m 四方のグリッドを 1ヶ所設定し、地表下約 1m 地点まで人力で掘削を行った。確認された堆積層は 2 層である。地表下 0.55m までは搅乱層である。第 2 層は灰褐色粘質土層である。遺構・遺物とともに検出されなかった。

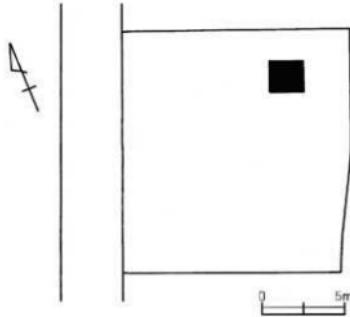


図 1 試掘坑配置図



土層堆積状況

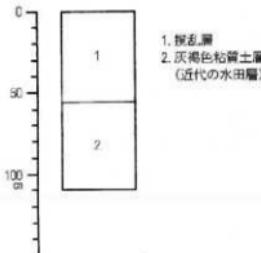


図 2 土層柱状図

16-4 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣三丁目192
調査原因 個人住宅建設
対象面積 168.59 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成16年8月26日～27日
調査担当 志村憲一



調査区概要

朝氣遺跡は、甲府盆地中央部に位置する古墳から平安時代の遺跡である。調査区は遺跡範囲の南東側に位置し、標高約257mである。現在周辺は住宅地である。

調査結果

調査区に2m四方のグリッドを1ヶ所設定し、地表下約2.5m地点まで人力で掘削を行った。確認された堆積層は6層である。地表下1.3m地点に位置する厚さ130cmの第5層灰褐色砂層内からは、10世紀前後の甲斐型土器が出土した。

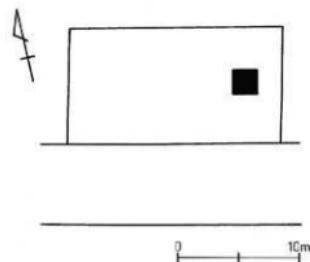


図1 試掘坑配置図



土層堆積状況（北壁）

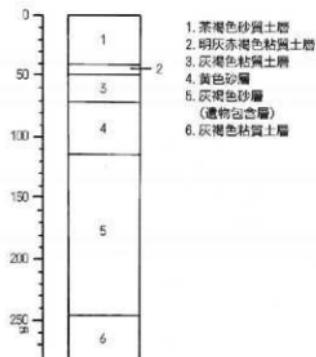


図2 土層柱状図

16-5 朝氣遺跡

調査位置 甲府市朝氣一丁目 165-5

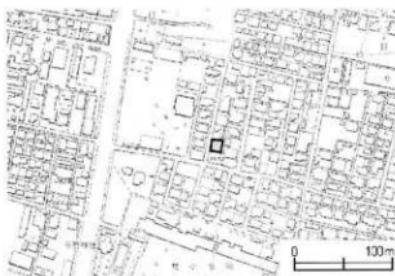
調査原因 個人住宅建設

対象面積 24.7 m²

調査面積 4.5 m²

調査期間 平成 16 年 10 月 27 日

調査担当 伊藤正幸



調査位置

甲府市立東小学校から北へ 100m ほど離れた住宅地の一角である。朝氣遺跡はこれまでにも幾度となく発掘調査が行われ、古墳時代から平安時代に至る遺跡として周知されてきた。今回の調査地は朝氣遺跡の範囲の中で北端部に近い場所にあり、標高 257m を測る。

調査の概要

住宅建築部分に 2ヶ所の試掘坑を設定し、重機により掘り下げた後、精査・記録した。

両試掘坑とも -80cm まで搅乱されていて、それ以下は砂質の黒色土になる。遺構・遺物は全く確認されなかった。

建物の基礎は現状地盤を 10cm 上げ、そこから -50cm まで入るが、搅乱部分までの掘り込みにとどまる。また間層として 40cm 以上確保されることが確認できたため、土層柱状図及び写真に記録し埋め戻して調査を終了した。

なお調査の実施に当たっては、事業者から重機の提供があった。

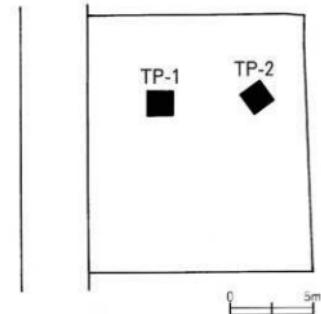


図 1 試掘坑配置図



図 2 土層柱状図



TP-1

16-6 油田遺跡

調査位置 甲府市蓬沢一丁目102-2

調査原因 個人住宅建設

対象面積 338.49 m²

調査面積 6 m²

調査期間 平成16年7月29日

調査担当 志村憲一



調査の概要

油田遺跡は、甲府盆地中央部濁川左岸標高255m地点に位置する平安時代の遺跡である。油田遺跡周辺には、古墳から平安時代にかけての遺跡が集中してみられる。

調査結果

調査区に南北3m、幅2mのトレンチを1ヶ所設定し、地表下約1.6m地点まで重機及び人力で掘削を行い、6層の堆積層が確認された。地表下1.4m地点の第5層の茶褐色粘質土層内から、10世紀前後の甲斐型土器少量と縄文式土器1点が出土した。遺構については確認されてはいない。

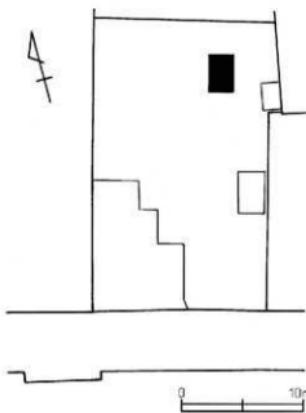


図1 試掘坑配置図

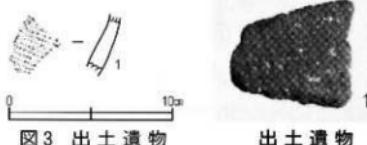
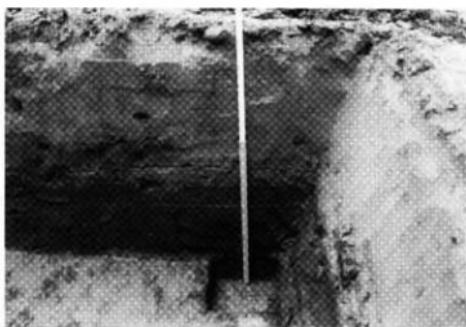


図3 出土遺物



土層堆積状況（西壁）

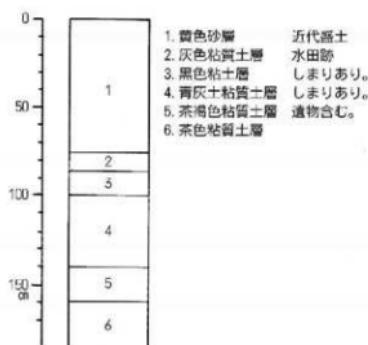


図2 土層柱状図

16-7 銀杏之木遺跡

調査位置 甲府市東光寺二丁目 292-1 他
調査原因 集合住宅建築
対象面積 278.09 m²
調査面積 75 m²
調査期間 平成16年9月29日～10月1日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、高倉川の西方約50m、標高261m付近に位置する。

調査は、建設が予定されている2棟のうち、大型建物の中央部に2×10mの調査区を設定し試掘調査を行った。

その結果、後述するように土器が集中する場所が確認できたため、柱状改良が行われる基礎部分に1m幅で櫛状にトレンチを設定し再度試掘調査を実施した。

調査の結果

調査区の全面から、地表下30cmの深さにおいて平安時代の土器が出土した。そのうち特に調査区東側に集中している状況が確認できた。

そのため、基礎が予定される場所に1m幅のトレンチを設定し再調査を行った。

南側に設定した最も長いトレンチの中央付近で長胴甕などの土器集中が確認できた。焼土と炭化物の集中する位置からおそらく北にカマドをもつ平安時代の竪穴住居跡だと思われる。

まとめ

遺跡が所在する里垣地区は、甲府の市街地の中でも、甲運地区・千塚地区と並んで遺跡が多く分布する地域である。今後の調査事例を分析することにより、里垣地区に所在する遺跡の特性が明らかになることが期待される。

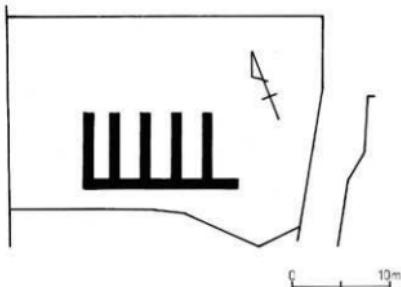


図1 トレンチ配置図

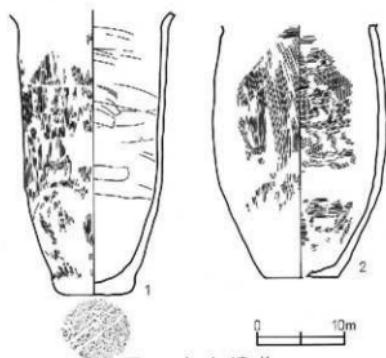


図2 出土遺物

1. 黒土 剥げ土
 2. 2.5YR 3/2 黒褐色粘土
 3. 2.5YR 3/2 黑褐色粘土
 4. 2.5YR 1/2 黑褐色粘土
 5. 2.5YR 1/2 黑褐色粘土

1. 黒土 剥げ土

2. 2.5YR 3/2 黑褐色粘土

3. 2.5YR 3/2 黑褐色粘土

4. 2.5YR 1/2 黑褐色粘土

5. 2.5YR 1/2 黑褐色粘土

- 植生: 植生なし
 植生: 2種類の植物がやや混じる。生垣らしいよくしきっている。
 植生: 2種類の植物がやや混じる。生垣らしいよくしきっている。
 植生: 2種類の植物がやや混じる。生垣らしいよくしきっている。
 植生: 2種類の植物がやや混じる。生垣らしいよくしきっている。

1. 黒土 剥げ土
 2. 2.5YR 3/2 黑褐色粘土
 3. 2.5YR 3/2 黑褐色粘土
 4. 2.5YR 1/2 黑褐色粘土
 5. 2.5YR 1/2 黑褐色粘土

1. 黒土 剥げ土

2. 2.5YR 3/2 黑褐色粘土

3. 2.5YR 3/2 黑褐色粘土

4. 2.5YR 1/2 黑褐色粘土

5. 2.5YR 1/2 黑褐色粘土

- 植生: 植生なし
 植生: 2種類の植物がやや混じる。生垣らしいよくしきっている。
 植生: 2種類の植物がやや混じる。生垣らしいよくしきっている。
 植生: 2種類の植物がやや混じる。生垣らしいよくしきっている。
 植生: 2種類の植物がやや混じる。生垣らしいよくしきっている。

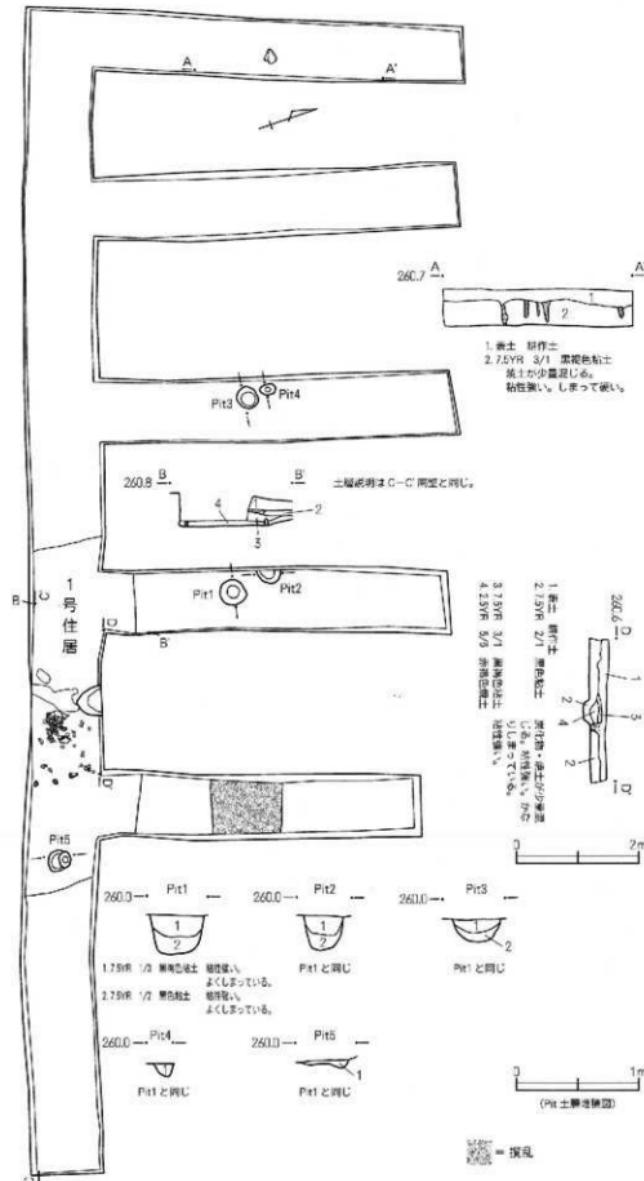


図3 平面・土層堆積・ピット土層堆積図

16-8 大北耕地遺跡

調査位置 甲府市大里町1392-3

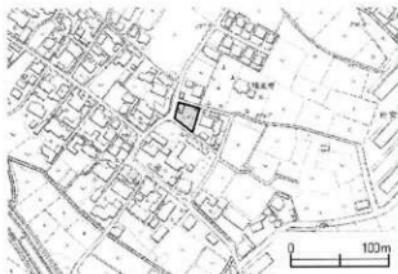
調査原因 集合住宅建設

対象面積 489.67 m²

調査面積 4 m²

調査期間 平成16年5月28日

調査担当 志村憲一



調査区歴史

甲府盆地中央部標高257m地点に位置し、中世に開基された福泉寺の南西隅に隣接する土地である。福泉寺は東西約60m、南北約50mの方形の敷地である。平成15年に実施された同寺北側の調査では、中世の内耳土器が検出されている。

調査概要

旧建物撤去後、2m四方のグリッドを1ヶ所設定し、地表下0.9m地点まで掘削を行った。しかし地山層近辺まで搅乱を受け、遺構・遺物ともに確認されなかった。



土層堆積状況（西壁）

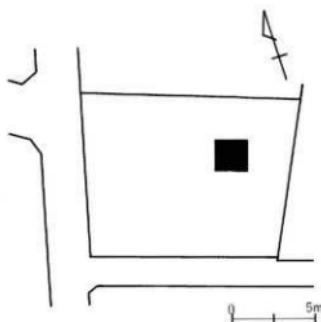


図1 試掘坑配置図

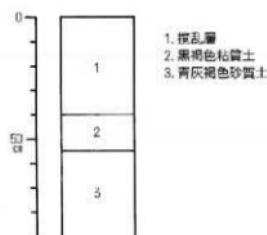


図2 土層柱状図

16-9 大坪遺跡

調査位置 甲府市横根町474-3

調査原因 個人住宅建設

対象面積 1,378 m²

調査面積 12.9 m²

調査期間 平成16年5月17日

調査担当 平塚洋一

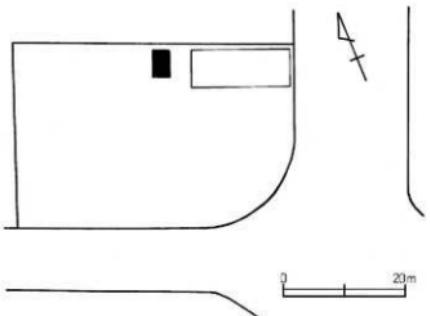


遺跡の概要

大坪遺跡は、古代の甲斐国を語る上で非常に重要な遺跡である。奈良時代から平安時代に土器を生産した遺跡で、その土器は甲斐国一円のみならず周辺地域まで分布している。

平成に入ってから二度大規模な本発掘調査を実施し、堅穴住居跡や未完成品と思われる土器が大量に出土している。

調査地点は十郎川が流路を南東から大きく西に変えた地点の右側である。



調査の結果

現地表から45cm掘削したところで、幅約20cmの溝跡が確認できた。その方向は現在の地割りと同方向であったことと、掘り込みの感じが手作業で行った感じでないことをから現代の擾乱と判断した。断面で確認した結果、垂直に深さ85cmまで掘削されていることを確認し、擾乱であることが確定できた。

その後地表から90cmまで掘削し、自然堆積層で精査したが、遺構・遺物ともに出土しなかった。



調査状況

図1 試掘坑配置図

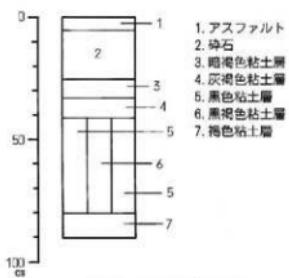
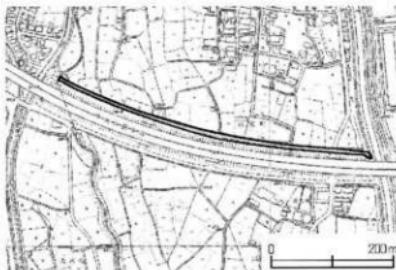


図2 土層柱状図

16-10 柿ノ久弥遺跡

調査位置 甲府市高室町 278-2 他
調査原因 ガスパイプライン建設
対象面積 540 m²
調査面積 40 m²
調査期間 平成16年6月8日～9日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市域中央、高室町に所在し、中央市との境、盆地低地部の鎌田川右岸に位置する。市域でも依然として農村景観を多く残す一帯であるが、近年の都市化により高速道路が横切り、近隣には工業団地や大学が立地するとともに新興住宅が日々増加している状況である。中世の遺跡包蔵地として周知され、高室町の集落内には中世豪華屋敷を引き継ぐ高室氏館跡なども存在する。調査地は高速道路の側道、標高約250mを測る。

調査の概要

対象地に1×10mの試掘坑を4ヶ所設定し重機にて掘削を行った。いずれの試掘坑も道路舗装(10cm)、碎石層(30cm)、砂層(10~20cm)以下に旧地盤が堆積する。地点により異なるが、ガスパイプラインは地表下1.5~2.1mに埋設されたため、埋設深度まで掘削を試みたが、湧水のため調査を断念した箇所もある。

旧地盤は黒・灰色土など粘性の強い土壤が厚40cm~95cm程堆積し、その下層が砂礫層となる。遺構・遺物は確認できず、記録写真撮影後、調査を終了した。



図2 土層柱状図

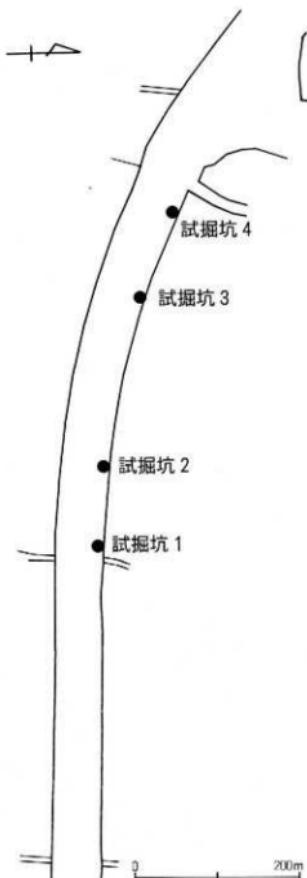
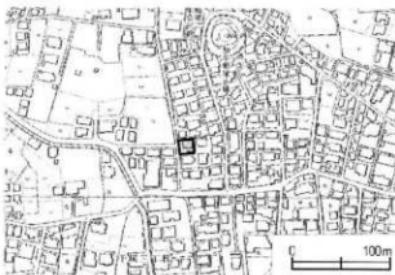


図1 試掘坑配置図

16-11 金塚西遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目 2271-3
調査原因 集合住宅建設
対象面積 63 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成16年12月7日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

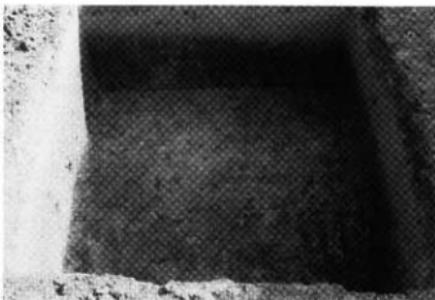
調査地点は、加牟那塚古墳の南南西約100m、金塚西遺跡の範囲の南東隅にあたる。

隣接する千塚公園を建設するのに先立ち、道路を挟んだ西側の場所の試掘調査を実施しているが、遺構はほとんど検出されなかった経緯があり、遺跡の分布としてはかなり薄い状況が予想される地域である。

調査の結果

現況の地盤から30cm掘削した地層から旧表土と思われる黄褐色の砂質土が堆積し、それより下層には黒褐色の砂質土が堆積することが確認できた。その黒褐色砂質土から古墳時代の上器片が数点出土した。これより下層では、現地表下75cmで礫混じりの鈍い黄橙色砂層が出土する。この地層は荒川の氾濫による自然堆積層と判断した。

自然堆積層で精査したが遺構は確認できないことから、出土遺物は周辺から流れ込んだものと判断した。



調査状況

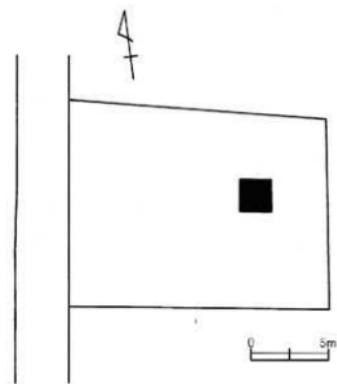


図1 試掘坑配置図

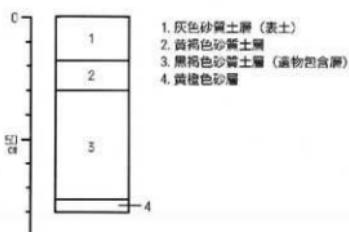


図2 土層柱状図

16-12 上町天神遺跡

調査位置 甲府市上町1407-1他

調査原因 集合住宅建設

対象面積 2,337.75 m²

調査面積 80 m²

調査期間 平成16年7月1日～2日

調査担当 志村憲一



調査区歴史

上町天神遺跡は、甲府盆地中央部標高255m地点に位置する、古墳時代と中世の散布地である。調査区は遺跡範囲の東側に位置する。

調査概要

調査区にトレンチを3本設定し重機及び人力で、地表下0.4～1m掘削を行った。遺構は確認されなかつたが、1・3号トレンチから古墳時代の土師器が検出されている。また1号トレンチの地表下約0.5m地点に位置する第3層内において、17世紀後半から18世紀中葉の遺物が出上した。

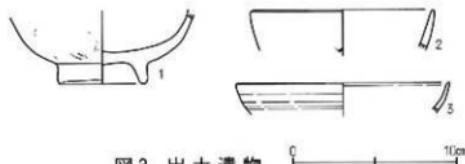


図3 出土遺物

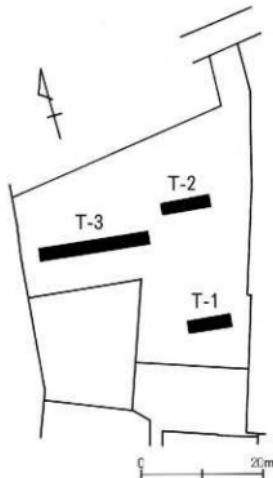


図1 試掘坑配置図



T-3 (東から)

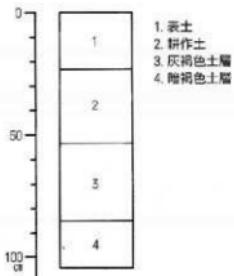
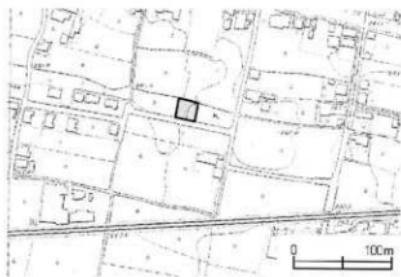


図2 土層柱状図

16-13 上土器遺跡

調査位置 甲府市川田町字起田 2-4
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 446 m²
 調査面積 8 m²
 調査期間 平成17年1月20日～21日
 調査担当 志村憲一



調査区概要

甲府盆地北辺部標高262m地点、遺跡範囲の南西部に位置する。上土器遺跡は奈良時代の国分寺瓦を焼成した遺跡であり、過去3次にわたり調査が行われ、弥生から平安時代までの遺構・遺物が確認されている。

調査概要

建物位置2ヶ所に2m四方のグリッドを設定し、地表下1.3m地点まで掘削を行なった。Aグリッドの地表下1m地点の第3層から布目の平瓦が検出されたが、湧水が多く遺構の確認には至らなかった。

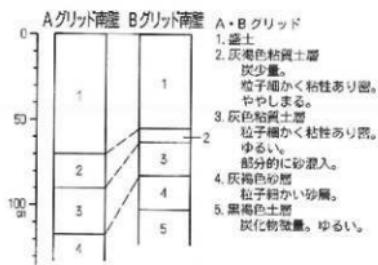
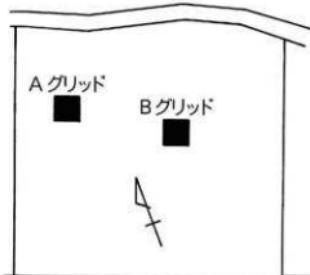


図2 土層柱状図

図1 試掘坑配置図



Bグリッド(南壁)

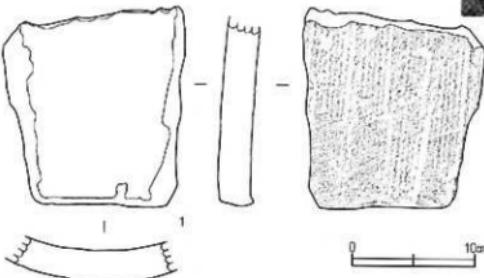


図3 出土遺物

16-14 神田遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目 2154-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 89.89 m²
調査面積 4.5 m²
調査期間 平成16年5月1日
調査担当 伊藤正幸

調査位置

荒川の氾濫原の微高地上に立地し、標高 295m に位置する。調査地の 150m ほど南西には称念寺があるが、この墓域は古墳であり、現在でも高まりを確認することができる。周辺は宅地が広がるが、調査地の北側には未だ耕作地（畠地）も残っている。

調査の概要

個人住宅建設工事に先立ち、事業者により重機の提供を受けて確認調査を実施した。これまでに南に隣接する個人住宅建築に際し確認調査をした時は、表土を除去すると砂層が堆積し、-50 cm 程で川原礫が堆積しており、北側道路に下水管を埋設する際にも、川原礫が重疊していた経緯がある。今回の工事は敷地全体を 15 ~ 30 cm ほど盛土を施し建設するものであるが、試掘坑を東西 2 カ所に設定し調査を行った。いずれの試掘坑も、表土を除去すると砂層になり、-50 cmまで下げても遺物は確認されなかった。

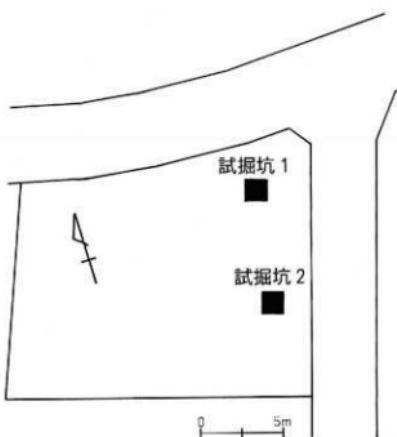
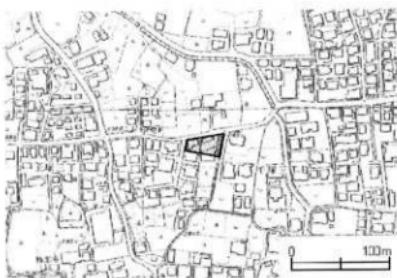


図1 試掘坑配置図



調査状況

16-15 甲府城跡

調査位置 甲府市丸の内一丁目 558-3
調査原因 区画整理事業
対象面積 1,200 m²
調査面積 145 m²
調査期間 平成16年8月4日～11日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、甲府城跡花畠曲輪に位置するが、かつては中央線の電車や関係車両の車検場が存在していたこともあり、現状で花畠曲輪の面影を知ることはできない。よって搅乱を受けている可能性が高いことが予測された。地形からも北側隣接地との間に大きな段差が生じており、中央線開通時に大規模な削平を受けていると考えられたことから、調査では花畠曲輪の堀跡とその範囲の確認に主眼を置いた。

調査区には重機により東西方向に幅3m前後のトレンチを掘削したが、当初の予想通り搅乱が深くまで及んでいた。地表下約1.1mまで搅乱層が続き、除去後すぐに地山面が検出されたことから、包含層も含め造構面はすべて削平されている可能性が高いと考えられた。東西方向のトレンチ1は、30mほど掘削した段階で造構は確認できなかった。

トレンチ1北側については、古い下水道などが埋設されており、一部には盛土も存在したことから掘削は容易ではないと判断し、北西側で南北方向に1箇所トレンチを掘削した。東西トレンチ同様搅乱が所々入っていたが、東西トレンチに比べ状態はよく、トレンチ北側では地表下約0.4mで地山が検出され、南側には砂礫層が確認された。砂礫層は北東から南東方向に入っており、砂礫と地山の間には灰黒褐色の粘質土層が確認された。砂礫層を掘削したところ予想以上に深く、約1.4mで底の地山が部分的に確認された。さらに下層部分については、最後に重機によって掘削したが地山は検出されず、2m以上下がると考えられる。

ま と め

古絵図等では花畠曲輪の堀の西側は甲府城清水曲輪の堀と接続していたが、東側は土塁で閉ざされており、急激な水の流れは想定できない。砂礫層が堆積していた落ち込みは、曲輪の区画とは異なる方向に流れしており、明らかに大規模な水の流れがあったことが窺えることから、花畠曲輪の堀であったとは考え難い。むしろ河川跡にみられる堆積状況を示していると言える。位置と堆積状況を考慮すると、最も想定しやすいのは東側を流れる藤川である。残念ながら、砂礫層から底面の掘削に至るまでに遺物は1点も出土しなかったため、時期的な判断はできないが、少なくとも流路の方向性から一条小山と呼ばれた甲府

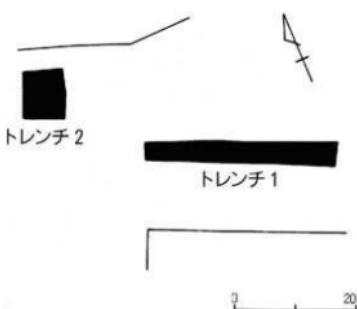


図1 試掘坑配置図

城築城以前の河道と考えられ、方向からは一条小山の西を流れていた流路である可能性が想定される。すでに丸の内一丁目237-1地点において確認された旧河道が甲府城の堀に影響を与えた可能性を指摘しているが（甲府市教育委員会2009）、本地点で確認された流路が甲府城西側の堀の開削に何らかの影響を与えた可能性もある。花畠曲輪の堀跡は確認できなかったが、調査区の北側や東側の境界に開削されている既存の水路が現時点でも最も花畠曲輪の堀跡である可能性が高いと考えられる。



調査前全景

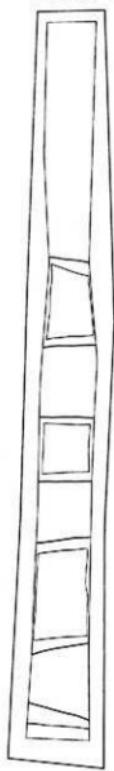


河川跡検出状況

トレンチ 2



トレンチ 1



B.

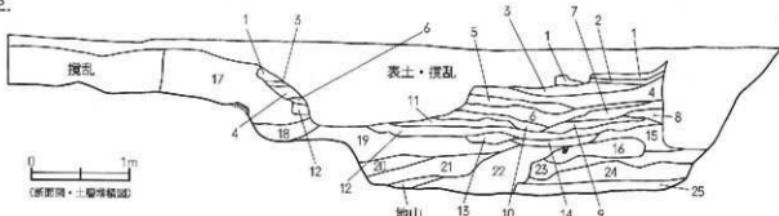


図 2 平面・断面・土層堆積図

16-16 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市朝日一丁目118

調査原因 個人住宅建設

対象面積 97.86 m²

調査面積 4.2 m²

調査期間 平成16年5月18日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点北側の道路は元三日町に通じる古道であり、南側にも御先手小路などの南北の主要道路と接続する古道が存在する。古絵図などによると、南北の道路の間には甲府城跡二の堀と土塁が描かれており、本地点は位置的にちょうど堀の真上に該当する。本地点隣接地一帯の区画は、いずれも東西方向に細長い形態であり、敷地南側には二の堀跡の名残と思われる水路が存在していることからも、二の堀跡であることは疑いないと考えられた。

駐車場のアスファルト解体時に試掘調査を併行して実施したが、駐車場造成以前の搅乱層を除去したところで多量の焼土と炭化物を含む層が検出された。南側では焼けた瓦を捨てたと考えられるごみ穴が確認され、含まれている陶磁器などから太平洋戦争における甲府空襲の戦災処理層である可能性が高いと考えられた。

掘削を進めると、黒褐色土層が0.2m程度堆積し、地表下約0.65mのところで黄褐色土層が確認されたため、一旦重機による掘削を中止して人力による確認作業を行った。当初は付近で確認される地山かと思われたが、部分的に掘削したところ、黄褐色土の下から黄褐色土塊や炭化物を含む黒褐色土が全面で確認された。

したがって、黄褐色土は二の堀を埋め立てた際の整地層である可能性が高いとみられた。年代については、明治37年(1904)の甲府市街の地図ではすでに埋め立てられていることから、明治30年代前半の整地層と考えられる。

ま と め

掘削したトレーナー床面をボーリング調査したところ硬化面には当たらなかったことから、底面全体はさらに深く落ち込むことが確認された。

したがって、本地区は、堀本体の直上に位置することがほぼ確実と考えられた。堀幅や深さの確認については、敷地面積の制限や今後予定される住宅建築に大きな影響を及ぼす恐れもあり、それ以上の調査は避けたが二の堀跡の位置が特定されたことは大きな成果であった。

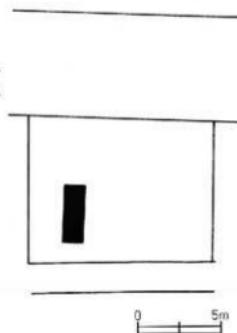


図1 試掘坑配置図

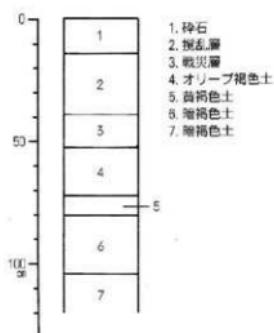
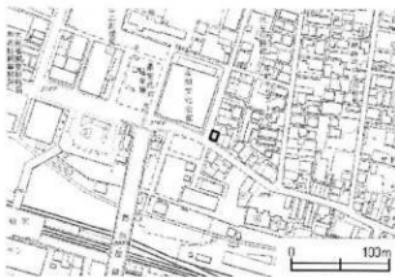


図2 土層柱状図

16-17 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目49-1他
調査原因 店舗併用住宅建設
対象面積 135.04 m²
調査面積 46.44 m²
調査期間 平成16年6月25日～29日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

城下は盆地北縁、標高304m、比高30mの一条小山に築かれた甲府城を中心に形成され、東西1.7km、南北2.5kmの範囲に広がる。

近世以降の実相は、各種絵図などから土地区画及び屋敷拝領者なども断片的に判明し、対象地は甲府城山手御門の前方、武家屋敷地との間に幅広く設けられた山手小路に相当しよう。現在、標高280mを測る駅北口に位置し、店舗が立ち並ぶ一角である。

調査の概要

試掘坑を2ヶ所設定し、土層堆積を確認しつつ、重機・人力にて掘削を行った。対象地東側を試掘坑1、西側を試掘坑2とし、幅1.8m×長12.0～13.8m、地表下1.0～1.5mまで掘削した。いずれの層序も1層表土・整地層（厚45cm）、2層暗黄色土（厚20cm）、3層礫混じり黄色土（厚25cm）が堆積し、以下、4層黄色土（厚10cm）となる。2層以下、黄色土を基調とした土層であり、遺物の混入も確認されないなど通路造構としての様相を呈する。記録写真撮影後、調査を終了した。

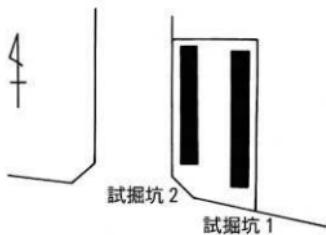


図1 試掘坑配置図



試掘坑1

16-18 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口二丁目5-14

調査原因 店舗建設

対象面積 46.13 m²

調査面積 20 m²

調査期間 平成16年8月17日

調査担当 志村憲一

調査歴史

相川扇状地扇端部標高278m地点に位置し、近世段階は山手御門外側の東西方向の通り部分に該当する。

調査概要

旧建物撤去後南北10m、幅2mのトレンチを設定し、深さ0.5mの地山層まで掘削した。確認された堆積層は3層である。上層の2層は近代の堆積層であり、第3層は黄褐色の地山層である。

トレンチ南端で東西方向の溝1条とピットが1基確認された。溝は幅1.05m、深さ0.2mを測り、覆土には近代の陶器が混入していた。ピットは径0.1m、深さ0.15mを測り、拳大の礫が2点検出された。

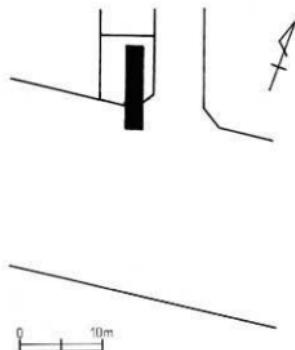


図1 試掘坑配置図



溝検出状況

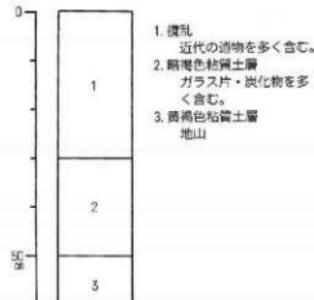
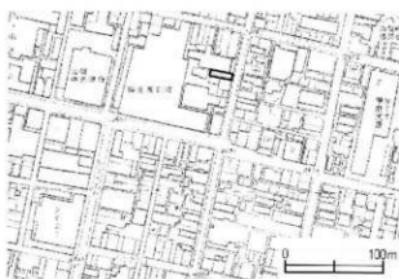


図2 土層柱状図

16-19 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市丸の内一丁目 505-1 他
調査原因 店舗併用住宅建設
対象面積 818.58 m²
調査面積 40 m²
調査期間 平成 16 年 10 月 12 日～ 11 月 10 日
調査担当 志村憲一



調査区歴史

甲府城二の堀内の内郭であり土手小路に面する武家屋敷地である。江戸時代の古絵図では 18 世紀前半の柳沢家が治めていた時代は、「井上」の名前がみられる。19 世紀代は「上田」と甲府勤番士の名前がみられる。

調査概要

現地表下 0.4 ～ 0.7 m 挖削を行った。敷地ほぼ全域から、溝・土坑・穴藏・建物跡・木樁・ピットなど江戸時代後期から明治時代にかけての遺構が検出された。また 18 世紀後半から 20 世紀前半までの、瓦・肥前系磁器・陶器・鉄製品(角釘)・かわらけ・焼塩壺などが確認されている。

検出遺構

土坑

1 号土坑

現状東西長さ 2.5 m、幅 0.9 m、深さ 0.35 m を測る。覆土は 1 号溝と同質の灰褐色粘質土であり 18 世紀代の擂鉢が出土した。

2 号土坑

土手小路沿いから検出された隅丸方形の土坑である。現状南北長さ 1.7 m、幅 2.1 m、深さ 0.35 m を測る。覆土には炭化物が多く混入し、18 世紀後半～ 19 世紀前半の遺物(6～ 13)が出土した。

3 号土坑

現状南北 0.85 m、東西 0.75 m、深さ約 0.1 m である。北側は 1 号溝に切られる。

4 号土坑

現状東西 2.7 m、幅 1.5 m、深さ約 0.1 ～ 0.17 m である。

5 号土坑

現状南北 0.8 m、幅 0.4 m、深さ 0.2 m で、中央部に径 0.13 m、深さ 0.55 m のピットが伴う。

6 号土坑

隅丸台形を呈し現状南北 0.8 m、東西 0.8 m、深さ 0.25 m である。

7 号土坑

隅丸方形を呈し現状南北 0.65 m、東西 0.55 m、深さ約 0.1 m である。覆土は炭化物・焼土を含む暗茶褐色粘質土である。

8 号土坑

焼上堆積範囲内に位置し、丸形を呈し径 0.75 m、深さ 0.15 m である。

石列

調査区南側から検出された、現状の区画と平行する2条の石列は3mの間隔がある。各石列は自然石と割り石、さらに西側の石列は間知石が使用され、幅0.5～0.6mである。明治時代以降の建物基礎部分と推測される。

溝・木樋

1号溝

西側の境界部分で検出された溝である。溝は現状東側で長さ14m、西側は長さ7mである。幅は0.6～0.7m、深さ0.4mを測る。溝中央部からは長さ5m、幅30cm、厚さ3～4cmの板材を組み合わせた木樋が検出された。溝西側からは、粘土質の堆積土に覆われた長さ2.5m、幅0.9m、深さ0.25～0.3mの1号土坑が検出された。何れの遺構内も軟質の粘土質土が堆積している。

2号溝

東西方向長さ0.5m、幅約0.2m、深さ約0.05mを測る。西側の2号土坑との切合い関係は不明である。覆土は炭化物・焼土を含む黒褐色粘土質土である。

3号溝

東西方向長さ0.8m、幅約0.25m、深さ約0.1mを測る。東側の1号土坑との切合い関係は不明である。堆積土は炭化物を微量含む黒褐色粘土質土である。

4号溝

1号石列と平行し南北方向長さ1.7m、幅約0.23～0.3m、深さ約0.15mを測る。北側の1号溝との切合い関係は不明である。

穴 藏

間知石が3段に積まれた現状長さ1.3m、幅1.9m、深さ約0.55～0.6mの地下室状の遺構である。内部からは近代の遺物（図3～5-14～36）が大域に出土した。

建 物 跡

調査区西側から検出された、約一間間隔で並ぶ礎石栗石の痕跡である。現状南北2間（3.8m）、東西3間（5.5m）を測り、栗石下部には杭が2から3本打ち込まれている。また周辺からは炭化物が多く検出されたことから火災の痕跡がみられた。

焼 土 範 囲

調査区西側の建物跡下部に位置し、東西4m、南北3m、深さ0.15～0.2mである。この範囲に炭化物と焼土が多く堆積し、下部の暗灰茶褐色粘土層内からは18世紀後半から19世紀前半の遺物が多数出土した。

調 査 結 果

検出された遺構は、出土遺物から18世紀後半から20世紀までのものである。明確に時期が特定できる近世の遺構としては、1号溝と木樋、1・2号土坑、焼土範囲である。特に1号溝と木樋に関しては、江戸期の甲府上水に関連する遺構であり、山田町筋の上水から分水され武家屋敷の境部分を東の土手小路側へ流下したものと考えられる。また検出された焼土範囲は、出土遺物から19世紀前半の火災に伴うものと考えられる。

近代の遺構は、石列、建物跡、穴藏である。現地の所有者である山本氏が、明治初年から当地で「鳴屋」の屋号で4代百年以上荒物店を営んでいることから、検出された近代の遺構・遺物は山本家に關係するものと考えられる。なお、山本家には明治初年甲府勤番士の子孫から屋敷の一部を購入した際の記録が伝えられている。幕末から明治期の武家屋敷地の変遷と勤番士の生活の一端をうかがい知る貴重な記録である。

南壁・西壁セクション

1. 墓乱
2. 黒褐色粘土質
3. 焼成物質
4. 茶褐色粘土質

前土・焼成物・砂や多く含む。粒子や粗い。

前土・焼成物・砂や粗い。

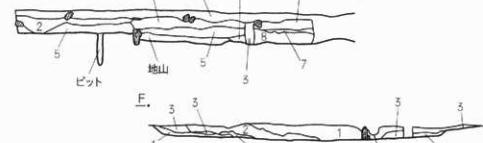
前土・焼成物・砂や粗い。

前土・焼成物・砂や粗い。

A'



SD-1



ビット

地山

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

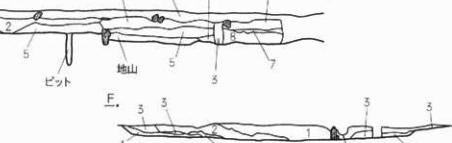
1. 細灰褐色粘土質
2. 細褐色粘土質
3. 黑褐色粘土質
4. 細茶褐色粘土質
5. 黑褐色粘土質
6. 細茶褐色粘土質
7. 細茶褐色粘土質
8. 灰褐色粘土質
9. 灰褐色粘土質
10. 灰褐色粘土質
11. 細茶褐色粘土質
12. 細茶褐色粘土質
13. 細茶褐色粘土質
14. 黑褐色粘土質
15. 黑褐色粘土質
16. 黑褐色粘土質
17. 黑褐色粘土質

図1 平面・土層堆積・断面図

E'



SD-1



ビット

地山

1

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

15

16

17

1. 細灰褐色粘土質
2. 細褐色粘土質
3. 茶褐色粘土質
4. 茶褐色粘土質
5. 黑褐色粘土質
6. 細灰褐色粘土質
7. 細茶褐色粘土質
8. 細茶褐色粘土質
9. 黑褐色粘土質
10. 黑褐色粘土質
11. 細茶褐色粘土質
12. 細灰褐色粘土質
13. 細茶褐色粘土質
14. 赤褐色粘土質
15. 赤褐色粘土質
16. 細茶褐色粘土質
17. 黑褐色粘土質

1. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。

2. 細褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子が細かい。ゆるい。

3. 黑褐色粘土質
炭化物・燒土を微量含む。粒子が細かい。ゆるい。

4. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。

5. 黑褐色粘土質
炭化物・燒土を微量含む。粒子が細かい。ゆるい。

6. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

7. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

8. 灰褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

9. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

10. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

11. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

12. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

13. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

14. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

15. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

16. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

17. 黑褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子細かく、粗い。

南壁セクション

東壁 3畳と同一。

1. 摂乱
2. 石列
3. 茶褐色土
4. 茶褐色粘土質
5. 黑褐色粘土質
6. 細灰褐色粘土質
7. 細茶褐色粘土質
8. 細茶褐色粘土質
9. 黑褐色粘土質
10. 黑褐色粘土質
11. 細茶褐色粘土質
12. 細灰褐色粘土質
13. 細茶褐色粘土質
14. 赤褐色粘土質
15. 赤褐色粘土質
16. 細茶褐色粘土質
17. 黑褐色粘土質

1. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。しまる。
2. 細褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。しまる。
3. 灰褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。
4. 黑褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。
5. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。
6. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。
7. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。
8. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。
9. 黑褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。
10. 黑褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子や粗い。
11. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子密。しまり密。
12. 細灰褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子密。しまり密。
13. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子密。しまり密。
14. 赤褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子密。しまる。
15. 赤褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子密。しまる。
16. 細茶褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子密。しまる。
17. 黑褐色粘土質
炭化物・燒土を少々含む。粒子密。しまる。

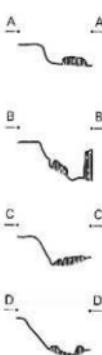
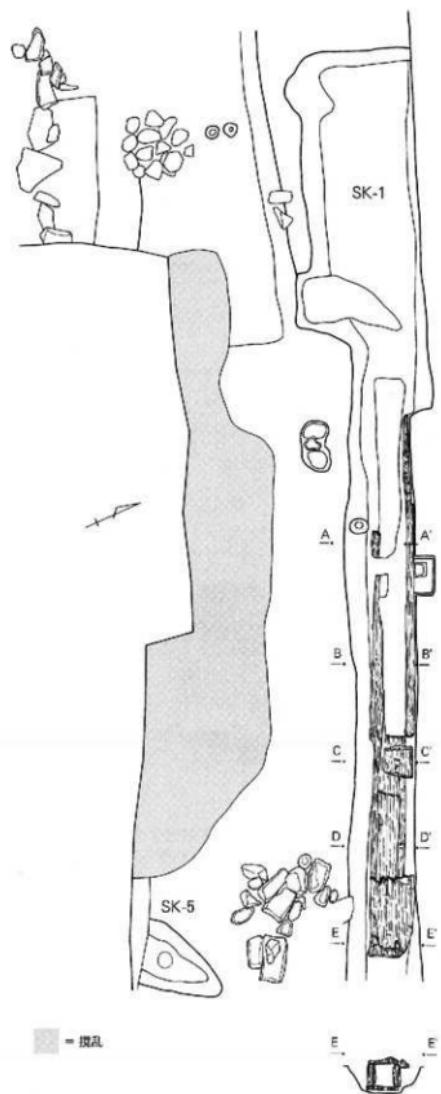


図2 1号溝内木桶検出状況



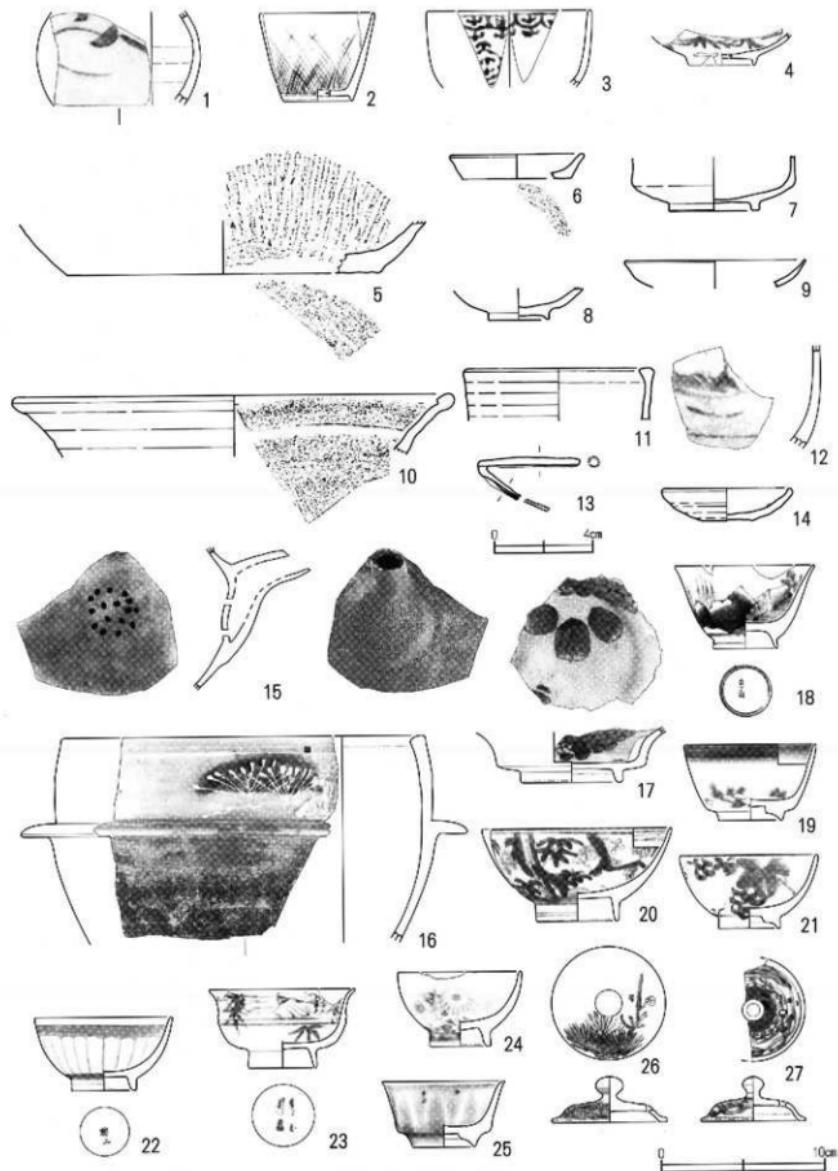


図3 出土遺物 (1)



28



29



30

図4 出土遺物 (2)





図5 出土遺物 (3)

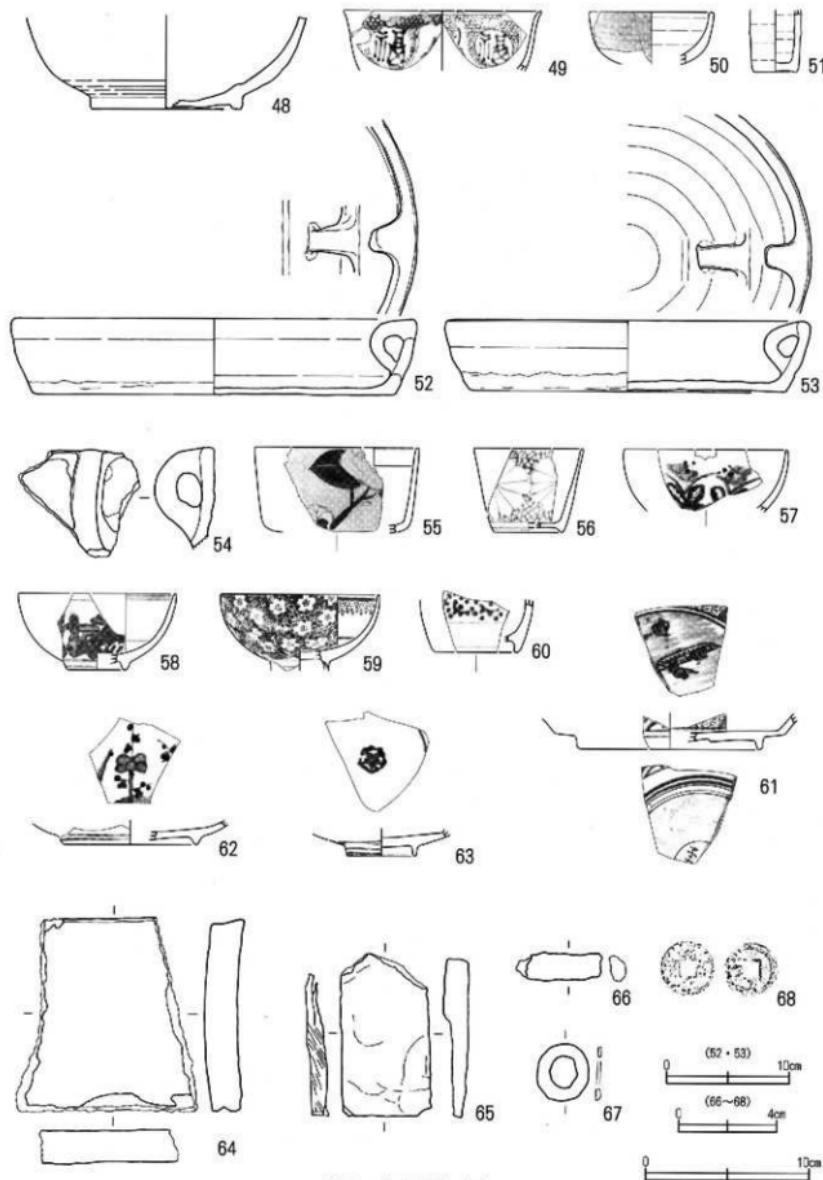


図6 出土遺物 (4)

16-20 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市武田一丁目3-34
調査原因 災害用貯水槽埋設
対象面積 72.5 m²
調査面積 70 m²
調査期間 平成16年7月21日～8月19日
調査担当 伊藤正幸

調査の経緯

災害用貯水槽埋設に伴い平成15年度試掘確認調査した結果、溝跡2条を含む埋蔵文化財が確認された。この結果を受けて南西方向に50mほど離れた場所への埋設設計画が提出されたため、改めて試掘確認調査を行うこととなった。

調査の概要

夏休みであるが校庭という性格上、掘削を開始する前にフェンスで囲い重機により掘削を開始した。

対象地を東側から掘り始めたが、着手直後に石組みの水路跡を確認、さらに溝跡・土坑等も検出され、同時に陶磁器・近代以降のガラス製品等が確認されたため、調査地を拡張した。

調査地は南北5m、東西12mの範囲まで拡張したが、西端から6mほどまでは瓦礫が混入し、試掘坑を設定してその深さを確認したが造構面を掘り抜いていた。

一方東部の試掘坑では、最終的に近代・近世及び古墳時代の造構面が確認された。

近代の造構として石組暗渠排水路1条が、近世の造構として集石土坑1基、土坑3基及び溝跡1条確認された。古墳時代については、土器が若干確認されたにとどまり、造構を検出するには至らなかった。

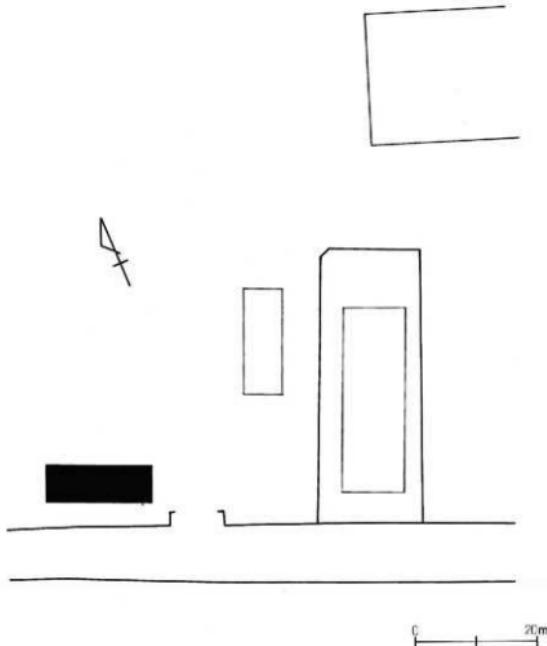
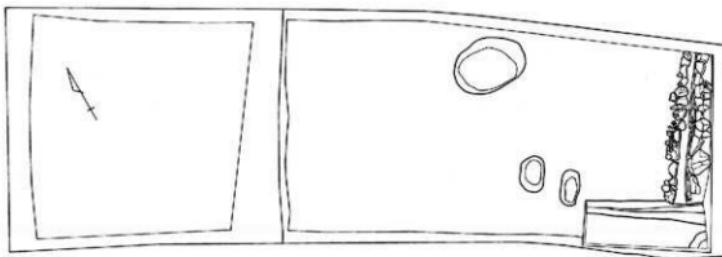
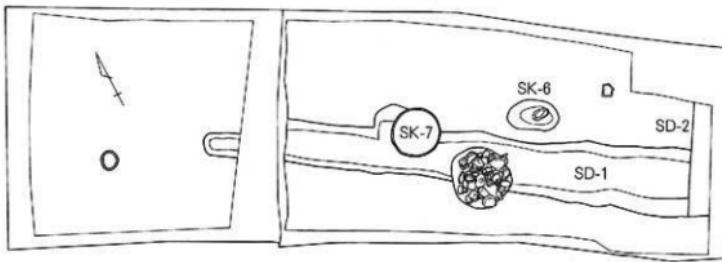


図1 試掘坑配置図

上層



中層



下層

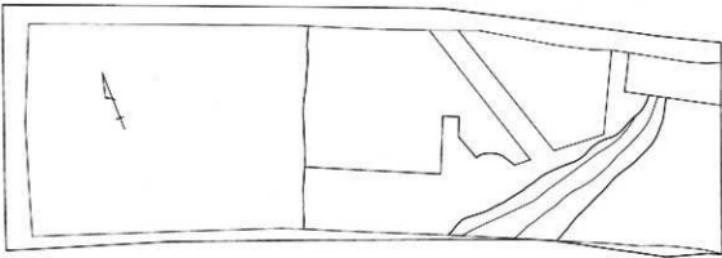


図2 平面図

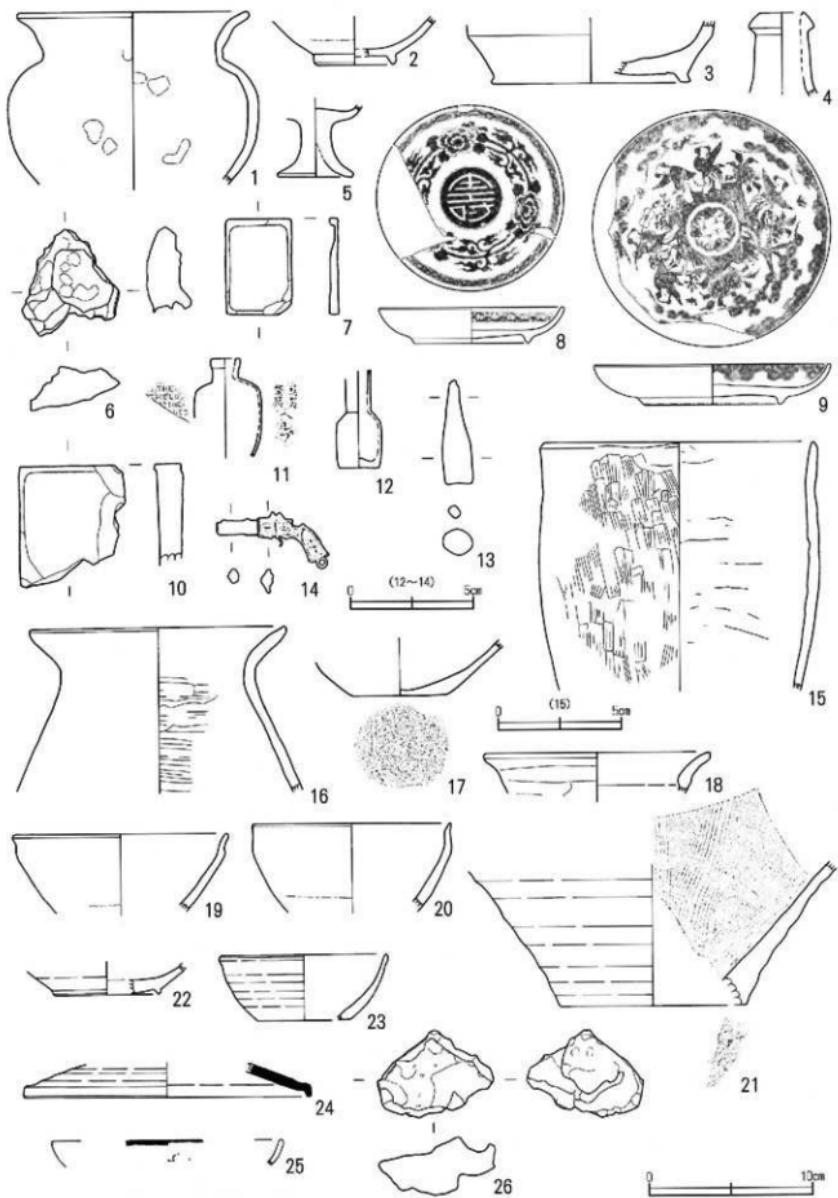


図3 出土遺物 (1)

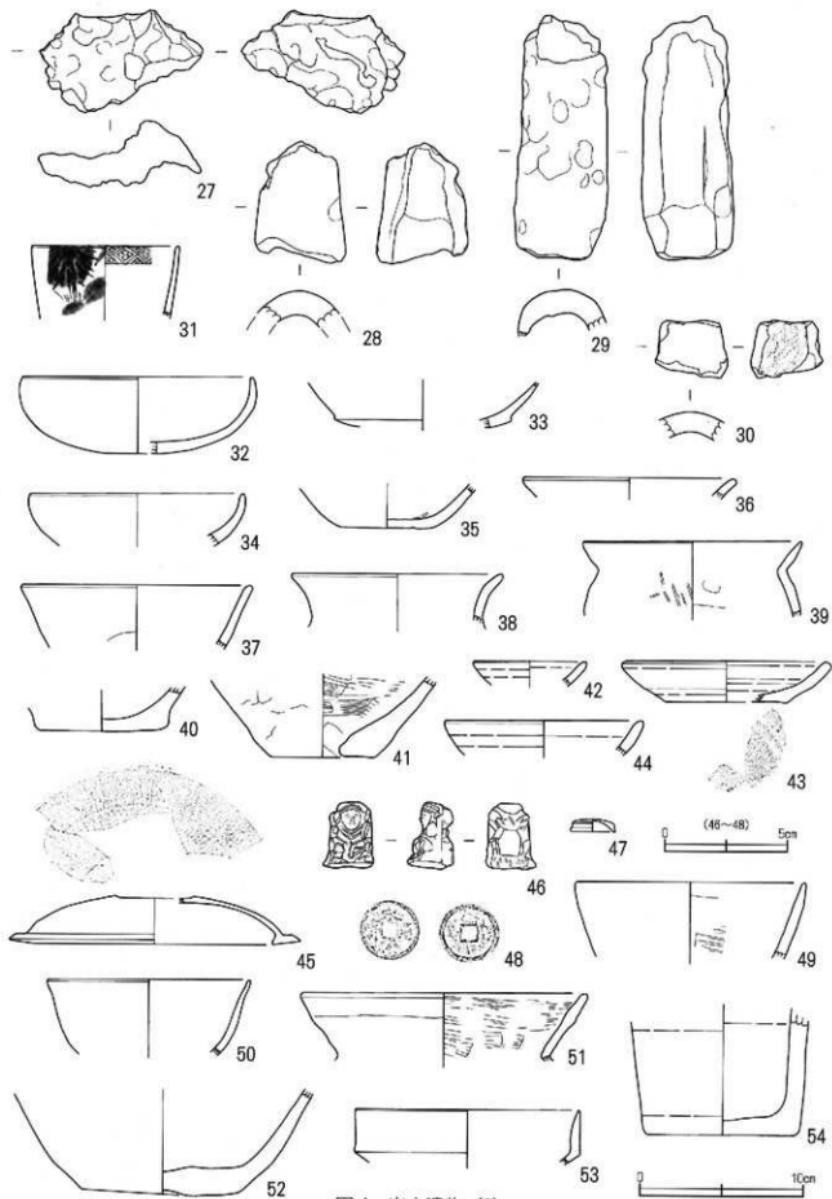
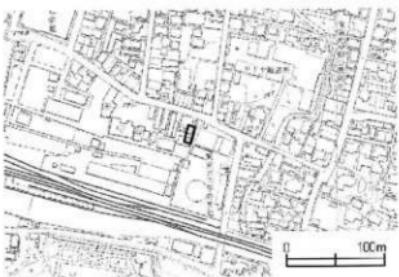


図4 出土遺物(2)

16-21 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口三丁目21-2他
調査原因 店舗併用住宅建設
対象面積 165 m²
調査面積 14 m²
調査期間 平成16年11月1日～4日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

甲府城を中心に形成された城下町は、東西1.7km、南北2.5kmの範囲に広がる。各種絵図などから土地区画及び屋敷拝領者なども断片的に判明でき、対象地は甲府城山手御門の前方、堀に沿って幅広く設けられた山手小路に相当し、幅広かったこの街路も明治期に一部宅地へと分割されている。現在、標高280mを測る駅北口に位置し、店舗が立ち並ぶ一角である。

調査の概要

対象地中央に幅2m×長さ7mの試掘坑を設定した。南北方向に延びる幅50cmの石積み側溝を検出した。石積みは規格化された切石を用い、落とし積み手法で構築されている。東側石積みより西側石積みが約50cm、2～3石高く構築され、高さ1m、3～4石残存していた。側溝内及び東側平坦地にコンクリートで補強した柱跡が残っていることから石積み側溝構築後に建設された建物跡が存在する。

出土遺物は、側溝内、石積み裏込め土から土器・陶磁器・ガラス片などを検出した。

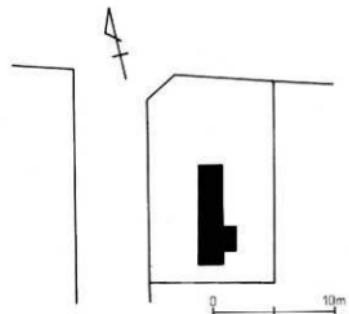


図1 試掘坑配置図

調査の成果

屋敷境、あるいは建物境などに設けられた雨水などの排水側溝と推定できる。石積み構築年代は、落とし積み手法であるため近代以降の所産と考えられ、出土した陶磁器の年代観とも整合する。明治初年から30年頃、土地区画の変更に伴い構築された石積み側溝と推定される。記録図面・写真撮影後、調査を終了した。



調査状況

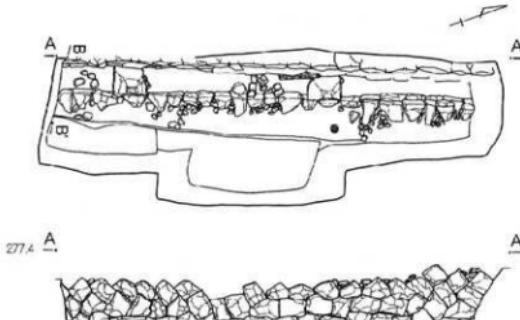


図2 平面・側面・土層堆積図

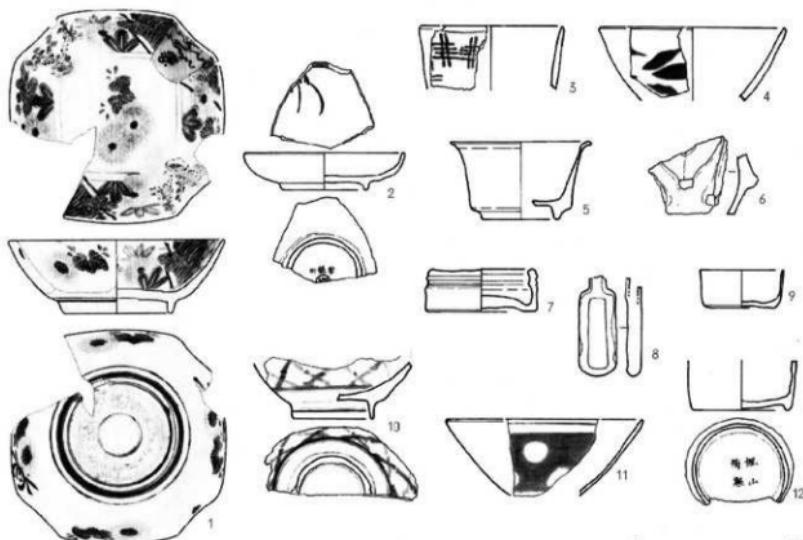
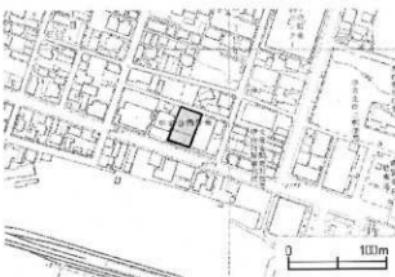


図3 出土遺物

16-22 甲府城下町遺跡

調査位置 甲府市北口一丁目50-1他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 956.05 m²
調査面積 84 m²
調査期間 平成16年11月24日～12月10日
調査担当 伊藤正幸



遺跡の位置

甲府城乾櫓から100mほど西に位置する。『樂只堂年録』では一帯が「侍屋敷」と表記された地域である。従来平屋の娯楽施設であったが、それを取り壊し、今回の集合住宅建設に至ったものである。標高は280mを測る。

調査の概要

集合住宅建設に先立ち、試掘調査を実施した。対象地に幅2mの試掘坑を『七』字状に設定し必要に応じて拡張しながら地山まで掘り下げた。試掘坑の総延長は30.5mを測る。

試掘坑内は旧建物の基礎による攢乱が随所に認められた。特にA～D試掘坑にはコンクリート基礎が入り込み、遺構等の検出は困難であった。またF試掘坑内では東端部分から溝跡及び土坑が検出され、また中央部から東西1.9m南北1.6mの土坑状の掘り込みが確認できた。溝跡及び土坑からは近世か近代の遺物が確認されているが、中央部の土坑の覆土は粘性が強く水分の多い黒色上で、針金やガラス破片が混入するなど、後世の攢乱である可能性が強いと思われる。

全体図及びF試掘坑内を記録し写真撮影の後、埋め戻して終了した。

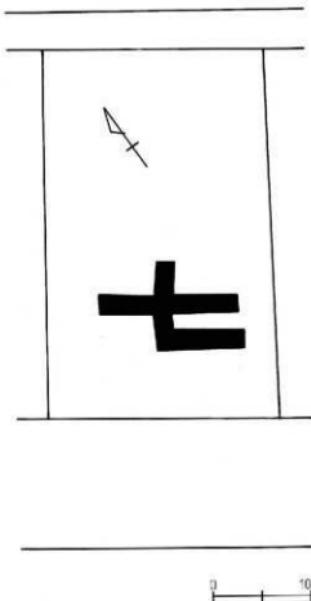


図1 試掘坑配置図

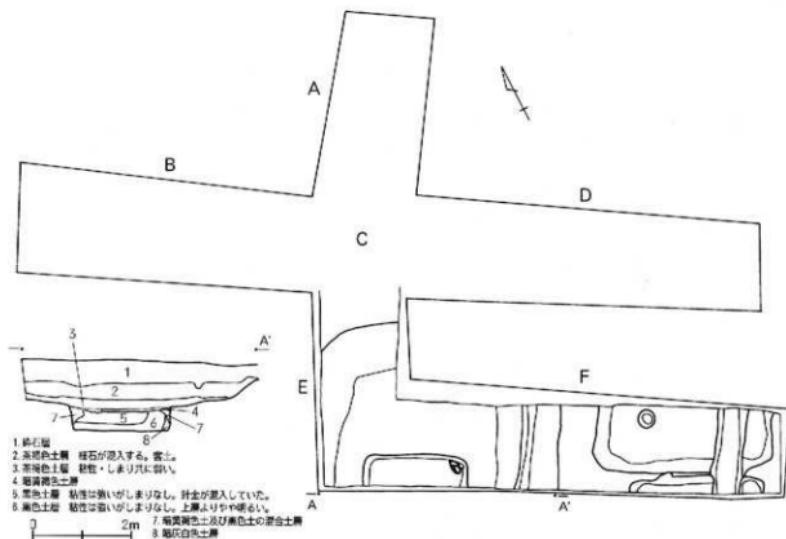


図2 平面・土層堆積図



調査状況

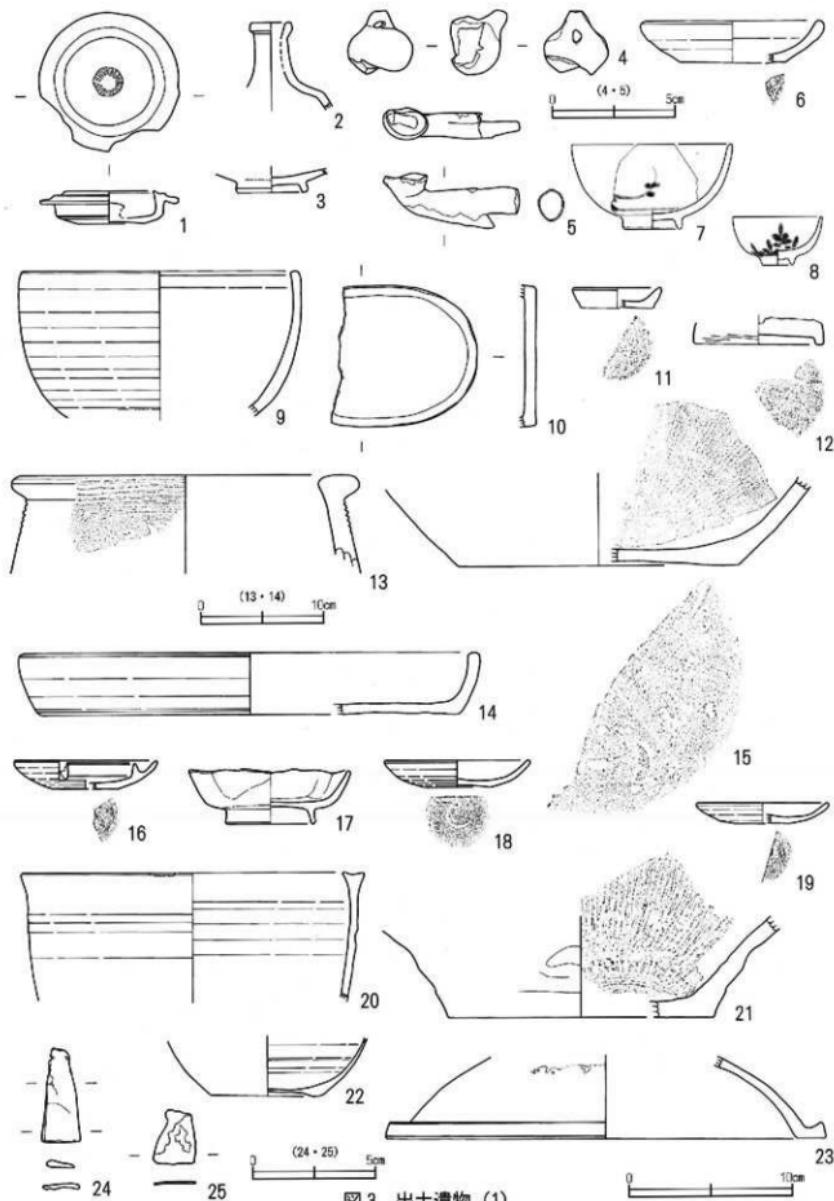


図3 出土遺物 (1)

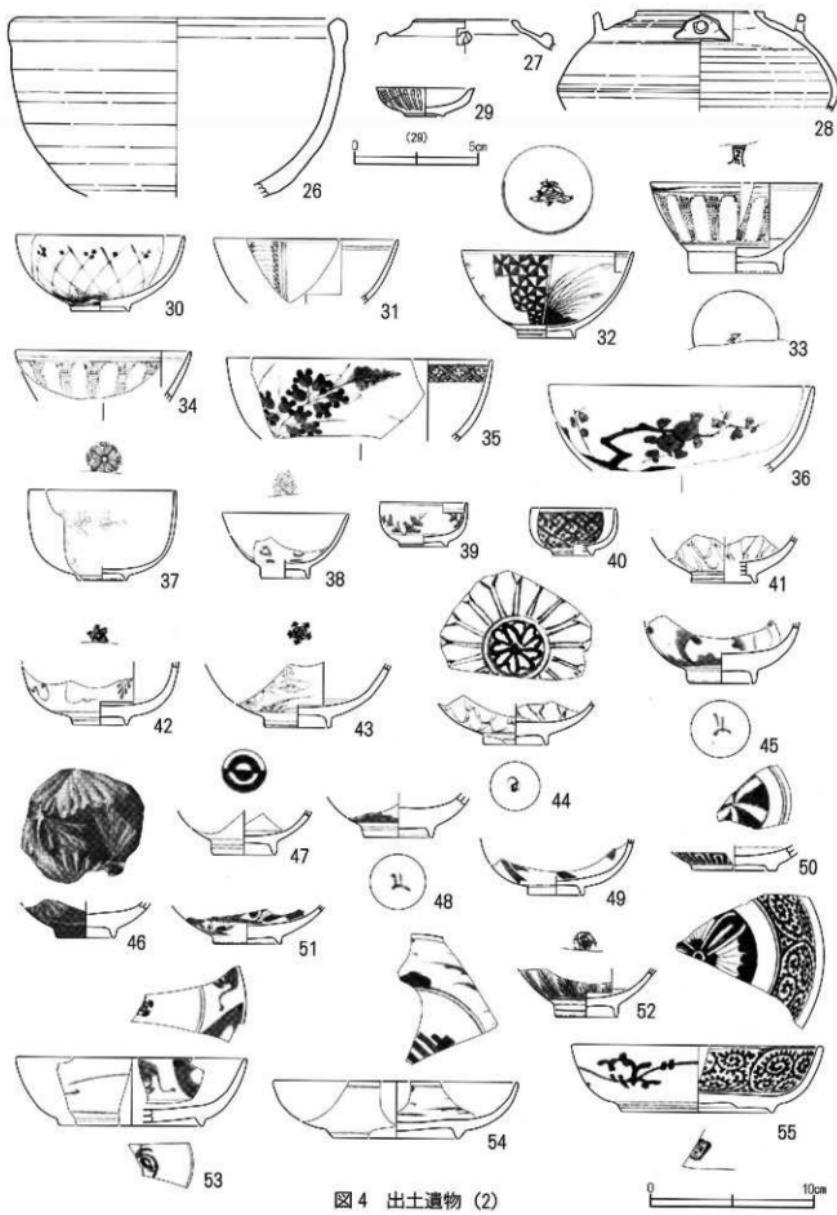


図4 出土遺物 (2)

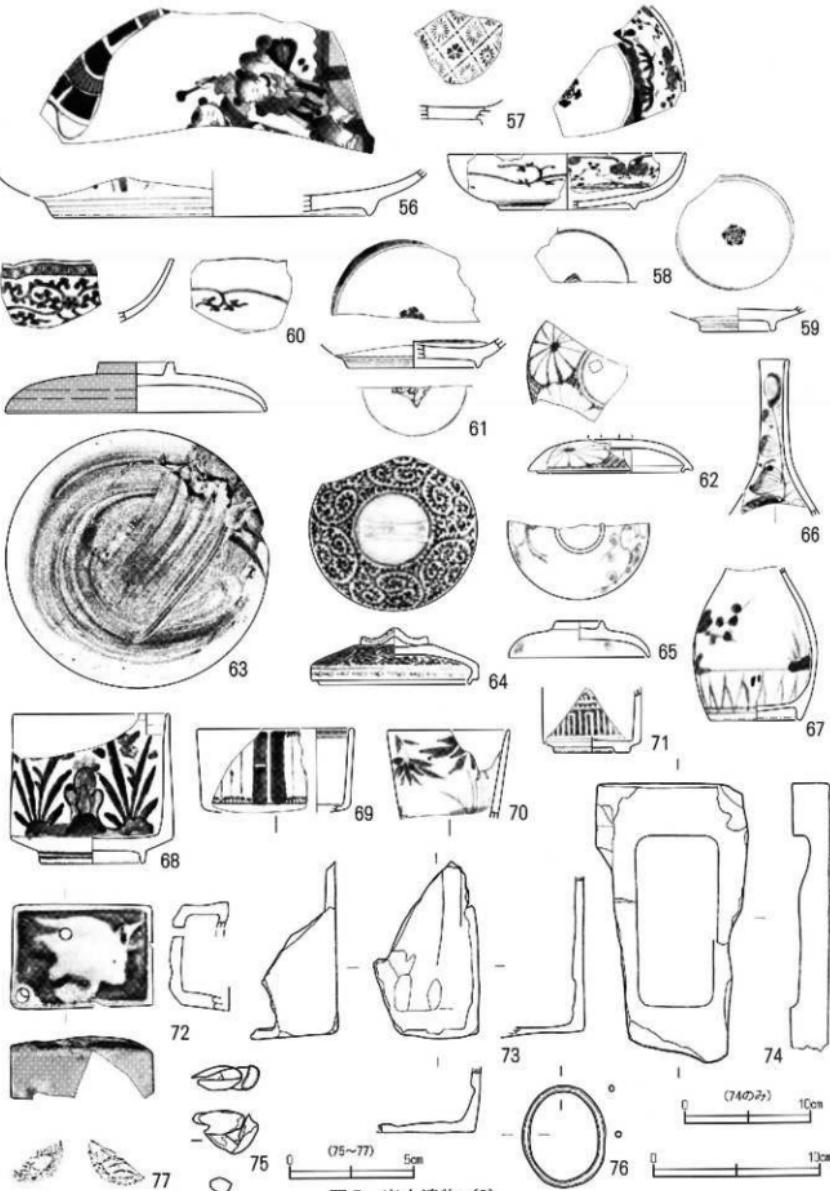


図5 出土遺物 (3)

16-23 桜井畑遺跡

調査位置 甲府市和戸町 1240-1

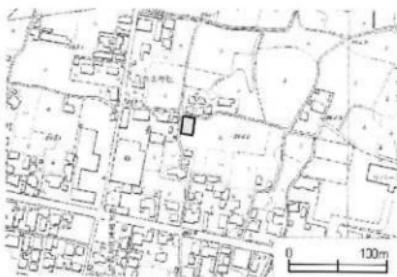
調査原因 個人住宅建設

対象面積 332.45 m²

調査面積 3 m²

調査期間 平成 16 年 7 月 30 日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点北側及び東側では、山梨学院大学運動場建設に伴う発掘調査が行われており、縄文から近世まで幅広い時代の遺構、遺物が検出されている。本地点地表においても土師器や須恵器の破片が採取できたため、遺跡が検出される可能性が高いと考えられた。

基本的に建築予定建物はベタ基礎工法であるため、掘削は建物外周部分を 0.2m ほど下げる程度であり、直接地下に影響ないと判断されたが、浄化槽部分は掘削が深いことから試掘確認を行うこととした。

表土直下には約 0.55m まで黒褐色の粘土質土層が厚く堆積しており、下層から砂質の暗褐色土層が検出された。その段階で平面の精査を行い遺構確認に努めたが、遺構、遺物は確認できなかった。東壁側にサブトレレンチを入れて暗褐色土も掘り下げたところ、地山と考えられるよく締まった黄褐色の砂質土が検出された。地上においても遺構などは確認されなかったことから、調査終了とした。

ま と め

トレレンチ内の掘削では 1・2 点の出土に止まったため、本調査区の遺跡密度は低いと考えられ、表面採取された遺物は、土砂の入れ替え等により付近から持ち込まれた二次的なものと判断した。

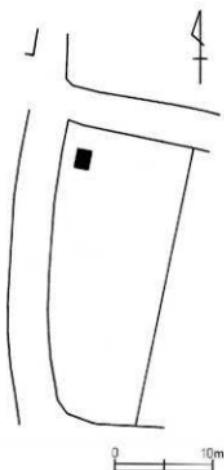


図 1 試掘坑配置図

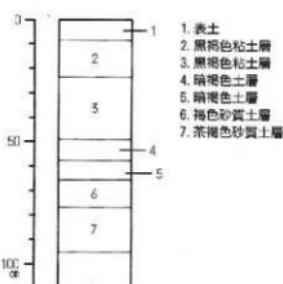


図 2 土層柱状図

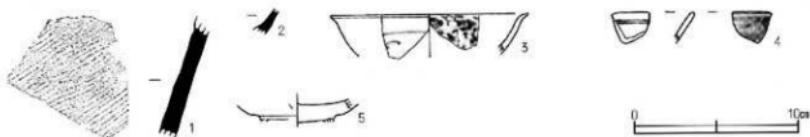
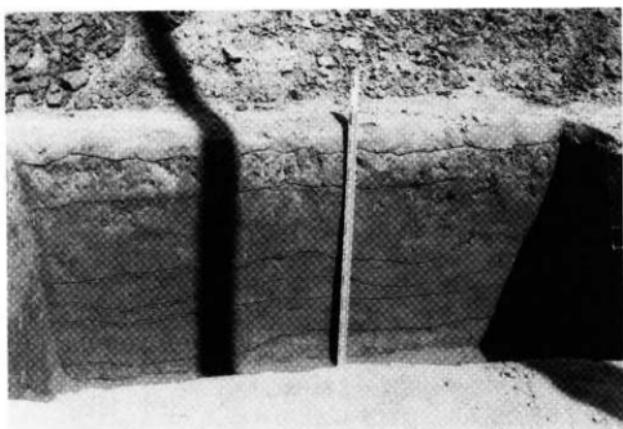
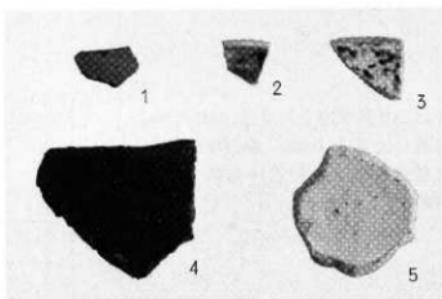


図3 出土遺物



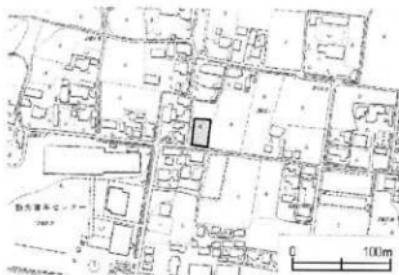
トレンチ（東壁）



出土遺物

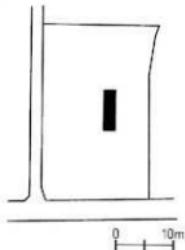
16-24 桜井畠遺跡

調査位置 甲府市川田町367-1
調査原因 集合住宅建設
対象面積 290 m²
調査面積 14 m²
調査期間 平成16年12月22日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、桜井畠遺跡として括られた遺跡の範囲の東端に位置する。今回の調査地点の南東にあたる桜井町495-2地点の調査では溝跡が検出されていることから、遺跡の範囲はさらに東に拡張することも予想された。また、県施設リバース和戸地点の調査では県内でも最大規模の方形周溝墓が検出されている。



調査の結果

現況の地表から30cmまでは旧水田を含む耕作土層であった。それより下層に古墳時代から平安時代にかけての土師器小片が出土した。

南北に設定したトレンチを袈裟掛けするように南東から北西にむかう溝跡が、地表から40cmの深さで確認できた。溝跡のもう一方の立ち上がりが不明なため、その規模については不明だが、確認面から最大で60cmの深さを測る。また、溝跡を切るように土坑が2基検出された。遺構に伴う遺物として古墳時代後期の土器がある。

予定されている建築物の基礎は、盛土を施した上に設定されるため、工事による掘削は現況の地表から20cmまでしか及ばない。そのため、埋蔵文化財への影響は少ないと判断した。

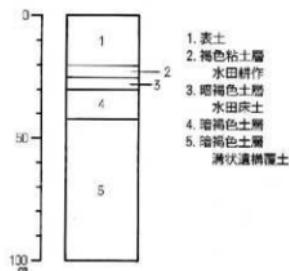


図2 土層柱状図

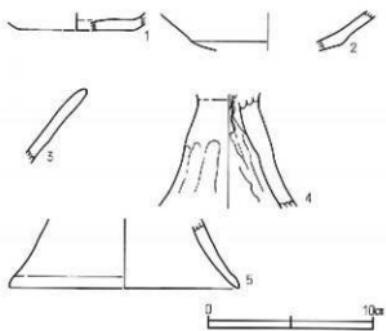
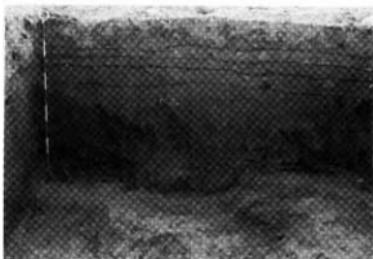


図3 出土遺物



土層堆積状況

16-25 桜井畠遺跡

調査位置 甲府市和戸町1317他
調査原因 店舗建設
対象面積 1,206.76 m²
調査面積 10.5 m²
調査期間 平成17年1月28日
調査担当 志村憲一

調査区歴史

甲府盆地北東部標高264.5m地点、遺跡範囲の南西隅に位置する。当遺跡は弥生から平安時代にかけての遺跡であり、調査区北東側の甲府勤労者総合福祉センター周辺は、1988年から1989年にかけて山梨県埋蔵文化財センターが調査を行なっている。この調査では、古墳時代前期の方形周溝墓、奈良・平安時代の竪穴式住居や掘立柱建物が確認されている。

調査概要

建物位置及び周辺に3ヶ所のグリッドを設定し、地表下約0.5~1.2m地点まで掘削を行った。基本土層は3層に分層され、Cグリッドの第2層からは縄文陶器、近世の陶磁器、レンガが出土した。搅乱を受けているため遺構は確認されなかった。



Aグリッド

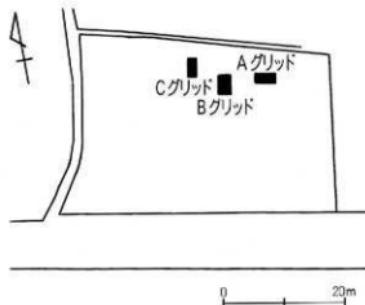
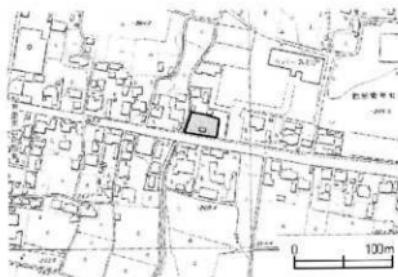


図1 試掘坑配置図

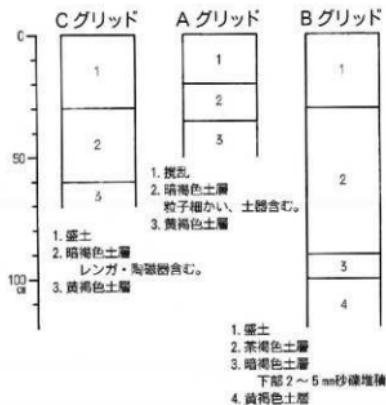
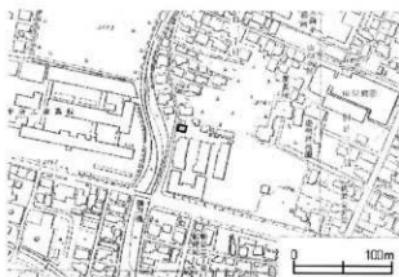


図2 土層柱状図

16-26 塩部遺跡

調査位置 甲府市朝日三丁目47-7
 調査原因 個人住宅建設
 対象面積 114.48 m²
 調査面積 3.75 m²
 調査期間 平成16年7月12日～13日
 調査担当 志村憲一



調査区歴史

甲府盆地北側を南流する相川右岸標高257m地点に調査区は位置する。弥生から平安時代にかけての塩部遺跡の東辺に位置するとともに、東側は甲府城下町遺跡の範囲内でもある。

調査概要

建物位置に南北2.5m、幅1.5mのトレンチを設定し、地表下1.7m地点まで人力で掘削を行なった。7層の堆積層が確認され、トレンチ南西隅の地表下0.7m地点の第4層からは、落ち込みと長さ0.25mの不整形のピットが1基検出された。落ち込みは確認された部分で深さ0.1mあり、黒褐色粘質土の覆土からは平安期の坏が検出された。

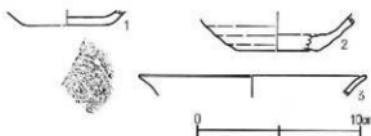
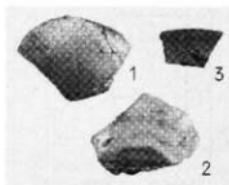


図3 出土遺物



トレンチ南西隅落ち込み

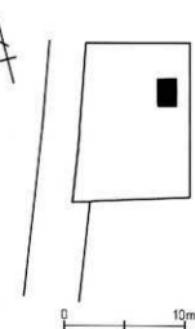


図1 試掘坑配置図

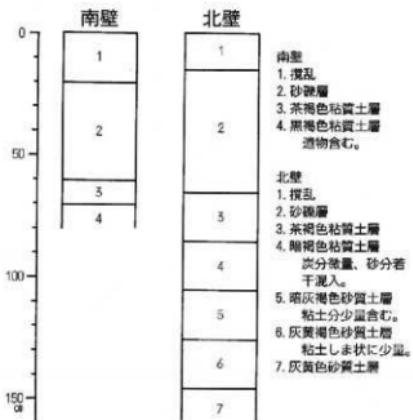


図2 土層柱状図

16-27 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部三丁目 648-5

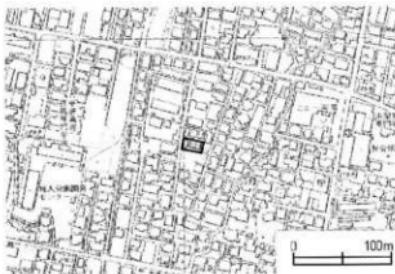
調査原因 個人住宅建設

対象面積 169.23 m²

調査面積 4.5 m²

調査期間 平成16年6月29日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は塩部遺跡北側に位置し、建設予定の建物南東側に長さ3×1.5mのトレンチを設定して調査を実施した。表土は碎石層が10cm程度薄く敷設されており、直下には水田耕作土と考えられる灰褐色土が約10cm、床土と考えられる黄褐色土が約5cm検出された。水田下層からは、やや灰色がかった黒褐色土層が10cmほど検出され、古墳時代の土器が1・2点出土した。土層が均質で安定したため、その地盤で遺構確認を行なったが、特別に変化はみられず、遺構も確認されなかった。さらに下層の確認を行なったところ、徐々に小礫や炭化物を含む土層となり、礫が面的に検出された。礫層付近からは土器が少量出土し、遺構の可能性も考えられたため、部分的に掘削し、土層堆積と構造を確認した。

結果、礫の密度は落ちるもの、礫を多量に含む砂質土層が深さ20cmほど確認され、中から紡錘車を含む土器が少量出土した。最終的に、地表下約85cmまで掘削したが、遺構とは断定できなかったことから包含層と判断した。

まとめ

塩部遺跡内のこれまでの調査成果では、本地点から約200m南側の甲府工業高校調査区や県道塩部町開国橋線調査区において古墳時代の遺構・遺物が多数検出されているものの、西側の県道拡幅時の試掘調査では遺構・遺物は希薄であった。

本地点では、包含層と考えられる土層が残されており、時期的にも古墳時代までさかのばるものであることが確認された。住宅基礎では包含層まで達しないことを確認し、調査を終了していたが、今後付近における開発等においては十分な注意が必要となる。

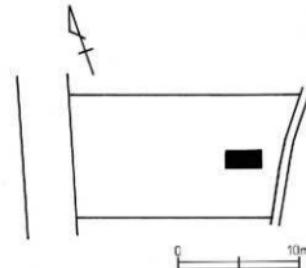


図1 試掘坑配置図

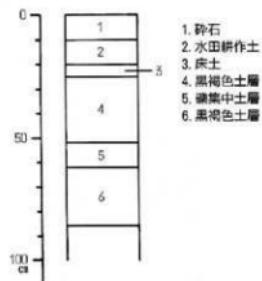


図2 土層柱状図

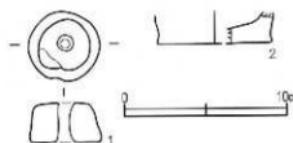
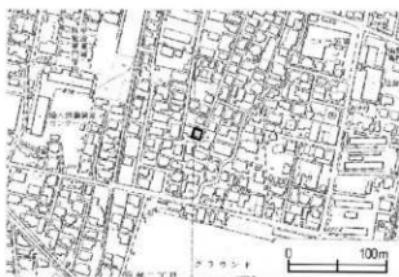


図3 出土遺物

16-28 塩部遺跡

調査位置 甲府市塩部三丁目 605-22
調査原因 個人住宅建設
対象面積 51.34 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成17年1月18日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地は、山梨県教育委員会が調査を行い、方形周溝墓等が出上した甲府工業高校校舎地点の北側約50mの地点である。

地盤改良のためコンクリート柱を打ち込むことが予定されている。

調査の結果

現況の地表から30cmまでは新規の盛土であった。現地表から65cm下層から炭化物の堆積層が確認でき、中に古墳時代前期の土器片が出土した。

調査区を拡張すると、炭化した丸太材が4本並んで検出できた。丸太材は直径約8cm、長さ約30cmのものを最大としながらも規則的に並び、丸太材を横断するような状態で板材が検出できた。これは古墳時代前期の焼失住居跡と考えられ、丸太材が並んだものは垂木、薄い板は屋根材ではないかと推測できる。



全 景（西から）

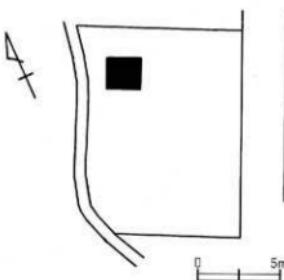


図1 試掘坑配置図

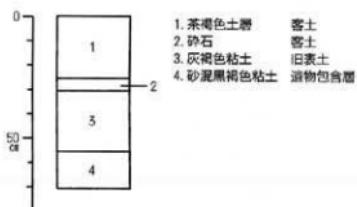


図2 土層柱状図

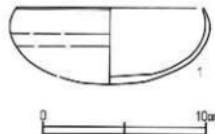


図3 出土 遺物

16-29 食糧工場遺跡

調査位置 甲府市幸町2604-3

調査原因 店舗建設

対象面積 998.97 m²

調査面積 27 m²

調査期間 平成16年7月15～16日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点には、かつて食糧倉庫等が存在しており、その基礎により破壊されている可能性が高いと考えられたが、店舗建設部分を試掘調査することとした。駐車場として使用されていた際のアスファルトを幅2mで南北方向にトレーニング状に除去し、調査に着手した。

敷地内の既存水路は残したまま掘削を行ったが、碎石を除去するとすぐにコンクリートの分厚い基礎が検出された。関係者からの聞き取りによって以前醤油工場が存在していたことが明らかになり、その基礎が全面に残されていることが判明した。重機でも破碎困難であったことから水路から、南側の調査は不可能となった。

北側については、上面はコンクリート塊を含む搅乱層で覆われていたものの、下層は比較的の残りもよく、約0.7mの高さで遺構が確認された。南側は全体に黒褐色土で覆われていたため全体を掘り下げる遺構の確認を行ったところ、溝跡や柱穴が検出された。1号柱穴には石で周囲を固められた柱材が検出され、建物の一部である可能性が高く、1号溝跡からは幕末から近代の遺物が多数出土した。1号溝跡と重複するように土坑が検出されたが、残存状態が悪く、取り上げられなかったものの、潰れた木箱等が出上した。

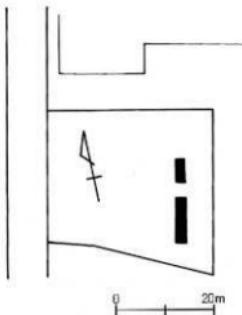


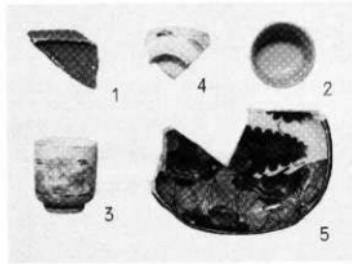
図1 試掘坑配置図

ま と め

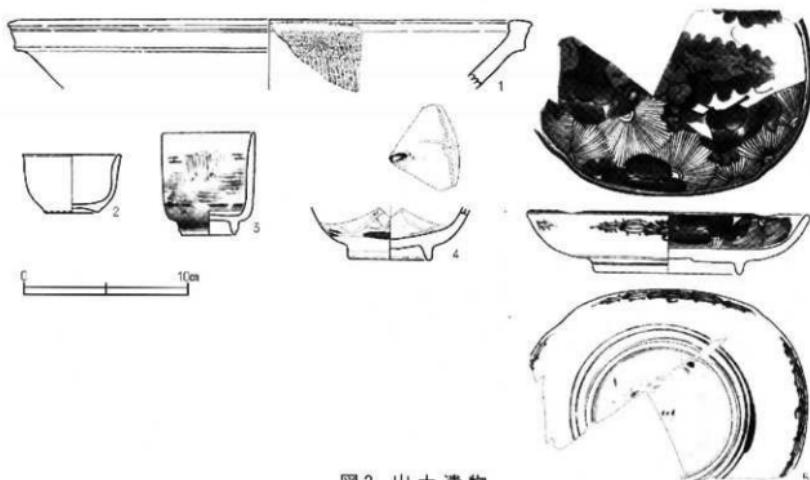
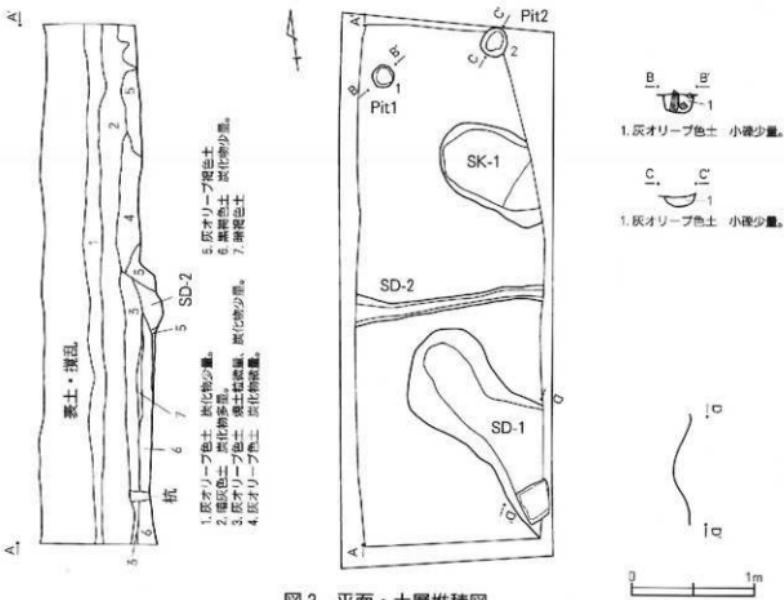
江戸末期から明治にかけての遺構、遺物がトレーニング北側において検出されたが、西側に所在する遠光寺周辺に営まれた屋敷地であると考えられる。



トレーニング全景



出土 遺 物



16-30 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市宮前町 256-3

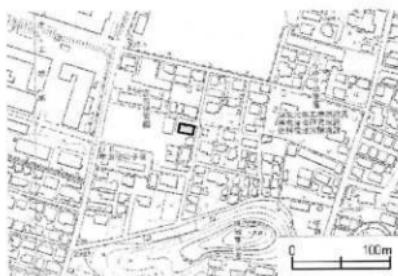
調査原因 個人住宅建設

対象面積 224.19 m²

調査面積 6 m²

調査期間 平成16年4月12日

調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇央部標高303m、遺跡範囲東側に位置する。調査区西方には中世以来の通りである鍛冶小路が通る。中世段階の様相は不明であるが、近世18世紀前期の柳沢吉保・吉里が甲府藩主であった時期は、調査区周辺には家臣屋敷が置かれていたことが、古絵図等から窺える。

調査結果

建物位置1ヶ所に東西3m、幅2mのトレンチを設定し、重機及び人力で掘削を行なった。地表下0.75m地点の地山層まで掘削を行い、4層の堆積層を確認した。上層の2層は近代の搅乱層である。第3層の灰暗褐色粘質土層は、近世から近代の水田跡である。第4層は暗褐色粘質土層である。各層からは遺構・遺物は確認されてはいない。



土層堆積状況

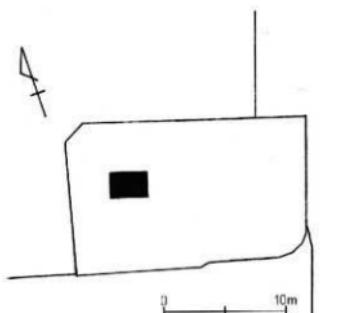


図1 試掘坑配置図

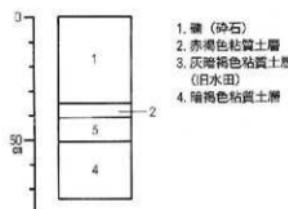


図2 土層柱状図

16-31 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目 2467-4
調査原因 個人住宅建設
対象面積 231.86 m²
調査面積 7.35 m²
調査期間 平成16年4月21日～22日
調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地扇央部標高約333m、武田氏館跡南側約250m地点に位置し、板垣氏屋敷跡の伝承地である。

調査結果

建物位置2ヶ所にグリッドを設定し、深さ0.65～0.8m入力で掘削を行なった。両グリッドとも地表下0.5m地点まで搅乱層及び耕作土層である。Bグリッドの地表下0.7mを下限とする厚さ15cmの暗褐色粘質土層からは、遺構は未確認ではあるが、かわらけ・天目茶碗など16世紀代の遺物が出上した。

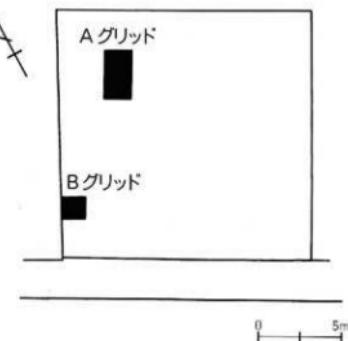


図1 試掘坑配置図



Bグリッド

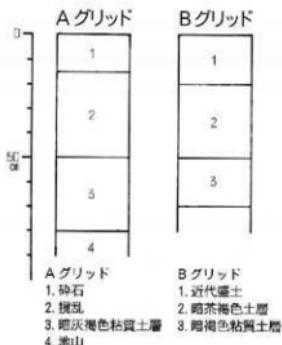


図2 土層柱状図

16-32 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目 2413 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 358.68 m²
調査面積 10 m²
調査期間 平成 16 年 4 月 28 日・5 月 25 日
調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、武田氏館跡南側約 350m、相川扇状地扇中央部標高 326m 地点に位置する。過去東側隣接地の調査では、かわらけなど 16 世紀段階の遺物が出土している。

調査結果

建物位置 2ヶ所にグリッドを設定し、重機及び人力で地表下 0.4 ~ 0.7m 地点まで掘削を行なった。両グリッドとも遺構は確認されてはいないが、北側の A グリッド第 3 層内からは常滑焼片、かわらけが確認された。また B グリッドの第 2 層は炭化物・焼土の混入が多く、かわらけ小片が出土している。

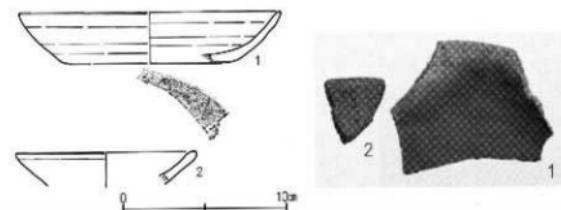


図 3 出土遺物

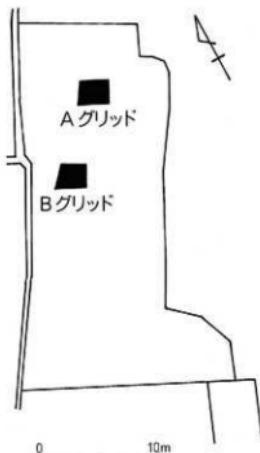


図 1 試掘坑配置図



B グリッド

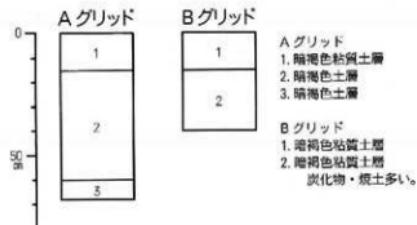
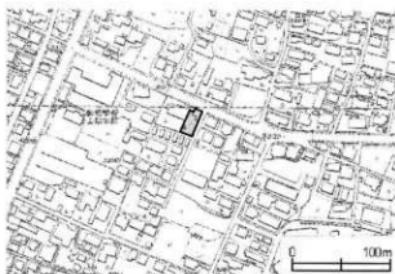


図 2 土層柱状図

16-33 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手一丁目 4461-1 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 88.57 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成16年5月6日～7日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心に南北2.3km、東西1.0km、現在のJR甲府駅付近まで及ぶものと推量される。調査地点は、遺跡範囲の中央に位置するとともに館より約250m南下した標高約336mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に2×1mの試掘坑を2ヶ所設定し、人力により試掘調査を実施した。試掘坑1は建築箇所南側に設定し、地表下約55cmまで掘削した。非常に硬く叩き締められ、均一に堆積した土層が見られるなど、すでに対象地は造成がなされていた。敷地北側に設定した試掘坑2も試掘坑1と同様、非常に硬く叩き締められた土層が見られた。

対象地の層序は1層表土（厚25cm）、2層灰黄色砂質土（厚5cm）、3層混礫灰色土（厚15cm）、4層灰褐色砂質土（厚10cm）となり、それ以下に5層混礫灰色土が堆積していた。2層以下が造成土と考えられ、厚50cm以上となる。調査により遺物の出土及び遺構の検出はなかった。記録写真撮影後、調査を終了した。

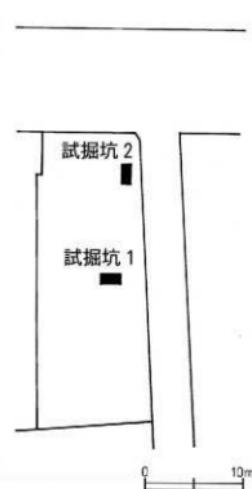


図1 試掘坑配置図



試掘坑2（南から）

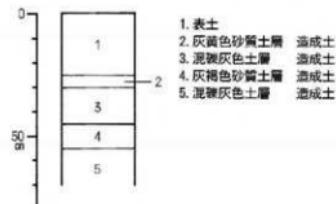


図2 土層柱状図

16-34 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手1丁目 4581-8

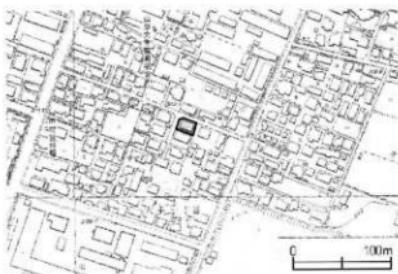
調査原因 個人住宅建設

対象面積 208.25 m²

調査面積 6 m²

調査期間 平成16年5月26日

調査担当 志村憲一



調査区概要

調査区は、相川扇状地局央部標高313mに位置し、調査区東側には中世以来の通りである鍛冶小路が通る。

調査結果

建物北側に東西6m、幅1m、深さ0.6m掘削を行なった。全面から碎石が確認されたが、遺構・遺物は検出されてはいない。

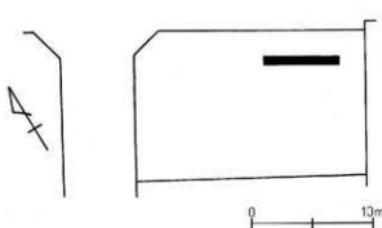


図1 試掘坑配置図



トレンチ

16-35 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市武田三丁目431他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 845.18 m²
調査面積 9 m²
調査期間 平成16年6月15日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、武田城下町遺跡の南端に位置し、本地区の古字名は定かではないが、元柳町か相ノ原に相当すると考えられる。元柳町は中世の商工人居住地区とされ、相ノ原は墓域である可能性が指摘されている。

開発予定面積は845m²と広い敷地であるが、大きく掘削が及ぶ面積は建物部分の約100m²であり、既存建物解体後に同位置に建て替える計画となっていた。既存建物は大正期の木造建物であり、比較的地下の残存状況は良いことが予想された。調査は建物解体用の重機に協力を依頼し、2箇所のトレンチを掘削した。

解体に伴う搅乱層を0.25～0.35mほど除去したところ、暗褐色土が確認された。遺構は確認されず、近世と考えられる土器片が2点出土したのみであったため、下層へ掘削を行った。さらに約0.15m掘削した段階で黒褐色土が検出され、トレンチ2ではかわらけ片や大窯段階の擂鉢が出土したことから、黒褐色土は中世の包含層と考えられた。

しかし、トレンチ1とトレンチ2を比較すると、南側に位置するトレンチ2の方が全体的に残存土層は薄く、近世以降に削平を受けていると考えられた。確認の結果、トレンチ2から楕円形の浅い土坑が1基確認されたが、出土遺物はなく、性格は不明である。

ま と め

土坑以外に中世段階の明確な遺構は検出されなかったものの、包含層が確認されたことは、城下町の範囲とともにこの地域における武田期の土地利用を考える上で重要な成果であり、今後、周辺の調査と合わせて注目したい。

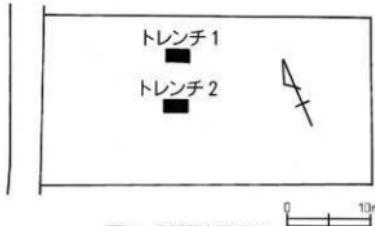


図1 試掘坑配置図

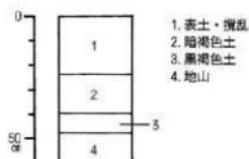


図2 土層柱状図



図3 出土遺物



トレンチ2

16-36 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市古府中町4882-13

調査原因 個人住宅建設

対象面積 165.33 m²

調査面積 4.5 m²

調査期間 平成16年6月16日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、武田城下町に想定されている南北の基軸街路東端の道路に面している。現地は以前に宅地造成された場所であり、造成時に盛土されたと考えられる。調査は、長さ3m、幅1.5mのトレンチを1箇所設定して掘削を行った。

トレンチを掘り下げたところ、予想以上に盛土の厚みがあり、東側については地表下約0.3mで掘削を止め、西側半分のみ掘削した。結果的に地表下約0.6mまで宅地造成に伴う盛土層が堆積しており、直下に旧地表となる水田面が確認された。水田造成層は約0.2mほど確認され、その下層から地山と考えられる黄褐色土層が検出された。地山面からは小礫が比較的まとまって出土した箇所が確認されたが、遺構であるか判断は難しかった。

まとめ

本地点については、遺物もなく、旧水田直下で地山が検出されたことから、少なくとも水田造成段階で削平を受けていると考えられた。小礫のまとまりが遺構であるか結論は出せなかったが、保護される深さであったことから周辺の調査事例の中で将来的に判断しなければならない。

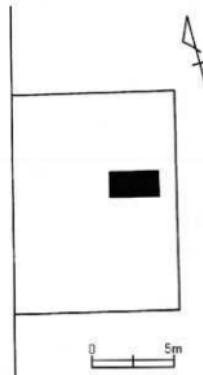


図1 試掘坑配置図



検出状況

16-37 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目1735-11

調査原因 個人住宅建設

対象面積 238.6 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成16年6月25日

調査担当 志村憲一



調査区概要

相川扇状地扇央部標高323.1mに位置し、調査区南側を通る東西の通りは、クランク状の屈曲がみられ、中世段階の遮蔽小路の痕跡と考えられる。調査区周辺の、屋形三丁目2-39では、地表下0.6m地点から中世の溝と遺物が検出されている。

調査結果

建物部分に2m四方のグリッドを2ヶ所設定し、人力で掘削を行なった。両グリッドとも地表下0.12m地点から、厚さ15cmの水田層が確認された。その下層は暗褐色粘質土であるが、遺構・遺物とともに確認されなかった。

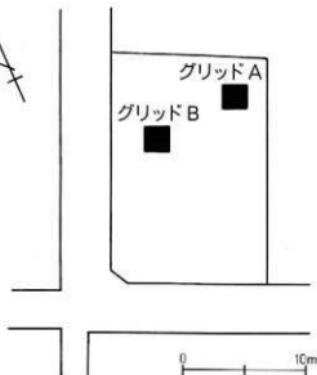


図1 試掘坑配置図



グリッドA

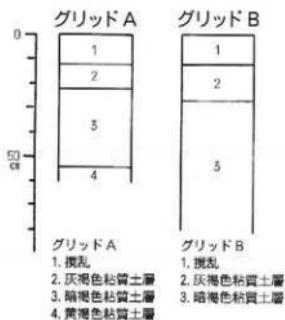


図2 土層柱状図

16-38 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目 2393-2

調査原因 個人住宅建設

対象面積 264.46 m²

調査面積 12 m²

調査期間 平成16年6月28～29日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、城下町内に想定されている南北基軸街路うち中央の道路に面する場所に位置する。本地点南端は道路がクランクしており、旧城下町の名残をみることができる。試掘調査は、建設予定建物内側で長さ6m、幅2mのトレンチを設定して行ったが、地表下約0.3mまで前建物解体時の搅乱層で覆われていた。除去後、水田耕作土である灰褐色土と床土層である黄褐色土が確認され、水田開発以降の搅乱はそれほど大きなものではないことが判明した。

トレンチ西側では、水田層直下において地山が確認され、地山面で柱穴が1基検出されたのみであったが、トレンチ東側については、広範囲に黄褐色土や炭化物の混じる黒褐色土が確認された。サブトレンチを中心にして掘り下げたところ、地山が全く確認できず、規模から想定すると、南北方向に走る堀跡ではないかと考えられた。最終的に西端は地山の立ち上がりが検出されたが、東端は石列なども存在したことから掘削を避けた。したがって、規模の確定はできなかったものの、土層堆積状況から判断するかぎり、東側の立ち上がりはトレンチのすぐ外側に存在するのではないかと考えられた。底面も掘削幅の関係から確認はできなかったが、砂層の堆積が確認されたことから、水の流れがあったことが判明した。

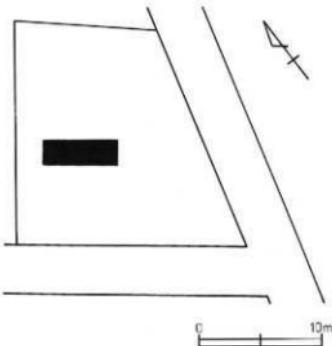


図1 試掘坑配置図



トレンチ

まとめ

検出された堀跡は、地形から考えても北から南へと下る堀跡である可能性が高く、東側に隣接する道路と屋敷地を区画する遺構であるとみられる。古い地籍図にも形跡が無いことから早い段階で埋め戻された堀跡と考えられる。本地点一帯は、字「天久」と呼ばれ、信玄の弟にあたる典熙信繁の屋敷地推定域とされているため、堀跡が家臣屋敷の区画の一部である可能性も考えられる。

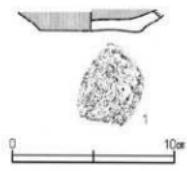


図2 出土遺物



出土遺物

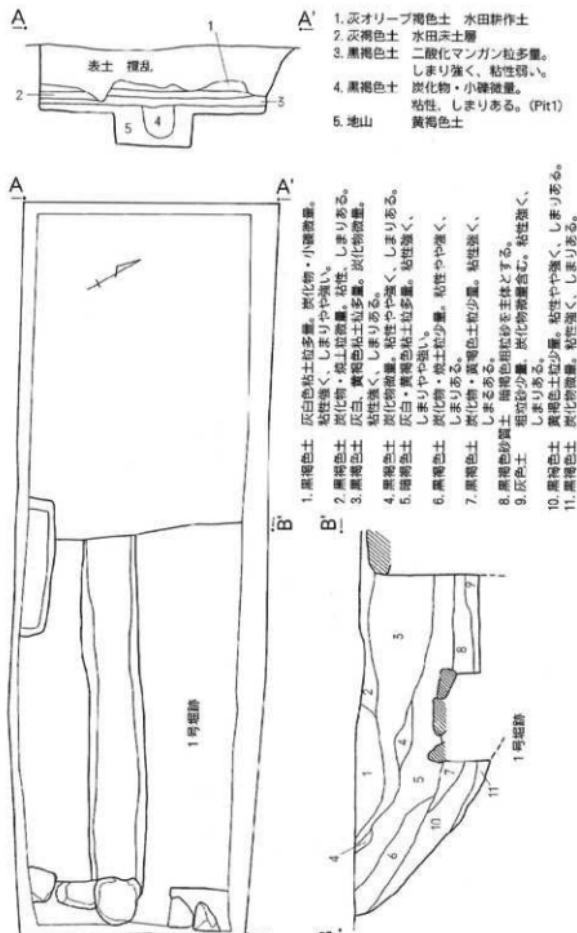


図3 平面・土層堆積図



16-39 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町34-2

調査原因 個人住宅建設

対象面積 47.64 m²

調査面積 3 m²

調査期間 平成16年7月13日～14日

調査担当 伊藤正彦

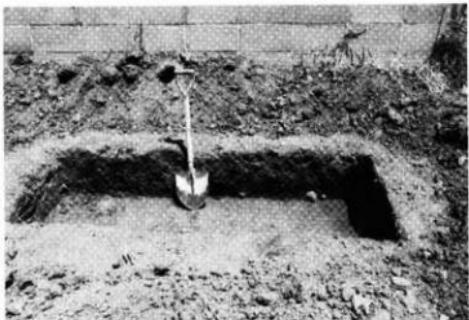


遺跡の概要

本遺跡は、市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国初期創の城下町遺跡である。武田氏居館を中心とした南北五条の基幹街路が配され、城下は南北2.3km、東西1.0kmの範囲に及ぶ。調査地点は遺跡範囲の西南端に位置し、標高約292mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に2×1.5mの試掘坑を設定し、人力により試掘調査を実施した。地表下約55cmまで掘削し、層序は1層表土・礫混じり土（厚35cm）、2層茶褐色土（厚20cm）となる。上層に旧建物解体に伴うコンクリート片などが混入するとともに2層は盛土と考えられ、文化層は確認出来なかった。調査により遺物の出土及び遺構の検出はなかった。記録写真撮影後、埋め戻しを行い、調査を終了した。



調査状況（南から）

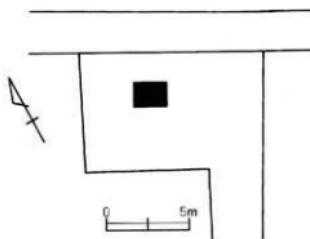


図1 試掘坑配置図

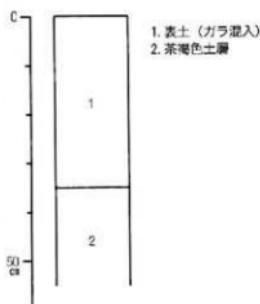


図2 土層柱状図

16-40 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形二丁目 2395-5
調査原因 個人住宅建設
対象面積 502.21 m²
調査面積 18 m²
調査期間 平成16年8月20日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、武田城下町内に設定されている南北基軸街路間の中間を背割するように南北に走る細い道路に面する。この細い道路は、基軸街路クランク部をつなぐ東西道路と接続しており、同じようにクランクを有することから古道と推定される。

以前にはアパートがあり、解体による搅乱が著しいことが予測されたが、東西に長い敷地の内で2×7mのトレンチ1を設定した。トレンチ1は搅乱が全面で確認され、地表下約0.5mで地山が検出された。包含層もなく、地山面で遺構も確認されなかったことから、敷地は全体的に削平されたと考えられた。

そのため、道路側のトレンチ1付近では成果は得られない判断し、敷地内の状況を確認するため、2×2mのトレンチ2を設定して調査を実施した。トレンチ1同様搅乱

が著しく、すぐに地山が検出されたが、東側に黒褐色土が広がっていることが確認された。黒褐色土には礫・小礫が多数含まれており、深く落ち込むことが判明したため、規模と形態、及び土層堆積状況から判断して井戸跡と考えられた。

まとめ

調査の結果から判断するかぎり、地形的に南側への傾斜地であるため、平場を造成する際に本地点は削平によって造り出された敷地である可能性が高く、遺構面が浅かったために近代の開発で搅乱を受け、井戸跡のような深い遺構だけが残されたと考えられる。逆に既存建物の存在する南側は盛土されている可能性が高く、遺跡が残されているのではなかろうか。

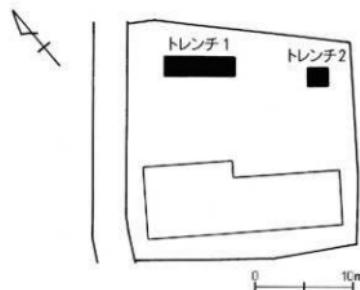


図1 試掘坑配置図



図3 出土遺物

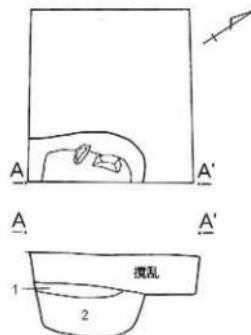


図2 平面・土層堆積図

16-41 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目2494-2他
調査原因 集合住宅建設
対象面積 228.85 m²
調査面積 45 m²
調査期間 平成16年9月7日～14日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、梅翁曲輪の南側に位置し、城下町内に設定されている南北基軸街路をつなぐ東西道路に面する。

建物建設予定地南東側で2×2mのグリッドを設定して調査を開始したが、地表下約0.35mで地山が検出された。地山面上ではピットが2基確認されたことから周囲にも遺構が展開する可能性があると判断し、状況を確認するため範囲を拡張して調査を実施した。

検出遺構

南北約8m、東西約5.5mの規模で掘削し、地山上でピットなどの遺構確認を行った。ピット群の中には約1間幅で並ぶものもあり、掘立柱建物跡の可

能性もあると考えられた。調査区北東隅では半円形の遺構が確認され、形状から土坑か井戸跡ではないかとみられたが、遺構壁も垂直に近い形で落ち込み、堆積土も厚いことが明らかになったことから井戸跡と断定した。堆積土には多量の焼土粒、炭化物が混入しており、かわらけを主体とする16世紀中葉の遺物群が出土した。井戸跡は全体を確認するために調査範囲を拡張して掘削を行い、ほぼ全形を検出した。

しかし、井戸跡直上に建設される建物基礎が入ることから建物への影響を考慮した上で掘削は必要最低限に止め、約0.7mまでの掘削とした。

出土遺物

掲載した遺物はすべて1号井戸跡からの出土品で、かわらけのうち7点には熔融物が付着していた。そのうち、3・9・11には金粒の付着が確認されている。このような熔融物が付着したかわらけの出土状況は、武田氏館跡東側に位置する字三角・字高塚や字鍛冶小路一帯でみられる様相と類似しており、かわらけはこの付近で行われた鍛冶等に伴い廃棄されたものと考えられる。

まとめ

本地点は、信玄の弟にあたる典厩信繁の屋敷地推定域とされている字「天久」内に位置することから、武家屋敷に関わる遺構・遺物が検出される可能性が考えられた。しかし、1号井戸跡の遺物をみるとかぎり、必ずしもそうとは言い切れない状況である。1号井戸跡

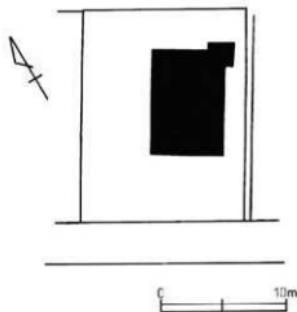
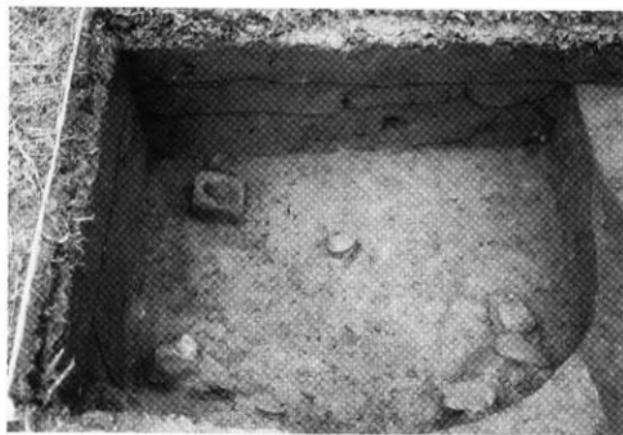


図1 試掘坑配置図

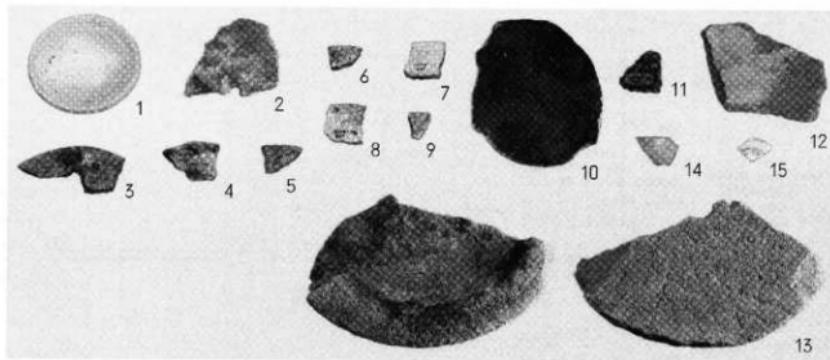
覆土中の炭化物などは、調査段階では火災による廃棄物と考えていたが、出土したかわらけの様相は、必ずしも火災による廃棄ではなく、鍛冶場の作業に伴って廃棄された可能性が高いことを示していると考えられ、この地区的性格を考える上で興味深い成果であった。

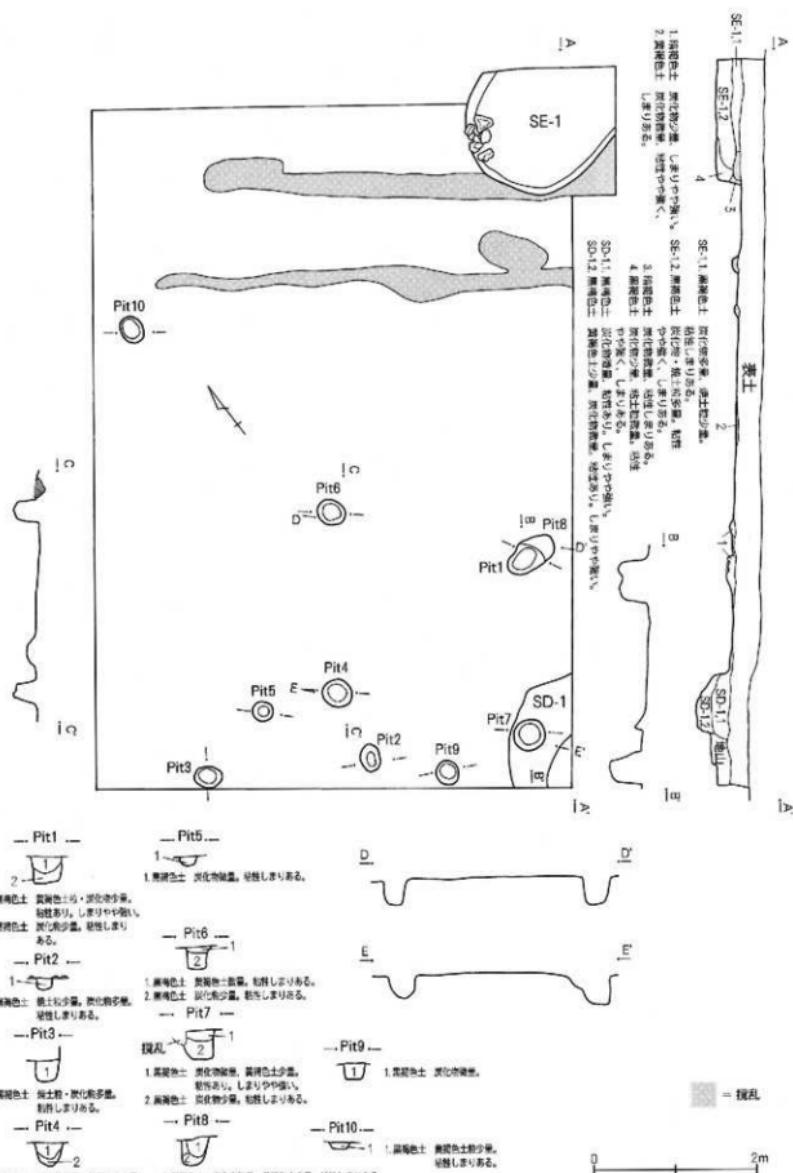


1号井戸



調査状況





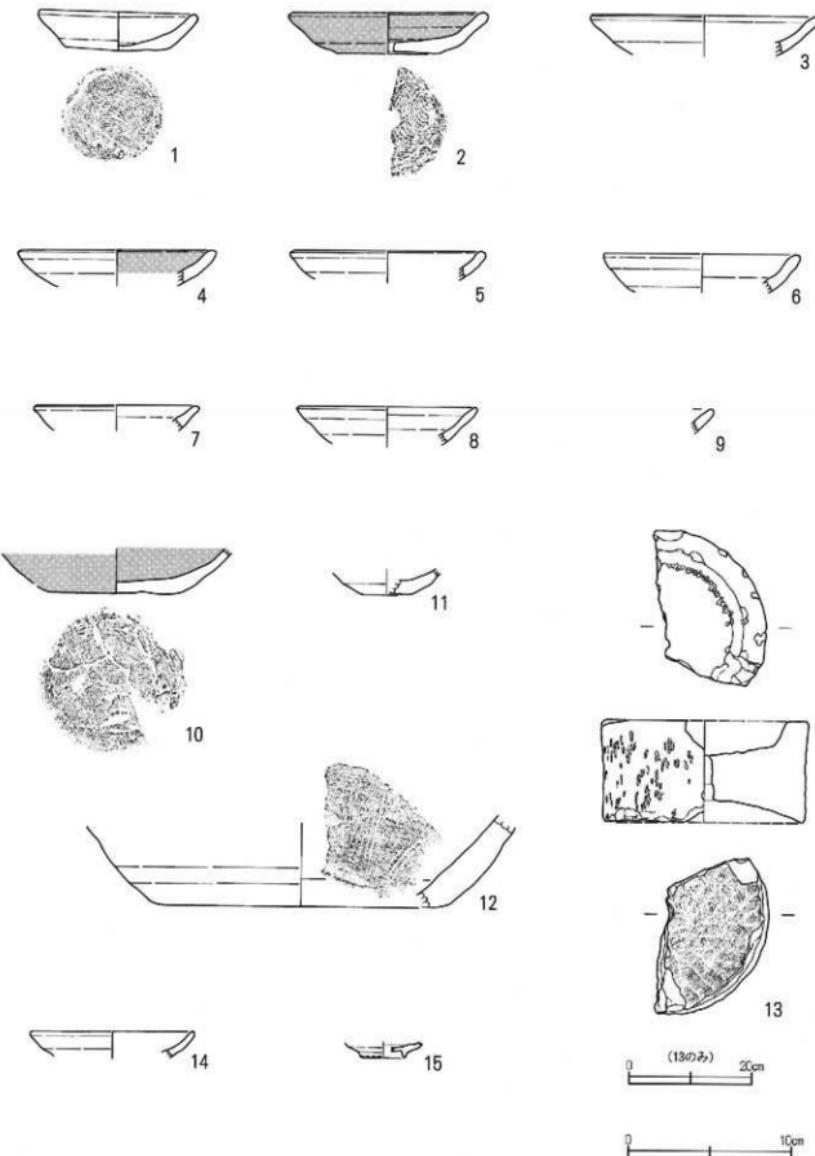


図3 出土遺物

16-42 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形三丁目 1747-25

調査原因 個人住宅建設

対象面積 195.04 m²

調査面積 6 m²

調査期間 平成16年10月27日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、武田城下町遺跡の中央に位置する。調査区全体は武田城下町遺跡の範囲指定以前に宅地造成を終えた場所であり、北側の道路に高さを合わせて盛土されたと考えられた。そのため、南接する道路面からは1m以上高い敷地となっており、北側を建物、南側を駐車場として利用するため、南側の一部を切土する計画であった。

試掘調査は、建物と駐車場を隔てる擁壁工事で東西方向を溝状に掘削するとのことで、工事に合わせて断面観察と地下の状況を確認することとした。東西を横断するように約0.8×8mの幅でトレンチ状に掘削したが、地表から地山まで約1.5mの間はすべて盛土されていた。掘削した床面は地山であり、礫層まで達していることが確認されたことから、遺構・遺物はないと判断した。

ま と め

城下町でも扇状地扇央部に位置することから立地条件は良好であったが、残念ながら、城下町に関わる遺構・遺物は検出されなかった。

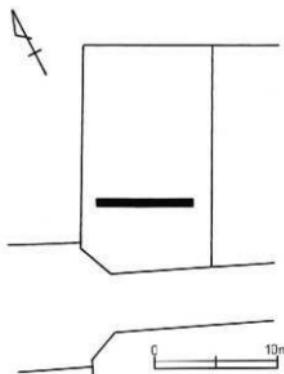


図1 試掘坑配置図



トレーニチ（北壁）

16-43 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市元糸屋町57-22
調査原因 個人住宅建設
対象面積 402.71 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成16年11月16日
調査担当 志村憲一



調査区概要

相川扇状地扇央部標高約290mに位置し、調査区西側には16世紀段階からの大泉寺小路が通る。近世以降は寺院が多く置かれていた地域である。

調査結果

建物部分に2m四方のグリッドを1ヶ所設定し、人力で掘削を行なった。地表下0.6m地点から径1.7m、深さ0.4mの土坑が1基検出された。土坑の黒褐色粘質土層内からは、かわらけ・染付磁器・瀬戸美濃系陶器など16世紀代の遺物が検出された。土坑の性格等については不明である。

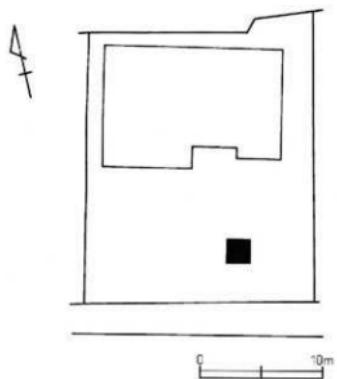
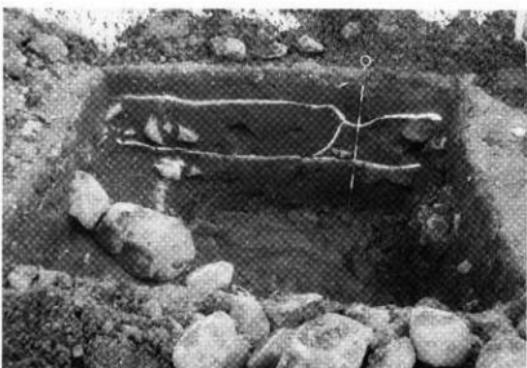


図1 試掘坑配置図



土層堆積状況（東から）

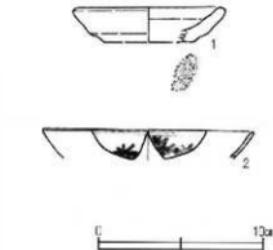
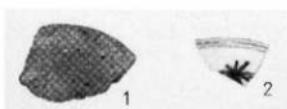


図2 出土遺物



出土遺物

16-44 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市元紺屋町 69-2
調査原因 個人住宅建設
対象面積 240.01 m²
調査面積 9 m²
調査期間 平成 16 年 11 月 18 日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地点は、愛宕山西麓に位置し、背後には妙遠寺の墓地が迫っている。当初は、ベタ基礎工法で施工するために深い掘削を伴わないことから立会調査で対応することとなっていたが、地耐力調査によって地盤改良を伴う基礎構造へ変更されたことから試掘調査とした。

地表から約 0.25 m の盛土があり、その下層に黒褐色土層が 0.1 m ほど堆積していたが、遺物や遺構などは確認されず、さらに北側半分を掘削した。約 0.6 m まで掘り下げたところで粘土質の黒色土約 0.2 m を検出したが、特別な変化もなく、遺構・遺物は検出されなかった。さらに北西隅のみ深掘りし、下層の上層を確認したが、大きな変化は確認されなかったため、本地点は遺跡なしと判断した。

まとめ

本地点付近ではこれまで調査例は少なく、全体の様相は不明であったが、中世城下町の痕跡は皆無であった。土層も湿地のような堆積を示し、調査中も水が湧く環境であったことから、愛宕山からの地下水の湧水も含めて水位の高い地域であったことが窺え、居住には適さなかったのではないかと推測される。

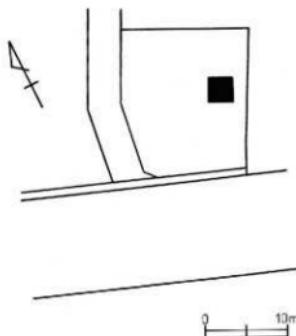


図 1 試掘坑配置図

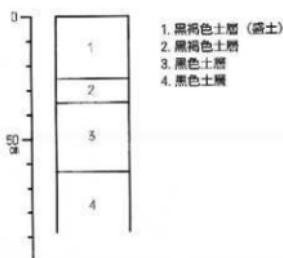
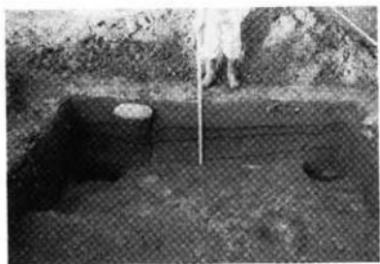


図 2 土層柱状図



調査状況

16-45 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市屋形一丁目1797-2他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 69.56 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成16年11月26日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市街の北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。城下の範囲は、武田氏の居館「躑躅ヶ崎館」を中心として現在のJR甲府駅付近まで広がっていたものと推量される。調査地点は館の南端、梅翁曲輪より約300m南下した標高約332mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に2×2mの試掘坑を設定し、重機・人力により試掘調査を実施した。深さ約60cmまで掘削した。旧建物解体に伴う盛土・整地層が約40cmあり、それ以下に茶褐色土(厚20cm)が堆積する。調査により遺物の出土及び遺構の検出はなかった。記録写真撮影後、埋め戻しを行い、調査を終了している。

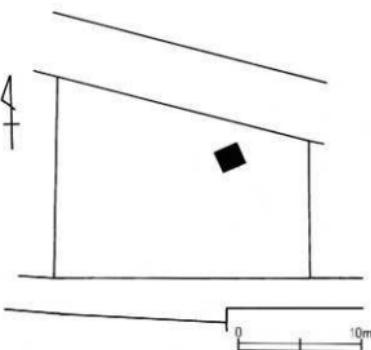
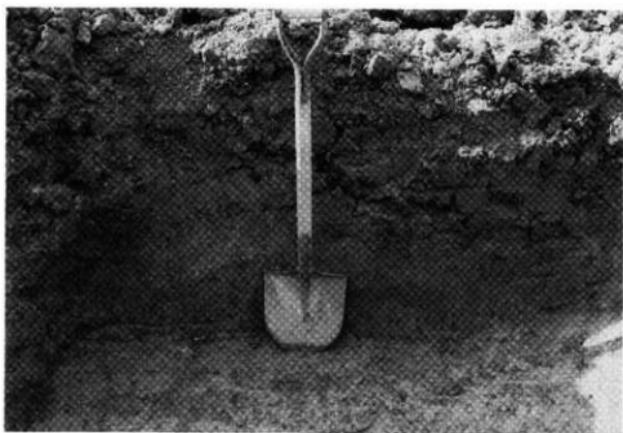


図1 試掘坑配置図



調査状況

16-46 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町81他

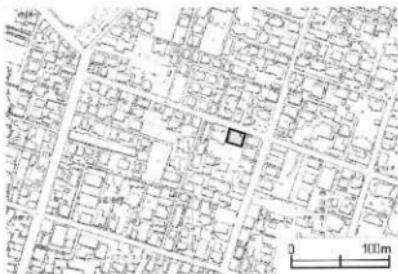
調査原因 デイサービス建設

対象面積 596.09 m²

調査面積 43.47 m²

調査期間 平成16年12月9日～11日

調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、市街北部、相川扇状地一帯に広がる戦国期開創の城下町遺跡である。武田氏居館を中心には南北五条の基幹街路が配され、城下は南北2.3km、東西1.0kmの範囲に及ぶ。調査地点は遺跡範囲の西南端に位置し、標高約332mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に延べ2.1×20.7mの試掘坑を設定し、重機・人力により試掘調査を実施した。対象地中央を境に南北で1m程の比高差が存在したため試掘坑を2本設定し、調査を行った。対象地南側に設定した試掘坑1は深さ約0.6m、一部1.2mまで掘削した。地表下約0.2mまで碎石の整地層が、それ以下に旧建物解体に伴う搅乱・整地層(厚30cm)が堆積する。それ以下は地山層と考えられ、部分的に旧建物解体に伴う搅乱が地山層まで及んでいた。

対象地北側に設定した試掘坑2も層序に変化なく、文化層は確認出来なかった。

調査により遺物の出土及び遺構の検出はなかった。記録写真撮影後、調査を終了した。

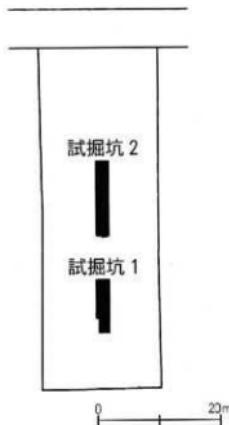


図1 試掘坑配置図



試掘坑1（北から）

16-47 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市大手二丁目 4081-6

調査原因 個人住宅建設

対象面積 239.68 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成17年2月4日

調査担当 志村憲一



調査区概要

相川扇状地扇央部標高318mに位置し、調査区西側には中世以来の鍛冶小路が南北に通る。

調査結果

建物部分に2m四方のグリッドを2ヶ所設定し、地表下0.6m地点の地山層まで人力で掘削を行なった。両グリッドとも遺構・遺物は確認されなかった。

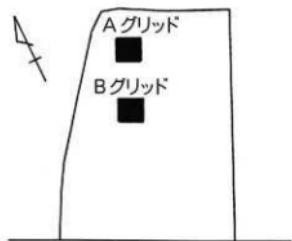


図1 試掘坑配置図

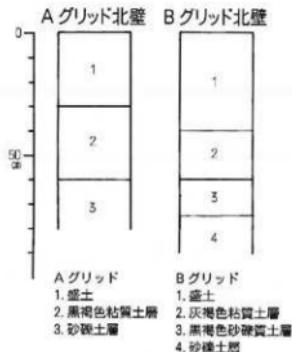


図2 土層柱状図

16-48 武田城下町遺跡

調査位置 甲府市天神町 233-1

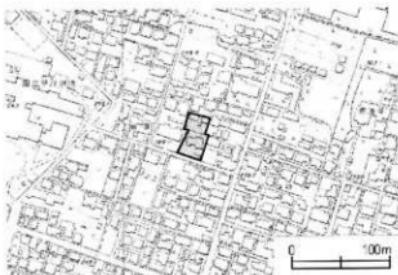
調査原因 宅地造成

対象面積 851.98 m²

調査面積 117.75 m²

調査期間 平成17年2月4日～15日

調査担当 志村憲一



調査区歴史

調査区は、相川扇状地扇央部標高293m、遺跡範囲の西端に位置する。調査区周辺は武田家家臣、大熊備前守の屋敷跡の伝承地であり、北側には大熊氏の屋敷神と云われている天神社が位置する。調査区南西側では、16世紀段階の遺構・遺物が検出されている。

調査概要

調査区に5本のトレンチを設定し、重機及び人力で遺構・遺物の確認作業を行った。北側トレンチ1～3に関しては、遺構・遺物ともに確認されではない。南側のトレンチ4・5からは、遺構・遺物が確認されている。遺構が確認されたトレンチに関して記載を行なう。

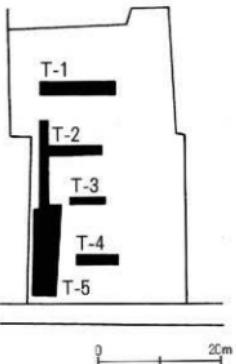


図1 試掘坑配置図

検出遺構

トレンチ4

東西6.5m、幅1.5m、深さ約0.6mを掘削した。地表下0.6mの地山層に掘り込まれた、南北方向の溝1条とビットが4基検出された。遺物は確認されてはない。

トレンチ5

南北方向に長く63.8 m²の範囲を掘削した。地表下0.4～0.6mの地山層に掘り込まれた溝4条とビットが13基検出された。覆土は暗茶褐色土であり、かわらけ・擂鉢など16世紀代の遺物が出土した。

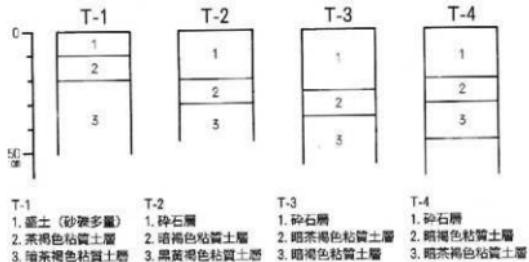


図2 土層柱状図

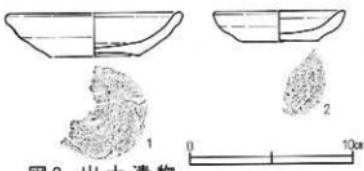


図3 出土遺物

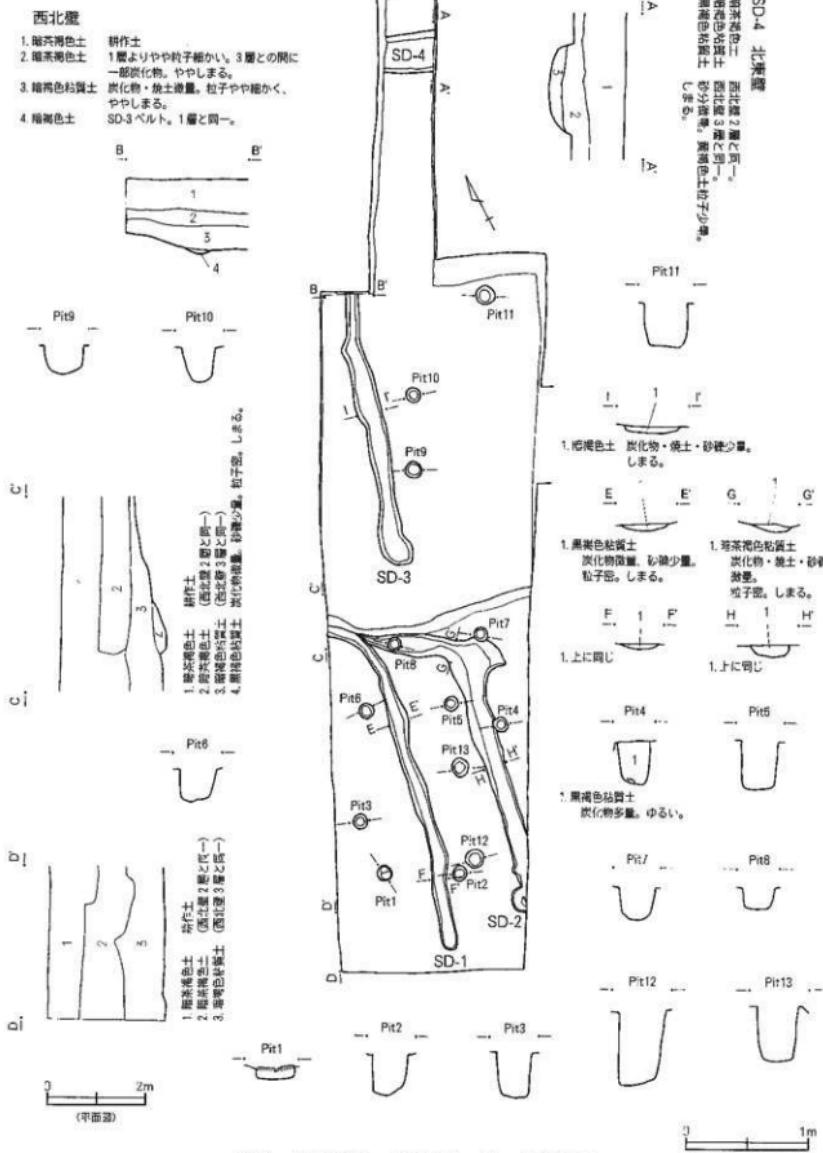
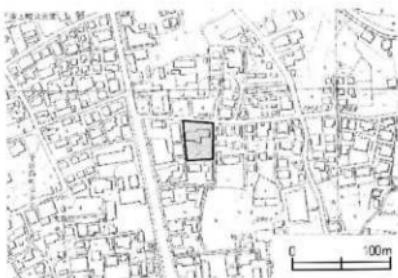


図4 T-5 平面・土層堆積・ピット断面図

16-49 塚本遺跡

調査位置 甲府市千塚三丁目 2069 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 169.48 m²
調査面積 20 m²
調査期間 平成 17 年 3 月 18 日～ 21 日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、盆地北縁部、市街西部を南流する荒川左岸の自然堤防上に位置する。当地域で人々の足跡が認められるのは、縄文時代前期後半からである。平成 4 年に調査された榎田遺跡からは、当該期の土器・石器を検出し、弥生時代後半より人類の生活の痕跡が確実に認められる。荒川左岸は「千塚」の地名が示すように、6 世紀中頃から大規模な古墳群が築造されてきた地であり、開発によりすでに多くが消滅したようであるが、湯村山山麓から山裾にかけて多数の古墳が現存する。万寿森古墳・加牟那塚古墳は、東日本有数の規模をもつ円墳であり、盆地西部を拠点とした有力首長の墳墓と推量されている。これらの他、穴塚古墳も荒川流域で現存する数少ない古墳の一つであり、古墳時代以来当地は有力氏族が居住する拠点地域であったと考えられている。近年、開発が進み住宅が増加する状況である。調査地点は、標高約 295 m を測る住宅地である。

調査の概要

対象地に 2 × 10 m の試掘坑を設定し、試掘調査を実施した。対象地全体にわたり盛土が約 70 cm 施されるとともに、部分的に攪乱を受けていた。土層確認のため一部地表下 1 m まで掘削を行ったが、盛土の下層に旧水田耕作土（厚 10 cm）、褐色土（水田底土、厚 10 cm）、褐色砂層（厚 10 cm）が堆積していた。遺構・遺物とも確認できず、記録写真撮影後、調査を終了している。

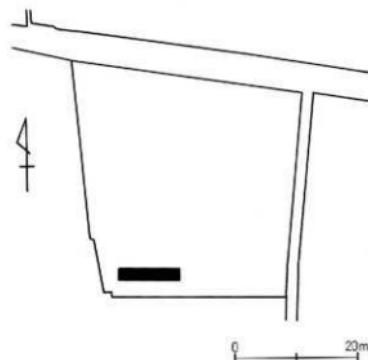


図 1 試掘坑配置図

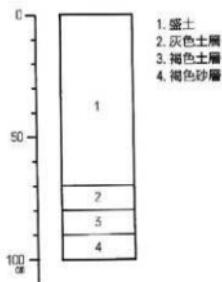


図 2 土層柱状図

16-50 堤下B遺跡

調査位置 甲府市東光寺町1417
調査原因 個人住宅建設
対象面積 45.1 m²
調査面積 4 m²
調査期間 平成16年4月22日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、大笠山東側斜面が高倉川によって開削された扇状地で、北北西から南に向かって傾斜する斜面地の標高275m付近である。周囲との比高差は西側道路より-110cm、東側果樹園より+100cmであった。

調査の結果

調査を実施する前から周辺との比高差が100cm以上あることから、現地は斜面を造成したことが予想された。実際に掘削すると、表土より下層でも堆積した土壤にしまりがなく、土中から現代のものと思われるゴミも出土した。

元地表面から70cm下層で、長径約40cmの石が堆積していることが看取できた。予定される基礎もこれ以上深く達しないことに加え、人力で掘削することも困難だったため、試掘調査を終了とした。

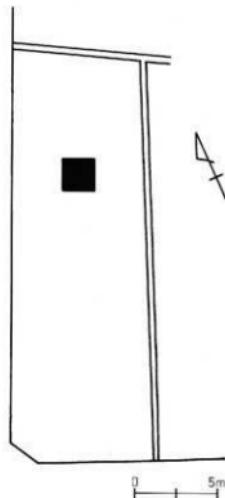
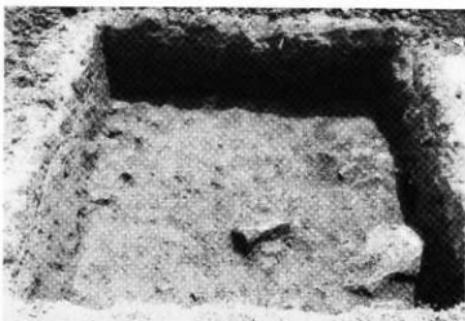


図1 試掘坑配置図



調査状況

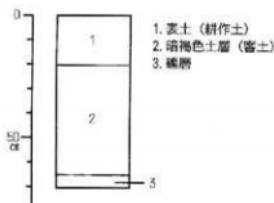


図2 土層柱状図

16-51 天神西遺跡

調査位置 甲府市千塚四丁目 3154

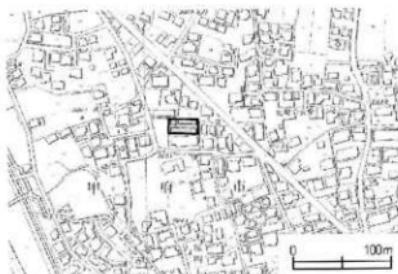
調査原因 個人住宅建設

対象面積 483.04 m²

調査面積 19 m²

調査期間 平成16年8月2日

調査担当 佐々木 満



調査の概要

本地区は、天神西遺跡の包蔵地線上に位置する。面積的には広いが、個人住宅で建築面積は約90 m²であることから、小規模な確認に止めた。平屋の住宅が数棟建っていたものを解体した直後であったが、予想外に地下の状態は良好で、すぐに宅地造成前の水田跡が検出された。水田層を除去すると砂質の黒褐色土が検出され、西壁際から0.3m程度の礎石のような石が確認された。掘り込みなど変わった様子もなかったが、建物礎石も想定し、尺間で照らし合わせて延長部分を掘削したが

石は認められなかったことから、包含層中の礎と判断した。なおも掘り下げたところ、約0.6mで地山と考えられる黄褐色の砂質土が検出され、南側に遺構と考えられる黒褐色土の堆積が認められた。東側半分を掘削したところ、落ち込みがはっきりと確認され、規模と形態から堅穴建物跡と考えられた。遺物も少ないとから時期は明確ではないが、中世の遺構と考えられる。全体に少し土を入れて盛土するとのことで、予定建物基礎は包含層上で止まり、直接遺構までは届かないため、調査はこの段階で終了とした。ただし、急のため、後日基礎掘削に際しては立会を行うこととした。立会では、住宅基礎は、水田層をやや掘削したところで溝状に掘り進めており、水田層掘削中に土器片が出土したが、遺構などは確認されなかった。

まとめ

御岳へと通じる信仰の道に近接した場所から中世に属する堅穴建物跡が検出されたことは興味深く、今後この一帯の中世を考える上では貴重な発見であった。

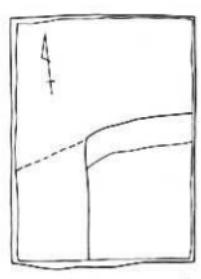


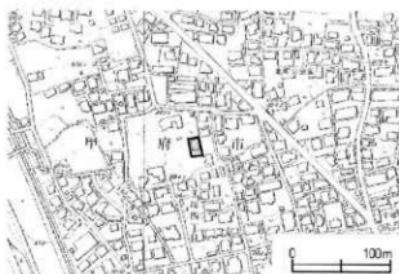
図3 平面図



図2 土層柱状図

16-52 天神西遺跡

調査位置 甲府市千塚四丁目3221-3他
調査原因 店舗併用住宅建設
対象面積 110.53 m²
調査面積 5.75 m²
調査期間 平成16年9月15日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、盆地北縁部、市街西部を南流する荒川左岸の自然堤防上に位置する。縄文時代前期後半から当地域で人々の足跡が認められ、弥生時代後半より生活の痕跡が確実に認められる。6世紀中頃から大規模な古墳群が築造されてきた地であり、開発によりすでに多くが消滅したようであるが、湯村山山麓から山裾にかけて多数の古墳が現存する。万寿森古墳・加牟那塚古墳などは盆地西部を拠点とした首長の墳墓と推量され、古墳時代以来当地は有力氏族が居住する拠点的地域であったと考えられている。調査地点は、標高約300mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地に2.1×1.5m（試掘坑1）、2×1.3m（試掘坑2）の試掘坑を2ヶ所設定し、人力により試掘調査を実施した。試掘坑1は住宅建築箇所南側に、試掘坑2は北側に設定し、それぞれ地表下約50cmまで掘削した。すでに対象地一帯は盛土整地され、それ以下に旧建物の解体に伴う整地層が堆積する。地表下10～20cmに盛土・整地層が堆積し、それ以下に2層灰褐色土が堆積する。遺物包含層などは確認出来なかった。調査により遺物の出土及び遺構の検出はなかった。記録写真撮影後、調査を終了している。

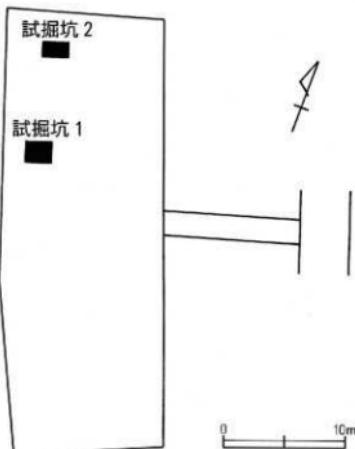
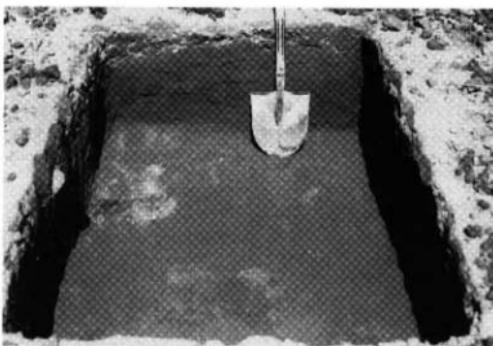


図1 試掘坑配置図



試掘坑1

16-53 長沢遺跡

調査位置 甲府市和戸町 1066 他

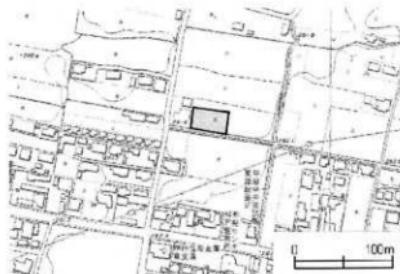
調査原因 宅地造成

対象面積 596.09 m²

調査面積 140.3 m²

調査期間 平成 16 年 12 月 20 日～ 22 日

調査担当 伊藤正彦

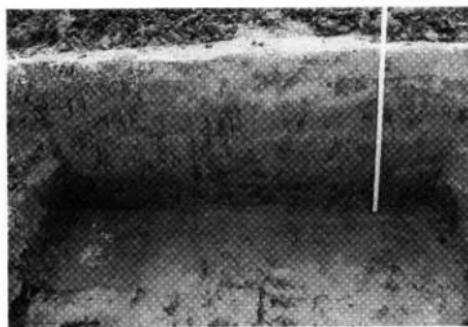


遺跡の概要

長沢遺跡は、盆地北縁部、市内東部地域に存在し、大山沢川が形成した扇状地扇端部及び十郎川・渦川によって形成された沖積地上に位置する。一帯は、古墳時代前期から平安時代の遺跡が濃密に分布する地域である。

調査の概要

対象地に 2.3 × 26.5 m（試掘坑 1）と 2.3 × 34.5 m（試掘坑 2）の試掘坑 2 本を設定し、重機・人力により試掘調査を実施した。対象地南側に設定した試掘坑 1 は深さ約 60 cm、一部、土層確認のため 1.1 m まで掘削した。遺物・遺構は検出できず文化層も確認できなかった。対象地北側に設定した試掘坑 2 も層序に変化なく、遺物・遺構とともに確認出来なかった。記録写真撮影後、調査を終了した。



試掘坑 1

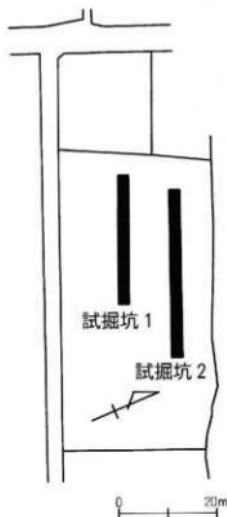


図 1 試掘坑配置図

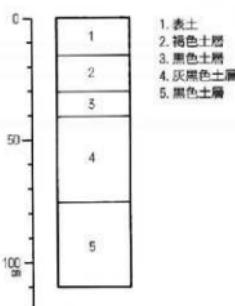
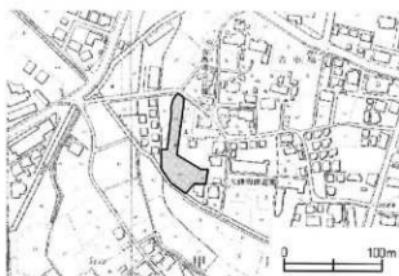


図 2 土層柱状図

16-54 西耕地B遺跡

調査位置 甲府市大里町4388-2
調査原因 宅地造成
対象面積 1536 m²
調査面積 24 m²
調査期間 平成16年8月6日・9日
調査担当 志村憲一

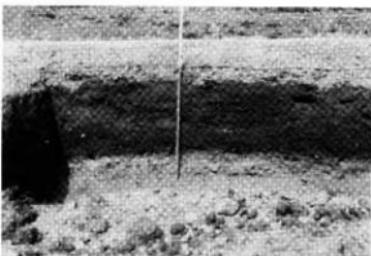


調査区概要

甲府盆地中央部標高253m地点に位置する中世の遺跡である。調査区周辺は古市場の集落南西側に位置し、調査区に隣接する東側は旧寺院跡であり、元禄の紀年銘を持つ石幢と無縫塔が安置されている。

調査結果

宅地造成地の道路部分に、南北3m、幅2mのグリッドを4ヶ所設定し、地表下1.2m地点まで掘削を行なった。各グリッドの堆積層とも3層に分層されるが、いずれのグリッドにおいても第3層の地山層まで搅乱が及び、造構・遺物は確認されなかった。



Aグリッド

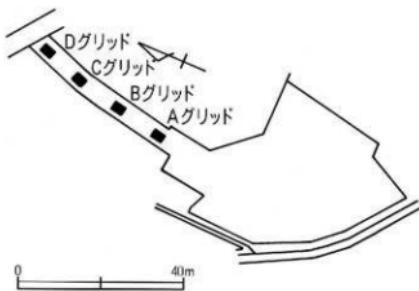


図1 試掘坑配置図



16-55 八幡東遺跡

調査位置 甲府市湯村三丁目 2329-1 他

調査原因 個人住宅建設

対象面積 53.31 m²

調査面積 12 m²

調査期間 平成16年8月11日

調査担当 伊藤正彦

遺跡の概要

本遺跡は、盆地北縁部、荒川が形成した扇状地の扇央部、荒川左岸に位置する。北側背後に湯村山が迫り、南側前面に盆地低平地が広がる。弥生時代から古墳時代の遺跡として周知され、調査地は標高約290mを測る。一帯はすでに宅地化されている。

調査の概要

対象地に4×1.5mの試掘坑を2箇所設定し、重機・人力により試掘調査を実施した。試掘坑1は西側に、試掘坑2は東側に設定し、それぞれ地表下約0.4mまで掘削した。すでに対象地一帯は碎石により整地され、それ以下に旧建物解体に伴う整地層が堆積していた。遺物の出土及び遺構の検出はなく、記録写真撮影後、調査を終了した。

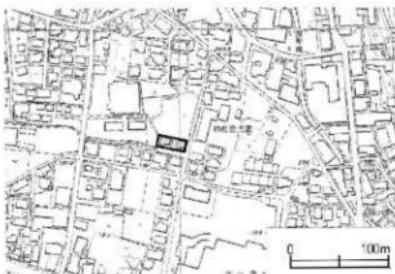


図1 試掘坑配置図



試掘坑2（東から）

16-56 富士見遺跡

調査位置 甲府市富士見一丁目8-6
調査原因 集合住宅建設
対象面積 513.53 m²
調査面積 40 m²
調査期間 平成16年9月14日
調査担当 志村憲一



調査区概要

甲府盆地北縁の荒川左岸標高277m地点に位置する古墳時代及び平安時代の遺跡である。調査区は遺跡範囲の北端部に位置し、平成14年度に隣接する北側の土地を調査した際、流れ込みと考えられる、磨耗した土師器が数点出土した。

調査結果

建物位置に東西20m、幅2mのトレチを1ヶ所設定し、地表下1.7m地点まで掘削を行なった。地表下1.7m地点まで粒子が細かい砂層であり、その下層は砂礫層となり、遺構・遺物とともに確認されなかった。

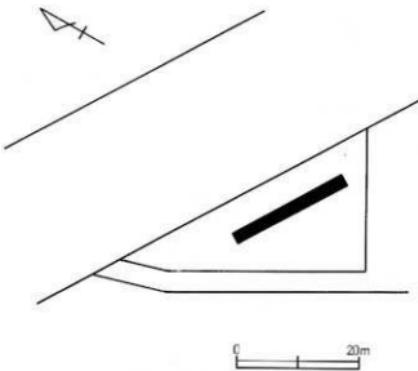
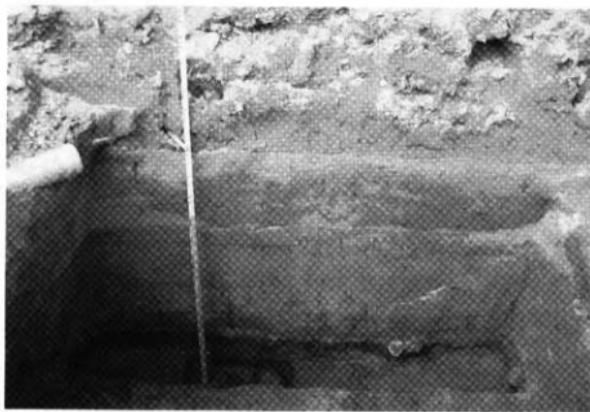


図1 試掘坑配置図



土層堆積状況（北壁）

16-57 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘一丁目128-2

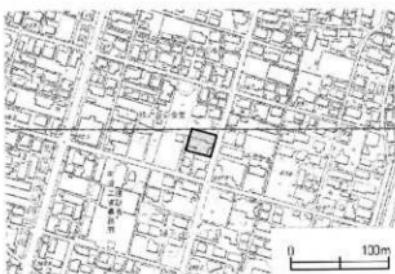
調査原因 個人住宅建設

対象面積 551.01 m²

調査面積 8 m²

調査期間 平成16年7月14日～15日

調査担当 志村憲一



遺跡の概要

本遺跡は、甲府盆地の北縁部、相川が形成した扇状地の扇央部、相川右岸に位置する。周辺の調査により、古墳時代の遺跡として周知され、調査地は標高約288mを測る住宅地である。

調査の概要

対象地にグリッドを2ヶ所設定し、土層堆積状況、遺構・遺物の有無確認を行った。グリッドA・Bとともに6層の土層堆積が確認された。必ずしも対応関係にはないが両地点とも第6層の黒色粘質土層内から、古墳時代の土器師が検出された。狭隘な範囲のため遺物のみの確認にとどまったが、遺構が存在することが考えられる。

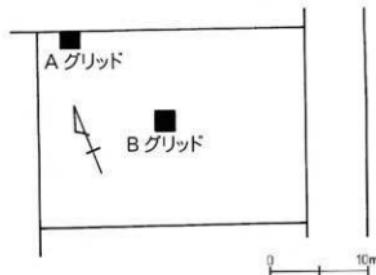


図1 試掘坑配置図



Bグリッド北壁

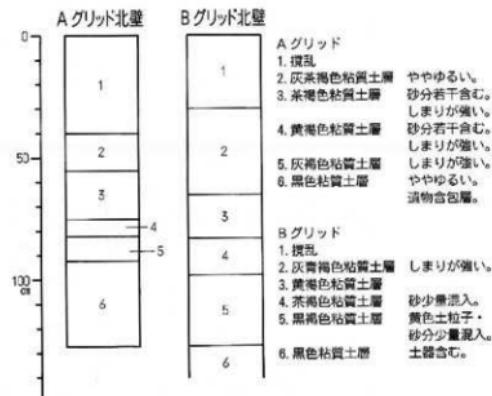
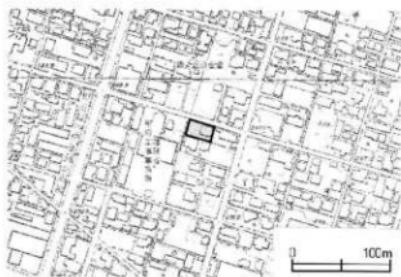


図2 土層柱状図

16-58 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘一丁目 127-2
調査原因 事務所併用住宅建設
対象面積 276.53 m²
調査面積 18 m²
調査期間 平成16年8月27日
調査担当 伊藤正彦



遺跡の概要

本遺跡は、盆地の北縁部、相川が形成した扇状地の扇央部、相川右岸に位置する。遺跡の北側背後に湯村山が迫り、南側前面に盆地が広がる。縄文時代から平安時代の遺跡として周知され、調査地は標高約287mを測る。一帯は、すでに宅地化されている。

調査の概要

対象地に2×9mの試掘坑を設定し、重機・人力により試掘調査を実施した。地表下約0.8mまで掘削し、すでに対象地は旧建物解体により盛土・整地されており、地表下0.4mまで盛土・搅乱層が、それ以下に茶褐色土が堆積する。調査により遺構・遺物とも確認できなかった。記録写真撮影後、調査を終了した。

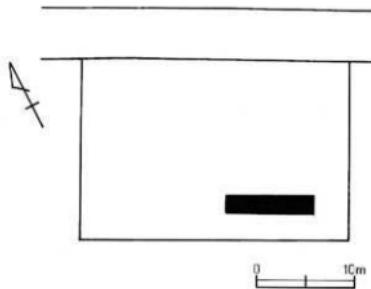
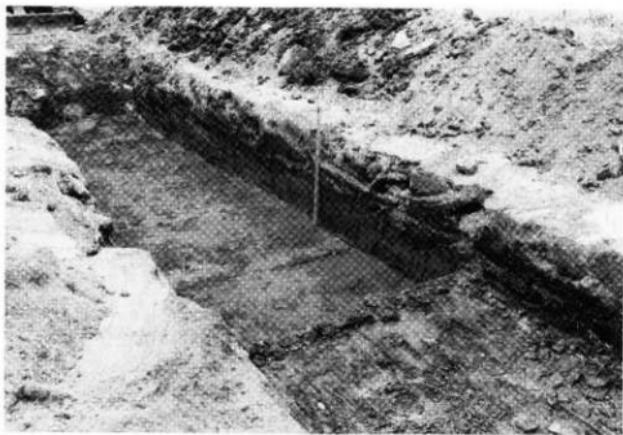


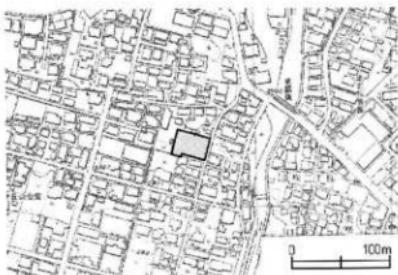
図1 試掘坑配置図



調査状況（東から）

16-59 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘二丁目91-2
調査原因 宅地造成
対象面積 819.83 m²
調査面積 60 m²
調査期間 平成16年10月1日～11月1日
調査担当 佐々木 満



調査の概要

調査対象区全体は長方形の敷地であり、3区画に宅地分譲する計画であった。試掘調査は道路となる敷地南側を幅約3mのトレンチで調査した。全体的に近現代に造成されたと考えられる疊層などを伴う搅乱が著しかったが、残りが良好な場所では現地表約0.4mから包含層が確認された。包含層出土の遺物量が多く、遺構はその下層において、最終的に溝跡2、竪穴建物跡3、ピット7、土坑1を検出した。

また、調査区東側からは巨石3石とその周囲から小礫が検出された。古墳の可能性も考えられたが、全体的に削平等が著しく、石室と判断するだけの材料も乏しかったことから、記録としては最低限に止めた。

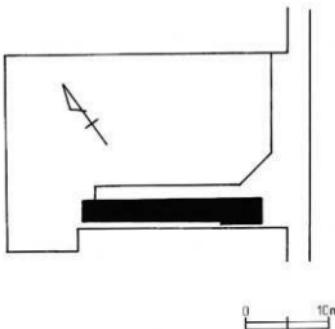


図1 試掘坑配置図

検出遺構

溝跡は2条検出されているが、包含層を掘り込む形で東西方向に部分的に配石を有する1号溝跡が検出された。時代は近世以降と考えられる。1号溝跡と直交するように南北方向の2号溝跡が調査区東側で検出されている。

竪穴建物跡は、3棟検出されている。いずれも下層に焼土や炭化物が散在していたために床面は辛うじて確認できたが、壁面は不明瞭であり、2・3号竪穴建物跡などは重複関係も明確にすることはできなかった。

1号竪穴建物跡とした住居からは、壁際の竈脇から土器壙が完形のまま複数重なって出土した。竈は排煙の張り出しじゃなく、堆積した焼土量からも使用頻度は低かったと考えられた。そのまま放置された状態で出土した土器の状況からも何らかの理由で短期間に使用され、廃絶した建物と考えられる。

このほか、最も搅乱が著しかった調査区中心付近ではPit3～6や1号土坑が検出されているが、Pitは配置からみて竪穴建物跡であったと考えられ、1号土坑も竪穴建物跡の竈であった可能性が高いことから、本調査区には5棟の竪穴建物跡が存在していたとみられる。

出土遺物

掲載した遺物の多くは1号竪穴建物跡の出土遺物であり、1～14の壙については、竈脇に重ねて設置された状態で出土しており、古墳時代後期の一括資料としては良好な状態で

あった。15は碗、16は小壺、17は甌、18は瓶である。23については、弥生時代末期の甌であった。本調査区の中では時期的には他の土器より古い遺物であり、付近に弥生末期から古墳時代の遺構が存在した可能性が考えられる。

ま と め

古墳時代後期の集落の一部が確認されたが、全体的に遺構覆土の見分けが難しく、竪穴建物跡の範囲については、確実性を欠く調査となってしまった。

調査区東側で検出された巨石群に関しては、調査段階では古墳と判断できなかったものの、その後、本地点南側を平成17年度に本調査した際、須恵器平瓶とフラスコ瓶が出土したことから、古墳の石室であった可能性が高い。

調査区の取り扱いに関しては、宅地部分は盛土することとなり、個々の住宅構造に応じて対応することとした。



1号竪穴建物跡カマド（西から）



1号竪穴建物跡土器検出（西から）



2号竪穴建物跡検出（南東から）



3号竪穴建物跡土器検出（北西から）

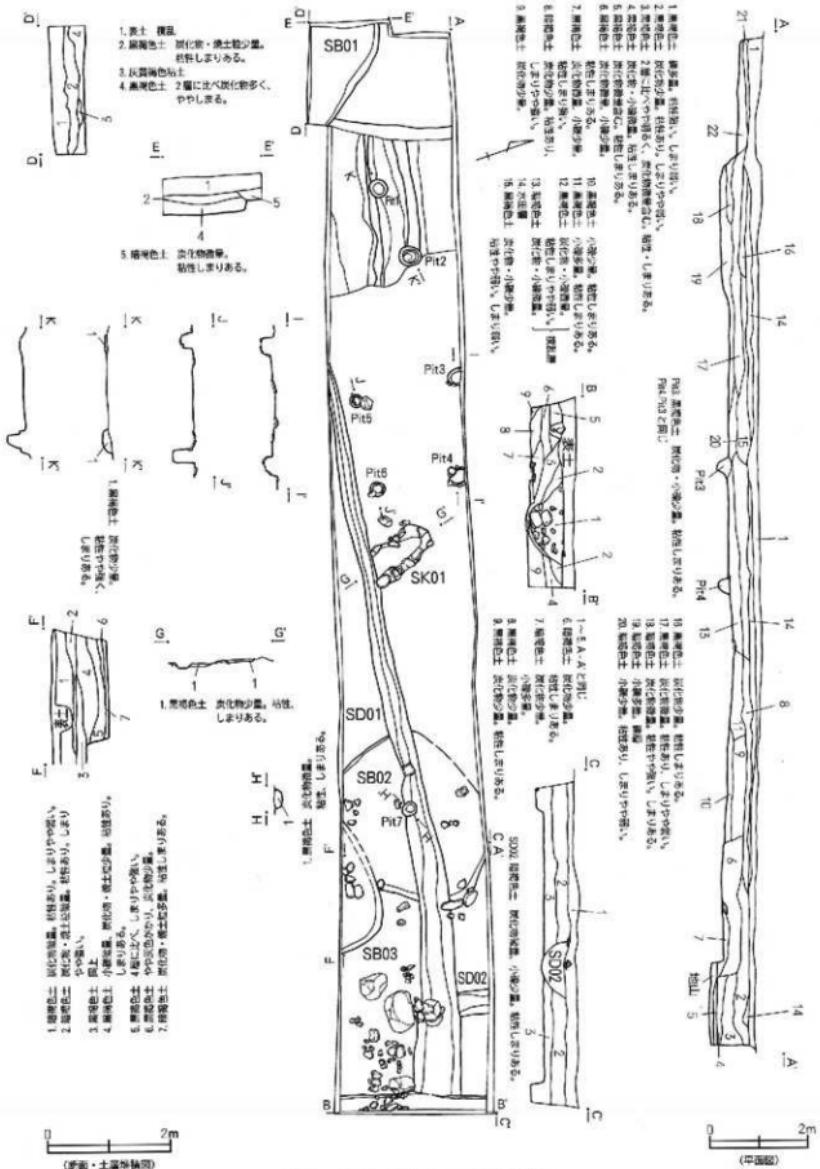


図2 平面・断面・土層堆積図

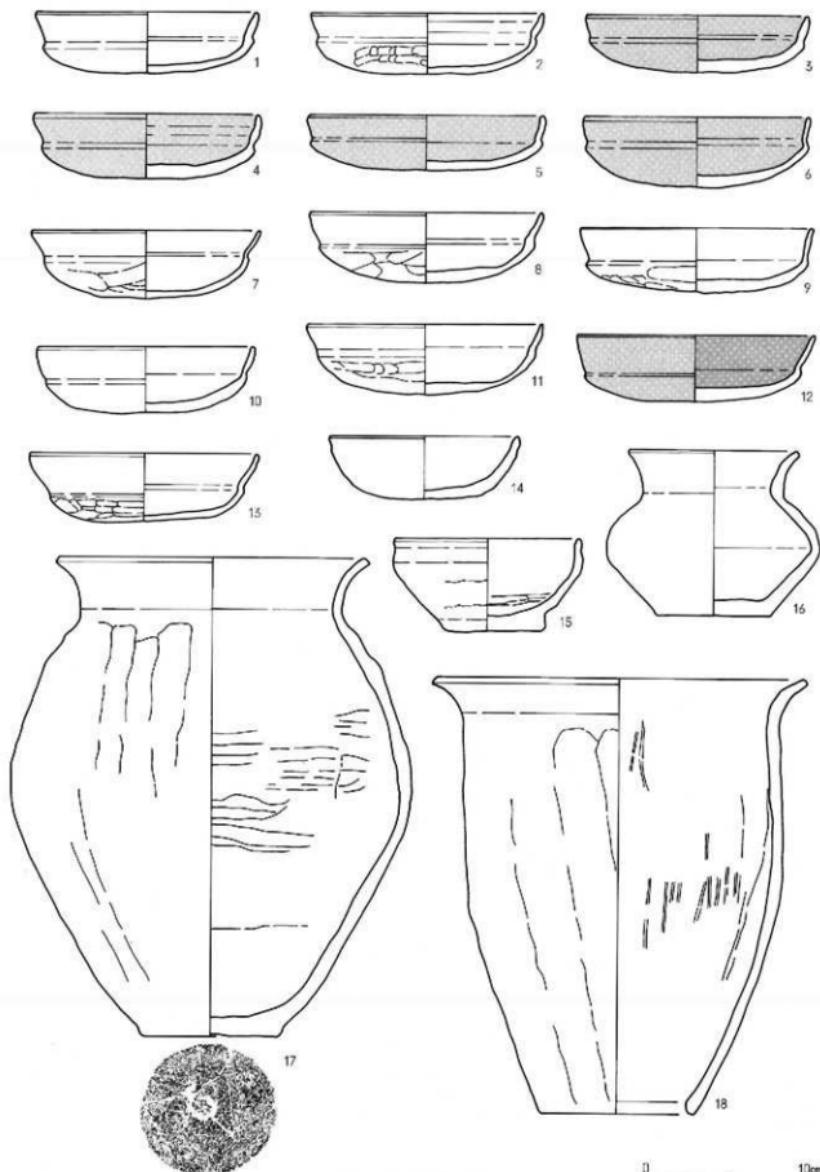


図3 出土遺物 (1)

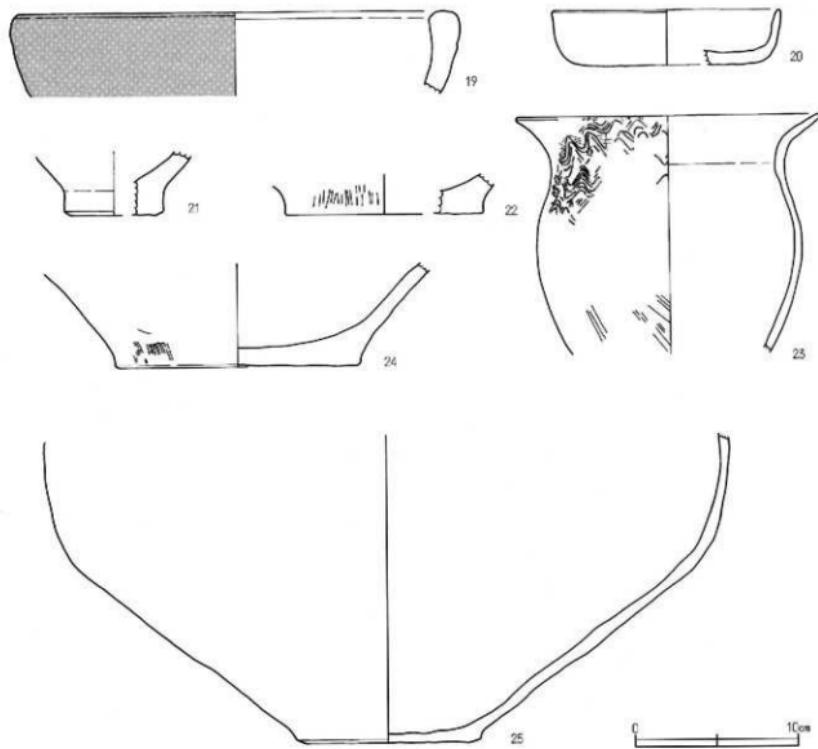
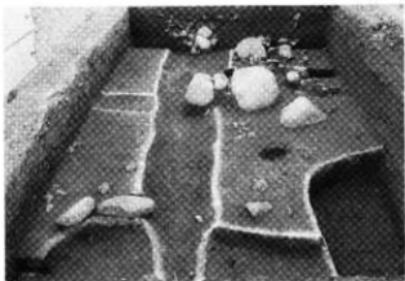


図4 出土遺物(2)



1号溝配石（西から）



東側調査区全景（西から）

16-60 緑が丘一丁目遺跡

調査位置 甲府市緑が丘一丁目 106-10
調査原因 個人住宅建設
対象面積 212.87 m²
調査面積 9.6 m²
調査期間 平成17年2月22日～24日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、緑が丘一丁目遺跡範囲の中心よりやや南側に位置する。相川の右岸約160m、標高285m付近に立地する。

調査の結果

現況の地表から0.3m下層で、古墳時代後期の壺がほぼ完全な形で出土した。さらに地表から0.6m下層からは大量の土器が出土した。

地表から0.7m掘り下げ精査したところ、3.2×3mに設定した試掘坑の北側で黄褐色粘土の堆積層が確認でき、土器が出土したことから大型の溝状遺構であることが判明した。

溝の規模を確認するため、試掘坑を南側に1.2m拡張したところ、溝の幅は約2m、確認面からの深さ0.8mの大規模な溝跡である。

溝跡には確認面付近から5～30cm程度の石が大量に混じり、土器も非常に大量に出土した。その堆積状況から溝がある程度埋まってから上器が入ったことが観察できた。出土した土器の器種は高壺が最も多く、壺・甕類も含まれる。総重量10kgを超える土器の出土とともに、滑石製(?)勾玉も出土し、祭祀的な印象を強く感じた。

北側を緩く南側を急な傾斜に造成され、北と南の平坦面では約0.2mの比高差もあり、古墳の周溝となる可能性が考えられた。

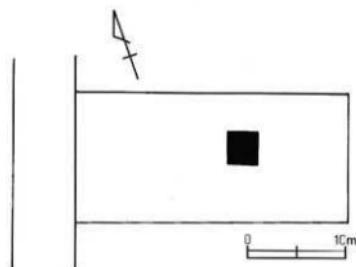


図1 試掘坑配置図

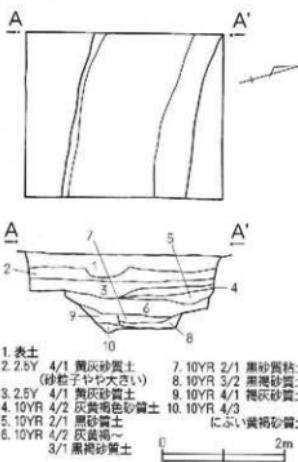


図2 平面・土層堆積図

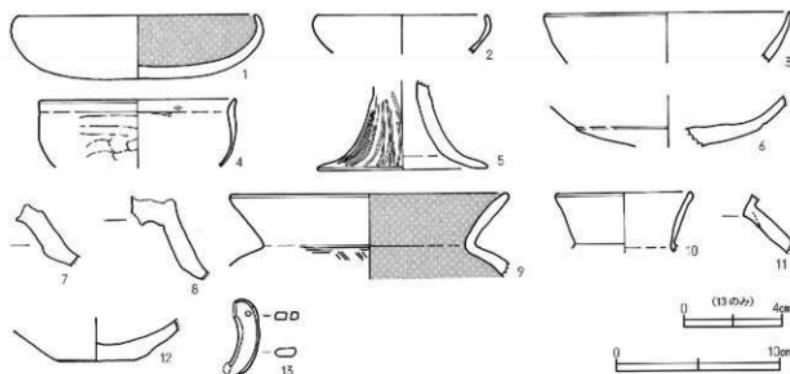
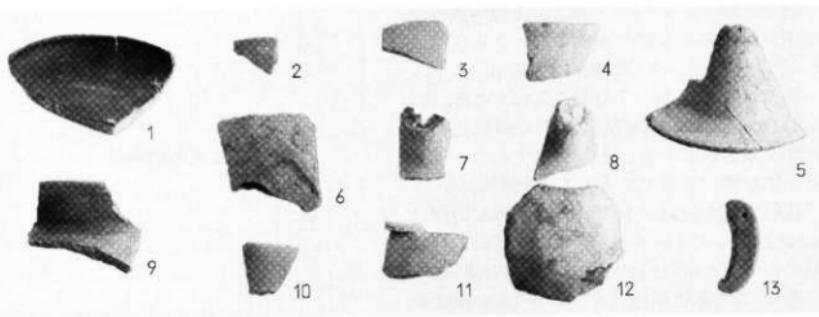
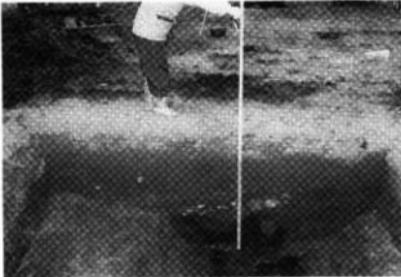


図3 出土遺物



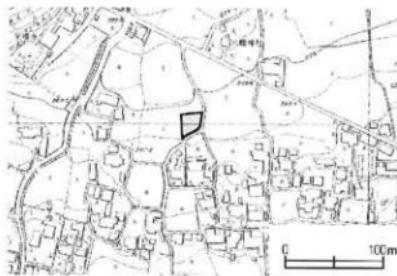
調査状況 (西から)



調査状況

16-61 村内遺跡

調査位置 甲府市横根町 1065-4 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 107.8 m²
調査面積 57 m²
調査期間 平成 16 年 4 月 5 日～8 日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

調査地点は、遺跡の範囲のうちほぼ中心に位置する。大山沢川の扇状地上標高 268m 付近に立地する。

調査地点を中心とする半径 200m 内には古墳が 3 基、創建が平安時代まで遡るとされる米福寺があり、古代の集落域の様相を色濃く残す地域である。

調査の結果

当初 2 × 2m の試掘坑を設定し調査をした結果、古墳時代から古代にかけての土器とともに柱穴が 7 基確認できた。そのため、工事主体者と工事業者の同意を得て、建物範囲のはばすべてを調査することとした。

地表から 0.3m 下層で自然堆積層が確認できた。その自然堆積層を掘り込んだ柱穴が約 50 基、井戸跡 1 基が検出できたものの、柱穴群には規則性があまり感じられなかった。出土遺物は、古墳時代前期、後期、平安時代、中世、近世のものがある。

井戸跡は、直径約 1.6m で 2 段の掘り込みが確認できた。確認面から 1m まで掘り込みが確認できたが、安全面を考慮してそれ以上の掘り下げは行わなかった。井戸跡には長辺が 0.4m 程度の岩石が充填され、出土遺物には古墳時代後期の土器を中心に、一部古墳時代前期の土器も出土している。また、馬と思われる草食動物の臼歯も出土した。

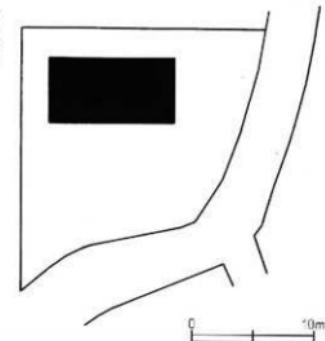


図 1 試掘坑配置図



全 景



検出状況

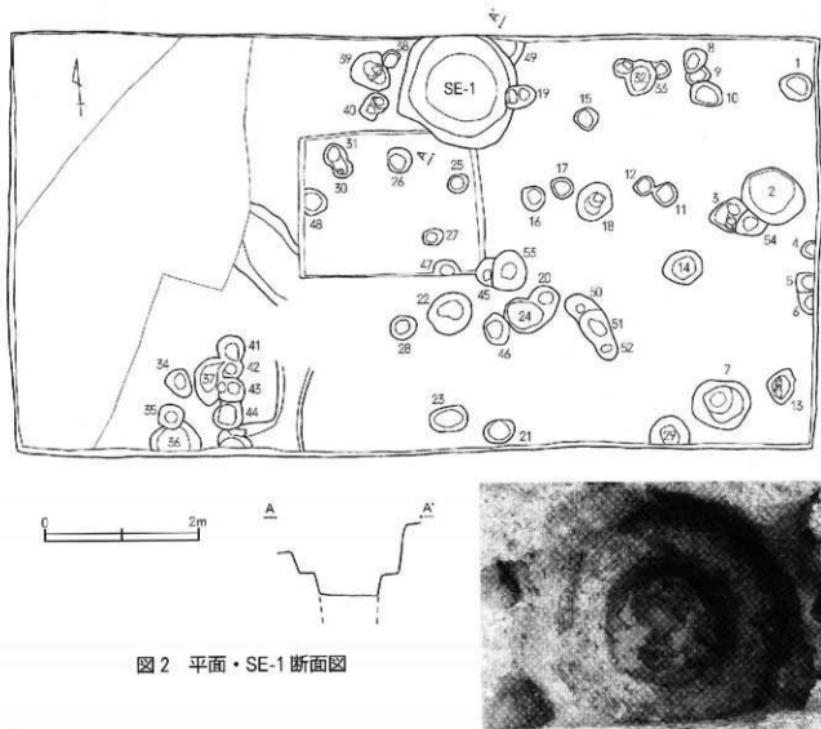


図2 平面・SE-1断面図

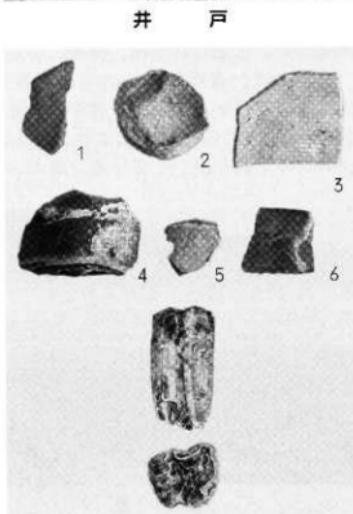
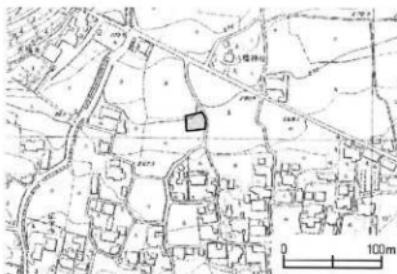


図3 出土遺物

16-62 村内遺跡

調査位置 甲府市横根町 1065-6 他
調査原因 個人住宅建設
対象面積 97.85 m²
調査面積 5 m²
調査期間 平成 16 年 4 月 5 日～8 日
調査担当 平塚洋一



遺跡の概要

前頁で報告した 16-61 村内遺跡の北側に隣接し、同時に調査を進めた。

前述したとおり、古墳時代から平安時代にかけての集落域の様相が色濃く残る地域である。平成 6 年、北側の山梨英和大学のキャンパスの造成に先立って調査を行い、古墳時代後期から平安時代の竪穴住居群が検出され、大量の土器とともに白鳳時代に制作された金銅仏が出土した。また平成 11 年に英和大学東側の道路拡張に先立つ発掘調査では平安時代の集落跡とともに金銅製海老鉢が出土している。

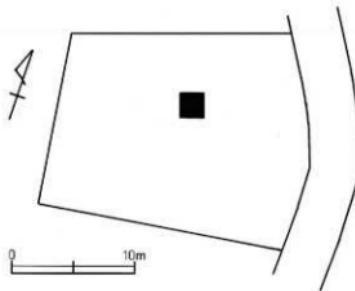


図 1 試掘坑配置図

調査の結果

独立布基礎の位置をはずして 2 × 2 m の試掘坑を設定し、調査を行った。しかし、当初設定の試掘坑の範囲の半分近くが搅乱により壊されていたため、基礎に抵触しない程度、拡張し調査をおこなった。

地表から 40 cm 下層で、楕円形の掘り込みと山石が円形に入れ込められた状況が確認できた。楕円形の掘り込みを掘り下げるに、北頭西面の状態で埋葬された人骨が確認できた。六文銭と思われる銅銭が 6 枚出土した。

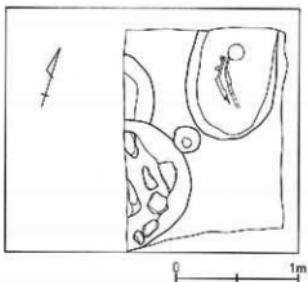


図 3 平面図



人骨検出状況

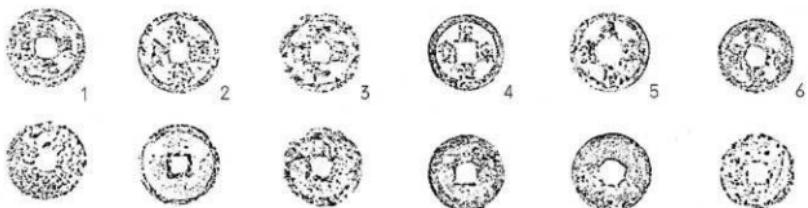
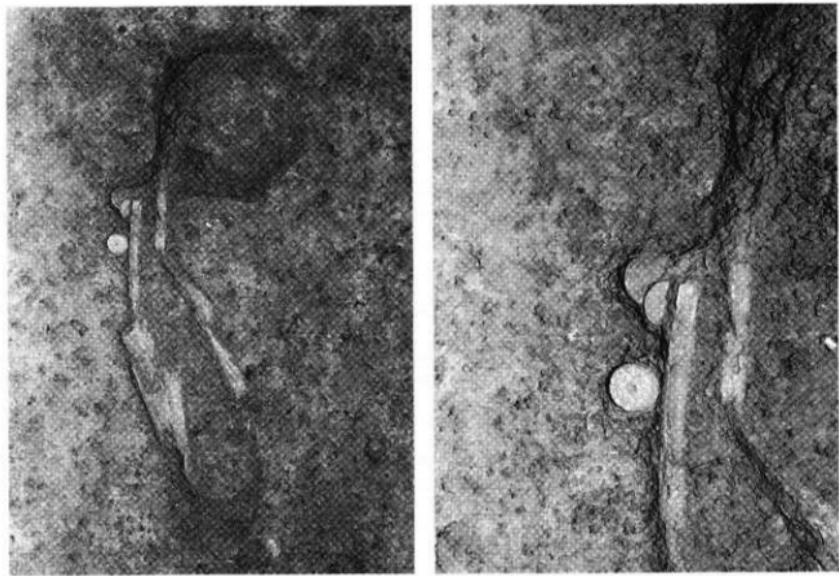


図2 出土遺物

0 5mm



(1)

性状学

中華書局影印
新編唐詩卷(2)

出土遺物清點表 (6)

圖 號	編號	出土地點	地點	地層	地層 組別			部位 組別			參考
					上 部	中 部	下 部	左 側	右 側	後 側	
4	16-22	中段前室南壁	-1	-	6.1	1.9	0.9	1.5	3.4	0.2	1
			0	5.1	0.5	1.6	0.5	0.6	0.1	0.2	1
			1	1.5	0.6	0.1	0.5	0.2	0.1	0.1	1
			2	1.5	0.6	0.1	0.5	0.2	0.1	0.1	1
			3	1.5	0.6	0.1	0.5	0.2	0.1	0.1	1
			4	1.5	0.6	0.1	0.5	0.2	0.1	0.1	1
			5	1.5	0.6	0.1	0.5	0.2	0.1	0.1	1
			6	1.5	0.6	0.1	0.5	0.2	0.1	0.1	1
			7	1.5	0.6	0.1	0.5	0.2	0.1	0.1	1
			8	1.5	0.6	0.1	0.5	0.2	0.1	0.1	1
5	16-22	中段前室北壁	-1	-	6.1	2.9	3.8	2.9	3.8	2.9	2
			0	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			1	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			2	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			3	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			4	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			5	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			6	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			7	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			8	3.8	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
6	16-22	中段後室	-1	-	6.1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1
			0	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
			1	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
			2	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
			3	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
			4	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
			5	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
			6	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
			7	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
			8	1.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	1
7	16-22	中段後室北壁	-1	-	6.1	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2
			0	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			1	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			2	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			3	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			4	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			5	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			6	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			7	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			8	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
8	16-22	中段後室南壁	-1	-	6.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2
			0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			1	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			2	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			3	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			4	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			6	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			7	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			8	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
9	16-22	中段後室北牆	-1	-	6.1	3.5	3.5	3.5	3.5	3.5	2
			0	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			1	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			2	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			3	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			4	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			5	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			6	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			7	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			8	3.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
10	16-22	中段後室南牆	-1	-	6.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2
			0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			1	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			2	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			3	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			4	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			6	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			7	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			8	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
11	16-22	中段後室東牆	-1	-	6.1	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2
			0	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			1	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			2	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			3	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			4	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			5	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			6	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			7	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2
			8	2.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	2



15-9 音羽遺跡（調査区全景）



15-9 音羽遺跡（5・10号住）



15-9 音羽遺跡（1号住）



15-9 音羽遺跡（7号住）



15-9 音羽遺跡（2号住）



15-9 音羽遺跡（6・9号住）



15-9 音羽遺跡（3号住）



15-9 音羽遺跡（9号住 カマド）



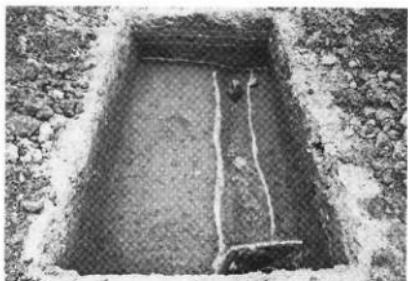
15-14 甲府城下町遺跡（調査状況）



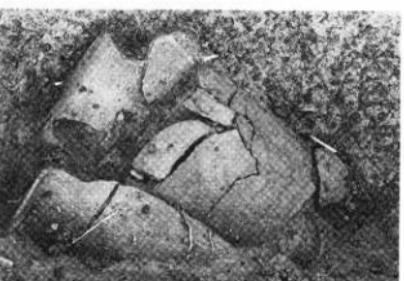
16-7 銀杏之木遺跡（1号住土器集中）



16-7 銀杏之木遺跡（1号住）



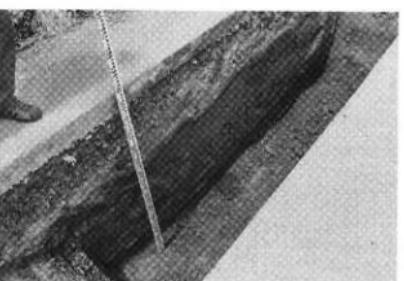
15-35 武田城下町遺跡（Bトレンチ）



16-7 銀杏之木遺跡（1区出土遺物）



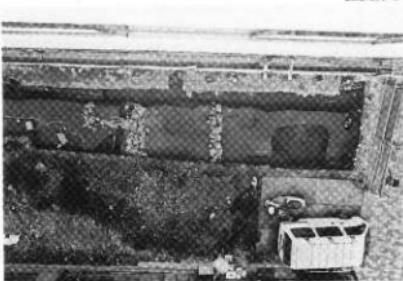
15-44 平石遺跡（トレンチ1全景）



16-10 柿ノ久弥遺跡（試掘坑3）



16-16 甲府城下町遺跡（試掘坑）



16-19 甲府城下町遺跡（2号土坑・石列）



16-19 甲府城下町遺跡（1号土坑）



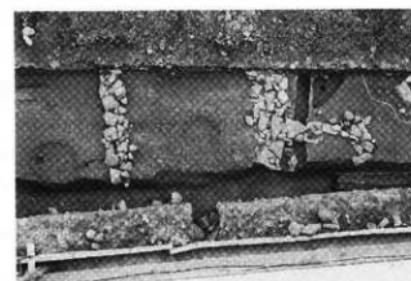
16-19 甲府城下町遺跡（穴藏）



16-19 甲府城下町遺跡（2号土坑）



16-19 甲府城下町遺跡（調査区西側）



16-19 甲府城下町遺跡（石列）



16-19 甲府城下町遺跡（出土状況）



16-19 甲府城下町遺跡（調査区西側）



16-40 武田城下町遺跡（井戸跡）



16-24 桜井畠遺跡（完掘状況）



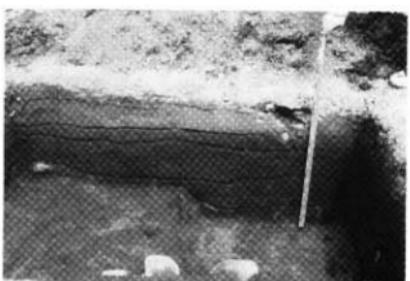
16-48 武田城下町遺跡（T-5完掘）



16-49 塚本遺跡（調査状況）



16-27 塩部遺跡（調査状況）

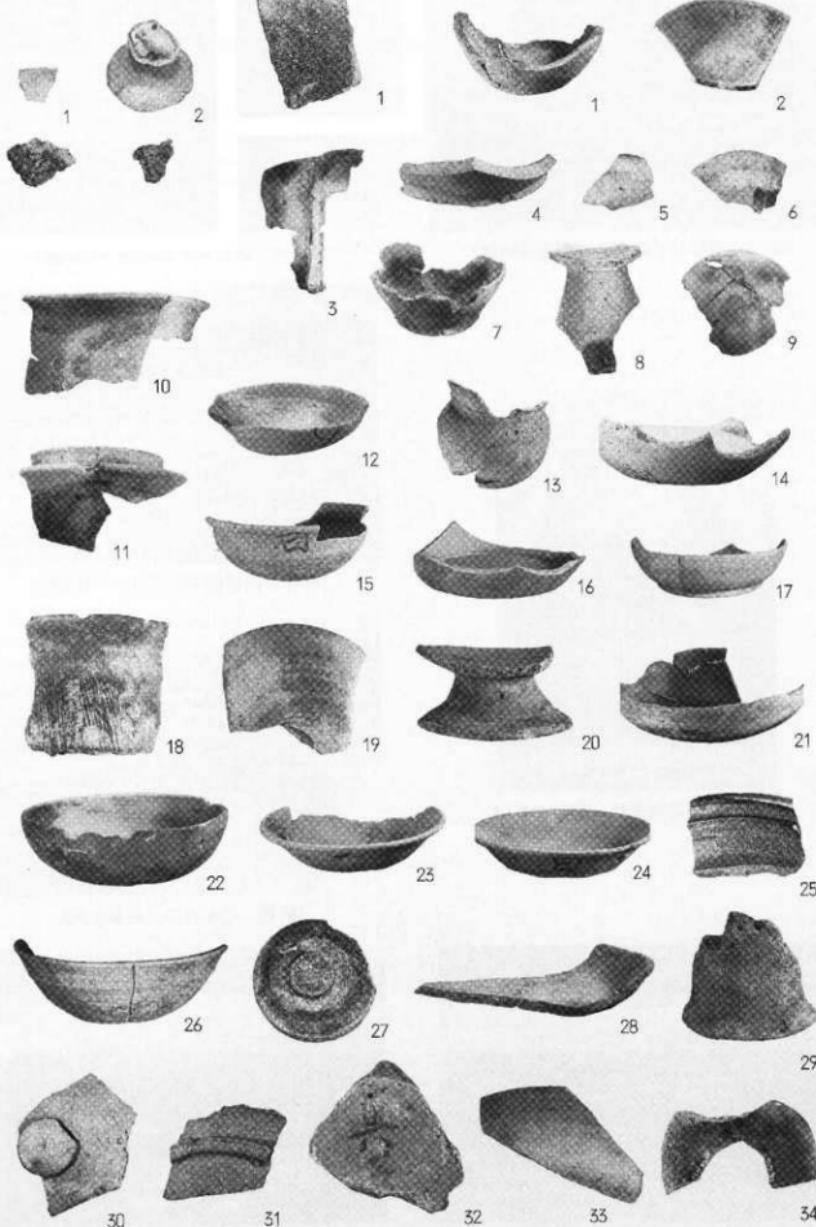


16-51 天神西遺跡（トレンチ）

15-3 銀杏之木遺跡

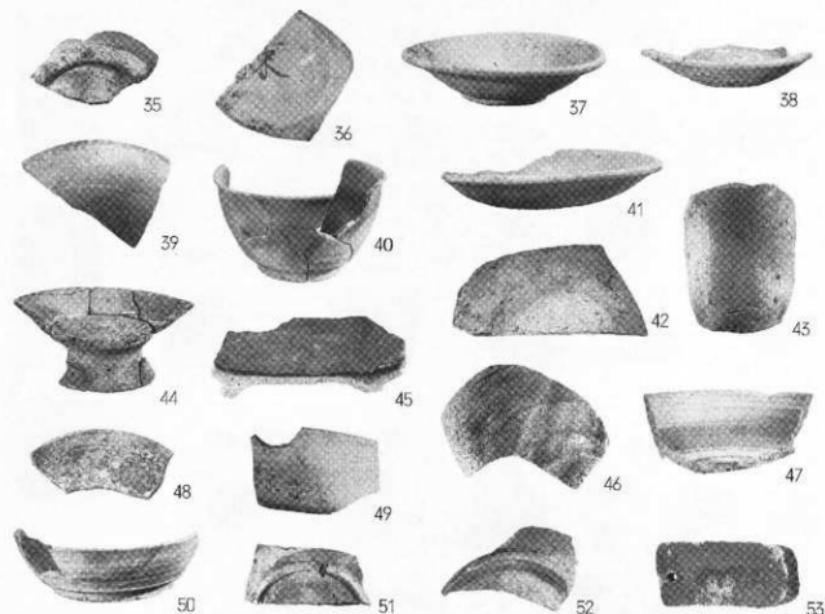
15-4 大北耕地遺跡

15-9 音羽遺跡

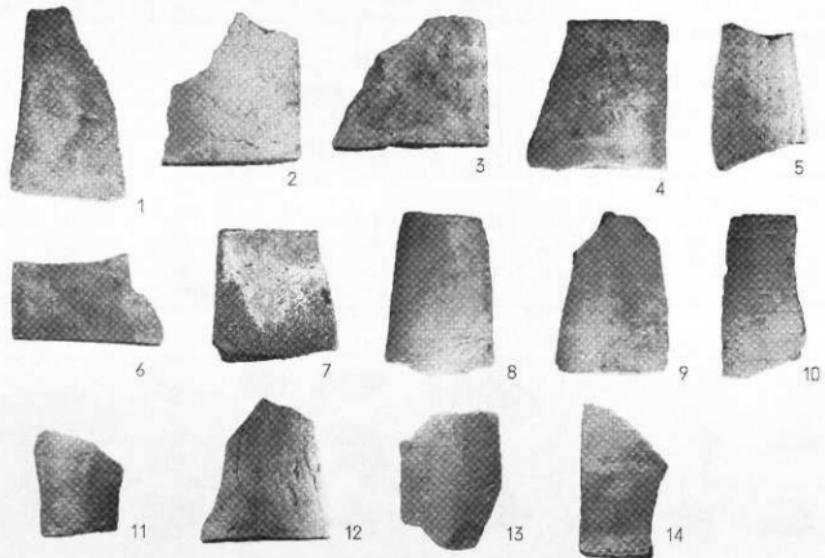


図版6

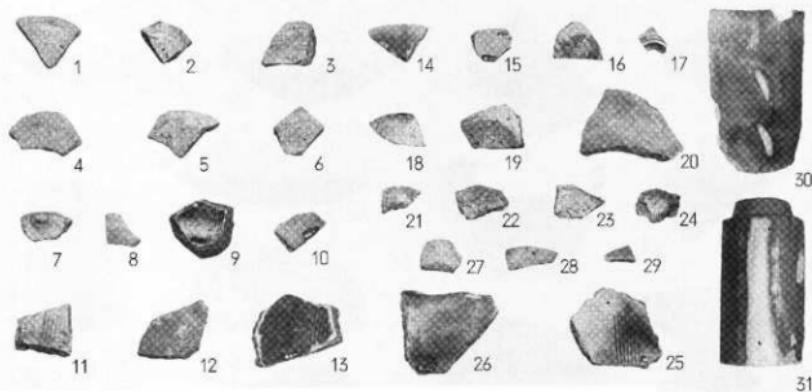
15-9 音羽遺跡



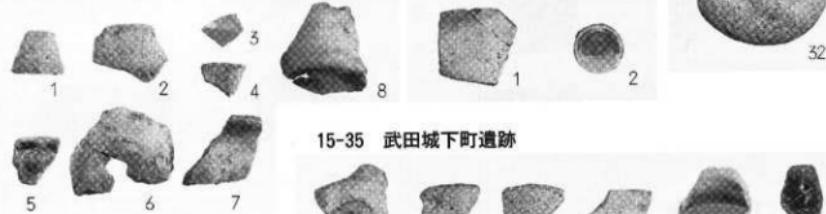
15-11 川田瓦窯跡



15-28 墓添遺跡



15-30 武田城下町遺跡



15-34 武田城下町遺跡



15-35 武田城下町遺跡



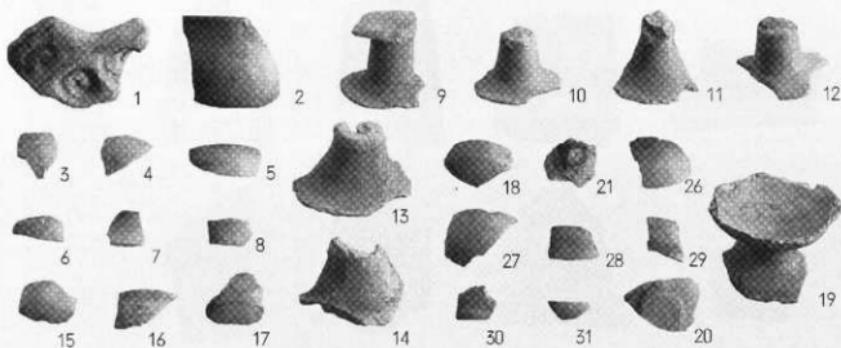
15-44 武田城下町遺跡



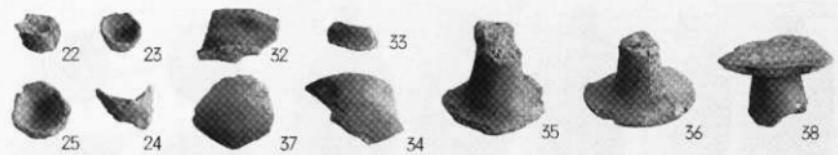
15-53 八幡東遺跡



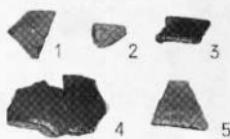
15-54 平石遺跡



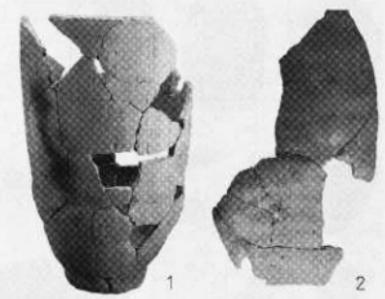
15-54 平石遺跡



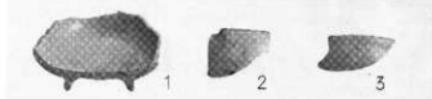
15-55 前田遺跡



16-7 銀杏之木遺跡



16-12 上町天神遺跡



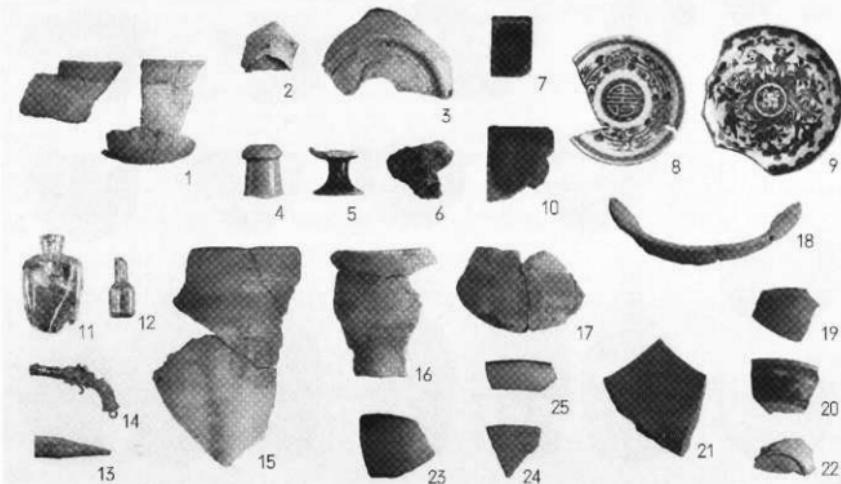
16-19 甲府城下町遺跡



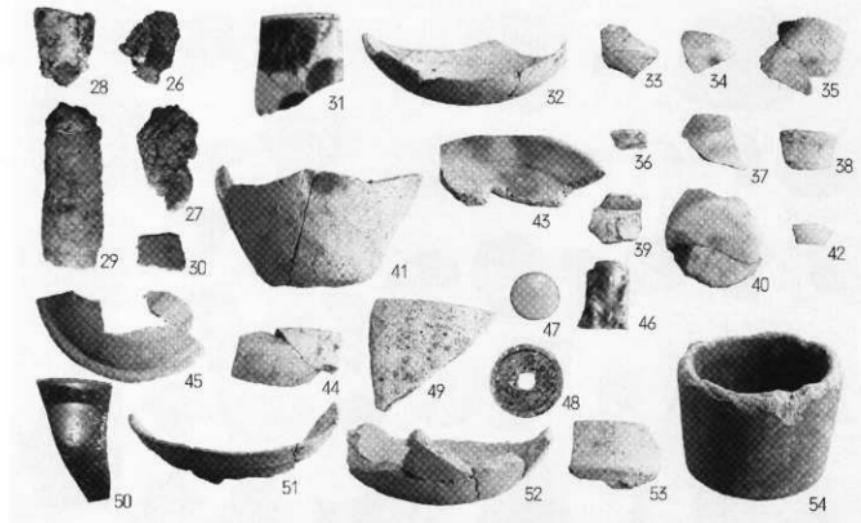
16-19 甲府城下町遺跡



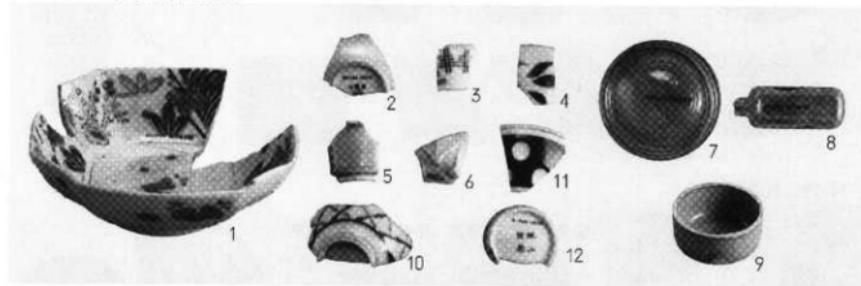
16-20 甲府城下町遺跡



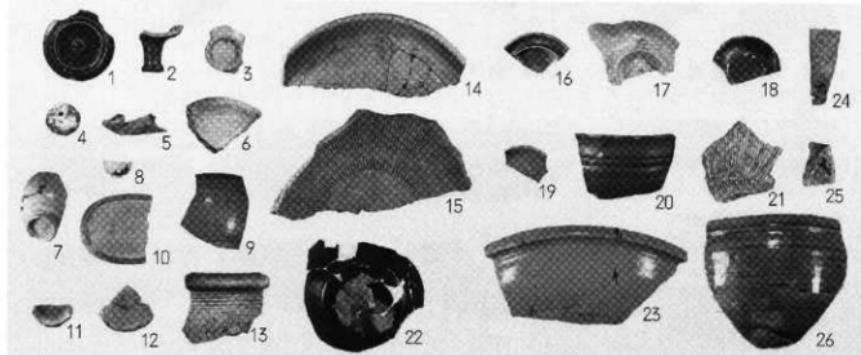
16-20 甲府城下町遺跡



16-21 甲府城下町遺跡



16-22 甲府城下町遺跡



16-22 甲府城下町遺跡



16-24 桜井畠遺跡



16-48 武田城下町遺跡



16-35 武田城下町遺跡 16-40 武田城下町遺跡



16-27 塩部遺跡



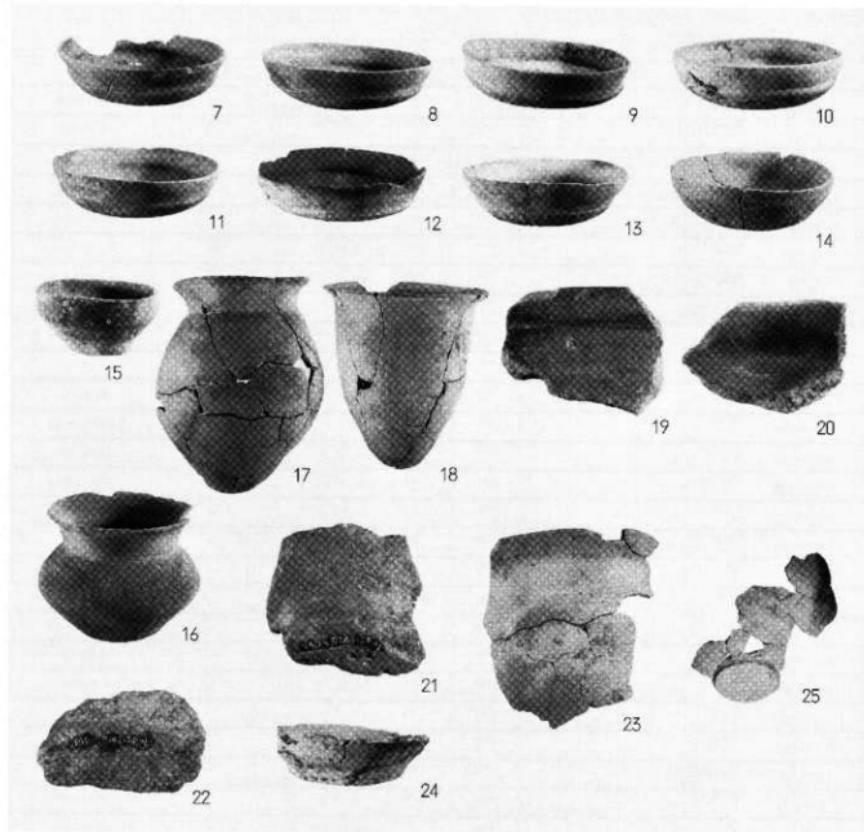
16-59 緑が丘一丁目遺跡



16-28 塩部遺跡



16-59 緑が丘一丁目遺跡



報告書抄本

皇府市文化財調査報告49

甲 府 市 内 遺 跡

—15·16年度試驗調查報告書

平成22年3月31日
発行 甲府市教育委員会
TEL 040-8585
電話
FAX
印 刷 株式会社 一絃印業

山梨県甲府市九の内一丁目18番1号

055(223)7324
055(226)4889
T 400-0034 山梨県甲府市本町1丁目

印 刷 株式会社 三 番 町

T 400-0034 山梨県甲府市室町1丁目9番7号

